

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1307	[書付] (早道今日出二付, 早々御書状御越し被成候事)	状	1通	五月廿三日	廣	聿庵先醒	13.5×30.5	色諸口紙		封上書「聿庵先醒 廣」	III-241-56
1308	[達書] (定之丞様明廿四日御手習御稽古初被成候二付)	状	1通	正月廿三日	渡辺又三	頼餘一様	13.5×36.8	色諸口紙		封上書「頼餘一様 渡辺又三」	III-241-57
1309	[達書] (御用之儀候間, 明廿七日可被登城候事)	状	1通	十二月廿六日	西川牧太, 安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 植木孫六, 木村一学	頼餘一殿	13.9×44.4	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 植木孫六 木村一学」	III-241-58
1310	[書付] (又五郎様清書相廻し候間, 御拝見可被成候事)	状	1通	十二月十一日	堀十兵衛	頼餘一様	12.2×50.0	色半紙			III-241-59
1311	[書付] (檀紙, 美濃紙何れも宜敷御座候事)	状	1通	十月五日	串田又三	頼餘一様	14.1×31.8	色諸口紙		封上書「頼餘一様 串田又三」	III-241-60
1312	[書付] (昨日御噂被成候厳島記出来之儀二付)	状	1通	霜月十三日	串田又三	頼餘一様	13.9×34.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 串田又三」	III-241-61
1313	包紙	状	1通	江戸後期			28.9×17.5	色諸口紙		名前一部「兵衛」あり	III-241-62
1314	[書付] (学問所詩稿御請取可被下候)	状	1通	十一月廿六日	石川内外	加藤太郎三様	11.8×22.2	色半紙		封上書「加藤太郎三様 石川内外」	III-241-63
1315	[達書] (又五郎殿御清書為持進候間, 御拝見可被成候)	状	1通	四月五日	小堀主馬, 西村多仲, 大野木右衛門, 山田権十郎	頼餘一様	14.1×29.4	色諸口紙		封上書「頼餘一様 小堀主馬 西村多仲 大野木右衛門 山田権十郎」	III-241-64
1316	[書付] (御借用之御風呂敷御返し可被成候)	状	1通	十月五日	百口三郎	頼餘一様	12.0×37.5	色半紙		封上書「頼餘一様 百口三郎 差向義」	III-241-65
1317	[書付] (又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	四月廿一日	堀十兵衛	頼餘一様	13.5×41.4	色諸口紙			III-241-66
1318	[書付] (又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	三月廿六日	堀十兵衛	頼餘一様	12.0×35.6	色半紙			III-241-67
1319	[書付] (殿様明後十五日沖合着二付/別紙御名脇へ御書判御認可被成候)	状	1通	五月十一日, 十三日	左内 差向義	餘一様	12.0×23.8	色半紙		両面に墨書	III-241-68
1320	[達書] (相達儀候間, 御城江可被出候)	状	1通	十二月廿六日	竹腰隼人	頼餘一殿	14.2×27.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 竹腰隼人」	III-241-69
1321	[書付] (別紙御名判被成候而, 此者へ御渡可被下候)	状	1通	十二月八日	加藤左平太	頼餘一様	12.4×22.0	色半紙		封上書「頼餘一様 加藤左平太 差向義」	III-241-70
1322	[書付] (築地御屋敷厳島社記文入之箱之上へ書御拝筆可被下候)	状	1通	正月十五日	串田又三	頼餘一様	14.0×30.1	色諸口紙		封上書「頼餘一様 串田又三」	III-241-71
1323	[達書] (又二郎義五ヶ年儒学修行仕セ度旨, 願之通之事)	状	1通	八月廿七日	大橋主税, 西川称古, 堀田外記, 竹腰孫十郎, 満田九郎左衛門	頼餘一殿	14.0×46.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 大橋主税 西川称古 堀田外記 竹腰孫十郎 満田九郎左衛門」	III-241-72

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1324	〔達書〕(石州銀山領宅野村関藤間林次郎, 為学問修行逗留仕七度旨, 願之通之事)	状	1通	三月五日	西川牧太, 安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 植木孫六	頼餘一殿	14.1×54.9	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 植木孫六」	III-241-73
1325	〔書付〕(御齒痛御難義被成ニ付得御出勤不被成候旨, 致承知候)	状	1通	六月廿三日	富田権兵衛, 村井清太	頼餘一様	11.8×39.0	色半紙		封上書「頼餘一様 富田権兵衛 村井清太 ○大坂記御答合之義」	III-241-74
1326	〔達書〕(各講釈御聴可被遊旨被仰出ニ付, 下地被示合置候事)	状	1通	七月廿四日	近藤佐守	加藤太三郎様, 頼餘一様	13.8×41.8	色諸口紙		封上書「加藤太三郎様 頼餘一様 近藤佐守」	III-241-75
1327	〔書付〕(明十四日水主町御屋敷江御出勤可被成候)	状	1通	四月十三日	石津左助	頼餘一様	11.7×42.9	色半紙		封上書「頼餘一様 石津左助 差向義」, 裏面に「火中」と墨書	III-241-76
1328	〔書付〕(今夕御清書御定日ニ付, 必例時御出勤可被成候)	状	1通	三月五日	賀藤口	頼餘一様	12.0×42.0	色半紙		封上書「頼餘一様 賀藤口 差向義」	III-241-77
1329	〔達書〕(御用之儀候間明十八日可有登城候)	状	1通	十二月八日	安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 二川清記, 梶川角右衛門	頼餘一殿	13.9×37.7	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 二川清記 梶川角右衛門」	III-241-78
1330	〔書付〕(別封又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	七月十一日	堀十兵衛	頼餘一様	14.2×33.1	色諸口紙			III-241-79
1331	〔書付〕(別封又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	十二月廿六日	藤井左門太	頼餘一様	13.9×40.6	色諸口紙			III-241-80
1332	〔書付〕(明廿日暮頃より御出勤可被成候)	状	1通	十二月十九日	武井求馬, 野村良正	頼餘一様	11.9×25.7	色半紙		封上書「頼餘一様 武井求馬 野村良正 差向」	III-241-81
1333	〔書付〕(又五郎殿御稽古御延引ニ候間, 御出勤ニ及不申候)	状	1通	正月廿三日	堀十兵衛	[ ]様	11.9×27.9	色半紙		封上書「(欠)様 堀十兵衛」	III-241-82
1334	〔断簡〕(十月廿日)	状	1通	十月廿日			14.1×4.1	諸口紙		前欠	III-241-83
1335	〔書付〕(竹館小録此者へ御渡し可被下候)	状	1通	九月十三日	観興寺貢	頼餘一様	11.7×30.1	色半紙		封上書「頼餘一様 観興寺貢」	III-241-84
1336	〔達書〕(御用之儀候間, 九郎左衛門宅江可被相越候事)	状	1通	二月十二日	西川牧太, 竹腰孫十郎, 武田每登, 満田九郎左衛門, 竹腰隼人	頼餘一殿	14.0×68.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太 竹腰孫十郎 武田每登 満田九郎左衛門 竹腰隼人」	III-241-85
1337	〔書付〕(引籠中ニ付得御出勤不被成候事, 早速奉申上げ相済候事)	状	1通	十月十二日	高野茂登	頼餘一様	11.9×45.3	色半紙		封上書「頼餘一様 高野茂登 御たし」	III-241-86
1338	〔達書〕(真覚院様御残候御道具之内, 青磁御花活御下ヶ被下候事)	状	1通	五月十五日	藤井左門太, 堀十兵衛	頼餘一様	14.6×44.4	色諸口紙		封上書「頼餘一様 藤井左門太 堀十兵衛」, 注記(付紙に墨)	III-241-87

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1339	〔書付〕(新敷回配表, 別紙切手相調へ差上ヶ申候事)	状	1通	八月四日	半三郎	餘一様	13.8×58.1	色諸口紙		封上書「餘一様 半三郎」	III-241-88
1340	〔書付〕(御講釈被仰付候間, 御出勤被成候事)	状	1通	八月廿一日	平田伊久馬, 長谷川勘平	頼餘一様	11.8×28.4	色半紙		封上書「頼餘一様 平田伊久馬 長谷川勘平 差向」	III-241-89
1341	〔書付〕(御宝塔御文字御書調之義二付)	状	1通	四月六日	遠藤仁平次	頼餘一様	14.0×65.9	色諸口紙			III-241-90
1342	〔伺書〕(御手本紙当便, 末之便いずれに差上被為成候哉)	状	1通	十一月四日	頼餘一	西川牧太様	14.5×33.8	諸口紙		包紙(24.8×17.3, 色半紙)「頼餘一様 西川牧太」, 封上書「西川牧太様 頼餘一」, 付札(12.2×12.0, 色半紙)「紙面之趣令承知候, 書認め出来致居候ハ、早々可被差出未出来無之候ハ、当月廿日之御便ニ差上候而も可然と存候 十一月四日」	III-241-91
1343	〔書付〕(御手本無御座候間, 早々御認御出し可被成候)	状	1通	六月廿六日	村上彦馬	頼餘一様	12.0×27.3	色半紙		封上書「頼餘一様 村上彦馬 差向義」	III-241-92
1344	〔書付〕(朔日, 三日御触之儀ニ付)	状	1通	十月廿九日	加藤太郎三	頼餘一様	13.9×28.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 加藤太郎三 差向義」	III-241-93
1345	〔書付〕(御文集御差出しニ付)	状	1通	九月朔日	北川助六	頼餘一様	14.3×37.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 北川助六」	III-241-94
1346	〔書付〕(御引籠り候趣致承知候事)	状	1通	八月六日	蒲生誠之助, 三宅彦太郎	頼餘一様	12.0×33.0	色半紙		封上書「頼餘一様 蒲生誠之助 三宅彦太郎 差向」	III-241-95
1347	〔書付〕(正銀式勿四分御返し申上候)	状	1通	十一月十三日	桧山信平	先生	14.0×52.2	色諸口紙		封上書「先生 桧山信平拜」	III-241-96
1348	〔書付〕(明朝方御出勤被成候哉, 御尋申上度候)	状	1通	九月六日	加藤太郎三	頼餘一様	14.0×24.2	色諸口紙		封上書「頼餘一様 加藤太郎三 差向義」	III-241-97
1349	〔書付〕(竹舎講ニ付御勤被成候哉)	状	1通	十月廿一日	加藤太郎三	頼餘一様	13.7×59.2	色諸口紙		封上書「頼餘一様 加藤太郎三 差向義」, 注記(付紙に墨)	III-241-98
1350	〔書付〕(御宝塔御文字書調差出申候ニ付)	状	1通	七月十一日	頼餘一	遠藤仁平次様	14.1×36.7	諸口紙			III-241-99
1351	〔書付〕(御直米之義承知仕候)	状	1通	二月十七日	湊源太郎	頼餘一様	13.5×43.3	色諸口紙		封上書「頼餘一様 湊源太郎 御答御直披」	III-241-100
1352	〔達書〕(御加増拝領之御礼用意之上, 可有登城候)	状	1通	十二月廿六日	竹腰孫十郎, 武田每登, 安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 竹腰隼人	頼餘一殿	14.3×56.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 竹腰孫十郎 武田每登 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 竹腰隼人」	III-241-101
1353	〔達書〕(足痛難儀ニ付巖島石風呂入治仕度旨, 願之通之事)	状	1通	二月晦日	安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 二川清記, 梶川角右衛門	頼餘一殿	13.8×49.8	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 二川清記 梶川角右衛門」	III-241-102
1354	〔達書〕(甥三千三儀江戸江学問仕セ度旨, 願之通之事)	状	1通	二月晦日	安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 二川清記, 梶川角右衛門	頼餘一殿	13.8×49.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 二川清記 梶川角右衛門」	III-241-103
1355	〔書付〕(御受取もの義ニ付)	状	1通	霜月十七日	山田三太	頼餘一様	13.3×35.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 山田三太 申上御答」, 2枚に剥離	III-241-104

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1356	〔書付〕(静古堂御筆代金御払被下, 受取書御越可被下候)	状	1通	三月廿九日	池田直一, 諏訪民次郎, 木村一学, 河部半左衛門	頼餘一様	11.9×27.7	色半紙		封上書「頼餘一様 池田直一 諏訪民次郎 木村一学 河部半左衛門」	Ⅲ-241-105
1357	〔書付〕(又五郎様御清書, 御拝見可被成候)	状	1通	(天保6年)閏七月十一日	堀十兵衛	頼餘一様	14.1×36.0	色諸口紙		端裏書(頼事庵筆)「六十石 内十八石引 残高四拾貳石」	Ⅲ-241-106
1358	〔書付〕(御機嫌為窺御出勤之義二付)	状	1通	二月十八日	渡辺又三	頼餘一様	13.8×34.3	色諸口紙		封上書「頼餘一様 渡辺又三」	Ⅲ-241-107
1359	〔達書〕(御用之儀候間, 御屋形江可被出候)	状	1通	正月十五日	林甚馬	頼餘一殿	13.5×31.8	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 林甚馬」	Ⅲ-241-108
1360	〔書付〕(御出被成候書付, 一応文言見合申度義二付)	状	1通	十月七日	酒井権八郎	頼餘一様	13.7×35.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 酒井権八郎」	Ⅲ-241-109
1361	〔書付〕(来月詩会之事, 其尽御請持被下候様仕度事)	状	1通	九月廿七日	金井徳之丞	頼餘一様	13.8×51.2	色諸口紙		封上書「頼餘一様 金井徳之丞 差向御用向」	Ⅲ-241-110
1362	〔書付〕(御詩作被遊候処, 貴様へ御点作被仰付候事)	状	1通	十一月晦日	青野保太郎, 渡部只記	頼餘一様	12.0×52.0	色半紙		包紙(24.7×17.5, 色半紙)「頼餘一様 青野保太郎・渡部只記 差向儀」	Ⅲ-241-111
1363	〔達書〕(御手本紙為持候間, 来月四日頃迄被相認候事)	状	1通	正月廿四日	西川牧太	頼餘一様	13.9×24.7	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太」	Ⅲ-241-112
1364	〔書付〕(明十四日九時御供揃二而御出被為在候)	状	1通	十月十三日	富田権兵衛	頼餘一様	11.8×30.5	色半紙		封上書「頼餘一様 富田権兵衛 差向義」	Ⅲ-241-113
1365	〔書付〕(御燈籠文字最早相調申候哉)	状	1通	八月六日	池田直一, 諏訪民次郎, 小池源六, 西山造酒	頼餘一様	13.9×35.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 池田直一 諏訪民次郎 小池源六 西山造酒」	Ⅲ-241-114
1366	〔書付〕(明朝竹舎勤可被成候哉)	状	1通	五月十六日	頼餘一／坂井百太郎	坂井百太郎様／頼餘一様	13.6×74.2	色諸口紙		封上書「坂井百太郎様 頼餘一 差向御義」, 朱筆で返答書込み, 宛名の「上」「下」様を訂正, 紙背墨書「明早出」	Ⅲ-241-115
1367	〔達書〕(当年江戸詰被仰付候条可被得貴意候)	状	1通	正月十六日	堀田外記, 平田三大夫	頼餘一殿	14.1×39.4	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 堀田外記 平田三大夫」	Ⅲ-241-116
1368	〔達書〕(御取セ之雉五羽御頂戴被仰付候事)	状	1通	三月八日	武井求馬, 平田伊久馬	頼餘一様	11.8×29.6	色半紙		封上書「頼餘一様 武井水馬 平田伊久馬 差向」	Ⅲ-241-117
1369	〔書付〕(其節申上候藤紙差上申候事)	状	1通	九月十五日当賀	宮五郎	餘一様	11.8×29.8	色半紙		封上書「餘一様 宮五郎 要し」	Ⅲ-241-118
1370	〔達書〕(別封又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	八月十一日	堀十兵衛	頼餘一様	14.1×30.8	色諸口紙			Ⅲ-241-119
1371	〔達書〕(別封又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	五月十一日	堀十兵衛	頼餘一様	14.0×62.6	色諸口紙			Ⅲ-241-120
1372	〔達書〕(久太郎様御著述文集御校読御済被成候二付)	状	1通	九月朔日	横山十介, 酒井権八郎, 遠藤佐兵衛, 影山武登, 岡田直之助	頼餘一様	14.0×36.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 横山十介 酒井権八郎 遠藤佐兵衛 影山武登 岡田直之助」	Ⅲ-241-121
1373	〔達書〕(別封又五郎様御清書御拝見可被成候)	状	1通	(天保6年)閏七月廿六日	堀十兵衛	頼餘一様	14.1×33.2	色諸口紙			Ⅲ-241-122

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1374	〔達書〕(新御筒初音御銘入候ニ付, 下書貴様ニ被仰付候事)	状	1通	三月十二日	寺尾左兵衛	頼餘一様	14.0×41.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 寺尾左兵衛」	III-241-123
1375	〔達書〕(右京様江被入御覽候竹館小録ニ付)	状	1通	二月廿一日	観興寺貢	頼餘一様	14.0×35.6	色諸口紙		封上書「頼餘一様 観興寺貢」	III-241-124
1376	〔達書〕(御別紙御文字此振合ニ而宜御様子ニ御座候)	状	1通	四月二日	仁平次	餘一様	14.3×70.6	色諸口紙		封上書「餘一様 仁平次」	III-241-125
1377	〔達書〕(御宝塔御紙形之儀ニ付)	状	1通	五月九日	諏訪民次郎	頼餘一様	14.4×33.8	諸口紙		封上書「頼餘一様 諏訪民次郎」	III-241-126
1378	〔書付〕(御泊り鷹野方御帰城之義ニ付)	状	1通	霜月十九日	植田正次郎	頼餘一様	14.3×39.7	色諸口紙		封上書「頼餘一様 植田正次郎」	III-241-127
1379	〔書付〕(御一件委細被仰遣候趣奉承知候)	状	1通	九月三日	桧山信平	頼餘一様	13.9×34.0	色諸口紙		包紙(24.7×16.9, 色半紙)「頼餘一様 桧山信平」, 端裏書「申上尊答」	III-241-128
1380	〔達書〕(御用之儀候間, 明廿六日可有登城候)	状	1通	十二月廿五日	竹腰孫十郎, 武田每登, 安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 竹腰隼人	頼餘一殿	13.8×43.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 竹腰孫十郎 武田每登 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 竹腰隼人」	III-241-129
1381	〔達書〕(異国船打払ニ付, 出張年番被仰付候事)	状	1通	正月十七日		頼餘一	14.0×59.0	色諸口紙		封上書「頼餘一」	III-242-1
1382	〔達書〕(異国船打払出張之節, 上下人数書可被差出候事)	状	1通	正月廿九日	西川牧太	頼餘一様	14.0×26.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太」	III-242-2
1383	〔達書〕(石州大森江異国船打払ニ付出張心得)	状	1通	正月十九日		頼餘一	13.9×99.6	色諸口紙		封上書「頼餘一」	III-242-3
1384	〔達書〕(石州大森江異国船打払ニ付出張心得)	状	1通	正月十九日		頼餘一	13.8×72.3	色諸口紙		封上書「頼餘一」, 2枚に剥離	III-242-4
1385	〔達書〕(御用之儀候間, 明廿九日可有登城候)	状	1通	七月廿八日	西川牧太, 堀田外記	頼餘一殿	14.2×34.7	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太 堀田外記」	III-242-5
1386	〔達書〕(御額江書認之儀ニ付)	状	1通	六月			13.9×16.9	色諸口紙			III-242-6
1387	口演(学問所詩稿取揃差出申候ニ付)	状	1通	九月	頼餘一, 坂井百太郎		14.0×47.0	色諸口紙			III-242-7
1388	〔伺書〕(定之丞様御手本差合中ニ而も不苦候間, 差上候様ニとの御儀ニ付)	状	1通	三月三日	頼餘一	渡辺又三様	14.0×30.5	諸口紙		封上書「渡辺又三様 頼餘一」	III-242-8
1389	口上之覚(亡父弥太郎文集壱部箱入献上仕度奉存候)	状	1通	正月廿一日, 庚寅(天保元年)正月廿二日	頼餘一		14.0×29.8	諸口紙		端裏書「庚寅正月廿二日出 御遺稿書付控」	III-242-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1390	口上之覚(学問所此度御建統御間之名,「栢舎」二付)	状	1通	五月	加藤三平,金子徳之助,頼餘一,梅園立介,阪井孫三郎,加藤太郎三		14.1×35.5	色諸口紙			Ⅲ-242-10
1391	〔達書〕(以後於御城折々講釈御聴被遊候間,此段可被申談候)	状	1通	十月廿九日		頼餘一	13.5×21.0	色諸口紙		端裏書「高野保三郎,〔 〕,虫損大	Ⅲ-242-12
1392	〔達書〕(月次講釈之節,近習向同様仕候様被仰付候事)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿三日		頼餘一	13.8×24.0	色諸口紙		端裏書「達写」	Ⅲ-242-13
1393	〔達書〕(御用之儀候間,明廿一日可有登城候)	状	1通	十二月廿日	井伊玄蕃,岡野弥右衛門	頼餘一殿	13.7×26.1	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 井伊玄蕃 岡野弥右衛門」	Ⅲ-242-14
1394	〔達書〕(御面談致度義御座候間,学問所へ御出可被成候)	状	1通	六月廿日	牧野久大夫,桜井六左衛門	頼餘一様	14.3×32.2	色諸口紙		封上書「頼餘一様 牧野久大夫 桜井六左衛門」	Ⅲ-242-15
1395	〔達書〕(御訓導被仰付候間,御城江可被登候)	状	1通	十二月六日	浅野久之助	頼餘一殿	13.8×32.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 浅野久之助」	Ⅲ-242-16
1396	〔達書〕(貴様講釈御聴被遊候間,御出勤可被成候)	状	1通	二月廿日	井上権之丞	頼餘一様	14.3×27.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 井上権之丞」	Ⅲ-242-17
1397	〔達書〕(以後御訓導申上候様被仰付候間,宜被申談候)	状	1通	十一月廿一日		頼餘一	13.6×18.6	色諸口紙		端裏書「達書写」	Ⅲ-242-18
1398	〔達書〕(詩文添削之儀,金子徳之助,加藤太郎三同様二仕候事)	状	1通	江戸後期		頼餘一	14.3×18.5	色諸口紙			Ⅲ-242-19
1399	〔達書〕(御用之儀候間,明廿九日可有登城候)	状	1通	九月廿八日	堀田外記,井伊玄蕃,木村主膳	頼餘一殿	13.8×36.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 堀田外記 井伊玄蕃 木村主膳」	Ⅲ-242-20
1400	〔達書〕(御用之儀候間,今夕半外宅へ可被相越候)	状	1通	七月朔日	澤井半外,西川牧太	頼餘一殿	13.5×41.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 澤井半外 西川牧太」	Ⅲ-242-21
1401	〔達書〕(「近思録十二 教学」講釈御聴被遊候間,御城江可被出候)	状	1通	十一月十二日	西川直記	頼餘一殿	13.9×56.6	色半紙		封上書「頼餘一殿 西川直記」	Ⅲ-242-22
1402	〔達書〕(近思録講釈御聴被遊候間,御出勤可被成候)	状	1通	十一月十日	西尾角允	頼餘一様	11.9×28.1	色半紙		封上書「頼餘一様 西尾角允 差向義」	Ⅲ-242-23
1403	〔達書〕(御自分講釈御聴被遊候二付,御城江可被出候)	状	1通	十二月十九日	浅野久之助	頼餘一殿	14.0×36.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 浅野久之助」	Ⅲ-242-24
1404	〔達書〕(御尋之御訓導御書目二付)	状	1通	十一月廿六日	青野保太郎	頼餘一様	13.8×34.7	色諸口紙		封上書「頼餘一様 青野保太郎」,端裏書「青野御書事」,「書目」は「孟子四 盡心章句 上」のこと	Ⅲ-242-25
1405	〔達書〕(明廿七日御自分講釈御聴被遊候間,御城へ可被出候)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿六日	浅野久之助	頼餘一殿	14.0×37.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 浅野久之助」	Ⅲ-242-26
1406	〔達書〕(明廿九日御訓導被仰付候間,御城へ可被出候)	状	1通	十一月廿八日	西川直記	頼餘一殿	13.9×39.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川直記」	Ⅲ-242-27

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1407	〔達書〕(御内談置候紙為持進候間, 認メ被差越候様ニ奉存候)	状	1通	十月十五日	田上武兵次	頼餘一様	14.0×37.1	色諸口紙		封上書「頼餘一様 田上武兵次」	III-242-28
1408	〔達書〕(明廿三日御自分講釈御聴被遊候付御城江可被出候)	状	1通	八月廿二日	西川牧太	頼餘一殿	14.0×27.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-242-29
1409	〔達書〕(御打取セ之雉五羽御内々被候事)	状	1通	十二月六日	小堀主馬, 永原直之進	頼餘一様	14.0×43.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 小堀主馬 永原直之進」	III-242-30
1410	〔達書〕(明十七日御自分講釈御聴被遊候ニ付御城へ可被出候)	状	1通	正月十六日	今中権六	頼餘一殿	13.9×39.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 今中権六」	III-242-31
1411	〔達書〕(明四日御自分講釈御聴被遊候間, 御城江可被出候)	状	1通	七月三日	西川牧太	頼餘一殿	13.8×29.1	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-242-32
1412	〔達書〕(明十三日御自分講釈御聴被遊候付, 御城江可被出候)	状	1通	十二月十一日	浅野久之助	頼餘一殿	14.0×30.8	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 浅野久之助」	III-242-33
1413	〔達書〕(明廿五日御自分論語講習御聴被遊候間, 御城江可被出候)	状	1通	二月廿四日	西川牧太	頼餘一殿	14.0×34.1	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-242-34
1414	〔達書〕(御用之儀候間, 明十七日可有登城候)	状	1通	四月十六日	仙石隼人, 石井内膳	頼餘一殿	14.0×41.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 仙石隼人 石井内膳」	III-242-35
1415	〔達書〕(御痛之御齒へ熊肝, ましな如何と長谷川殿江田殿申候事)	状	1通	二月廿四日	梶山六一	頼餘一様	13.8×62.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 梶山六一」	III-242-36
1416	〔達書〕(別紙願書ニ認替可被差出候事)	状	1通	九月十四日	井伊玄蕃	頼餘一様	14.0×22.4	色諸口紙		封上書「頼餘一様 井伊玄蕃」	III-242-37
1417	口上之覚(背腰痛難儀ニ付, 月次講ニも得罷出不申差控伺書差出可申哉)	状	1通	九月廿七日	頼餘一		14.1×52.9	諸口紙		校訂(貼紙に墨), 注記(付紙に墨)	III-242-38
1418	〔達書〕(講釈廻り合ニ而御聴被遊候間, 下地得斗可被示合置候)	状	1通	六月二日	井伊玄蕃	頼餘一様, 植田精一郎様, 坂井孫三郎様, 増田千太郎様, 加藤太郎三様	13.9×64.2	色諸口紙		封上書「頼餘一様 植田精一郎様 坂井孫三郎様 増田千太郎様 加藤太郎三様 井伊玄蕃」, 講釈につき「論語 頼餘一 古文孝経 増田千太郎 易経繫辞傳 植田精一郎・坂井孫三郎・加藤太郎三」との記載あり	III-242-39
1419	〔達書〕(明廿一日御自分講釈御聴被遊候付, 御城江可被出候)	状	1通	十一月廿日	西川直記	頼餘一殿	14.0×32.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川直記」	III-242-40
1420	〔達書〕(明十一日御自分講釈御聴被遊候付, 御城江可被出候)	状	1通	六月十日	西川牧太	頼餘一殿	14.0×32.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-242-41
1421	〔達書〕(論語講習御聴被遊候間, 下地為心得申達置候)	状	1通	正月廿二日	西川牧太	頼餘一殿	13.8×35.8	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-242-42

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1422	〔達書〕(相達御用之儀候間、唯今外記宅へ可被出候)	状	1通	正月十七日	西川牧太、堀田外記	頼餘一殿	13.7×27.9	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太 堀田外記」	III-242-43
1423	〔目録〕(銀式枚)	状	1通	江戸後期		頼餘一	31.8×11.2	奉書紙			III-247-2
1424	〔目録〕(金五両、為書物料毎歳被下之)	状	1通	江戸後期		頼餘一	16.8×23.7	奉書紙			III-247-3
1425	〔目録〕(金三両、学問所へ罷出出精相勤候二付)	状	1通	江戸後期		頼餘一	15.9×22.3	杉原紙			III-247-4
1426	〔目録〕(服紗御裕、白御単物、単御肌召)	状	1通	江戸後期		頼餘一	16.7×23.6	奉書紙			III-247-5
1427	〔目録〕(銀壹枚)	状	1通	江戸後期		頼餘一	16.7×24.1	奉書紙			III-247-6
1428	〔目録〕(服紗御筒小袖、裏付御肩衣、晒御肌召)	状	1通	江戸後期		頼餘一	16.6×23.7	奉書紙			III-247-7
1429	〔目録〕(服紗御裕、白御単物、縮緬御肌召)	状	1通	江戸後期		頼餘一	16.8×23.9	奉書紙			III-247-8
1430	〔達〕(御奥詰次席、勤向唯今迄之通)	状	1通	(天保3年1月16日)		頼餘一	16.5×23.8	奉書紙			III-247-9
1431	〔達〕(願之通縁組、頼餘一江戸田勝馬姉)	状	1通	(文政2年)		頼餘一	16.9×23.5	奉書紙			III-247-10
1432	〔目録〕(服紗御裕、白御帷子、縮緬御肌召)	状	1通	江戸後期		頼餘一	16.5×23.6	奉書紙			III-247-11
1433	1)〔達書〕(御手本紙為持進候間、当月中ニ相認メ可被差出候)	状	1通	七月十七日		頼餘一様	13.7×21.7	色諸口紙		III-247-12-1~21まで貼継、封上書「頼餘一様」	III-247-12-1
1433	2)〔達書〕(別紙落手候へとも願書ニ相認メ持参可被下候)	状	1通	六月二日	竹腰孫十郎	頼餘一殿	14.0×26.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 竹腰孫十郎」	III-247-12-2
1433	3)〔書付〕(僧平義風邪ニ付、貴様御出勤可被成候事)	状	1通	六月五日		(頼餘一)	12.0×56.0	色半紙			III-247-12-3
1433	4)〔達書〕(白杵僧平義、御自分宅江逗留支度旨願之通之事)	状	1通	六月六日	大橋主税、西川牧太、堀田外記、築山為蔵、竹腰孫十郎、平田三大夫	頼餘一殿	14.2×52.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 大橋主悦 西川牧太 堀田外記 築山為蔵 竹腰孫十郎 平田三大夫」	III-247-12-4
1433	5)〔達書〕(御手本認メ方之儀、早々被差出候事)	状	1通	六月六日	西川牧太	頼餘一殿	14.0×30.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-247-12-5
1433	6)〔書付〕(御手本認メ方之義、九日朝迄ニ西川殿へ御出し候事)	状	1通	六月六日	彦左衛門	餘一様	12.1×45.4	色半紙		封上書「餘一様 彦左衛門」	III-247-12-6
1433	7)〔達書〕(御代官手附権太郎倅井上口郎ニ付)	状	1通	江戸後期		頼先生	11.6×11.8	色半紙			III-247-12-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1433	8)〔達書〕(石井之入学御延引, 病難儀ニ付速ニ帰宅支度奉存候事)	状	1通	六月八日	梶山六一	頼餘一様	13.3×26.7	色諸口紙		封上書「頼餘一様 梶山六一」	Ⅲ-247-12-8
1433	9)〔書付〕(僧平義出勤差間ニ付, 貴様御出勤不及候事)	状	1通	六月八日		(頼餘一)	12.3×25.4	色半紙			Ⅲ-247-12-9
1433	10)〔達書〕(御手本紙為持進候間, 来月三日四日頃迄ニ相認メ可被差出候)	状	1通	六月十七日	西川牧太	頼餘一様	13.9×29.3	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太」	Ⅲ-247-12-10
1433	11)〔書付〕(印を此ものへ早々御越可被下候事)	状	1通	六月廿日	餘一	頼三千三殿	14.0×31.5	色諸口紙		封上書「頼三千三殿 餘一 急キ」	Ⅲ-247-12-11
1433	12)〔伺書〕(手本早く出申候様と申ハ甚無理ニ御座候事)	状	1通	廿八日	(頼事庵)		13.4×90.5	色諸口紙		下書を二度記載	Ⅲ-247-12-12
1433	13)覚(江波甚蔵廻船ニ乗組之事)	状	1通	巳五月十二日	大坂御役所	頼餘一	12.1×26.5	色半紙		黒文印1顆	Ⅲ-247-12-13
1433	14)〔達書〕(御手本紙并案文共為持候間, 相認メ可被差出候)	状	1通	五月廿四日	西川牧太	頼餘一殿	14.0×25.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	Ⅲ-247-12-14
1433	15)〔達書〕(又五郎殿御清書為持差遣候, 御拜見可被成候)	状	1通	五月廿九日	小堀主馬, 大野木右衛門, 三谷十五郎	頼餘一様	13.8×39.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 小堀主馬 大野木右衛門 三谷十五郎」	Ⅲ-247-12-15
1433	16)〔達書〕(殿様御手本別紙江下書之通り式行ニ認メ来ル廿日朝迄ニ可被差出候)	状	1通	四月十六日	西川牧太	頼餘一様	14.2×27.8	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太」	Ⅲ-247-12-16
1433	17)〔書付〕(御手本紙用藤紙半切式拾枚御落手可被下候)	状	1通	二月廿日	薬師寺九郎	頼餘一様	11.9×27.7	色半紙		封上書「頼餘一様 薬師寺九郎」	Ⅲ-247-12-17
1433	18)〔書付〕(席通し廻来申候, 早々廻し申候事)	状	1通	三月十一日	太郎三カ	餘一様	13.7×26.0	色諸口紙		封上書「餘一様 太郎三」	Ⅲ-247-12-18
1433	19)〔書付〕(御添削, 御清書ニ付)	状	1通	二日	同御役中	餘一様	13.8×16.1	色諸口紙		封上書「餘一様 同御役中」	Ⅲ-247-12-19
1433	20)〔書付〕(今朝, 竹御丸御延引ニ付)	状	1通	二日	梅園立介	頼餘一様	13.7×23.2	色諸口紙		封上書「頼餘一様 梅園立介」	Ⅲ-247-12-20
1433	21)〔書付〕(右京様, 陶斎筆御巻物御覽被成度との儀ニ付)	状	1通	十月廿九日	大谷犀次	頼餘一様	12.1×52.5	色半紙		封上書「頼餘一様 大谷犀次」	Ⅲ-247-12-21
1434	〔書付〕(御廻達之触ニ付)	状	1通	八月廿九日	安井多兵衛	太郎三様, 餘一様, 百十郎様, 金子徳之助様	13.7×38.6	諸口紙			Ⅲ-247-13
1435	口上之覚(眼病ニ而詩稿添削等差支候ニ付差控可申哉)	状	1通	八月廿一日	頼餘一		14.3×88.7	諸口紙		端裏貼紙「頼餘一」, 校訂(墨)	Ⅲ-247-14
1436	〔書簡〕(病児儀, 一昨朝死去仕候事)	状	1通	(文政7年)九月八日	頼餘一	梶山六一様	16.6×58.6	楮紙(薄赤・萌黄色)		封上書「梶山六一様 頼餘一 御内書」	Ⅲ-247-15
1437	包紙	状	1通	江戸後期			24.5×16.9	半紙		封上書「口上書二通 頼餘一」	Ⅲ-247-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1438	〔達書〕(御鉄砲御銘「初音」ニ付御認可被下候)	状	1通	二月廿六日	氷馬	餘一様	12.0×37.6	色半紙		封上書「餘一様 氷馬」	Ⅲ-247-17
1439	〔書簡〕(御見舞として結構之御鳥一羽敬領仕候)	状	1通	極月晦日	頼餘一	大橋主税様	14.0×52.5	諸口紙		封上書「大橋主税様 頼餘一 御内用書尊答」, 紙背に「大橋主税, 加藤三平, 駒井数馬, 近藤彦介, 寺川藤之進」との記載あり	Ⅲ-247-18
1440	〔達書〕(相達御用之儀候間, 牧太宅江可被相越候)	状	1通	正月十七日	大橋主税, 西川牧太, 竹腰孫十郎, 安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門	頼餘一様	14.0×42.8	色諸口紙		封上書「頼餘一様 大橋主税 西川牧太 竹腰孫十郎 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門」	Ⅲ-247-19
1441	〔達書〕(御用之儀候間, 明廿四日可被登城候)	状	1通	五月廿三日	西川牧太, 竹腰孫十郎, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門	頼餘一殿	14.2×43.3	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太 竹腰孫十郎 藤田新五郎 満田九郎左衛門」	Ⅲ-247-20
1442	口上之覚(月々詩稿添削之儀ニ付恐入伺事案文)	状	1通	安政二年乙卯九月晦日	(頼事庵)		13.7×20.6	色諸口紙		端裏書「安政二年乙卯九月晦日 後致差出候恐入伺事案文通」	Ⅲ-247-21
1443	別紙(私儀忌中ニ付, 諸事不罷出候儀案内ニは及不申候哉)	状	1通	江戸後期	餘一/口五郎	/餘一様	14.5×45.3	諸口紙		端裏書「餘一 此書付江御附紙御」回答被成下候様奉願上候」, 付札①(11.8×6.0, 色半紙), ②(11.8×4.2, 色半紙)にて返答あり, 封上の「餘一」に「様」と「口五郎」を書き入れ	Ⅲ-247-22
1444	〔覚〕(学問所御稽古担当控え)	状	1通	正月~四月	(頼事庵)		14.0×135.3	色諸口紙		「丁祭行事執行官員名簿」の反故紙を使用	Ⅲ-247-23
1445	1)〔書付〕(御具足箱差札など進候, 此人江御渡シ可被下候)	状	1通	九月十日		(頼事庵)	11.9×17.0	色半紙		Ⅲ-247-24-1~12まで貼継	Ⅲ-247-24-1
1445	2)〔書付〕(御具足櫃標札出来候得は御越可被成候)	状	1通	九月十日		(頼事庵)	11.9×10.7	色半紙			Ⅲ-247-24-2
1445	3)〔書付〕(詩経集註八冊御下々相成候間, 御請取可被成候)	状	1通	九月十日	仙石儀平太, 小堺兵介, 湯川静次郎, 長尾新八	頼餘一様	11.9×28.2	色半紙		封上書「頼餘一様 仙石儀平太 小堺兵介 湯川静次郎 長尾新八」	Ⅲ-247-24-3
1445	4)〔書付〕(御具足箱御札御受取宜敷取立可被成候)	状	1通	八月五日		(頼事庵)	14.2×28.5	色諸口紙			Ⅲ-247-24-4
1445	5)〔書付〕(明朝月次講釈請合候所, 腹痛にて御断申上度候)	状	1通	八月十一日		(頼事庵)	13.9×59.1	色諸口紙			Ⅲ-247-24-5
1445	6)〔書付〕(明後廿四日朝, 又五郎殿御手習御稽古納ニ相成候事)	状	1通	八月廿一日		(頼事庵)	11.2×27.3	色半紙			Ⅲ-247-24-6
1445	7)〔書付〕(先日頼仕候文字ニ付火急の事)	状	1通	八月廿七日	山田新十郎	頼餘一様	13.6×55.4	色諸口紙		封上書「頼餘一様 山田新十郎 御直披」	Ⅲ-247-24-7
1445	8)〔書付〕(生鮎五ッ又五郎殿より御頂戴被成候事)	状	1通	八月廿四日	西川角馬, 湯川静次郎, 菅井幾之進, 望月弥五郎		11.9×28.9	色半紙		封上書「頼餘一様 西川角馬 湯川静次郎 菅井幾之進 望月弥五郎」	Ⅲ-247-24-8
1445	9)〔書付〕(藤紙半切廿枚為持上申候ニ付御受取可被下候)	状	1通	八月廿四日		(頼事庵)	12.2×34.5	色半紙			Ⅲ-247-24-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1445	10)〔達書〕(御手本紙為持相達候間被相認め候様ニと存候)	状	1通	八月廿七日	西川牧太	頼餘一様	14.0×23.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太」	Ⅲ-247-24-10
1445	11)〔書付〕(又五郎殿南屋敷へ御引移り被成候事)	状	1通	八月廿八日	小堀主馬, 大野木右門, 三谷十五郎, 足立権大夫	頼餘一様	12.1×24.6	色半紙		封上書「頼餘一様 小堀主馬 大野木右門 三谷十五郎 足立権大夫」	Ⅲ-247-24-11
1445	12)〔書付〕(御手本紙七枚為持相廻し候間, 御受取可被下候)	状	1通	八月廿九日	堀十兵衛	頼餘一様	11.8×32.8	色半紙		封上書「頼餘一様 堀十兵衛」	Ⅲ-247-24-12
1446	〔達書〕(戸田勝馬姉御自分妻ニ縁組支度段, 勝手次第願書可被差出候)	状	1通	(文政2年)七月十二日	西川牧太, 堀田外記	頼餘一殿	13.9×38.6	色諸口紙		封上書「頼餘一様 西川牧太 堀田外記」	Ⅲ-247-25
1447	〔達書〕(明廿八日御供揃ニ而学問所へ神位御拜被遊候事)	状	1通	六月廿七日	浅野十介, 竹腰傳右衛門	頼餘一様	13.9×28.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 浅野十介 竹本傳右衛門」	Ⅲ-247-26
1448	〔書付〕(月ニ両度竹館へ御状被進候事, ほか)	状	1通	晩夏廿七	静次郎	餘一様	11.9×176.8	色半紙		端裏書「御請書へ附候答口行」	Ⅲ-247-27
1449	〔書簡〕(御香布丈南家之分持参仕候而ハ如何)	状	1通	九月十五日	餘一申上	杏大人	14.5×16.0	諸口紙		封上書「杏大人 餘一申上 伝右」, 端裏書(頼杏坪筆)「書入御返事」	Ⅲ-247-28
1450	〔書付〕(御請疏御箱台共相調差出候間, 御受取可被下候)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿六日	松嶋為太郎	頼餘一様	11.9×19.7	色半紙		封上書「頼餘一様 松嶋為太郎 差向御用向」	Ⅲ-247-29
1451	〔廻達〕(出仕不致方角ハ申述候様ニとの儀ニ御座候事)	状	1通	十一月廿二日	頼餘一	長崎養淳様, 森栄元様, 村田文尚様, 谷春仙様, 西本俊良, 牛尾元慎様	14.3×82.0	諸口紙		封上書「各様 頼餘一 差向廻達」, 3枚に剥離	Ⅲ-247-30
1452	〔書簡〕(残り差紙石数如何程ニ相成居候や)	状	1通	九月朔日	頼餘一	岡田徳之助様	14.0×39.8	諸口紙		封上書「岡田徳之助様 頼餘一 要用差向義」, 封上書の宛名敬称を書き直すも, 返事の書き入れなし	Ⅲ-247-31
1453	〔書簡〕(奥海田住之富永源五郎ニ付, ほか)	状	1通	七月十五日	餘一	春徳様	14.5×216.8	諸口紙		封上書「春徳様 餘一 話 源五郎君」	Ⅲ-247-32
1454	〔書付〕(御清書相廻し申候, 御拝見可被成候)	状	1通	九月十一日	静次郎	餘一様	14.0×98.4	色諸口紙		封上書「餘一様 静次郎」	Ⅲ-247-33
1455	〔書付〕(御取被遣之雉七羽定之丞様方御内被下候)	状	1通	九月十日	野村吉之進	頼餘一様	12.2×25.0	色半紙		封上書「頼餘一様 野村吉之進」	Ⅲ-247-34
1456	〔達書〕(致御面談度儀有之候間, 明日御城江被出候様ニと存候)	状	1通	十二月廿三日	西川牧太	頼餘一殿	13.9×37.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	Ⅲ-247-35

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1457	〔廻達〕(来ル十九日夜御用談集会私宅江御引受候事)	状	1通	正月九日	頼餘一	久保田清兵衛様, 石原兵蔵様, 日比騎馬之助様, 嶋本甚内様, 大橋和多理様, 木村主殿様, 竹腰主禮様, 堀江倫之進様, 龍神角馬様, 寺西数太郎様, 三木茂大夫様, 岩室新蔵様, 松野文四郎様	14.3×91.2	諸口紙		包紙(24.4×17.1, 半紙)「各様 頼餘一 御廻達物」	III-247-36
1458	〔達書〕(松茸七本御頂戴被仰付候事)	状	1通	八月晦日	平田伊久馬	頼餘一様	11.7×36.0	色半紙		封上書「頼餘一様 平田伊久馬 差向」	III-247-37
1459	〔書付〕(御亡父様御著述竹館小録式冊二付)	状	1通	十二月晦日	観興寺貢	頼餘一様	14.0×29.3	色諸口紙		封上書「頼餘一様 観興寺貢」	III-247-38
1460	御内談申上候覚(筆結松本敬次事, 御扶持方等被下置候様奉願候事)	状	1通	四月廿二日	頼餘一		14.2×124.8	諸口紙			III-247-39
1461	口上之覚(備前玉嶋郷土藤枝俊吉事, 為学問修行下宿支度事)	状	1通	(文政5年カ, 天保12カ) 閏正月十九日	頼餘一		14.4×29.9	諸口紙		付札(14.0×6.0, 色諸口紙)「頼餘一 申出候通可被仕候」	III-247-40
1462	〔書付〕(御請疏之御義ニ付, 今日中ニ調奔可申奉存候)	状	1通	(嘉永5年) 閏二月廿四日	松嶋為太郎	頼様	13.8×44.8	諸口紙		封上書「頼様 松嶋為太郎 尊翰」	III-247-41
1463	御内談申上候覚(筆結松本敬次事ニ付下書)	状	1通	四月	頼餘一		13.8×	諸口紙		注記(付紙に墨), III-247-39の下書き	III-247-42
1464	〔書付〕(御受取もの義いまた相渡不申ニ付, 相分り次第御知せ申候事)	状	1通	十二月廿八日	高橋松蔵, 西川理市	頼餘一様	13.7×28.0	諸口紙		封上書「頼餘一様 高橋松蔵 西川理市」	III-247-43
1465	〔達書〕(御用之儀候間, 明廿八日可有登城候)	状	1通	八月廿七日	藤田新五郎, 二川清記, 谷崎平司	頼餘一殿	13.9×39.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 藤田新五郎 二川清記 谷崎平司」	III-247-44-1
1466	〔達書〕(「芸備孝義伝」三編跋文の御褒美下賜につき)	状	1通	八月廿七日		頼餘一	13.8×18.2	色諸口紙			III-247-44-2
1467	口上之覚(眼病ニ而詩稿添削等差支候ニ付差控伺)	状	1通	九月廿六日	頼餘一		14.4×78.6	諸口紙		端裏書「安政二年乙卯九月前致差出候控 学問詩稿添削延引之節」, III-247-14の清書	III-247-46
1468	〔順達〕(御家督并御入国為御祝儀御能見物被仰付候事)	状	1通	十月廿七日	今津徳之助	加藤太郎三様, 頼餘一様	14.0×34.6	色諸口紙		封上書「加藤太郎三様 頼餘一様 今津徳之助 御順達物」	III-247-47
1469	〔書付〕(見舞ほか, 加藤儀当丁祭分奠官御座候処, 出勤出来不申候事)	状	1通	二月六日	坂井百十郎, 植田賢三郎	頼餘一様	14.0×45.8	色諸口紙		封上書「頼餘一様 坂井百十郎 植田賢三郎 さし向義」	III-247-48

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1470	[添状](御五輪塔御額紙相渡申候事)	状	1通	五月九日	諏訪民次郎	頼餘一様	12.2×24.5	色半紙		封上書「頼餘一様 諏訪民次郎 弍封添」	Ⅲ-247-49
1471	[願書控](綿毛束八貫匁為持上候間, 銀札ニ御引替相叶候哉)	状	1通	極月十八日	頼餘一	森元忠八様	14.5×46.0	諸口紙		封上書「森元忠八様 頼餘一 要用御直披」	Ⅲ-247-50
1472	[達書](御奥詣次席就被仰付候, 誓詞被仰付候事)	状	1通	正月十六日	堀田外記, 平田三大夫	頼餘一殿	13.8×86.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 堀田外記 平田三大夫」	Ⅲ-247-51
1473	[願書控](千蔵儀, 御賞被下候様奉願上候)	状	1通	五月	頼餘一		14.3×33.6	諸口紙		校訂(墨), 前欠カ	Ⅲ-247-52
1474	[達書](申談儀候間, 明十七日御城江可被罷出候)	状	1通	二月十六日	大橋主税	頼餘一殿	13.8×30.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 大橋主税」	Ⅲ-247-53
1475	[書付](御書認之儀, 何分至急ニ可被差出候事)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿五日	松嶋為太郎	頼様	13.6×73.9	諸口紙		封上書「頼様 松嶋為太郎 拝上」	Ⅲ-247-54
1476	[願書控](於京都寺川義次郎へ相頼書籍代料, 為替同方へ遣し申度ニ付)	状	1通	(文政7年)閏八月十五日	頼餘一	森雅豊様, 熊谷平太様	14.5×30.7	諸口紙		封上書「森雅豊様 熊谷平太様 頼餘一」	Ⅲ-247-55
1477	[書付](御手本用藤紙拾枚為持候間, 御受取可被成候)	状	1通	四月十五日	諏訪民次郎	頼餘一様	13.9×26.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 諏訪民次郎」, 端裏書「丙申御発駕後御手本差出候節之事」	Ⅲ-247-56
1478	[書付](来書参り次第御廻勤之事, 御承知可成候)	状	1通	十月廿七日	金子徳之助	頼餘一様	13.9×26.1	色諸口紙		封上書「頼餘一様 金子徳之助 差向義」	Ⅲ-247-57
1479	[書付](高橋千次郎本勤之儀も御裁許御座候ニ付)	状	1通	七月十三日	水野市允	頼餘一様	13.7×44.4	色諸口紙		封上書「頼餘一様 水野市允」	Ⅲ-247-58
1480	御内話申上試候覚(御場所諸生出席次第ニ致減少候義ニ付)	状	1通	江戸後期	頼餘一	(寺尾儀衛門(ほか))	13.8×193.6	色諸口紙		端裏書「急務 学校」, 「寺尾儀右衛門(ほか宛所列举)」, 校訂(墨・朱)	Ⅲ-247-59
1481	口上之覚(頼佐一郎倅栄次儀, 為武芸稽古私宅ニ逗留支度申上候)	状	1通	四月九日	頼餘一		14.2×20.6	諸口紙			Ⅲ-247-60
1482	口上之覚(頼餘一儀, 格別ヲ以進格被仰付候様申上候)	状	1通	(嘉永2年)二月	谷口虎之助, 伊藤庄七, 佐々兵衛		13.8×71.8	諸口紙		端裏書「頼餘一 勤書控」	Ⅲ-247-61
1483	[達書](右京様御筆払底ニ付, 静古堂へ早々調進候様申付可被下候)	状	1通	正月十八日	武井求馬, 生田猪介		11.9×60.3	色半紙		封上書「頼餘一様 武井求馬 生田猪介 差向」	Ⅲ-247-62
1484	[達書](長崎町年寄高橋四郎大夫心得罷在候火術伝授之儀ニ付)	状	1通	江戸後期			14.0×74.8	色諸口紙			Ⅲ-247-63
1485	[達書](月々諸生中詩文見合取集等可被取計候事)	状	1通	江戸後期		頼餘一	14.2×22.8	色諸口紙		端書「学問所月次講被仰付候節之書付」	Ⅲ-247-64
1486	[達書](頼久太郎病死ニ付墓参を仕度儀ニ付, 願之通之事)	状	1通	(天保4年)四月四日	沢井半外, 武田每登, 安井平之丞	頼餘一殿	13.6×67.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 沢井半外 武田每登 安井平之丞」, 2枚に剥離	Ⅲ-247-65

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1487	〔達書〕(美作守様御学事御稽古申上候ニ付、内々金三両被下之候事)	状	1通	四月	栗間左中、高木藤蔵、玉置源右衛門	頼餘一様	13.7×34.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 栗間左中 高木藤蔵 玉置源右衛門」	III-247-66
1488	〔達書〕(御講釈御聴被遊候付、御出勤可被成候)	状	1通	八月七日	寺尾佐一郎、浅野久之助		11.7×27.0	色半紙		封上書「頼餘一様 寺尾佐一郎 浅野久之助 差向義」	III-247-67
1489	〔伺書〕(私義御同席ニ相成候段、不案内者之義被添御心被下候様奉願候)	状	1通	正月十六日	頼餘一	(同席中)	14.4×45.7	諸口紙		端裏書「同席中願之状 案文」	III-247-68
1490	〔伺書〕(明後十一日拜礼被仰付候節之献備物ニ付)	状	1通	五月九日	頼餘一		13.5×35.3	色諸口紙		端裏書「頼餘一 差向義」	III-247-69
1491	覚(焼鮎、塩鮎ほか進呈仕候間、笑留可被下候)	状	1通	十月四日	緒方與治兵衛	頼餘一様	17.0×34.9	杉原紙		包紙(25.0×34.7、半紙)「頼餘一様 緒方 與治兵衛」	III-247-70
1492	〔覚〕(頼餘一履歴書付)	状	1通	(嘉永三年頃)			14.5×17.4	諸口紙			III-249-1-1
1493	〔覚〕(頼餘一江戸詰履歴書付)	状	1通	(嘉永三年頃)		(頼事庵)	13.8×26.0	色諸口紙		端裏書「此書付へ御書入可被下候」、文化十三年、文政元年、同二年、同六年、天保卯年、天保三年、同八年、同十二年の辛丑の記載あり	III-249-1-2
1494	〔達書〕(分献官任命書)	状	1通	江戸後期		頼餘一	13.9×10.8	色諸口紙			III-249-1-3
1495	口上之覚(長尾新八娘、私後妻ニ縁組仕度奉存候)	状	1通	(天保6年)十二月廿日	頼餘一		14.5×27.8	諸口紙		付札(13.8×8.5、色諸口紙)「頼餘一 双方申合勝手次第願書可被差出候」	III-249-1-4
1496	〔覚〕(梅大人、京大人御誕生日)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		13.9×3.9	諸口紙		包紙(29.1×8.8、諸口紙、反故紙使用)「梅大人 京大人御誕生日」、 「極月廿七日 京大人御誕生日」「梅大人九月廿八九日之内御誕生日」 との記載あり	III-249-1-5
1497	口上之覚(叔父頼千齡死去ニ付、墓参仕度奉存候)	状	1通	(文政8年)九月十四日	頼餘一		14.6×44.8	諸口紙		校訂(墨)	III-249-2-1
1498	〔達書〕(頼千齡病死ニ付墓参仕度段、願之通之事)	状	1通	(文政8年)九月十六日	井伊玄蕃、大嶋直兵衛	頼餘一殿	13.8×50.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 井伊玄蕃 大嶋直兵衛」	III-249-2-2
1499	先触(頼餘一殿用向之儀有之、人足差支無之様頼存候)	状	1通	(文政8年)九月十五日	頼餘一内 手嶋良三	海田、西條関屋御役人中	14.4×29.6	諸口紙			III-249-2-3
1500	〔覚〕(長男秀蔵夭逝ニ付委細書付)	状	1通	文政九年丙戌 正月十四日	(頼事庵)		14.4×54.1	諸口紙		端裏書「書付得先生かた手紙ま□」	III-249-3
1501	口上(餘一嫡子秀蔵儀、先刻病死被致候事)	状	1通	(文政9年)正月十二日			14.1×11.0	諸口紙			III-249-4
1502	〔書簡〕(位牌御戒名の孝敬、良善の二字ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.0×34.6	諸口紙		端裏書「みつぎ屋 □(社カ)人」、注記(朱)	III-249-5
1503	覚(長尾新八娘、私後妻ニ縁組仕度儀ニ付書試)	状	1通	(天保7年)正月十七日	頼餘一協		29.1×46.2	諸口紙			III-249-6-1
1504	〔書簡〕(私後妻縁談ニ付、長尾庄八娘血伝御しらべ相済候事)	状	1通	(天保6年)十月十七日	(頼事庵)		13.8×228.7	諸口紙		注記(墨)	III-249-6-2
1505	続書(頼事庵縁組ニ付、父方親族・遠縁一覧)	状	1通	(天保6年)	(頼事庵)		14.0×34.0	諸口紙		注記(付紙に墨)、付紙4枚付属(糊離れ)	III-249-8

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1506	〔書付〕(餘一様三千三様屋めし御上り被下候様ニ奉願候)	状	1通	江戸後期			14.4×9.6	諸口紙		反故紙使用, 反故紙「為政終章ニハ…」	III-328-7-2
1507	口上之覚(亡父弥太郎輯録仕置品々取揃差出申度候)	状	1通	壬午(文政5年)四月	頼餘一(事庵)		14.5×53.0	諸口紙		注記(墨)	III-334-4
1508	〔達書〕(江戸詰心得)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		16.7×37.9	三桎紙		左上部破損	III-336-1
1509	〔達書〕(城門并町門閉門時刻に付)	状	1通	十一月廿一日	(頼事庵カ)		14.5×45.8	諸口紙		墨抹	III-336-34
1510	〔書簡・歌稿〕(梅颯詠草のこと, 自詠七首)	状	1通	五月十九日	菅沼斐雄	頼権次郎様, 頼餘一様	17.6×159.1	奉書紙(「口なしの泊」風景絵摺)			III-339-10
1511	〔包紙〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		30.7×41.0	杉原紙		端書「頼様上ル分」之真図素綯「蕨, 大城, 大川蔵山之類表襦」	III-349-2
1512	〔奥詰次席拜命誓詞控包紙〕	状	1通	天保三年壬辰三月六日	(頼事庵)		19.2×26.4	楮紙		封上書「天保三年壬辰三月六日 誓詞用」	III-349-12
1513	〔公辺書類包紙〕	状	1通	甲申六月廿日省略(文政7年)	(頼事庵)		24.0×17.0	半紙		封上書「公辺書類 甲申六月廿日 省略」	III-349-19
1514	先触(頼梅颯の帰広につき)	状	1通	(文政2年)閏四月廿日	芸州家中 頼餘一	自撰州西宮芸州海田駅迄宿々問屋中	15.7×40.1	杉原紙		先触の端に包紙(24.0×30.3, 半紙)貼付, 包紙「先触」(従大坂芸州広島屋敷)	VI-3
1515	〔書簡〕(頼誠軒の縁組につき)	状	1通	三月朔日			14.3×23.4	諸口紙		批正(朱), 「福地清見様御妹, 東三郎様御妻ニ御縁組被成度段, 今日於御城御願之通被仰出候」との記載あり	III-168-9
1516	〔廻達〕(来ル十九日夜御用談集会私宅へ御引受につき)	状	1通	(天保13年以後)正月九日	頼餘一	藤巻喜三太様, 松宮瀧次郎様, 寺川九十九様ほか 9名	14.2×92.1	諸口紙		懸点(墨), 宛所は「藤巻喜三太様, 松宮瀧次郎様, 寺川九十九様, 石原清三郎様, 蒲生織之助様, 浅野小六郎様, 小笠原寛八様, 伊藤庄七様, 平田織馬様, 飯田次兵衛様, 佐々和善登様, 小幡繁太郎様」, 頼事庵が御奥詰として発給したもののカ	III-168-11
1517	〔届書〕(腹痛による登城取止めにつき)	状	1通	十二月廿七日	(頼事庵カ)	西川牧太, 竹越孫十郎, 武田毎登様ほか 3名	14.2×29.9	諸口紙		端裏宛書「西川牧太 竹越孫十郎 武田毎登様 満田九郎左衛門様 竹腰隼人 坂小半」	III-168-14-1
1518	〔届書〕(腹痛による登城取止めにつき)	状	1通	十二月廿七日	(頼事庵カ)		14.2×35.6	諸口紙		III-168-14-1と同文(端裏宛書なし)	III-168-14-2
1519	口上之覚(私甥三千三儀, 江戸表にて寄宿飯料送金ニ付伺書下書)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.8×40.8	色諸口紙			III-185-11
1520	1)〔伺書〕(春水遺稿 恭昭院様御誌石文并新庄御山詩を差除きの御指図ニ付)	状	1通	(文政6年カ)正月廿六日	頼万四郎, 頼餘一		14.2×104.4	諸口紙		III-236-1~10まで貼継, III-236-2の清書	III-236-1
1520	2)〔伺書下書〕(春水遺稿 恭昭院様御誌石文并新庄御山詩を差除きの御指図ニ付)	状	1通	(文政6年カ)正月廿〇日	頼万四郎, 頼餘一		14.2×94.8	諸口紙		杏坪批正(墨・貼紙に墨), 補記(貼紙に墨), III-236-1の草稿, 紙背墨書あり	III-236-2
1520	3)口上之覚(亡父弥太郎詩文集彫刻之義ニ付伺書控)	状	1通	(文政6年カ)四月五日	頼餘一		13.5×66.5	諸口紙			III-236-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1520	4) 口上之覚(日本外史献上仕度ニ付伺書控)	状	1通	(天保3年)八月廿一日	頼餘一		14.0×112.5	諸口紙		端裏書「壬申江戸詰中 日本外史献上 仕度段申出書付」	III-236-4
1520	5) [覚書](日本外史開板ニ付, 松平大和守問合せ状及び聿庵返書の控)	状	1通	(弘化元年カ)	(頼聿庵)		14.2×79.5	諸口紙			III-236-5
1520	6) [頼聿庵書簡](日本外史, 京都にて開板の儀, 早々可差留候事)	状	1通	(天保14年)正月十一日夜認	頼餘一	頼又次郎殿(支峰), 頼三樹三郎殿	16.3×91.8	楮紙		端裏書(頼支峰筆)「癸卯正月廿五日來, 持來者書壳 秋田谷太右衛門ナリ」, 封上書(頼聿庵筆)「急用書 餘一」, 本文末尾に代筆の旨を記載	III-236-6
1520	7) [頼支峰書簡](御著外史開板之儀, 宜御周旋之程奉願上候)	状	1通	(天保14年)四月廿四日認	又二郎申上(頼支峰)	(頼聿庵)	16.3×67.0	楮紙		端裏書(頼支峰筆)「御著外史一件 御答申上」	III-236-7
1520	8) [頼支峰書簡](外史ハ半分河内屋へ為持候様御落着可被下候)	状	1通	(天保14年カ)蒲月廿日	復拝復(支峰)	聿庵大人	16.0×49.5	楮紙			III-236-8
1520	9) [頼支峰書簡](先君御著述, 外方より上木願の儀ニ付, 右之願書差上候事)	状	1通	(嘉永5年)十月七日	又次郎 拝	聿庵大人侍史	16.6×106.8	楮紙			III-236-9
1520	10) 奉願口上之覚(外方より外史上木相企候儀ニ付願書控)	状	1通	子(嘉永5年)十月	松平安芸守家來 頼又次郎(支峰)	御学問所 御役人衆中	16.4×64.8	楮紙			III-236-10
1521	御内々申上覚(亡父弥太郎遺稿文集板刻ニ付御助力を願出る口上書下書)	状	1通	戌子(文政11年)正月	頼餘一		14.7×43.5	竹紙		端裏書(頼杏坪筆)「此通り書付ヲ以賀屋へ申出可然と奉存候 全部成就之上にてハ難申出候, 半途と申儀ニ而 御助力願出候ハ相調可申哉と急ニ心附申候, 大人へ御相談可被申上候, 明朝様子可被申聞候南」, 校訂(墨), 補記(貼紙に墨), 差出に「頼餘一」とあるが, 作成は頼杏坪	III-236-11
1522	[達書](明日の御講釈御聴被遊候につき)	状	1通	九月十三日		(頼聿庵)	14.5×19.3	諸口紙			III-239-1
1523	[書付](御請疏來ル廿七日中ニ差出候様との御儀ニ付)	状	1通	閏二月廿四日	餘一	為太郎様	14.4×76.3	諸口紙		封上書「為太郎様 餘一 差向義」	III-240-5
1524	[書付](私義今夕御進講ニ付)	状	1通	十月十八日	頼餘一	学問所同勤中様	13.7×48.0	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」	III-240-8
1525	[伺書](九ノ問への案内紙面上書ニ付)	状	1通	六月十八日	餘一	出衛様, 伊織様	14.6×46.2	諸口紙		封上書「出衛様 伊織様 餘一 貴前御直披」, 校訂(墨)	III-240-9
1526	口上之覚(私義拝領仕候書物料不渡リニ付伺書控)	状	1通	正月元日	頼餘一		14.6×45.1	諸口紙		端裏書「口上書老通 幅書申候 元日差出候 頼餘一」	III-240-10
1527	[伺書案文](私知行六十石之内式拾石, 御蔵米相立申度ニ付)	状	1通	十一月十九日	頼餘一	中嶋盛登様	15.5×141.2	三桎紙(薄藍色)		封上書「中嶋盛登様 頼餘一 要用書」, 校訂(墨)	III-240-11
1528	[届出控](私義風邪難儀ニ付得出勤不仕候事)	状	1通	二月三日	頼餘一	御牧助九郎様, 生田権介様, 黒田斎様, 山田隼之助様	14.5×27.5	諸口紙		封上書「御牧助九郎様 生田権介様 黒田斎様 山田隼之助様 頼餘一」	III-240-12

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1529	〔廻達〕(来ル十九日御用談集会私宅へ御引受候二付)	状	1通	正月九日	頼餘一	藤卷善三太様ほか11名	14.3×92.5	諸口紙		包紙(24.6×17.1, 半紙)「各様 頼餘一 御廻達物」貼継	III-240-13
1530	〔届出控〕(出勤遅刻之儀二付)	状	1通	七月三日	頼餘一	学問所同勤中様	14.2×27.6	諸口紙			III-240-14
1531	〔届出控〕(無抛義二付得出勤不仕候事)	状	1通	閏四月六日	頼餘一	学問所同勤中様	14.2×21.4	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 紙背墨書あり	III-240-15
1532	〔届出控〕(私義風邪快敷二付従今日致出勤候事)	状	1通	二月八日	頼餘一	当御番御奥詰中様	14.5×32.2	諸口紙		封上書「当御番 御奥詰中様 頼餘一」	III-240-16
1533	〔廻達〕(来ル十九日夜, 御用談集会私宅江御引受候事)	状	1通	十月九日	頼餘一	今中清十郎ほか14名	14.1×102.6	諸口紙		包紙(23.9×16.8, 半紙)「各様 頼餘一 御廻達物」, 2枚に剥離	III-240-17
1534	〔案内控〕(私義御奥詰被仰付, 此段為御知仕度候)	状	1通	(天保12年)十二月十八日	頼餘一	近藤佐守様	14.4×45.4	諸口紙		包紙(24.8×34.5, 半紙)「近藤佐守様 頼餘一」	III-240-19
1535	〔廻達〕(来ル十九日夜御用談私宅江御引受候事)	状	1通	正月九日	頼餘一	今中清十郎ほか15名	14.3×103.0	諸口紙		包紙(22.5×17.0, 半紙)「各様 頼餘一 御廻達物」	III-240-21
1536	〔届出〕(私義夜前腹痛二付, 今日出勤得不仕候事)	状	1通	四月廿日	頼餘一	学問所同勤中様/頼餘一様	14.2×28.0	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 「下」「上」「様」書入れ, 異筆にて返答書入れあり	III-240-24
1537	〔書付〕(御燈籠文字書調方之儀二付)	状	1通	五月十八日	頼餘一	池田直一様, 諏訪民次郎様, 小池源六様	14.5×47.1	諸口紙		封上書「池田直一様 諏訪民次郎様 小池」, 宛名一部欠損	III-240-25
1538	〔案内〕(今夕進講被仰出候二付)	状	1通	八月廿一日	頼餘一	学問所同勤中様/頼餘一様	13.7×70.0	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 「下」「上」「様」「太郎三拝答も入」書入れ	III-240-26
1539	〔廻達〕(来ル十九日夜御用談集会私宅江御引受候二付)	状	1通	正月九日	頼餘一	久保田清兵衛ほか12名	14.4×95.8	諸口紙			III-240-28
1540	〔書付〕(彼是煩中二付, 早々御出勤被成候様と奉存候事)	状	1通	(天保12年)閏一月二日	頼餘一	加藤太郎三様(棕廬)	14.1×27.6	色諸口紙		封上書「加藤太郎三様 頼餘一 差向儀」, 紙背墨書あり	III-240-30
1541	御内話申上候覚(手嶋三五義二付書付控)	状	1通	(天保12年)丑七月廿三日	(頼事庵)	(牧野久大夫)	14.5×8.0	諸口紙		端裏書「三五義二付牧野久大夫迄出書付 丑七月廿三日」, 後欠	III-240-31
1542	〔届出控〕(私義先日以來腹痛・腰痛二付明朝講釈得不仕候事)	状	1通	三月廿五日	餘一	保之進様	14.4×49.7	諸口紙		封上書「保之進様 餘一 不煩御答」	III-240-32
1543	〔届出〕(私義風邪二付得出勤不申候事)	状	1通	十一月十八日	(頼事庵)		13.9×17.8	諸口紙		付紙(13.9×17.7, 諸口紙)あり	III-240-34
1544	〔奉書〕(御奥詰拜命時)	状	1通	(天保12年)12月17日		頼餘一	16.4×23.8	奉書紙			III-243-3
1545	〔封筒〕(学問所再勤被仰付候御奉書類)	状	1通	嘉永四年辛亥九月廿一日	(頼事庵)		21.0×8.6	楮紙		表書「嘉永四年辛亥九月廿一日 学問所 再勤被仰付候御奉書類」	III-243-10
1546	〔届出〕(私義今朝不得已儀二付得出勤不仕候事)	状	1通	二月十六日	頼餘一	同勤中様/頼餘一様	15.7×44.8	楮紙		封上書「同勤中様 頼餘一」, 「下」「上」「様」「拝批答」書入れ, 返答書入あり	III-243-17

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1547	口上之覚(私共義代り着候ニ付, 明後十四日出足仕度伺書)	状	1通	四月十二日	野村他人弥, 頼餘一		13.8×17.7	諸口紙		端裏貼紙「野村他人弥」, 付札(14.0×6.9, 色諸口紙)「野村他人弥・頼餘一 此儀申出之通り可被仕候」	III-243-18
1548	〔書付〕(御手本書認紙出来仕候ニ付)	状	1通	正月十六日	(頼事庵)		14.1×51.5	諸口紙		後欠	III-243-24
1549	〔届出控〕(私義今朝遅刻ニ付南館へ出勤仕度候)	状	1通	十月四日	頼餘一	学問所同勤中様	14.1×28.9	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」	III-243-27
1550	〔届出控〕(私義今日無抛義ニ付, 得出勤不仕候)	状	1通	十一月十二日	頼餘一	学問所同勤中様	13.9×34.4	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 端裏書「□江 □即 要用」	III-243-28
1551	〔書付〕(別紙昨夜返書取帰申候ニ付)	状	1通	三月廿七日	餘一/百太郎	百太郎様/餘一様	14.3×38.4	諸口紙		封上書「百太郎様 餘一」, 「下」「上」様書入れ, 返答書入れあり	III-243-29
1552	〔書付〕(此間御講釈何と申所迄御講被成候ヤ)	状	1通	十一月十八日	頼餘一/加藤太郎三	加藤太郎三様/頼餘一様	14.3×42.1	諸口紙		封上書「加藤太郎三様 頼餘一 差向義」, 「下」「上」様書入れ, 返答書入れあり	III-243-30
1553	〔廻達控〕(来ル十八日夜御集談私宅へ御引受ニ付)	状	1通	四月十五日	(頼事庵)		14.3×26.1	諸口紙			III-243-33
1554	〔届出控〕(私義無抛儀ニ付得出勤不仕候)	状	1通	四月廿三日	(頼事庵)		14.5×30.9	諸口紙			III-243-35
1555	〔廻達〕(来ル廿三日御用談集會私宅へ御引受ニ付)	状	1通	四月十九日	頼餘一	植田正次郎ほか9名	14.3×46.0	諸口紙		包紙(24.3×15.1, 半紙)「各様」	III-243-37
1556	〔書付〕(御清書拝見, 朱点相加奉返上候)	状	1通	四月廿三日	(頼事庵)		14.5×21.5	諸口紙		2枚に剥離, 変色甚	III-243-38
1557	〔案内控〕(餘一様御新造様御安産男児御出生ニ付)	状	1通	(文政12年)九月四日	頼餘一 内 手嶋三五	佐々木太右衛門様	14.5×24.0	諸口紙		封上書「佐々木太右衛門様 頼餘一内 手嶋三五」 端裏書「筒井極人様御内」, 右端に切れ目あり, 墨書「筒井極人様御内」あり	III-243-40
1558	〔届出控〕(私義風邪難儀ニ付, 明端午御城へ得罷出不申候)	状	1通	五月四日	頼餘一	井伊玄蕃様, 岡野弥右衛門様	14.4×25.5	諸口紙		封上書「井伊玄蕃様 岡野弥右衛門様 頼餘一」, 変色甚	III-243-41
1559	〔書付〕(十七巻を箱共ニ差出申候ニ付, 御落手可被下候)	状	1通	八月廿七日	頼餘一	吉川武助様	14.4×21.0	諸口紙		封上書「吉川武助様 頼餘一 内用貴答」	III-243-42
1560	〔届出控〕(私義風邪難儀ニ付従今日得出勤仕不申候)	状	1通	四月十六日	頼餘一	小幡孫兵衛様	14.5×28.6	諸口紙		封上書「小幡孫兵衛様 頼餘一」	III-243-45
1561	〔案内控〕(来ル五日梅廳院様御法事御執行ニ付)	状	1通	(弘化2年)十二月	頼餘一内 恵村庄六	御支配人中様	14.4×21.3	諸口紙		封上書「御支配人中様 頼餘一内 恵村庄六」	III-243-46
1562	〔書付〕(御手本書認差出可申旨, 奉畏候)	状	1通	六月廿六日	頼餘一	村上藤馬様	14.6×35.2	諸口紙		封上書「村上藤馬様 頼餘一 差向御答」, 添状(14.6×11.5, 諸口紙)あり	III-243-50
1563	〔伺書〕(御手本紙餘り候ニ付, 御様子奉伺候)	状	1通	六月六日	頼餘一	西川牧太様	14.3×51.5	諸口紙		封上書「西川牧太様 頼餘一」, 変色甚	III-244-1
1564	口上之覚(亡父弥太郎輯録書物等, 取揃差出申度旨伺書控)	状	1通	壬午四月(文政5年)	頼餘一	西川牧太様, 堀田外記様, 井伊玄蕃様	14.4×56.0	諸口紙		端裏貼紙「頼餘一」	III-244-4

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1565	〔廻達控〕(明後八日夜御用談集会を来ル廿三日に延引仕候事)	状	1通	二月六日	頼餘一	奥 弥 三 兵 衛 様, 飯 田 団 五 郎 様, 多 田 彦 大 夫 様, 井 上 権 之 丞 様, 加 藤 太 郎 三 様, 野 村 丹 宮 様	14.3×69.2	諸口紙		封上書「奥弥三兵衛様 飯田団五郎様 多田彦大夫様 井上権之丞様 加藤太郎三様 野村丹宮様 頼餘一」	III-244-8
1566	〔書付〕(句読師へ詩草稿御催促被下候様奉願候)	状	1通	六月六日	頼餘一	堀謙之介様, 堀小一郎様	14.4×45.8	諸口紙		封上書「堀謙之介様, 堀小一郎様 頼餘一 差向義」	III-244-10
1567	〔伺書〕(御建米御渡り日ニ付御伺い)	状	1通	十一月十九日	頼餘一／中嶋盛登	中嶋盛登様／頼餘一様	14.4×41.7	諸口紙		封上書「中嶋成登様 頼餘一 要用差向義」, 「下」「上」「様」書入れ, 付紙(13.9×22.8, 色諸口紙)にて, 十一月十九日付の返答が貼付される	III-244-11
1568	〔書付〕(私祖母ヲ母と称し, 書認申候事ニ付)	状	1通	十一月廿四日	頼餘一	坂井百太郎様／頼餘一様	14.3×169.9	諸口紙		封上書「坂井百太郎様 頼餘一 要用差向義」, 「様」書入れ, 返答書入れあり	III-244-12
1569	名字説(吉川於菟次郎命名ニ付)	状	1通	文政五年壬午春二月五日	頼協撰		14.2×50.7	諸口紙		杏坪批正(朱)	III-244-14
1570	〔覚書〕(世子実名案下書)	折紙	1通	江戸後期	元協, 春嶂(頼聿庵)		15.8×45.0	杉原紙		余白に七言詩の一部の書きこみあり	III-244-15
1571	〔書付〕(来ル廿六日御稽古始差問ニ付, 日取り変更の事)	状	1通	正月廿四日	頼餘一	堀尾精一郎様	14.2×44.9	諸口紙		封上書「堀尾精一郎様 頼餘一 要用御答」	III-244-16
1572	〔伺書〕(夜半登城の節, 仕きたりニ付御伺い)	状	1通	六月廿七日	頼餘一／藤卷善三太	藤卷善三太様／頼餘一様	14.2×62.2	諸口紙		封上書「藤卷善三太様 頼餘一 差向義」, 「下ニ」「上ニ」「様」「御答」書入れ, 返答書入れ(半紙付紙4枚付属)あり	III-244-17
1573	〔届出控〕(私母方叔父御園文英死去ニ付忌中届)	状	1通	七月八日	頼餘一	山田隼之助様, 今中権六様, 小幡孫兵衛様, 石井他人弥様	14.4×24.8	諸口紙		封上書「山田隼之助様 今中権六様 小幡孫兵衛様 石井他人弥様 頼餘一」	III-244-19
1574	〔届出控〕(詩稿渡し度ニ付, 宜敷御取計可被下候)	状	1通	三月八日	頼餘一	学問所同勤中様／頼餘一様	14.2×44.4	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 「下」「上」「様」書入れ, 朱筆で返答書入れあり	III-244-20
1575	〔伺書〕(飯用米ニ付, 御貯之内六俵相叶申間敷候哉)	状	1通	九月廿八日当賀	頼餘一	進藤作左衛門様	14.4×45.3	諸口紙		封上書「進藤作左衛門 頼餘一 要用書御直披」	III-244-22
1576	〔書付〕(先刻為持差出し申候書付ニ付)	状	1通	九月十四日	頼餘一	大嶋直衛様	14.6×39.6	諸口紙		封上書「大嶋直衛様 頼餘一」, 水損大	III-244-26
1577	〔願書包紙〕	状	1通	江戸後期	頼餘一		24.1×16.8	半紙		封上書「願書 頼餘一」	III-244-27
1578	〔廻達〕(来ル十九日夜御用談集会私宅江御引受候事)	状	1通	十月九日	頼餘一	各様(久保田清兵衛様ほか9名)	14.2×86.6	諸口紙		封上書「各様 頼餘一 御廻達物」, 包紙(24.2×16.8, 半紙)貼継	III-244-28
1579	口上之覚(亡父弥太郎廃息久太郎儀病死仕候趣届案文)	状	1通	(天保4年カ)	(頼聿庵)		13.9×53.2	色諸口紙		端裏書「京御凶変申来候節, 届案文」	III-248-12
1580	覚(私儀, 於京都頼久太郎墓参仕度儀ニ付)	状	1通	(天保4年)	(頼聿庵)		13.9×43.0	色諸口紙		端裏書「草稿」	III-248-13
1581	覚(私実父久太郎実子私方へ引取儒学修行仕七度候事)	状	1通	(天保4年)	(頼聿庵)		13.9×52.5	色諸口紙		端裏書「案文」	III-248-14

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1582	覚(銀札四拾貫目御取替, 用金之内三拾兩預り置可被下候)	状	1通	弘化丙午九月四日(弘化3年)	頼餘一	木坂文左衛門殿	28.6×45.0	諸口紙		黒文円印1顆, 校訂(墨), 包紙(24.2×17.0, 半紙)「證紙 頼」, 裏書「書面付」貼継	III-250-3
1583	〔伺書〕(腹痛難儀に付, 御聴講之節出勤御断奉申上度案文)	状	1通	六月廿六日	(頼事庵)		14.5×29.9	諸口紙		校訂(墨)	III-250-10
1584	〔書付〕(明朝当講下見, お仕度二付)	状	1通	十月六日	頼餘一	学問所同勤中様／頼餘一様	14.5×41.3	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 宛名に敬称を書き足し, 返答も書入れ	III-250-11
1585	〔伺書〕(届ハ相済申候ヤ, 急キ御尋申上候)	状	1通	十月八日	頼(事庵)／小河内	小河内様／頼様	14.4×21.2	諸口紙		封上書「小河内様 頼 急キ」「御請」「下」「上」「様」書入れ, 返答書入れあり, 「御葬式明九日夜八ツ時ト福寿院ヲ申越シ」とあり	III-250-14
1586	〔書付〕(明朝月次講, 先生当講二付)	状	1通	十一月十九日	頼餘一／金子徳之助	金子徳之助様／頼餘一様	14.3×33.3	諸口紙		封上書「金子徳之助様 頼餘一 要用侍史」, 「下」「中」「上」書入れ, 返答書入れあり	III-250-15
1587	〔伺書〕(同姓佐一郎, 普請奉行拝命之御礼錢二付伺い)	状	1通	(弘化2年)二月二日	頼餘一／岡田直之助	岡田直之助様／頼餘一様	14.5×45.8	諸口紙		封上書「岡田直之助様 頼餘一 要用書」, 「下」「様」書入れ, 付札(12.1×27.7, 色半紙, 剥離)「差上物も相済(中略), 御普請奉行中ノ之達, 御間違ニハ無御座候哉」	III-250-16
1588	〔届出控〕(私義胸痛難儀ニ付, 従今日出勤仕不申候事)	状	1通	十一月九日	頼餘一	梶山角右衛門, 谷崎平司様, 吉村孫三郎様, 黒田図書様, 吉田織右衛門様, 杉田直馬様	14.1×37.7	諸口紙		封上書「梶山角右衛門様 谷崎平司様 吉村孫三郎様 黒田図書様 吉田織右衛門様 杉田直馬様 頼餘一」	III-250-17
1589	〔届出控〕(私義今夕進講被仰出候二付)	状	1通	九月六日	頼餘一	学問所同勤中様	14.2×34.5	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」, 裏書「十一日早出」	III-250-18
1590	〔届出控〕(私義今朝不得止儀ニ付出勤得仕不申候事)	状	1通	二月十二日	頼餘一	学問所同勤中様	14.5×36.2	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」	III-250-19
1591	〔届出控〕(私義今朝差掛無扨儀にて外出二付)	状	1通	五月十一日	頼餘一	学問所同勤中様	14.3×26.9	諸口紙		封上書「学問所同勤中様 頼餘一」	III-250-20
1592	〔届出控〕(今日ハ無扨儀ニ付得御供仕不申事)	状	1通	三月廿六日	頼(事庵)	小谷様	12.0×42.0	半紙		封上書「小谷様 頼 差向義」	III-250-23
1593	口上之覚(詩歌添削丈ニ延引ニ付差控伺書控)	状	1通	十月九日	頼餘一		14.4×53.6	諸口紙			III-250-26
1594	〔覚書〕(学問所講義担当表)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.5×60.0	楮紙		校訂(墨), 注記(付紙に墨)	III-250-27
1595	口上之覚(私甥三千三儀江戸学事入用銀二付伺書)	状	1通	(天保13年カ)十一月十一日	頼餘一		14.0×77.0	諸口紙		端裏貼紙「頼餘一」, 付札(14.0×8.5, 色諸口紙)「頼餘一 此儀不容易儀ニ付難申談書付令返戻候」	III-250-28
1596	口上之覚(松平若狭守様御家中, 戸祭弥八郎義帰国届控)	状	1通	四月九日	頼餘一		14.1×20.9	諸口紙			III-250-30
1597	口上之覚(私義足痛難儀ニ而石風呂入治休暇願ひ書)	状	1通	六月七日	頼餘一		14.5×27.1	諸口紙		端裏貼紙「頼餘一」	III-250-31
1598	〔達書〕(足痛療治二付廿日之間御暇被下候事)	状	1通	五月廿四日	井伊玄蕃, 岡野弥右衛門	頼餘一殿	14.0×58.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 井伊玄蕃 岡野弥右衛門」, 端裏書「五月廿四日下ル」	III-250-32

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1599	[書付](世子被仰付御用にて、御蔵書ニ付問合せ)	状	1通	十二日	頼餘一	頼東三郎殿	14.7×46.0	諸口紙		封上書「於世子様 頼東三郎殿 頼餘一 大急キ」、校訂(墨)	III-250-33
1600	[達書](着服之儀、供連人数ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.0×132.8	色諸口紙			III-251-1
1601	[書付](金子先生より詩題之義申来候ニ付)	状	1通	九月廿七日	餘一	東三郎殿(誠軒)	14.2×34.2	諸口紙		封上書「東三郎殿 餘一 急キ」	III-251-3
1602	[届出控](美濃様御死去ニ付御梅罷出候処、私義奥詰被仰付候ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×46.3	諸口紙			III-251-4
1603	[届出控](私義、差合中ニ付今日御城へ得罷出不申候事)	状	1通	八月朔日	(頼事庵)		14.1×32.0	諸口紙		右上部大きく欠損	III-251-5
1604	口上(弥太郎風気難義ニ付、御来駕今少し御延引願)	状	1通	二月十日	頼餘一	井上権直様	12.0×7.7	半紙		校訂(墨)	III-251-18
1605	[覚書](天保五年甲午二年十月七日登城ほか諸事書付)	状	1通	(天保5年2月)	(頼事庵)		15.5×34.7	三桎紙			III-290-73
1606	[覚書](徳字通り字冠字ニ用度事ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.5×18.3	諸口紙			III-290-105
1607	[覚書](講義分担控)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.5×13.9	杉原紙		校訂(墨)	III-290-122
1608	口上之覚(築山文輔事、句読師加り願書控)	状	1通	三月	築山左大夫		14.0×36.8	色諸口紙			III-292-1-1
1609	口上之覚(築山文輔事、別紙之趣ニ付、同意書控)	状	1通	三月	金子徳之助、梅園勝馬、頼餘一		13.9×22.5	色諸口紙			III-292-1-2
1610	口上之覚(築山文輔事、別紙之趣ニ付、同意書控)	状	1通	三月	金子徳之助、梅園勝馬、頼餘一、植田精一郎、加藤太郎三		14.0×27.5	色諸口紙			III-292-1-3
1611	[届出控](定之丞様 水主町屋敷へ御出ニ付、私義出勤の事)	状	1通	四月十五日	(頼事庵)		14.3×25.7	諸口紙			III-292-3
1612	[廻達](来ル十九日御用談集会私宅へ御引受ニ付)	状	1通	正月九日	頼餘一	今中清十郎様ほか15名	14.3×93.5	諸口紙			III-292-5
1613	[書付](八日御進講二篇に付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×55.6	半紙			III-292-6
1614	[請書控](明十一日近思録講釈之趣奉畏候)	状	1通	二月十日	(頼事庵)		14.2×36.3	諸口紙			III-292-9
1615	口上之覚(亡き父三回忌同姓徳太郎今日出立の儀、伺書下書)	状	1通	(文政元年)三月七日	頼餘一		14.2×18.7	諸口紙		端裏書(頼杏坪筆)『此通りにて可然候』、訂正(朱)	III-292-15
1616	[達書写](私屋敷屋敷替につき)	状	1通	(文化14年)九月十五日			14.4×29.7	諸口紙		III-157-1-2「包紙」と関連、「□□□半外」「築山嘉平様 青木弥大夫様」「加藤 金子 梅園 植田正次郎 江田佐十郎」「南翁家」「口上」の記載、習書あり	III-294-12

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1617	〔書付〕(十四日朝の御進講ニ付, 御様子承知仕度存候)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×55.0	諸口紙			III-294-24-1
1618	〔書付〕(十四日朝の御進講ニ付, 御様子承知仕度存候)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×41.8	諸口紙		校訂(墨)	III-294-24-2
1619	〔書付〕(十四日朝の御進講ニ付, 御様子承知仕度存候)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×37.1	諸口紙		校訂(墨)	III-294-24-3
1620	〔書付〕(追而三千三様御出物, 頭瘡ハ如何候哉)	状	1通	十月四日		(頼事庵)	11.6×33.1	色半紙		前後欠	III-294-26
1621	〔伺書下書〕(書中之趣ニ付, 御廻し日数承り度候事)	状	1通	正月十二日	(頼事庵)		14.5×40.9	諸口紙		校訂(墨)	III-294-28
1622	〔案内下書〕(孫左衛門様御義, 大炊様御同道にて登城之事)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.2×32.2	諸口紙			III-294-29
1623	〔伺書下書〕(明十九日定之丞様御清書被口候ニ付出勤仕司申候哉)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×48.1	諸口紙			III-294-30
1624	〔届出下書〕(私義胸痛難義ニ付得登城仕不申候)	状	1通	五月四日	(頼事庵)		14.5×31.0	諸口紙			III-294-31
1625	〔包紙〕	状	1通	嘉永三年庚戌三月	餘一謹封		25.0×34.4	半紙		表書「東三郎江此度代替被仰付候知行高百三拾石并ニ学事出精候様被仰出候御書付尋入」, 同・裏「嘉永三年庚戌三月 餘一謹封」	III-299-137
1626	〔達書〕(御請疏清書へ御官位相認候儀ニ付)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿四日	吉村孫三郎, 関尚之丞	頼餘一様殿	13.8×40.4	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 吉村孫三郎 関尚之丞」	III-299-151
1627	〔達書〕(御請疏下書を披見, 此通リ早々清書之事)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿四日		頼餘一	14.0×46.5	色諸口紙		端裏書「頼餘一」	III-299-152
1628	〔書付〕(御請疏御仕立方, 浄書之義ニ付)	状	1通	(嘉永5年)閏二月廿三日	北川助六	頼餘一様	14.0×46.2	色諸口紙		端裏書「頼餘一様 北川助六」	III-299-153
1629	〔頼誠軒統書書試〕	状	1通	江戸後期	隠居翁記(事庵)		12.5×164.2	諸口紙		端裏書「統書書試 隠居翁記」, 上部切取り	III-299-154
1630	〔書付〕(又五郎様, 文事ハはかばか敷なき事)	状	1通	四月廿五日	□次郎	先生上(頼事庵)	14.2×115.0	諸口紙		端裏書(頼事庵筆)「御用状 江戸返事六月五日出候」	III-317-2
1631	〔書付〕明六日浅稽古被致度ニ付, 御出可被下候)	状	1通	十一月五日	堀尾精一郎	頼餘一様(事庵)	14.2×41.9	諸口紙		封上書「頼餘一様 堀尾精一郎」	III-317-18
1632	〔書付〕(風邪ニ付, 今晚御用談集会御断申上候事)	状	1通	正月十九日	寺川九十九	頼餘一様(事庵)	14.2×26.0	諸口紙		封上書「頼先生 寺川九十九 要用書不及御答」	III-317-21
1633	〔書付〕(指札紙之分相調居申候ハ, 此人へ御渡しの事)	状	1通	三月七日	木村左馬介	頼餘一様(事庵)	14.0×24.8	諸口紙		封上書「頼餘一様 木村左馬介 申上」	III-317-23
1634	〔案内〕(私儀海陸無滞口前帰着ニ付口上)	状	1通	十七日	竹村亀之進	頼餘一様	14.3×15.3	諸口紙		封上書「頼餘一様 竹村亀之進」	III-317-25
1635	〔案内〕(私義, 御加増拝領ニ付口上)	状	1通	正月十五日	佐々和喜登	頼餘一様	14.4×15.0	諸口紙		封上書「頼餘一様 佐々和喜登」	III-317-27
1636	〔案内〕私義, 益衛と改名仕候ニ付口上)	状	1通	十二月七日	中村益衛	頼餘一様	14.5×15.3	諸口紙		封上書「頼餘一様 永之丞事 中村益衛」	III-317-28

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1637	〔案内〕(御用人並被仰付, 御加増拝領ニ付口上)	状	1通	五月廿四日	松浦貞五郎	頼餘一様	14.5×22.7	諸口紙		封上書「頼餘一様 松浦貞五郎」	III-317-29
1638	〔書付〕(今晚御用談集会, 腹合悪しく, 御断申上候事)	状	1通	正月十九日	筒井数見	頼餘一様	14.6×24.4	諸口紙		封上書「頼餘一様 筒井数見 差向儀」	III-317-32
1639	〔書付〕(此間被仰聞候, 檀紙・諸紙ニ付)	状	1通	十月六日	串田 又三	頼餘一様	14.1×34.8	色諸口紙		封上書「頼餘一様 串田又三」	III-317-33
1640	〔書簡〕(御有米之義ニ付)	状	1通	十月十六日	岡田直之助	頼餘一様	13.7×33.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 岡田直之助 為御答」	III-317-34
1641	〔達書〕(定之丞殿御手習御初メニ付, 御出勤の事)	状	1通	四月十二日	永原玄右衛門, 坂本半助, 渋江舎人, 藤井左門太	頼餘一様	14.0×45.3	色諸口紙		封上書「頼餘一様 永原玄右衛門 坂本半助 渋江舎人 藤井左門太」, 端裏書「天保癸卯四月十四日定之丞殿御稽古始達」	III-317-35
1642	覚(金三拾兩, 御改之上御落掌可被下候)	状	1通	七月十六日	孝拝	聿庵大先生	15.5×22.1	楮紙			III-317-38
1643	〔御材木場領収書〕	状	1通	二月七日	御材木場	頼餘一殿	11.7×25.5	色半紙		黒文円印「材木場」1顆, 黒文長方印「鐵符」2顆, 朱文長方印「用口」2顆	III-317-39
1644	〔書付〕(江戸藩邸の様子ほか)	状	1通	八月廿八日 当賀		聿庵先生	13.7×73.6	色諸口紙		封上書「聿庵先生」	III-317-55
1645	〔書付〕(筆づくり職人推薦状下書)	状	1通		(頼聿庵)		14.4×60.9	諸口紙		封上書「御内談申上候覚」, 校訂(朱)	III-325-63
1646	〔書付〕(八嶋御先約有之ニ付御延引仕度候事)	状	1通	五月廿六日	頼(聿庵カ)	八嶋様, 植木様	14.3×37.1	諸口紙		封上書「八嶋様 植木様 頼 差向儀」, 宛名に合点を付し「様」を墨抹, 裏面に朱筆書入あり	III-378-4
1647	〔案内文控〕(来ル十六七八日之内, 一夕御来訪御考合奉希候事)	状	1通	二月三日認	頼餘一	長谷川半外様ほか4名	12.1×20.5	半紙		封上書「久野喜太郎様 頼餘一」	III-378-17
1648	乍恐御願申上口上覚(従弟千蔵儀江戸表へ差遣度申上ル書付控)	状	1通	文化六年巳正月	医師千齡(頼春風)	年寄庄屋 半三郎殿, 庄屋勘兵衛殿, 町組頭 五作殿, 同 小兵衛殿	23.4×31.3	半紙			III-181-8
1649	覚(頼千齡竹原へ滞留中死去仕候旨申上候)	状	1通	(文政8年)九月十三日	山田好謙		14.0×26.3	諸口紙		校訂(墨)	III-370-20-1
1650	〔書付〕(頼千齡死去之服忌之儀ニ付)	状	1通	(文政8年9月)	(頼杏坪カ)		14.5×10.4	諸口紙			III-370-20-2
1651	〔達書〕(頼千齡之儀, 詩文添作仕候様被仰付候事)	状	1通	江戸後期		頼千齡	12.0×29.0	色半紙			III-370-21
1652	態申遺ス(頼千齡儀, 御医師格・餘一後見取立被仰付候事)	状	1通	(文化13年)子四月十七日	西山造酒, 多田外之助	頼千齡	13.4×131.2	色諸口紙		口達の前に「不用分」として別状貼継	III-370-22
	杏翁意見									紙袋(27.2×20.6)付属, 紙袋(頼古楳筆)「杏翁意見」, 紙縫にて一括した紙片6枚(28.9×4.1, 色諸口紙, 黒文方印「惟柔」1顆)と紙片8枚(同, 紙縫による綴じ穴あり)付属, 紙片14枚を紙紐にて一括	I-156

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1653	1)〔頼杏坪履歴〕(天明5年～文政7年)	状	1通	文政7年甲申七月	頼杏坪		13.9×96.1	諸口紙	1	I-156-1-1～13まで貼継, 端裏書「文政七年甲申七月しらへ 寺西直人所望二付, 同人へ壺通写し遣置 山本嘉内ら噂有之由直人申聞」, 校訂(墨), 奥に「天明五年從被召出当文政七年迄四十年」の記載あり	I-156-1-1
1653	2)〔達書〕(三次・恵蘇郡役人共へ申渡す口達)	状	1通	癸酉(文化10年)十一月	頼万四郎	両郡割庄屋, 庄屋, 与頭共	14.5×250.0	色諸口紙	1	端裏書「癸酉十一月十一日於三次役人共へ申聞候口達之控」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.1)	I-156-1-2
1653	3)〔村方成立の見込存寄を求める達〕	状	1通	癸酉(文化10年)閏霜月	両名	両郡割庄屋, 庄屋, 与頭共	13.9×56.8	色諸口紙	1	端裏書「此通り割庄屋共へ申遣度候事」, 校訂(墨, 付紙〔色諸口紙〕に墨), 注記(付紙〔色諸口紙〕に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.2)	I-156-1-3
1653	4)〔達書〕(勤向につき手附共へ申渡す口達)	状	1通	癸酉(文化10年)極月	(頼杏坪)		14.1×35.5	色諸口紙	1	端裏書「二 手附へ申渡口達」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.3)	I-156-1-4
1653	5)〔村方役人選につき割庄屋へ申付る覚〕	状	1通	(文政9年)	(頼杏坪)		13.9×80.1	色諸口紙	1	端裏書「割庄屋共斗へ申付候事」, 校訂(墨, 付紙〔色諸口紙・色半紙〕に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.14)	I-156-1-5
1653	6)〔新組足軽徒党一件につき裁き方言上〕	状	1通	正月	(頼杏坪)		14.0×199.4	色諸口紙	1	端裏書「新組足軽之事」, 校訂(墨), 注記(付紙〔色半紙〕に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.26)	I-156-1-6
1653	7)〔鰥寡孤独救方につき申上る書付〕	状	1通	戊寅(文政元年)正月	(頼杏坪)		14.3×166.3	諸口紙	1	端裏書「鰥寡孤独書付」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.9)	I-156-1-7
1653	8)内々申遣候覚(俚約之事)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.0×61.9	色諸口紙	1	端裏書「俚約之事」, 校訂(墨)	I-156-1-8
1653	9)〔紙漉村々成立のため申上る書付〕	状	1通	(文政9年頃)	(頼杏坪)		14.1×40.5	諸口紙	1	端裏書「紙之事」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.15)	I-156-1-9
1653	10)〔梶山六一御歩行組御取立願〕	状	1通	丁丑(文化14年)十一月	(頼春水, 杏坪)		14.3×178.2	諸口紙	1	端裏書「文化丁丑出スひかへ 君修之事」, 校訂(墨), III-115-17-1の草稿, 頼古樸の付紙(14.3×3.5)「此の梶山六一申出の文へ春水翁の記草且つ自書なるも次きの杏坪翁の文書に連繋あるを以て暫く此処に入る 元緒識」, 頼春水は文化13年丙子2月19日没	I-156-1-10
1653	11)〔梶山六一御歩行組御取立願〕	状	1通	己卯(文政2年)十月	頼万四郎, 頼餘一		14.0×131.0	諸口紙	1	端裏書「文政二 君修事 頼万四郎 頼餘一」, 同『文化己卯十月出此分ひかへ』, 校訂(墨・朱)	I-156-1-11
1653	12)口演之覚(浪人中村左門の水軍師御取立願)	状	1通	癸未(文政6年)三月	頼万四郎		14.4×91.7	諸口紙	1	端裏書「書試 頼万四郎」, 校訂(墨), 中村左門について, 「長州御家中 末武源三郎弟」「森重流と申水軍法, 年来修鍊仕居申」との記載あり	I-156-1-12
1653	13)中津領之事(備後国中津領の郡代官の動向につき)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		13.6×30.2	色諸口紙	1	端裏書「中津領之事」, 校訂(墨)	I-156-1-13
1654	1)〔三上郡本村上組庄屋佐三次答書写〕	状	1通	文化十二年亥三月	(頼杏坪)		11.9×29.9	色半紙	1	I-156-2-1～5まで貼継, 答書に中略を含む	I-156-2-1
1654	2)〔寛右衛門不正銀代官所へ預り申度願書〕	状	1通	癸酉(文化10年)十二月	頼万四郎, 一場武助		13.9×77.1	色諸口紙	1	端裏書「此分浄写十二月十四日寺西へ出ス 寛右衛門不正銀代官所へ預り申度之事」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.4)	I-156-2-2
1654	3)〔寛右衛門差上銀難渋者へ仕向方願書〕	状	1通	癸酉(文化10年)十二月	頼万四郎, 一場武助		13.9×134.0	色諸口紙	1	端裏書「頼万四郎 一場武助」, 注記(付紙〔色諸口紙〕に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.5)	I-156-2-3
1654	4)〔寛右衛門咎め片付方につき存寄書試〕	状	1通	(文化10年カ)	万四郎		13.8×66.1	色諸口紙	1	端裏書「書試 万四郎」, 校訂(墨, 付紙〔色諸口紙〕に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.6)	I-156-2-4
1654	5)申上覚(秋刑之事)	状	1通	丁亥(文政10年)七月	頼万四郎		15.0×128.2	三桎紙	1	端裏書「秋刑之事」, 校訂(墨), 注記(朱, 付紙〔三桎紙〕に墨), I-156-22の草稿	I-156-2-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1655	覚(板倉銀右衛門差出しの鉄山につき書試)	状	1通	亥(文政10年)十一月	(頼杏坪)		12.0×49.1	色半紙	1	I-156-3-1～9まで一括, I-156-3-1は貼継されず(糊離れカ), 端裏書「書試 浄書之事」, 端裏付紙(色半紙)「亥十一月十日達控済」, 校訂(墨・朱), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.20)	I-156-3-1
1655	1) [三次町麻・烟草入札払一件につき書試(初稿)]	状	1通	(文政11年)	(頼杏坪)		14.2×85.6	色諸口紙	1	I-156-3-2～9まで貼継, 端裏書「初稿 書試」, 校訂(墨), 注記(付紙[色諸口紙]に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.24[1])	I-156-3-2
1655	2) [三次町麻・烟草入札払一件につき書試(二稿)]	状	1通	(文政11年)五月九日	(頼杏坪)		14.3×25.7	色諸口紙	1	端裏書「二稿 執政へ書試」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.24[2])	I-156-3-3
1655	3) [三次町麻・烟草入札払一件につき書試]	状	1通	(文政11年)五月九日	(頼杏坪)		14.2×61.7	色諸口紙	1	端裏書「郡奉行へ書試」, 校訂(墨)	I-156-3-4
1655	4) [三次町麻・烟草入札払一件につき書試]	状	1通	(文政11年)	(頼杏坪)		14.2×83.8	色諸口紙	1	校訂(墨), 紙背墨書「此方か」	I-156-3-5
1655	5) [三次町麻・烟草入札払一件につき書試]	状	1通	(文政11年)	(頼杏坪)		14.2×60.4	色諸口紙	1	校訂(墨)	I-156-3-6
1655	6) [三上郡銅山入用につき申上る書付]	状	1通	丁亥(文政10年)八月	(頼杏坪)		13.6×294.3	色諸口紙	1	端裏書「三上郡銅山入用之事 御勘定奉行江駈合 第三 頭書御答」, 校訂(朱・墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.18[1])	I-156-3-7
1655	7) [三上郡銅山入用につき申上る書付]	状	1通	(文政10年)	(頼杏坪)		13.7×52.4	色諸口紙	1	端裏書「三上郡銅山入用郡割之事 添書之試」, 校訂(墨・朱, 付紙[色半紙]に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.18[2])	I-156-3-8
1655	8) [三上郡銅山入用につき申上る書付]	状	1通	(文政10年)	(頼杏坪)		13.6×231.7	色諸口紙	1	端裏書「銅山入用郡割入之儀ニ付再達書試 此分ハ不出」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.18[3])	I-156-3-9
1656	1) [奴可・三上郡難渋の模様申上る書付]	状	1通	(文政2年頃)	(頼杏坪)		11.5×177.5	色半紙	1	I-156-4-1～6まで貼継, 端裏書「奴可難渋申上初稿」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.11)	I-156-4-1
1656	2) [三次・恵蘇郡救方につき申上る覚]	状	1通	(文化10年)閏十一月	頼万四郎, 一場武助		14.2×281.5	色諸口紙	1	端裏書「三次 恵蘇郡難渋救方愚考書試」, 校訂(墨), 注記(付紙[色諸口紙・色半紙]に墨), I-156-4-3の草稿	I-156-4-2
1656	3) 覚(三次・恵蘇郡救方につき申上る覚)	状	1通	甲戌(文化11年)正月	頼万四郎, 一場武助		14.0×321.3	色諸口紙	1	端裏書「三次 恵蘇郡地合救方愚考」, 校訂(色半紙に墨, 色諸口紙・色半紙貼付により文字抹消), 注記(墨, 付紙[色諸口紙・色半紙]に墨), 「閏霜」月を見消で「甲戌正」月に訂正, 付紙に糊離れあり, 虫損が多い箇所を紙背より色半紙で補強, 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.7)	I-156-4-3
1656	4) 奉言上覚(奥郡繁栄の愚案言上の覚)	状	1通	己丑(文政12)十月	(頼杏坪)		14.0×123.0	諸口紙	1	端裏書「己丑十月言上草稿」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.25)	I-156-4-4
1656	5) 覚(鉄山の代官所請を願う書試)	状	1通	(文政10年カ)	(頼杏坪)		13.5×122.0	色諸口紙	1	端裏書「書試」, 校訂(墨), 注記(付紙[楮紙・色諸口紙]に墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.21)	I-156-4-5
1656	6) 内密口演之覚(奴可・三上郡難渋救方につき内密書付)	状	1通	(文政2～3年頃)六月十七日	(頼杏坪)		14.1×82.9	諸口紙	1	端裏書「六月十七日山田へむけ出す書付 名」, 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.12)	I-156-4-6
1657	1) [達書](国郡志方専相勤候事)	状	1通	(文政3年)		頼万四郎	14.2×54.4	色諸口紙	1	I-156-5-1～10まで貼継, 端裏書「国郡志方専相勤候事」	I-156-5-1
1657	2) [小泉仙蔵・高橋彦太郎につき推薦状]	状	1通	丁亥(文政10年)二月	頼万四郎		12.0×39.2	色半紙	1	校訂(墨), 小泉仙蔵・高橋彦太郎につき, 「御勘定所支配足軽御雇・国郡志方出勤」「図画功者」との記載あり	I-156-5-2
1657	3) [小泉仙蔵・高橋彦太郎につき推薦状草案]	状	1通	(文政10年)	(頼杏坪)		11.9×54.2	色半紙	1	端裏書「高橋 小泉之事 草案」, 校訂(墨), 正岡源之助・小泉仙蔵・高橋彦太郎・山田清兵衛・藤井甲三郎につき, 文政五年八月～同八年極月までの召抱え記録あり	I-156-5-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1657	4) 口演之覚(芸藩通志写取につき口演の覚)	状	1通	(文政10年)八月	(頼杏坪)		12.0×41.5	色半紙	1	端裏書「此儀西山へ相談之上出し可申事 通志写し之事」,校訂(墨), I-156-5-5の草稿,「当時手明キニ而在宿罷在候」者として,「御勘定所支配足軽藤井甲三郎,同御雇小泉仙蔵,同高橋彦太郎」の記載あり	I-156-5-4
1657	5) 口演之覚(芸藩通志写取につき口演の覚)	状	1通	丁亥(文政10年)九月	(頼杏坪)		11.7×62.1	色半紙	1	端裏書「藩志之事 ひかへ 頼万四郎」,校訂(墨),『広島県史 近世資料編VI』所収(No.19)	I-156-5-5
1657	6) 口演之覚(芸藩通志のうち厳嶋志につき口演の覚)	状	1通	戊子(文政11年)四月	頼万四郎		14.7×51.6	諸口紙	1	端裏書「頼万四郎」,付紙(12.4×22.5,色半紙,四月四日付)あり,付紙端裏書「山下十右衛門様 頼万四郎」,付紙下部破損大,『広島県史 近世資料編VI』所収(No.23)	I-156-5-6
1657	7) [達書](芸藩通志清書御覧につき)	状	1通	(文政12年)		頼万四郎	14.4×27.2	諸口紙	1	端裏書「口達」,同(頼杏坪筆)「文政己丑三月十五日於御城御時服〔御羽織御替紋,御小袖御定紋〕拝領」	I-156-5-7
1657	8) 覚(芸備孝義伝の摺立売り広め願書)	状	1通	卯(文政2年)九月	世並屋伊兵衛	年寄栗田屋伝右衛門殿	14.0×50.7	色諸口紙	1	端裏書「写し」,『広島県史 近世資料編VI』所収(No.10〔参考1〕)	I-156-5-8
1657	9) [書付](芸備孝義伝の売り広め許可につき)	状	1通	(文政2年)九月十九日	植木直太夫	頼万四郎様	14.0×141.6	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎様 植木直太夫」,『広島県史 近世資料編VI』所収(No.10〔参考2〕)	I-156-5-9
1657	10) [芸備孝義伝の摺立売り広め願書]	状	1通	戊寅(文政元年)四月	(頼杏坪)		13.9×110.4	色諸口紙	1	端裏書「孝義傳之事控」,同「板木取よせ」,校訂(墨),注記(付紙に墨),『広島県史 近世資料編VI』所収(No.10)	I-156-5-10
1658	1) [書付](帝釈峽・神の橋へ御碑文御下げの儀につき取成願)	状	1通	二月廿四日	西城町 林右衛門	倉田栄蔵様	14.3×83.2	諸口紙	1	I-156-6-1～12まで貼継,端裏書「帝釈 神の橋へ御碑文御下ヶ之義 西城 林右衛門来書」	I-156-6-1
1658	2) 覚(帝釈峽・神の橋での石碑建立許可につき)	状	1通	三月十日	頼万四郎, 諏訪民次郎		11.5×37.8	色半紙	1	端裏書「此分ひかへ 頼万四郎 諏訪民次郎」,「近年万四郎儀,廻村之序ニ同所ニて詩文も仕候所」別紙詩文書試相添,此段申上候との記載あり	I-156-6-2
1658	3) [書付](神皇正統記六冊・国郡志控の未返納の儀につき)	状	1通	十月十二日	植田正次郎, 江田佐十郎, 山田新十郎	頼万四郎様	13.9×38.1	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎様 植田正次郎 江田佐十郎 山田新十郎」	I-156-6-3
1658	4) [書付](奴可郡の儀の御書試につき)	状	1通	七月廿三日	寺西監物	頼万四郎様	13.8×58.7	諸口紙	1	封上書「頼万四郎様 寺西監物 内密方御答御直披」	I-156-6-4
1658	5) 口演(奴可・三上郡手付定当分加へ芥川彦次郎の病気差替につき)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)	御名	14.0×50.2	漉返紙	1	校訂(墨)	I-156-6-5
1658	6) [伺書](疝病につき明石多三郎へ奴可・三上両郡勘定聞届相頼度こと)	状	1通	十月廿一日	頼万四郎		14.4×38.0	諸口紙	1	端裏書「頼万四郎」,付札(14.0×13.9,色諸口紙)「頼万四郎 此儀令承知,明石多三郎へ相達候間,宜御示合可有口候 十月廿二日」	I-156-6-6
1658	7) [達書](沼田郡・豊田郡への石碑建調許可につき)	状	1通	五月廿四日	頼万四郎		13.9×51.6	色諸口紙	1	端裏書「頼万四郎」	I-156-6-7
1658	8) [達書](豊田郡大浜村漂流人の長崎受取につき内々申達)	状	1通	(文化11年)極月廿八日	寺西監物, 龍神甚大夫	頼万四郎様	14.3×38.2	色諸口紙	1	端裏書(頼杏坪筆)「漂民之事」,封上書「頼万四郎様 寺西監物 龍神甚大夫」	I-156-6-8
1658	9) [書付](御省略の儀につき別紙写の通り御年寄中へ御披見,御同勤中へも申談すべきこと)	状	1通	十月廿日	満田九郎左衛門	頼万四郎様, 西山造酒様	11.7×25.0	色半紙	1	封上書「頼万四郎様 西山造酒様 満田九郎左衛門」, I-156-6-11に別紙写あり	I-156-6-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1658	10)〔書付〕(諸事省略〔儉約〕の儀につき)	状	1通	十月廿日	満田九郎左衛門	頼万四郎様、西山造酒様	11.7×65.1	色半紙	1	封上書「頼万四郎様 西山造酒様 満田九郎左衛門」,「別紙満田九郎左衛門追書ニ相見候当郡存旨之廉」につき,賀茂郡の付紙(12.0×30.5,色半紙)あり	I-156-6-10
1658	11)〔達書〕(大坂表の御借銀相嵩み差引難付につき簡易取縮を心掛けるべきこと)	状	1通	十月十七日	満田九郎左衛門		13.6×128.6	色諸口紙	1	端裏付紙「郡御奉行中 満田九郎左衛門 写 別紙之趣御代官江申通方 各々厚可被申談候」,注記(端裏付紙〔色諸口紙〕に墨),「去ル酉年以来格外之御省略被仰出」との記載あり	I-156-6-11
1658	12)御喉達(御省略の儀の書付三通につき口達)	状	1通	十月廿日	西山造酒,頼万四郎	吉田矢柄様,横山仙太夫様,寺西直人様,新保彦兵衛様,奥田外之助様,佐藤源兵衛様,松尾平馬様,植木三蔵様,河原勇次郎様,伊藤郷助様	12.0×41.2	色半紙	1	端裏書「御喉達」,懸点(墨)	I-156-6-12
1659	1)覚(三次・恵蘇郡郡割増減差引書)	状	1通	丁丑(文化14年)七月	(頼杏坪)		13.9×98.1	色諸口紙	1	I-156-7-1~5まで貼継,端裏書「三次 恵蘇郡郡割増減差引書」,注記(付紙〔色諸口紙〕に墨),三次郡について文化八年から同十二年までの郡割入用込と増減差引,恵蘇郡については同十三年までを記載	I-156-7-1
1659	2)覚(恵蘇郡諸入役減米差引書)	状	1通	丁丑(文化14年)七月	(頼杏坪)		13.9×65.0	色諸口紙	1	端裏書「恵蘇郡諸入役減米差引書」,文化十一年から同十三年まで記載	I-156-7-2
1659	3)〔地こぶり・隠田改めの取計方書試〕	状	1通	(文政4年頃)	(頼杏坪)		11.7×144.6	色半紙	1	校訂(墨),『広島県史 近世資料編VI』所収(No.13・16)	I-156-7-3
1659	4)御内々愚意申上頭書(耆郡御年貢濟候ハ、其郡買米差許申度考)	状	1通	十一月	頼万四郎		13.9×121.3	色諸口紙	1	端裏書「耆郡御年貢濟候ハ、其郡買米差許申度考 頼万四郎」,注記(付紙〔色諸口紙〕に墨),返点(墨),送り仮名(墨)	I-156-7-4
1659	5)態与申遣ス(御貸米員数張出し之事)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.0×68.8	色諸口紙	1	端裏書「御貸米員数張出し之事」,校訂(墨)	I-156-7-5
1660	〔十六郡家数古今増減しらへ〕	状	1通	(文政年間)	(頼杏坪)		13.7×104.5	諸口紙	1	端裏書「十六郡家数古今増減しらへ」,注記(朱,付紙に墨),正徳・文政年間の増減調べ,料紙下部水損	I-156-8
1661	〔十六郡家数古今増減〕	状	1通	(文政年間)	(頼杏坪)		14.0×121.0	諸口紙	1	端裏書「十六郡家数古今増減」,注記(朱,付紙に墨),I-156-8と同内容	I-156-9
1662	〔十六郡人数増減寄せ書〕	状	1通	(文政4年以後)	(頼杏坪)		13.8×218.9	諸口紙	1	端裏書「十六郡人数増減寄せ書」,注記(朱),料紙下部水損,紙帯あり	I-156-10
1663	〔十六郡人数増減寄せ書〕	状	1通	(文政4年以後)	(頼杏坪)		14.0×242.9	諸口紙	1	端裏書「十六郡人数増減寄せ書」,同『村々人数増減ハ別ニ帖アリ』,注記(朱),校訂(付紙に朱),I-156-10と同内容	I-156-11
1664	〔覚〕(延宝五年丁巳広島町中人数軒数并寺社御改)	状	1通	文化8~9年	(頼杏坪)		15.8×15.2	杉原紙	1	注記(朱・墨),「延宝五年丁巳」の下に『百三十四五年已前』,享保8年と天明6年の江戸の町数・家数・人数について記載あり	I-156-12
1665	口演之覚(支配郡立直し方につき口演の覚)	状	1通	(文政10年カ)	(頼杏坪)		13.5×80.5	色諸口紙	1	校訂(墨),後欠,I-156-13-2と内容接続(料紙は異なる),『広島県史 近世資料編VI』所収(No.22の前半)	I-156-13-1
1666	〔口演之覚〕	状	1通	(文政10年カ)	(頼杏坪)		11.9×88.0	色半紙	1	校訂(墨),前欠,I-156-13-1と内容接続(料紙は異なる),『広島県史 近世資料編VI』所収(No.22の後半)	I-156-13-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1667	〔奥郡繁榮の愚案言上の覚〕	状	1通	己丑(文政12年)十月	頼万四郎		13.8×59.4	諸口紙	1	前欠, 料紙下部水損, 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.25〔参考1〕)	I-156-14
1668	覚(示教方工者の役人を選び御教導を成し遣わされたきこと)	状	1通	丙子(文化13年)三月	割庄屋奥右衛門	恵蘇郡御番組中様	13.6×80.0	諸口紙	1	黒文円印1顆, 糊離れの付紙(14.3×3.2, 色諸口紙)あり(混入カ, I-156-3-2~6, I-156-16と関連カ), 糊離付紙「且ハ帖元共示諭筋合明日と申聞せ候故, 感服仕候哉, 何れニモ」	I-156-15
1669	〔三次町麻・烟草入札払一件につき書試〕	状	1通	(文政11年)	(頼杏坪)		14.2×24.0	色諸口紙	1	端裏書「御年寄衆へ之書試」, 校訂(墨), I-156-3-3の草稿	I-156-16
1670	〔書付〕(篆額及び三面の碑につき)	状	1通	江戸後期	南		11.8×13.4	色半紙	1		I-156-17
1671	〔達書〕(三次・恵蘇郡役人共へ申聞す口達)	状	1通	癸酉(文化10年)十一月	頼万四郎	両郡割庄屋, 庄屋, 与頭共	14.2×244.7	色諸口紙	1	端裏書「書試 頼万四郎 両郡役人共へ申聞口演之控」, 校訂(墨, 付紙(色諸口紙・諸口紙・色半紙)に墨), 注記(墨), I-156-1-2の草稿, 日付に「十二日於三次町宿所申渡ス」の注記あり, 糊離れの付紙(13.7×5.0, 色諸口紙)あり	I-156-18
1672	〔覚〕(他所富入札払禁止之事)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.5×42.2	色諸口紙	1	端裏書「五 他所富入札払禁止之事」	I-156-19
1673	〔三次・恵蘇郡支配方につき申上る書付〕	状	1通	(文化12年頃)三月四日	頼万四郎	監物様, 甚太夫様	14.1×105.9	色諸口紙	1	封上書「監物様 甚太夫様 内密申上 頼万四郎」, 注記(付紙に墨), 付紙の糊付箇所破損大, 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.8)	I-156-20
1674	〔達書〕(殿様御実名の御一字につき当郡公私往復文言で憚るべきこと)	状	1通	癸酉(文化10年)極月	(頼杏坪)		14.1×26.0	色諸口紙	1	校訂(墨)	I-156-21
1675	申上覚(死刑執行の時節につき申上る覚)	状	1通	丁亥(文政10年)七月	(頼杏坪)		14.6×101.4	諸口紙	1	端裏書「死刑被行候時節之事」, 注記(付紙に墨), 校訂(墨), 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.17)	I-156-22
1676	行刑之事	状	1通	丁亥(文政10年)七月	(頼杏坪)		14.6×89.5	諸口紙	1	返点(墨), 送り仮名(墨), 合符(墨), I-156-22の別紙, 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.17〔別紙〕)	I-156-23
1677	〔建学小書付〕	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.3×49.9	諸口紙	1	端裏書「建学小書付」, 2枚に剥離★	I-156-24
1678	〔差紙〕(御用の儀につき山下十右衛門宅へ参るべきこと)	状	1通	十月廿四日	菅長左衛門, 山下十右衛門	頼万四郎殿, 中嶋六太夫殿	14.2×33.8	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 中嶋六太夫殿 菅長左衛門 山下十右衛門」	I-156-25
1679	〔書付〕(別紙案文につき)	状	1通	菊月廿三日	三郎口	万四郎様	13.9×17.8	色諸口紙	1	端裏書「只今持せ来り候間上申候」, 封上書「万四郎様 三郎口」	I-156-26
1680	〔書付〕(吉川武助が郡御用屋敷へ参る儀につき)	状	1通	七月二日	頼万四郎		14.2×35.0	色諸口紙	1	端裏書「頼万四郎」, I-156-33と関連カ	I-156-27
1681	〔津川元周・山田好謙書簡〕(千齡死去の届出につき)	状	1通	(文政8年)九月十三日	津川元周, 山田好謙	頼万四郎様	14.7×27.5	諸口紙	1	封上書「頼万四郎様 津川元周 山田好謙」	I-156-28
1682	〔達書〕(帝釈町入札払の儀につき)	状	1通	二月廿三日	山下十右衛門, 満田九郎左衛門, 筒井極人		13.9×69.2	色諸口紙	1	端裏書「山下十右衛門 満田九郎左衛門 筒井極人 写」, 『広島県史 近世資料編VI』所収(No.24〔参考〕)	I-156-29
1683	〔達書〕(長崎之事)	状	1通	(文化12年)正月元旦	寺西監物, 龍神甚太夫	頼万四郎様	13.9×44.0	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎様 寺西監物 龍神甚太夫」, 端裏書(頼杏坪筆)「長崎之事」	I-156-30
1684	〔達書〕(長崎行之事)	状	1通	(文化12年)正月七日	寺西監物, 龍神甚太夫	頼万四郎様, 大藤源七郎様, 石原司馬丞様	14.2×183.3	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎様 大藤源七郎様 石原司馬丞様 寺西監物 龍神甚太夫」, 端裏書(頼杏坪筆)「長崎行之事」, 注記(付紙(色諸口紙)に墨〔校訂あり〕), 料紙水損, 破損甚大	I-156-31

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1685	[達書](長崎行之事)	状	1通	(文化12年)正月八日	山本屯, 青木弥太夫, 田上武平次, 築山嘉平, 増田半兵衛, 木村斎	頼万四郎殿	13.6×41.4	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 山本屯 青木弥太夫 田上武平次 築山嘉平 増田半兵衛 木村斎」, 端裏書(頼杏坪筆)「長崎行之事」, 料紙水損大	I-156-32
1686	[廻達](御直御用の儀につき吉川武助と当御用屋敷に出勤のこと)	状	1通	七月二日	頼万四郎		11.9×44.6	色半紙	1	懸点(黒), I-156-27と関連カ	I-156-33
1687	[達書](御自分儀忌中ニ候得共明日より可有出勤候)	状	1通	(文政元年)七月八日	関蔵人	頼万四郎殿	14.0×38.3	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 関蔵人」, 料紙水損	I-156-34
1688	[達書](郡廻り同格就任の御礼登城につき)	状	1通	(文政元年)八月廿七日	浅野縫殿, 石井内膳, 関蔵人, 木村頼母	頼万四郎殿	13.9×52.5	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 浅野縫殿 石井内膳 関蔵人 木村頼母」, 料紙水損大, 糊離れ大	I-156-35
1689	[達書](長崎出足之事)	状	1通	(文化12年)正月七日	山本屯, 青木弥太夫, 田上武平次, 築山嘉平, 増田半兵衛, 木村斎	頼万四郎殿	14.0×38.0	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 山本屯 青木弥太夫 田上武平次 築山嘉平 増田半兵衛 木村斎」, 端裏書(頼杏坪筆)「長崎出足之事」	I-156-36
1690	[達書](郡廻り同格就任による御取替銀につき)	状	1通	(文政元年)六月廿三日	浅野縫殿	頼万四郎殿	14.0×37.7	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 浅野縫殿」	I-156-37
1691	[達書](漂民受取長崎へ被遣候事)	状	1通	(文化12年)正月朔日	山本屯, 青木弥太夫, 田上武平次, 築山嘉平, 増田半兵衛, 木村斎	頼万四郎殿	13.5×69.3	色諸口紙	1	封上書「頼万四郎殿 山本屯 青木弥太夫 田上武平次 築山嘉平 増田半兵衛 木村斎」, 端裏書(頼杏坪筆)「漂民受取長崎へ被遣候事」, 料紙水損大	I-156-38
1692	[頼杏坪書簡](旧臘夜分度々空焼仕候儀につき)	状	1通	(寛政10年)正月廿日	頼万四郎		11.9×40.0	半紙	1	Ⅲ-322-30と関連, もと紙帯にてI-156-39~41を一括(内容に関連性なし)	I-156-39
1693	1) [覚](奴可郡・三上郡の町村書付数控)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		11.9×31.0	色半紙	1	I-156-40-1~4まで貼継, 前後欠	I-156-40-1
1693	2) 覚(郡中凶年水難火難の節の褒賞者につき調べ)	状	通	江戸後期	(頼杏坪)		12.0×18.5	色半紙	1	後欠	I-156-40-2
1693	3) [断簡](返書延引につき)	状	通	江戸後期	(頼杏坪)		12.2×12.6	半紙	1	後欠	I-156-40-3
1693	4) [書付](御側詰上席坂樋之進の儀につき)	状	通	(文化3, 4年)十二月廿五日	高橋庄兵衛	頼弥太郎様	11.9×28.5	色半紙	1	封上書「頼弥太郎様 高橋庄兵衛」, 後欠カ	I-156-40-4
1694	[書付](右京様中庸の御会読につき)	状	1通	二月十二日	岡村民之助	頼弥太郎様	12.0×63.3	色半紙	1	封上書「頼弥太郎様 岡村民之助」	I-156-41
1695	[覚](御鑪拾壹ヶ所及び御鍛次屋拾九ヶ所控)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.1×94.7	色諸口紙	1		I-156-42
1696	[寺西監物につき推薦状]	状	1通	戌(文化11年)二月	(頼杏坪)		14.2×47.2	諸口紙	1	端裏書「戌二月出ス ひかへ」, 校訂(墨)	I-156-43
1697	[梶山六一御歩行組御取立願]	状	1通	(文政2年)	(頼杏坪)		11.9×88.4	半紙	1	端裏書「君修」, 校訂(墨), I-156-45の草稿	I-156-44

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1698	〔梶山六一御歩行組御取立願〕	状	1通	己卯(文政2年)十月	頼万四郎, 頼餘一		14.0×129.1	諸口紙	1	端裏書「己卯十二月御歩行組御取立 本紙ハ餘一と連名ニテ出ス 此分へ又々添削ニテ出ス 此分不用之分 頼万四郎 頼餘一」, I-156-1-11の草稿	I-156-45
1699	〔中村左門水軍師御取立につき口演之覚〕	状	1通	癸未(文政6年)二月	(頼杏坪)		14.1×62.5	諸口紙	1	校訂(墨), I-156-1-12の草稿	I-156-46
1700	〔頼杏坪書簡〕(辰蔵をいよ屋へ連れ帰るにつき)	状	1通	(文政年間)	南叟	餘一殿, 佐一郎殿	14.2×14.9	色諸口紙	1	封上書「餘一殿 佐一郎殿 南叟」	I-156-47
1701	〔頼杏坪書簡〕(此書状御一緒に御出し被下度こと)	状	1通	五月廿日	南叟	餘一殿	14.0×14.5	諸口紙	1	封上書「餘一殿 南叟 早道便書状時」	I-156-48
1702	〔丹後嶋一疋下賜目録〕	状	1通	江戸後期		頼万四郎	16.8×23.6	杉原紙	1		I-156-49
1703	〔歌稿〕(おさなきもの痲疾をやみてうせける)	状	1通	(文政2年)霜ふり月の二日	たゝなこ		14.1×56.4	諸口紙	1	詞書「霜ふり月の二日おさなきもの痲疾をやみてうせけるいたみのあまりおもひつゝけゝる」, 十三首	I-156-50
1704	〔梶山六一御歩行組御取立願〕	状	1通	丁丑(文化14年)十一月	(頼杏坪)		14.4×148.2	諸口紙		端裏書「丁丑十一月廿日 築山へ出スひかへ」, 紙帯にてIII-115-17-1~2を一括, I-156-10に草稿あり	III-115-17-1
1705	覚(梶山六一勤書)	状	1通	文化十四年丑七月	梶山六一		14.6×152.6	諸口紙		端裏書「六一勤書」	III-115-17-2
1706	1) 口上の覚(於学問所師弟不相分, 教授仕度奉存候)	状	1通	十一月廿一日	金子源内, 植田守衛, 加藤三平, 植田周助, 頼万四郎		14.0×36.0	諸口紙		III-123-20-1~2まで貼継, 付札「儒師中様 此両通申出之通承届相済候事」, 別紙(11.9×2.2, 半紙)「文化乙亥十一月御内々申出之ひかへ学問所御達書之事」	III-123-20-1
1706	2) 口上の覚(此度師弟相分候様との御儀ニ付申上る書付)	状	1通	十一月廿一日	金子源内, 植田守衛, 加藤三平, 植田周助, 頼万四郎		14.5×45.6	諸口紙			III-123-20-2
1707	1) 御内々御尊申上候覚(福山領木村考安義ニ付)	状	1通	十月	頼万四郎(頼杏坪)		14.4×40.6	諸口紙		III-123-32-1~2まで貼継, 端裏書「木村考要(ママ)義ニ付申出ひかへ」, 校訂(墨), 注記(付紙に墨)	III-123-32-1
1707	2) 口上之覚(明石與助事, 学問所助教へ早々被仰談被下候)	状	1通	十二月	金子源内, 植田守衛, 加藤三平, 頼万四郎		14.0×23.0	諸口紙			III-123-32-2
1708	〔伺書〕(三谿郡割庄屋和田口左衛門, 孝行者として褒美之事)	状	1通	文化己巳(6年)五月	頼杏坪		11.9×17.3	色半紙		付紙(12.9×3.7, 黄染)「平賀中南中」	III-123-34
1709	御葬地之儀存寄申上草稿	状	1通	(文化10年)閏十一月十五日	頼万四郎		14.2×128.5	諸口紙		端裏書「御葬地之儀存寄申上草稿」, 訓点(墨), 校訂(墨)	III-124-6
1710	〔書付〕(未とし之分御取替分につき)	状	1通	三月十三日	京橋筋	御本家	14.2×10.4	諸口紙		「未六月 弍匁 佐一郎船ちん(中略)〆拾匁 未とし之分 御取替分」との記載あり	VI-2-4
1711	文政十一子年郡々土免寄目録	状	1通	(文政11年)子五月	頼万四郎, 大藤源七郎, 平野孫市, 湊喜兵衛		14.5×166.4	諸口紙		包紙(24.8×17.3, 半紙)にてIII-164-4-1~2を一括, 包紙「頼万四郎様 大藤源七郎・平野孫市・湊喜兵衛」, 同(頼杏坪筆)「五月廿六日至 三国屋ふ三次郡勤番所」, 端裏書「文政十一子年郡々土免寄目録」	III-164-4-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1712	[添状](諸郡当御免下組寄セ算, 別紙寄セ目録之通ニ御座候)	状	1通	(文政11年)五月十七日	湊喜兵衛, 平野孫市, 大藤源七郎	頼万四郎様	14.4×22.2	諸口紙		Ⅲ-164-4-1の添状	Ⅲ-164-4-2
1713	[達書](帝釈町入札払興行之儀ニ付, 三次町と双方居合候様申値之事)	状	1通	三月朔日	(山下十右衛門, 満田九郎左衛門, 筒井極人)	(吉村孫三郎様, 頼万四郎様, 中嶋六大夫様)	14.0×43.3	色諸口紙		紙帯にてⅢ-164-7-1~7を一括, 端裏書「吉村孫三郎様 頼万四郎様 中嶋六大夫様 山下十右衛門 満田九郎左衛門 筒井極人 写し」	Ⅲ-164-7-1
1714	[達書](差出・宛所部分)	状	1通	江戸後期	吉村孫三郎様, 頼万四郎様, 中嶋六大夫様	山下十右衛門, 満田九郎左衛門, 筒井極人	14.1×4.4	色諸口紙			Ⅲ-164-7-2
1715	[伺書](三次町入札払願ニ付, 諸郡居合申候様御良考可被下候)	状	1通	(文政11年頃)	(頼杏坪カ)		13.7×41.2	色諸口紙		校訂(墨), 前欠	Ⅲ-164-7-3
1716	[添状](帝釈入札一件ニ付, 和談之趣申来り書付写し奉差上候)	状	1通	三月十五日	倉田景蔵, 守下惣右衛門	(頼杏坪)	11.9×28.0	色半紙		端裏書「尊答申上 倉田景蔵 守下惣右衛門」	Ⅲ-164-7-4
1717	[書付](別紙之通申来候間, 御集談申度ニ付)	状	1通	三月二日	吉村孫三郎	頼万四郎様, 中嶋六大夫様	12.1×18.3	色半紙		封上書「頼万四郎様 中嶋六大夫様 吉村孫三郎」	Ⅲ-164-7-5
1718	[書付](三次町捕役并小人左之通御引渡申候ニ付)	状	1通	三月十六日	吉村孫三郎	頼万四郎様	14.2×41.7	色諸口紙		封上書「頼万四郎様 吉村孫三郎」	Ⅲ-164-7-6
1719	[書付](明朝御役所小廻りを広島へ遣し候ニ付)	状	1通	五月十日	□郎, 源之丞	(頼杏坪)	12.2×22.3	色半紙			Ⅲ-164-7-7
1720	[書付](別紙本文之趣へ, 中嶋三之丞返答之儀ニ付)	状	1通	七月十三日	(頼杏坪)		14.1×47.1	諸口紙		端裏書(頼杏坪筆)「此通り竹山へ申遣ス其後返ル内密尊答」	Ⅲ-177-15
1721	[石州湯ノ津へ入治仕度, 伺書并願書下書]	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.2×37.7	諸口紙		端裏書「湯治之願ひかへ」, 校訂(付紙に墨〔異筆〕)	Ⅲ-294-3
1722	覚(山陽療治に付有福入用書付)	仮綴	1綴	丙辰(寛政8年)十二月	(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×8.2 / 13.9×12.9 / 13.9×22.1	諸口紙			Ⅲ-294-4
1723	[書付](孝義伝の摺仕立料の件, 杏坪の案の不承知)	状	1通	(文政2年カ)七月廿九日	坂田吉太郎, 大藤源七郎	頼万四郎様	13.9×66.0	色諸口紙		封上書「頼万四郎様 坂田吉太郎 大藤源七郎」	Ⅲ-322-6
1724	[書付](賀茂郡山端の吟味の際の不手際についての口演)	状	1通	七月廿四日	頼万四郎		11.6×68.5	半紙			Ⅲ-372-60
1725	[書付](玉造温泉への湯治を願う口上の覚書)	状	1通	六月九日	頼万四郎		14.5×43.6	諸口紙			Ⅲ-372-71
1726	[書付](人材御取立の件についての演説)	状	1通		(頼杏坪)		12.2×38.3	半紙			Ⅲ-372-73
1727	口上の覚(古賀精里との面談につき)	状	1通	閏七月廿四日	(頼杏坪)		12.1×15.7	半紙			Ⅲ-372-83
1728	[書付](学問所での心得)	状	1通		(頼杏坪カ)		14.8×17.5	諸口紙			Ⅲ-372-85

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1729	〔書付〕(町方身持ちの者、学習勝手次第の事)	状	1通		(頼杏坪)		12.1×6.4	半紙		後欠カ	Ⅲ-372-106
1730	〔書付〕(詩禪来広島につき)	状	1通	三月廿日カ	(頼杏坪)		13.9×11.0	色諸口紙			Ⅲ-372-128
1731	〔書付〕(痛みにつき欠勤伺い)	状	1通	正月廿四日	(頼杏坪カ)		14.1×8.1	諸口紙			Ⅲ-372-134
1732	〔紙袋〕(三樹三郎廿五回忌志)	紙袋	1点	(明治16年)	頼又二郎(支峰)	(頼誠軒)	28.5×23.5	杉原紙		表書「[ ]三樹三郎 廿五回忌志 頼又二郎」	Ⅲ-349-18
1733	覚(日本外史、近思録ほか拝借書)	状	1通	(江戸後期カ)九月五日	又次郎(頼支峰)		12.4×22.5	半紙			Ⅲ-299-8
1734	報国誌(厳島砲台築造願)	袋綴装 大和綴	1冊	文久三年癸亥十一月	頼東三郎(誠軒)、津川徳三郎ほか26名		28.8×23.0	諸口紙	11	共紙表紙、外題直書「報国誌」、朱文方印「芸藩口之印」1顆	Ⅱ-19
	「報国誌」関係資料									Ⅱ-20-1～10まで貼継	Ⅱ-20
1735	1)〔建白書下書〕(富国強兵建策)	状	1通	(慶応3年)	頼東三郎(誠軒)		12.0×118.0	色半紙		校訂(墨)、書出「別紙へ頼東三郎、吉田表ニ罷在候而杞憂之余奉献言度托し越し申候」	Ⅱ-20-1
1735	2)〔建白書〕(富国強兵建策)	状	1通	(慶応3年)正月廿一日	頼東三郎(誠軒)		14.0×222.7	諸口紙		Ⅱ-20-1の別紙	Ⅱ-20-2
1735	3)〔建白書〕(御国是につき御決志之処少も御動揺無之義伏而奉願候)	状	1通	四月	頼東三郎(誠軒)		15.0×222.0	杉原紙		「去ル亥歳討長之命被仰出候方 不容易御焦思被遊候義深奉恐察候」 「野村帯刀義、此節慎罷在候義、幕府方申付候由如何成義不奉承知候得共、全ク御上坂ヲ離間之策ト愚考仕候事御座候」との記載あり	Ⅱ-20-3
1735	4)〔達書〕(毛利大膳父子請書不差出候節は来月五日諸手一同討入候様可被致候)	状	1通	(慶応2年)五月			13.6×34.5	色諸口紙			Ⅱ-20-4
1735	5)〔達書〕(毛利大膳父子、万一刻限迄請書不差出候節につき)	状	1通	(慶応2年)五月			13.6×39.0	色諸口紙			Ⅱ-20-5
1735	6)〔建白書〕(呉々も御先鋒堅く御辞退被遊候様奉祈願候)	状	1通	(慶応2年)	黒田弥五左衛門ほか14名(頼東三郎を含む)同志中		13.5×87.4	色諸口紙			Ⅱ-20-6
1735	7)〔建白書〕(防長御討入により御人数御繰出候義につき三策)	状	1通	(慶応2年)	(頼誠軒)		13.8×135.8	色諸口紙		校訂(墨)	Ⅱ-20-7
1735	8)〔建白書〕(幕府之近状を熟考仕候ニ名義も条理も不顧矢庭ニ討入と申勢ニ相見へ申候)	状	1通	(慶応2年)	(頼誠軒)		13.7×74.7	諸口紙		端裏書「六月四日、執政へ呈出ス書付」、校訂(墨)	Ⅱ-20-8
1735	9)〔建白書〕(防長御討伐につき何卒此上も遠謀被為在度奉存候)	状	1通	(慶応2年)六月四日	(頼誠軒)		14.3×167.8	諸口紙		校訂(墨)	Ⅱ-20-9
1735	10)〔建白書〕(長防人御領内江乱入につき人民之疾苦不忍見聞、甚以不便至極)	状	1通	(慶応2年)八月	(頼誠軒)		14.0×187.7	諸口紙			Ⅱ-20-10
	発機隊関係資料										Ⅱ-21

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1736	〔達書〕(若殿様御引移による御警衛につき)	状	1通	三月七日		千本屋敷御風呂屋口御多門江 発機隊	13.7×38.2	色諸口紙		紙袋(29.9)にてⅡ-21-1~145を一括, 紙袋「諸書付入 発機隊」, 紙縫にてⅡ-21-1~53まで一括, 封上書「発機隊中」	Ⅱ-21-1
1737	〔達書〕(別紙四通写之通, 太政官代おゐて御達有之候付, 必為相達候事)	状	1通	三月朔日			13.6×17.2	色諸口紙			Ⅱ-21-2
1738	〔達書〕(広島上飯浜御台場へ火薬庫大小建調献備之儀ニ付)	状	1通	二月廿日	西村保五郎, 佐藤源右衛門, 服部権右衛門	頼東三郎様, 津川徳三郎様	13.9×36.2	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 津川徳三郎様 西村保五郎 佐藤源右衛門 服部権右衛門」	Ⅱ-21-3
1739	〔覚〕(貳拾四斤御筒・拾五拇御筒引渡につき)	状	1通	子(元治元年)ノ正月	御武具方		28.9×26.0	色諸口紙		紙帯にてⅡ-21-4~5を一括, 黒文楕円印1顆	Ⅱ-21-4
1740	〔達書〕(若殿様御発駕につき江戸表へ罷越帯刀へ申聞べきこと)	状	1通	江戸後期		頼東三郎	13.9×59.5	色諸口紙			Ⅱ-21-5
1741	〔達書〕(病氣ニ付御国へ罷差戻の面々)	状	1通	(慶応4年)閏四月三日		津川徳三郎	13.7×32.7	色諸口紙		端裏宛名「津川徳三郎」	Ⅱ-21-6
1742	御意書付(若殿様会計事務御惣督拝命につき)	折紙	1通	(慶応4年正月26日)			14.6×46.0	色諸口紙		包紙(23.8×16.9, 色半紙)「御意書付」, 「当月十七日, 若殿様会計事務御惣督被為蒙仰候得共, 重大之御事件ニ付, 御辞退被遊候処, 一昨廿四日右御惣督更ニ被為被仰候, 此段申聞候様御意」	Ⅱ-21-7
1743	〔書付〕(長尾熊次郎当隊へ入隊申出候儀ニ付)	状	1通	四月十四日	(津川徳三郎)		15.3×40.4	楮紙		紙帯に付札(13.7×11.8, 色諸口紙, 津川徳三郎宛)あり	Ⅱ-21-8
1744	〔達書〕(御供之面々の所持之品につき)	状	1通	(慶応4年)三月二日			13.7×42.1	色諸口紙			Ⅱ-21-9
1745	〔達書〕(御親征行幸につき来月五日之旨更被仰出候事)	状	1通	(慶応4年)二月			13.7×29.2	色諸口紙		端裏書「写」	Ⅱ-21-10
1746	〔達書〕(大坂行幸御休泊につき)	状	1通	(慶応4年)三月二日			13.6×19.5	色諸口紙			Ⅱ-21-11-1
1747	大坂表行幸ニ付御休泊所之覚	状	1通	(慶応4年)			13.7×103.5	色諸口紙		端裏書「写」	Ⅱ-21-11-2
1748	〔達書〕(御親征行幸の種々浮説につき)	状	1通	(慶応4年)二月			13.7×34.7	色諸口紙		端裏書「写」	Ⅱ-21-12
1749	〔達書〕(大坂行幸時の行在所・内侍所・太政官代につき)	状	1通	(慶応4年)			13.7×24.6	色諸口紙		端裏書「写」	Ⅱ-21-13
1750	松田鉦之助所持之品	状	1通	(慶応4年)			16.5×42.2	三桎紙		端裏書「松田鉦之助所持之品ひかへ」	Ⅱ-21-14
1751	覚(平野屋伊助・松田鉦之助等より預り居候品につき)	状	1通	辰(慶応4年)正月十六日	笹屋町大宮西入丁 年寄弥七郎 倅龍太郎		16.4×65.5	三桎紙		端書「平野屋伊助, 松田鉦之助等より預り居候品, 一応見糺之上, 町役人へ預ケ候節, 役人より之受取手形」	Ⅱ-21-15
1752	〔達書〕(別紙写之通, 太政官代おゐて御達有之ニ付相達候事)	状	1通	三月朔日			13.6×23.3	色諸口紙			Ⅱ-21-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1753	廻章写	状	1通	正月廿一日	博房	尾張大納言殿 ほか6名(御名 を含む)	16.2×72.8	杉原紙		端裏書「廻章写」,宛所「尾張大納言殿 越前宰相殿 土佐前少将殿 薩摩少将殿 御名 宇和島少将殿 細川右京大夫殿」,越前・薩摩・御 名・宇和島の下に「承知仕候」との記載あり	II-21-17
1754	〔達書〕(発機隊附属之者六人 御国へ差戻につき)	状	1通	二月十三日			13.7×21.5	色諸口紙		端裏付紙(11.9×7.0,色半紙)「野村政次郎 野村小津衛 寺西志津登 津川徳三郎」	II-21-18
1755	〔王政復古の大号令〕	状	1通	(慶応3年12 月9日)			16.0×152.0	杉原紙			II-21-19
1756	〔達書〕(別紙御布告ニ相成候 御趣意につき)	状	1通	(慶応3年12 月)			16.0×35.9	杉原紙		II-21-19と関連	II-21-20
1757	〔書付〕(西川利三郎より差出候 書付につき)	状	1通	正月十六日	武井群司	津川徳三郎様	13.9×41.4	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司」,端裏書「御詰無之候ハ、御詰合之 内御披見」	II-21-21
1758	〔書付〕(見分の節,御台場立 寄りにつき)	状	1通	正月廿八日	山下平八郎	頼東三郎様	14.1×34.8	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 山下平八郎」	II-21-22
1759	〔達書〕(今度行幸御供奉御用 途御取合せにつき)	状	1通	(慶応4年)三 月朔日			13.6×42.1	色諸口紙			II-21-23
1760	〔願書〕(発機隊付属卓爾,病 気難儀につき差戻願)	状	1通	二月五日	津川徳三郎	武井群司様	14.5×23.0	諸口紙		封上書「武井群司様 津川徳三郎」,端裏付札(14.2×8.5,色諸口紙) 「武井群司 此義承届候間,此通可被申付候」	II-21-24
1761	覚(両掛壱荷ほか預り証文)	状	1通	江戸末～明 治初期	御前通下立売 上ル 百姓新 左衛門		16.2×12.2	楮紙		紙帯にてII-21-25～33まで一括,黒文円印1顆	II-21-25
1762	覚(両掛壱荷ほか預り御状)	状	1通	江戸末～明 治初期	近江屋吉兵衛		15.4×13.9	楮紙		黒文長方印(店印)1顆	II-21-26
1763	〔覚〕(壱両式歩,内壱歩別品 代,右二ツ割三歩ソ)	状	1通	江戸末～明 治初期			11.8×7.1	半紙			II-21-27
1764	〔紙片〕(御小人伴助,同八百 吉)	状	1通	江戸末～明 治初期			12.2×9.8	半紙			II-21-28
1765	覚(たに六つ,刀箱壱つ請証 文)	状	1通	江戸末～明 治初期	かゝや清太郎		16.5×16.0	楮紙		黒文長方印「京都 七本松通下長者町 加賀清」1顆	II-21-29
1766	〔書簡〕(伊助義被召捕候よし)	状	1通	江戸末～明 治初期			15.2×18.8	楮紙		前後欠	II-21-30
1767	〔覚〕(京都での両掛・駄荷等預 け場所)	状	1通	江戸末～明 治初期			13.6×22.7	諸口紙		「極月十三,四日頃」との記載あり	II-21-31
1768	〔覚〕(新之助等七人之荷物, 旧臘十三四日頃年寄を以預置 候趣左之通り)	状	1通	江戸末～明 治初期			14.3×54.4	諸口紙		校訂(墨)	II-21-32
1769	〔書付〕(平野屋伊助申出につ き)	状	1通	江戸末～明 治初期			14.3×101.5	諸口紙		校訂(墨),紙背に挿絵あり	II-21-33
1770	口上之覚(篠田恒之助ほか二 名,病気につき御国へ差戻の 事)	状	1通	(慶応4年)閏 四月四日	津川徳三郎		14.4×33.2	諸口紙		紙帯にてII-21-34～37まで一括,端裏付札(13.7×6.7,色諸口紙)「津 川徳三郎 申出之通被仕候様可被相達候」	II-21-34

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1771	〔達書〕(宮門警衛諸藩旗幕等菊御紋を用いる前令を廃し、御旗を下すこと)	状	1通	(慶応4年2月9日)			16.0×75.0	杉原紙		端裏書「写」	II-21-35
1772	〔書付〕(別紙御廻申候、夫々御通達可被成候事)	状	1通	二月十日		組頭中様、大砲長中様、武器方中様、輜重方中様	13.6×24.3	諸口紙		懸点(墨)	II-21-36
1773	〔達書〕(別紙写之通、從御所被仰出候ニ付、為心得相達候)	状	1通	二月十日			13.7×24.2	色諸口紙			II-21-37
1774	〔達書〕(御所九門夕七半時方翌朝卯半刻まで鎖切ニ相成候間、印鑑を以て往来之儀被仰出候事)	状	1通	正月七日		発機隊中	13.7×97.5	色諸口紙		紙縫にてII-21-38～40まで一括、端裏付紙(12.2×3.0、色半紙)「発機隊中」	II-21-38
1775	〔達書〕(御親征之儀につき小僕に至る迄心得違無之様肝要候)	状	1通	(慶応4年)			13.7×90.2	色諸口紙		端裏書「写」	II-21-39
1776	〔達書〕(千本屋敷への御移館につき)	状	1通	三月		発機隊中	13.7×73.6	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-40
1777	〔達書〕(少将様御逝去につき)	状	1通	(慶応4年カ)二月五日		発機隊中	13.6×21.8	色諸口紙		紙帯にてII-21-41～46まで一括、封上書「発機隊中」	II-21-41
1778	〔達書〕(御歩行組御料理人月代不及用捨候事)	状	1通	二月十四日		発機隊中	13.7×21.2	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-42
1779	〔達書〕(表御門・柵御門・裏御門の警衛引渡につき)	状	1通	二月二日		発機隊中	13.6×44.6	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-43
1780	〔達書〕(御国へ御用状等差出につき)	状	1通	正月三日		発機隊中	13.6×21.1	色諸口紙		端裏付紙(11.9×3.8、色半紙)「発機隊中」	II-21-44
1781	〔達書〕(玉菓を東福寺蔵等へ被相納候につき)	状	1通	三月十四日		発機隊中	13.8×28.0	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-45
1782	〔達書〕(裏御門・御水門の警衛につき不及其儀候事)	状	1通	四月七日		発機隊中	13.6×37.8	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-46
1783	廻達(別紙式通御廻し候間、早々御巡達可被成候)	状	1通	二月	津川徳三郎	組頭中様、大砲長様、武器司様、輜重司様	16.3×30.6	三桎紙		紙帯にてII-21-47～53まで一括、紙帯付紙(12.0×2.7、色半紙)「発機隊中」、端裏書「廻達」、懸点(墨)	II-21-47
1784	〔達書〕(別紙写之通、從御所被仰出候ニ付、為心得相達候)	状	1通	正月廿九日			13.8×21.6	色諸口紙			II-21-48
1785	〔達書〕(諸藩宮門警衛の御旗幕等菊御紋を付せしむ事)	状	1通	(慶応4年正月27日)			16.0×68.0	杉原紙		端裏書「写」	II-21-49
1786	口上之覚(長尾熊次郎を家来に召抱度事)	状	1通	四月廿七日	津川徳三郎		14.3×38.5	諸口紙		端裏貼紙「津川徳三郎」	II-21-50
1787	〔付札〕(家来召抱方之儀ニ付)	状	1通	(江戸末～明治初期)			13.7×19.5	色諸口紙		もとはII-21-50の付札カ	II-21-51

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1788	口上之覚(一隊中一統拝借金之義につき)	状	1通	(慶応4年)閏四月十六日	津川徳三郎		14.5×54.5	諸口紙		端裏貼紙「津川徳三郎」, 端裏付札(13.6×10.2, 色諸口紙)「此儀再応書面之趣ハ候得共, 兼而相達候趣も有之, 何ニも不容易義ニ付別状ハ令返戻候」	II-21-52
1789	口上之覚(長尾熊次郎の発機隊入隊願)	状	1通	四月十日	津川徳三郎		15.2×45.4	楮紙		端裏貼紙「津川徳三郎」, 端裏付札(13.7×8.0, 色諸口紙)「津川徳三郎 此儀熊次郎御国元出船之節, 統含相立罷越候義ニ候哉, 夫等得斗相糺申出可有之候」	II-21-53
1790	〔達書〕(若殿様御滞京中御迫火之節, 御立退場所之儀につき)	状	1通	十一月廿八日		発機隊中	13.6×29.0	色諸口紙		紐にてII-21-54~114まで一括, 端裏付紙(12.0×2.6, 色半紙, 剥離)「発機隊中」	II-21-54
1791	〔達書〕(少将様御容体御差重ク被遊候につき)	状	1通	二月四日			13.7×39.8	色諸口紙			II-21-55
1792	〔達書〕(武井群司出足後ハ同御役共受引被仰付候事)	状	1通	三月廿日	新保庸一郎	京地残り之発機中	13.7×30.6	色諸口紙			II-21-56
1793	〔達書〕(明十二日より物書役已下月代不及用捨候事)	状	1通	二月十一日		発機隊中	13.5×20.7	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-57
1794	〔達書〕(岡村政二郎, 此後勤仕外ニ被差置候)	状	1通	二月十一日			14.1×19.4	色諸口紙			II-21-58
1795	〔達書〕(若殿様御上京につき下宿にて建具等手荒之取扱有之間敷事)	状	1通	十一月廿八日		発機隊中	13.7×45.2	色諸口紙		端裏付紙(11.9×4.1, 色半紙)「発機隊中」	II-21-59
1796	〔伺書〕(御本陣警衛の際, 隊中之者へ相渡候湯漬につき)	状	1通	三月廿九日	津川徳三郎	堀田伊三郎様, 武井群司様	14.0×21.4	諸口紙		封上書「堀田伊三郎様 武井群司様 津川徳三郎」, 端裏付札(13.9×3.6, 色諸口紙)「御目付中, 此義承届候」	II-21-60
1797	〔伺書〕(小原又蔵, 病気に付き御国へ被差戻度事)	状	1通	二月廿九日	津川徳三郎	武井群司様	15.9×31.0	楮紙		封上書「武井群司様 津川徳三郎」, 紙帯付札(13.7×7.0, 色諸口紙)「此通可被申付候, 尤出足日限一応可被申聞候」	II-21-61
1798	〔伺書〕(卓爾義, 病氣ニ付居村へ差戻につき旅金渡方之義)	状	1通	二月十一日	津川徳三郎	武井群司様	15.4×20.5	楮紙		封上書「武井群司様 津川徳三郎」, 紙帯付札(13.7×7.0, 色諸口紙)「此通可被申付候, 尤出足日限一応可被申聞候」	II-21-62
1799	〔達書〕(此節御国へ可被差戻旨被仰出)	状	1通	四月朔日	武井群司, 堀田伊三郎	青木他人吉殿	13.7×36.3	色諸口紙			II-21-63
1800	〔達書〕(少将様先月廿六日辰中刻御逝去につき)	状	1通	(明治5年8月カ)			13.7×27.4	色諸口紙			II-21-64
1801	〔達書〕(此度御供面々, 於大坂御貸夜具之儀につき)	状	1通	三月三日			13.7×33.6	色諸口紙			II-21-65
1802	〔達書〕(御供之面々被召連候家来人数書付につき)	状	1通	三月朔日		発機隊中	14.0×29.5	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-66
1803	〔達書〕(青木他人吉, 御国へ差戻につき明三日出船)	状	1通	四月二日		津川徳三郎	13.6×21.7	色諸口紙		端裏宛名「津川徳三郎」	II-21-67
1804	〔達書〕(諸道具類返上方之義につき)	状	1通	二月三日	御勘定所御道具方	発機隊方	13.8×23.0	色諸口紙		封上書「発機隊方 御勘定所 御道具方」	II-21-68
1805	〔書付〕(元京都見廻組松田新之助引渡方之義につき)	状	1通	二月九日	熊谷兵衛	武井群司様	13.9×48.5	色諸口紙		封上書「武井群司様 熊谷兵衛」	II-21-69

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1806	[書付](別紙之通申来候につき早々引渡方之儀御取計可有之候)	状	1通	二月九日	武井群司	津川徳三郎様	13.7×34.5	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司」, II-21-69の添書	II-21-70
1807	[差紙](申談儀有之候付, 早々御屋形へ可被罷出候)	状	1通	三月廿四日	二川主税	津川徳三郎殿	13.9×24.0	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様殿 二川主税」	II-21-71
1808	[書付](今朝御話合御座候につき左之振合御承知可被下候)	状	1通	三月十九日	武井群司	[ ]様	13.6×60.0	色諸口紙		封上書「[ ]様 武井群司」(宛名切断)	II-21-72
1809	[書付](小生義, 明十四日此元出足につき)	状	1通	二月十三日	寺尾生十郎	津川徳三郎様	14.0×42.0	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 寺尾生十郎」	II-21-73
1810	[書付](昨三日出船之儀, 何等之儀ニ付今日出船相成申候哉)	状	1通	四月四日	伊三郎	徳三郎様	13.5×32.0	色諸口紙		封上書「徳三郎様 伊三郎」	II-21-74
1811	[達書](御出勤の際, 上下御所持無之御方角につき)	状	1通	十二月八日			12.0×36.7	色半紙			II-21-75
1812	[書付](前時御内話一条につき)	状	1通	四月四日	吉村元右衛門	津田保之助様	13.7×38.1	色諸口紙		封上書「津田保之助様 吉村元右衛門」	II-21-76
1813	[書付](隊中御下宿之義につき二ヶ寺借り受ニ相成候而者如何)	状	1通	江戸末～明治初期	群司	徳三郎様	12.1×74.6	色半紙		封上書「徳三郎様 群司 □□□」, 校訂(墨), 後欠	II-21-77
1814	[書付](当春幼年之輩并付属之者の差戻につき)	状	1通	四月六日	群司	徳三郎様	13.6×50.4	色諸口紙		封上書「徳三郎様 群司」	II-21-78
1815	[書付](別紙円切手壹枚為差進候)	状	1通	四月六日	堀田伊三郎	津川徳三郎様	13.6×22.5	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 堀田伊三郎」	II-21-79
1816	[書付](別紙へ附紙之通り御承知可被成候)	状	1通	二月廿六日			13.6×22.5	色諸口紙			II-21-80
1817	[書付](今日御客様有之候ニ付, 御本陣内実成院被明渡候事)	状	1通	三月二日	道家牧太	野村小津衛様, 津川徳三郎様	13.7×37.5	色諸口紙		封上書「野村小津衛様 津川徳三郎様 道家牧太」	II-21-81
1818	[書付](山口勇次郎, 今日出船につき)	状	1通	四月六日	堀田伊三郎	津川徳三郎様	13.6×32.3	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 堀田伊三郎」	II-21-82
1819	[書付](日置権蔵進退之義ニ付)	状	1通	二月廿日	武井群司	[ ]様	13.7×58.5	色諸口紙		封上書「[ ]様 武井群司」(宛名切断)	II-21-83
1820	[書付](供馬之義につき)	状	1通	二月十二日	武井群司	津川徳三郎様	13.7×30.1	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司」	II-21-84
1821	[差紙](御面談申度ニ付, 只今御本陣へ御出勤可被下候)	状	1通	二月廿二日	武井群司	津川徳三郎様	13.6×22.9	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司 急」	II-21-85
1822	[差紙](御面談致度義御座候間, 早急御本陣へ御出際可被成候)	状	1通	二月廿一日	武井群司	津川徳三郎様	13.7×23.8	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司 急」	II-21-86
1823	[達書](浅野嘉吉弟峰榎儀, 朝廷へ御二男様ニ御届被為濟候事)	状	1通	四月二九日			14.5×30.0	諸口紙			II-21-87

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1824	〔達書〕(別紙之通申来候間宜被相達候事)	状	1通	二月六日			13.6×17.2	色諸口紙			II-21-88
1825	〔書付〕(権蔵の儀につき事)	状	1通	二月廿日	立野一郎	津川徳三郎様	14.0×79.0	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 立野一郎 差向事」	II-21-89
1826	〔書付〕(今日御状ニ被書候輩、不残御本陣へ可被罷出候事)	状	1通	二月五日	武井群司	寺西志津登殿、津川徳三郎殿	13.7×31.2	色諸口紙		封上書「寺西志津登殿 津川徳三郎殿 武井群司」	II-21-90
1827	〔達書〕(御供之隊中、早々相揃べきこと)	状	1通	十二月六日			13.8×25.2	色諸口紙			II-21-91
1828	〔書付〕(御用之儀候間、隊中御歩行組已下罷出候様通達につき)	状	1通	二月五日	武井群司	野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様	13.6×35.0	色諸口紙		封上書「野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様 武井群司 急」	II-21-92
1829	〔算用書〕	折紙	1通	二月廿五日			12.5×34.5	半紙		校訂(墨)	II-21-93-1
1830	凡値段附	状	1通	江戸末～明治初期			12.0×33.3	半紙			II-21-93-2
1831	〔達書〕(侍中子弟之輩、付属之者へ別紙通達につき)	状	1通	二月五日	武井群司	野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様	13.6×27.2	色諸口紙		封上書「野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様 武井群司」	II-21-94
1832	〔書付〕(別紙之通申来候間、早々御約事御聞せ可被下候)	状	1通	十二月七日	群司	徳三郎様	11.9×19.6	色半紙		封上書「徳三郎様 群司」	II-21-95
1833	〔書付〕(御面談致度候間、旅宿へ御入来可被下候)	状	1通	十二月四日	武井群司	津川徳三郎様	11.9×22.8	色半紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司」	II-21-96
1834	〔書付〕(他行の儀、惣人数三ツ割につき)	状	1通	十二月五日	武井群司	野村政次郎様、野村小津衛様	11.8×38.0	色半紙		封上書「野村政次郎様、野村小津衛様 武井群司」	II-21-97
1835	〔書付〕(御書中之趣、其々承知致候事)	状	1通	二月十一日	武井群司	津川徳三郎様	13.6×34.7	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 武井群司」	II-21-98
1836	〔達書〕(明後八日御国へ早道被差立候につき)	状	1通	十二月六日	武井群司	野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様	13.5×26.7	色諸口紙		封上書「野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様 武井群司」	II-21-99
1837	〔書付〕(発機隊附属之者名前いまた御申出無之候事)	状	1通	二月十四日	武井群司	野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様	13.8×31.3	色諸口紙		封上書「野村政次郎様、野村小津衛様、寺西志津登様、津川徳三郎様 武井群司」	II-21-100
1838	〔書付〕(玉薬之儀、今朝大宮通り之御蔵へ御返可被下候事)	状	1通	十二月廿四日	寺尾与右衛門、三上佐太郎	津川徳三郎様	14.3×30.7	色諸口紙		封上書「津川徳三郎様 寺尾与右衛門、三上佐太郎」、端裏付紙欠カ	II-21-101

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1839	〔達書〕(別紙写兩通之通, 從朝廷被仰出候付, 為心得相達候)	状	1通	(慶応4年)二月十八日		発機隊中	13.7×20.0	色諸口紙		紙帯にてⅡ-21-102-1~3を一括, 紙帯付紙(13.5×3.7, 色諸口紙)「発機隊中」	Ⅱ-21-102-1
1840	〔達書〕(此度御親征被仰出につき各国公使急ニ參朝被仰付候事)	状	1通	(慶応4年2月17日)			13.8×50.2	色諸口紙		端裏書「写」	Ⅱ-21-102-2
1841	〔達書〕(外国御応接之儀ニ付)	状	1通	(慶応4年)二月十七日	太政官代三職		13.7×227.2	色諸口紙		端裏書「写」	Ⅱ-21-102-3
1842	〔建白書写〕(今般攘夷御遵奉につき)	状	1通	亥(文久3年)二月	有志中	小笠原 函書殿, 岡部駿河守殿, 澤勘七郎殿	16.4×52.8	美濃紙		「二月十一日夜五ツ時比, 一橋殿へ参向之御方々」「此之日方国事掛り, 参政, 議奏之下役」についても記載あり	Ⅱ-21-103
1843	〔建白書写〕(先般勅諭を以攘夷之儀被仰出につき)	状	1通	(文久3年)二月十四日	肥後東郷武兵衛, 長州久坂玄瑞, 同寺西忠三郎		16.5×52.5	美濃紙			Ⅱ-21-104
1844	〔達書〕(太政官代へ被成御座候御供揃の刻限につき)	状	1通	二月十八日			14.0×13.3	色諸口紙		注記(付紙(色諸口紙)に墨)	Ⅱ-21-105
1845	〔達書〕(此節御国へ可被差戻旨被仰出面々につき)	状	1通	四月三日		津川徳三郎	13.6×32.4	色諸口紙		封上書「津川徳三郎」	Ⅱ-21-106
1846	〔書付〕(明八日四時御供揃ニ而尾州様へ被成御座候儀につき)	状	1通	十二月七日			12.0×33.6	色半紙			Ⅱ-21-107
1847	〔書付〕(今夕御供揃ニ而河鱈様へ被成御座候ニ付)	状	1通	十二月六日			12.1×49.1	色半紙			Ⅱ-21-108
1848	四月廿五日諸大名登城御渡ニ相成候書付五通, 長州家申立書付	状	1通	(安政5年)			16.1×241.1	三桎紙		校訂(墨), 「墨夷之事」「午三月廿日 勅答御書付写」「御意御書付」「議奏, 伝奏, 備中守旅宿持参之書付」「下田奉行井上信濃守殿方被相渡候口演書写」の5通, 「長州家申立書付」は五月六日付	Ⅱ-21-109
1849	〔書付〕(御隊除隊之義ニ付)	状	1通	二月廿三日	権蔵	徳三郎様	15.7×73.9	楮紙		紙帯にてⅡ-21-110-1~6を一括, 日置権蔵につき紙帯付札(14.0×31.5, 色諸口紙, 武井群司宛)あり, 封上書「徳三郎様 権蔵」	Ⅱ-21-110-1
1850	口上之覚(日置権蔵, 別紙之通申越候につき)	状	1通	二月廿六日	発機隊		14.6×44.4	諸口紙			Ⅱ-21-110-2
1851	〔伺書〕(日置権蔵儀ニ付, 別紙口上書差出候処, 御付紙御差函之趣につき)	状	1通	二月廿二日	発機隊		14.6×31.4	諸口紙			Ⅱ-21-110-3
1852	〔書付〕(除隊之義, 神機隊ニ而練磨仕候義ニ付)	状	1通	二月廿二日	日置権蔵	津川徳三郎様	15.5×142.1	楮紙		封上書「津川徳三郎様 日置権蔵」	Ⅱ-21-110-4
1853	口上之覚(日置権蔵, 禁令を犯し神機隊へ入隊につき)	状	1通	二月廿一日	発機隊		14.1×63.7	諸口紙		端裏付札(13.8×19.2, 色諸口紙, 武井群司宛)あり	Ⅱ-21-110-5
1854	〔書付〕(神機隊へ入隊につき除隊之義, 宜御取計可被下候奉願候)	状	1通	正月十九日	日置権蔵	永田権介様	13.6×95.3	諸口紙		封上書「永田権介様 日置権蔵 急」, 「新曆御同発」との記載あり	Ⅱ-21-110-6
1855	〔達書〕(別紙之通, 從朝廷被仰出候ニ付為心得相達候事)	状	1通	正月		発機隊中	13.5×18.2	諸口紙		紙帯にてⅡ-21-111-1~2を一括, 紙帯付札(13.5×5.3, 色諸口紙)「発機隊中 相済御戻し之事」	Ⅱ-21-111-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1856	[布告](徳川慶喜征討令)	状	1通	(慶応4年正月7日)		発機隊中	15.9×186.5	杉原紙			II-21-111-2
1857	[達書](諸侯方追々御上京多人数入組混雑場合につき)	状	1通	十一月廿八日		発機隊中	13.6×35.6	色諸口紙		紙帯にてII-21-112-1~3を一括, 端裏付紙(11.9×2.5, 色半紙)「発機隊中」	II-21-112-1
1858	[達書](実誠院へ被相詰候様可被相達候)	状	1通	二月四日		発機隊中	13.7×23.8	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-112-2
1859	[達書](少将様御法号口徳院様と被仰附候事)	状	1通	二月		発機隊中	13.7×20.7	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-112-3
1860	[達書](来五日御親征行幸御出輦御延引につき)	状	1通	(慶応4年)三月二日			13.7×24.1	色諸口紙		紙帯にてII-21-113-1~9まで一括, 端裏書「写」	II-21-113-1
1861	[達書](別紙写之通從朝廷被仰出候事)	状	1通	三月三日		発機隊中	13.8×26.5	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-2
1862	[達書](明十二日ヨリ物書役已下月代不及用捨候事)	状	1通	二月十一日		発機隊中	14.0×19.4	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-3
1863	[達書](御供之面々腰付弁当ハ道中不絶用已之儀につき)	状	1通	三月十九日		発機隊中	13.7×30.0	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-4
1864	[達書](若殿様行幸御供奉, 此度ハ御出陣之儀ニ付)	状	1通	(慶応4年)三月十七日		発機隊中	13.7×49.6	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-5
1865	[達書](別紙写兩通之通, 太政官代おみて御達有之候事)	状	1通	二月		発機隊中	13.7×23.5	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-6
1866	[達書](明後八日, 千本屋敷へ御引移ニ付)	状	1通	三月		発機隊中	13.7×42.1	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-7
1867	[達書](来廿一日, 若殿様御供奉御供揃, 暁九半時之事)	状	1通	(慶応4年)三月十九日		発機隊中	13.7×28.3	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-8
1868	[達書](岡村政二郎, 此後勤仕外ニ被差置候事)	状	1通	二月十一日		発機隊中	13.7×21.0	色諸口紙		封上書「発機隊中」	II-21-113-9
1869	[達書](在京御家中家来之儀につき)	状	1通	三月九日		発機隊中	13.8×60.5	色諸口紙		紙帯にてII-21-114-1~4まで一括, 封上書「発機隊中」	II-21-114-1
1870	御軍令(今度聖断を以御親征被仰出候ニ付)	状	1通	(慶応4年)二月			13.7×240.4	色諸口紙		端裏書「写」	II-21-114-2
1871	[達書](御軍令等別紙写兩通, 從朝廷御達有之候ニ付)	状	1通	(慶応4年)三月朔日			13.6×47.2	色諸口紙			II-21-114-3
1872	[達書](御親征之儀, 来月五日に延引につき)	状	1通	(慶応4年)2月			13.6×83.3	色諸口紙		端裏書「写」	II-21-114-4
1873	御触写し(当地詰合の家来, 猥ニ市中人寄り之場へ罷越候儀につきほか)	状	1通	四月五日			15.0×73.1	楮紙		紙縫にてII-21-115~145まで一括, 端裏書「御触写し」, 御触2通の写し, 御触1通目はII-21-130と同内容	II-21-115
1874	[書付](青木他人吉出船御案内仕候儀ニ付)	状	1通	江戸末~明治初期			14.7×41.6	諸口紙		端裏書「青木他人吉乗船案内之儀ニ付, 手違ひニ而尋ニ付, 返書□□渡置申候」	II-21-116
1875	口上之覚(日置権蔵, 神機隊へ入隊につき当隊除隊のこと)	状	1通	江戸末~明治初期	発機隊		12.4×41.6	半紙		校訂(墨)	II-21-117

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1876	口上之覚(私共儀, 国前寺ニ屯集罷在候次第)	状	1通	十一月十日	発機隊		14.1×25.6	諸口紙		校訂(墨)	II-21-118
1877	[達書](隊律・練兵につき通達)	状	1通	十二月十七日	発機隊執事	組頭中様, 監察中様, 大砲長様, 輜重方中様, 武器司様	14.4×80.7	諸口紙		懸点(墨)	II-21-119
1878	口上之覚(私共儀, 国前寺ニ屯集罷在候次第)	状	1通	十一月十日	発機隊		14.5×38.4	諸口紙		II-21-118の清書	II-21-120
1879	[書付](今日早メ九ツ時御供揃ニ而御参内被遊候旨申来候)	状	1通	十二月廿四日	寺西志津登	津川徳三郎様	13.2×24.7	楮紙		紙帯にてII-21-121-1~2を一括, 封上書「津川徳三郎様 寺西志津登 差向儀」	II-21-121-1
1880	[達書](別紙之通, 志津登より申越候ニ付)	状	1通	十二月廿四日	発機隊執事	御供番中様	15.2×54.9	楮紙		封上書「十二月廿四日 御供番中様 発機隊執事 火急」, 懸点(墨)	II-21-121-2
1881	覚(隊長・隊法につき)	状	1通	江戸末～明治初期			16.2×52.8	三桎紙		校訂(墨), 左上部欠損	II-21-122
1882	口演頭書(近頃何と無く相甘え隊律を不長様之気味も相見候事)	状	1通	江戸末～明治初期			14.3×81.8	諸口紙			II-21-123
1883	口上之覚(参謀練兵教授辞職願)	状	1通	二月七日	山岡健之丞		14.3×41.1	諸口紙		包紙(22.4×14.2, 諸口紙)「口上書 壱通 密理ノ書」	II-21-124
1884	[上申書](隊中組織につき愚考)	状	1通	二月三日	(西川理三郎)		12.2×67.2	半紙		「隊長式人」「副長式人」「参謀」「監察」「伍長」の人名を記載, 監察に「頼君」とあり, II-21-126と同筆	II-21-125
1885	[何書](副長之任御免し被下候様, 厚奉願上候事)	状	1通	二月三日	西川理三郎		12.3×51.0	半紙			II-21-126
1886	口上之覚(当隊隊長之儀ニ付)	状	1通	二月十六日	野村政次郎, 野村小津衛, 寺西志津登, 津川徳三郎		14.1×33.9	諸口紙			II-21-127
1887	[書付](佐伯郡小方村卯三郎, 入隊懇願之趣につき)	状	1通	(慶応3年)十月十八日	和田吉左衛門	西川理三郎様, 御同席衆中様	16.0×27.1	三桎紙		封上書「西川理三郎様 御同席衆中様 上 和田吉左衛門」	II-21-128-1
1888	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月十四日	佐伯郡黒川村 百姓国吉, 同谷和村百姓敬藏		15.0×14.7	楮紙		黒文長方印[ ]1顆	II-21-128-2
1889	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月十二日	佐伯郡木野村 百姓万助		15.0×14.7	楮紙		黒文長方印[ ]1顆	II-21-128-3
1890	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月十二日	佐伯郡木野村 百姓長兵衛		15.0×14.7	楮紙		黒文長方印[ ]1顆	II-21-128-4
1891	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月十一日	佐伯郡玖波村 百姓定助		15.0×14.8	楮紙		黒文長方印[ ]1顆	II-21-128-5
1892	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月十三日	佐伯郡小方村 百姓清五良, 同七蔵		15.0×14.7	楮紙		黒文長方印[ ]1顆	II-21-128-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1893	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月八日	佐伯郡玖波村鹿蔵, 常次郎, 岩吉, 彦吉, 八重吉		15.0×14.2	楮紙		黒文長方印[ ]1顆, 頭点(墨)	II-21-128-7
1894	覚(発機隊入隊願)	状	1通	卯(慶応3年)十月十九日	佐伯郡小方村百姓力之進		14.2×14.9	諸口紙		黒文長方印[ ]1顆	II-21-128-8
1895	[達書](諸御仕向物として左之品々丈御人数ニ応し御貸渡し被下候事)	状	1通	三月廿四日	御勘定所		14.4×42.2	諸口紙		端裏書「写し」	II-21-129
1896	御触写し(当地詰合の家来, 猥ニ市中人寄り之場へ罷越候儀につき)	状	1通	四月五日			12.2×32.4	半紙		端裏書「御触写し」, II-21-115の御触1通目と同内容	II-21-130
1897	[達書](御供揃遅参之向も有之, 御不都合ニ付)	状	1通	三月廿七日			14.5×18.5	諸口紙		端裏書「写し」	II-21-131
1898	[達書](右之者禁令を犯し酒肆ニ入飲食致候につき)	状	1通	十月廿七日	発機隊執事		14.0×53.5	諸口紙			II-21-132
1899	御道路(京都本陣以下, 住所一覽)	状	1通	江戸末～明治初期			17.1×74.9	三桎紙			II-21-133
1900	口演(家伝居物之義につき)	状	1通	十一月六日	尾関幸之進		14.4×32.5	諸口紙			II-21-134
1901	[達書](明廿二日より練兵相始候事)	状	1通	十二月廿一日	発機隊執事	組頭中様, 大砲長様	15.2×28.5	楮紙		紙帯にてII-21-135-1～4を一括, 端裏書「急達」, 懸点(墨)	II-21-135-1
1902	[達書](當門締合之義及び稽古始メ候節, 貝を以て相通し候定りにつき)	状	1通	十二月廿二日	発機隊執事	組頭中様, 大砲長様, 武器司様, 輜重司様	15.2×69.2	楮紙		懸点(墨)	II-21-135-2
1903	[達書](此度御参内等義為在候節)	状	1通	十二月廿二日	発機隊執事		15.3×39.5	楮紙			II-21-135-3
1904	口上之覚(尾関幸之進, 除隊絶交仕候事)	状	1通	十一月	津川徳三郎		14.5×35.4	諸口紙			II-21-135-4
1905	[書付](除隊絶交被命, 今更何も申ニ不及義につき)	状	1通	十月廿七日	藤田次郎, 丹出薫之丞, 藤田太久蔵	津川徳三郎様, 西川利三郎様	12.0×27.4	半紙			II-21-136
1906	[達書](當門往来関札ニ而通行につき)	状	1通	十二月廿二日	発機隊執事	組頭中様, 大砲長様	15.2×32.7	楮紙		懸点(墨), 紙帯付属	II-21-137
1907	口上之覚(此度槍隊相詰委細之義)	状	1通	十月			14.0×25.4	色諸口紙			II-21-138
1908	口上之覚(新究流相学ひ尽忠仕度ニ付, 除隊之義歎願仕候)	状	1通	十月	藤田次郎		12.1×31.3	半紙		包紙(24.0×11.6, 半紙)「口上書 一通 藤田次郎」, II-21-136の「別紙口上書三通」のうち	II-21-139
1909	口上之覚(新究流相学ひ尽忠仕度ニ付, 除隊之義歎願仕候)	状	1通	十月	丹出薫之丞		12.1×31.6	半紙		包紙(24.5×12.0, 半紙)「口上書 老通 丹出薫之丞」, II-21-136の「別紙口上書三通」のうち	II-21-140
1910	口上之覚(新究流相学ひ尽忠仕度ニ付, 除隊之義歎願仕候)	状	1通	十月	藤田太久蔵		12.4×30.4	半紙		包紙(24.4×12.1, 半紙)「口上書 老通 藤田太久蔵」, II-21-136の「別紙口上書三通」のうち	II-21-141

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1911	口上之覚(右之者共除隊之義申出候ニ付)	状	1通	江戸末～明治初期			15.2×57.7	楮紙		「藤田次郎, 丹出薫之丞, 篠村幾藏, 佐久間義一郎, 藤田太久蔵」	II-21-142
1912	[達書](当度御上京御供之節, 着服之義につき)	状	1通	十一月			14.4×20.5	諸口紙			II-21-143
1913	[達書](帰隊・除隊等申談沙汰)	状	1通	五月	隊長		14.5×68.5	諸口紙			II-21-144
1914	[達書](若殿様御療養につき御暇之義)	状	1通	閏四月六日			14.5×47.5	諸口紙		紙帯付属	II-21-145
1915	[時局に関し家士への書付]	状	1通	(慶応2年5月15日)	(頼誠軒カ)		25.0×34.6	半紙	2	校訂(墨), 『広島県史 近世資料編IV』No.2200と同内容	III-127
1916	覚(右の六品伊藤亀蔵殿へ相渡申候につき)	状	1通	八月六日	頼東三郎(誠軒)		16.5×34.3	三桎紙			III-133-4
1917	[書付](餘一妻出産ニ付, 餘一義来ル十七日迄血忌罷在候事)	状	1通	十二月十一日	頼東三郎	青野保太郎様, 藤卷善三太様	14.2×27.3	諸口紙		封上書「青野保太郎様, 藤卷善三太様 頼東三郎」, 封上書を二度記載	III-247-45
1918	告柩文(頼聿庵死去の際)	状	1通	(安政3年)九月二日夜御葬期	(頼誠軒)		14.5×46.3	諸口紙			III-249-7
1919	口上之覚(頼介石義, 賀茂郡飯田村に引移ニ付伺書案文)	状	1通	十二月十六日	頼東三郎(誠軒)		14.4×41.3	諸口紙		端裏貼紙「頼東三郎」, 校訂(貼紙に墨)	III-240-1
1920	口上(同姓餘一義, 学問所再勤御知せ案文)	状	1通	(嘉永4年)十二月廿四日	(頼誠軒カ)		14.5×22.9	諸口紙		端裏書「御知セ案文」	III-243-16
1921	覚(多葉粉屋八兵衛へ借用ニ付, 私知行之内返済之御請合頼存候事)	状	1通	嘉永三年戊子十月	頼東三郎	望月弥五郎殿, 植田清人殿	29.1×45.6	諸口紙		黒文印1顆(墨抹)	III-250-4
1922	口上之覚(同姓餘一義, 御前講釈失念ニ付差控伺書案文)	状	1通	八月廿一日	頼東三郎(誠軒)		14.4×24.1	諸口紙		校訂(貼紙に墨)	III-250-29
1923	口上(私妹, 渡辺又三倅每三郎妻ニ縁組ニ付御案内)	状	1通	六月七日	(頼誠軒)		14.5×15.2	諸口紙			III-251-10-1
1924	口上(私妹, 渡辺又三倅每三郎妻ニ縁組ニ付御案内)	状	1通	六月七日	(頼誠軒)		14.5×15.8	諸口紙			III-251-10-2
1925	口上(私妹, 渡辺又三倅每三郎妻ニ縁組ニ付御案内)	状	1通	六月七日	(頼誠軒)		14.5×15.4	諸口紙			III-251-10-3
1926	口上(私義, 歩行頭次席被仰付ニ付御案内)	状	1通	十一月十日	(頼誠軒カ)		14.4×15.1	諸口紙			III-251-11-1
1927	口上(私義, 歩行頭次席被仰付ニ付御案内)	状	1通	十一月十日	(頼誠軒カ)		14.5×15.2	諸口紙			III-251-11-2
1928	覚(倅東三郎御目見願書控)	状	1通	(天保12年)五月十九日	頼餘一協	藤田新五郎様, 満田九郎左衛門様, 竹腰隼人様, 木村一学様	28.2×41.2	諸口紙			III-290-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1929	〔達書〕(同氏東三郎儀御目見仕七度旨, 願之通之事)	状	1通	(天保12年)六月三日	安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 木村一学, 二川清記	頼餘一殿	14.1×53.7	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 木村一学 二川清記」	III-290-2
1930	覚(倅東三郎袖留願書控)	状	1通	(天保14年)七月十七日	頼餘一	安井平兵衛様, 満田九郎左衛門様, 竹腰隼人様, 二川清記様, 谷崎平司様	28.7×39.6	諸口紙			III-290-3
1931	〔達書〕(同氏東三郎儀, 袖留申度旨, 願之通之事)	状	1通	(天保14年)七月廿三日	安井平兵衛, 満田九郎左衛門, 竹腰隼人, 二川清記, 谷崎平司	頼餘一殿	13.9×57.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿, 安井平兵衛 満田九郎左衛門 竹腰隼人 二川清記 谷崎平司」	III-290-4
1932	覚(倅東三郎前髪執願書控)	状	1通	(弘化2年)11月	頼餘一	藤田新五郎様, 二川清記様, 梶川角右衛門様, 谷崎平司様	28.5×39.2	諸口紙		朱汚れあり	III-290-5
1933	〔達書〕(同氏東三郎儀前髪執七度旨願之通之事)	状	1通	(弘化2年)十一月晦日	藤田新五郎, 二川清記, 梶川角右衛門, 谷崎平司	頼餘一殿	13.8×46.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 藤田新五郎 二川清記 梶川角右衛門 谷崎平司」	III-290-6
1934	〔達書〕(御用之儀候間, 今夕一学宅へ可被相越候)	状	1通	正月十九日	木村一学, 二川清記, 梶川角右衛門, 谷崎平司	頼餘一殿	14.0×46.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 木村一学 二川清記 梶川角右衛門 谷崎平司」	III-290-8
1935	〔達書〕(倅東三郎儀, 京都又二郎方江滞留仕度旨願之通之事)	状	1通	(嘉永2年)九月七日	梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 黒田図書, 吉田儀右衛門	頼餘一殿	13.8×54.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 梶川角右衛門 谷崎平司 吉村孫三郎 黒田図書 吉田儀右衛門」	III-290-9
1936	〔請書〕(京都逗留中 御内御用相勤候様之儀ニ付)	状	1通	(嘉永3年)正月十二日	頼東三郎	天野保允様, 近藤万之進様	14.1×50.0	諸口紙			III-290-10
1937	覚(戸田三五郎倅他八郎二男啓次郎仮養子願書控)	状	1通	(嘉永3年)二月廿二日	頼東三郎	安井勇之丞様, 堀江太左衛門様, 松宮瀧次郎様	35.8	諸口紙			III-290-11
1938	〔達書〕(自今大御小姓頭支配被仰付候)	状	1通	(嘉永3年)三月六日	山田隼之助, 今中権六	頼東三郎殿 (誠軒)	13.9×29.8	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 山田隼之助 今中権六」	III-290-12
1939	〔達書〕(家督御礼被為請ニ付, 鳥目三拾疋用意之事)	状	1通	(嘉永3年)三月七日	山田隼之助, 今中権六	頼東三郎殿	13.9×36.7	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 山田隼之助 今中権六」	III-290-13

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1940	[奉書](知行高百三拾石)	状	1通	(嘉永3年3月6日)		餘一家督頼東三郎(誠軒)	33.5×11.8	奉書紙			III-290-14
1941	[奉書](学事之儀弥以相励候様被仰出)	状	1通	(嘉永3年3月6日カ)		頼東三郎(誠軒)	16.8×23.7	奉書紙			III-290-15
1942	[奉書](金五両為書物料毎歳被下之)	状	1通	(嘉永3年3月6日カ)		頼東三郎(誠軒)	16.9×23.9	奉書紙			III-290-16
1943	口上之覚(私妻離縁仕, 和田佐兵衛方江差戻ニ付)	状	1通	八月十二日	頼東三郎(誠軒)	浅野造酒様	14.5×38.3	諸口紙		端裏貼紙「頼東三郎」	III-290-20
1944	[奉書](頼東三郎江福地清見妹願之通縁組)	状	1通	(安政3年2月)		(頼誠軒)	16.6×23.9	奉書紙			III-290-21
1945	[案内控](福地清見様御妹東三郎妻ニ縁組ニ付御知せ)	状	1通	(安政3年)三月朔日	頼東三郎内兼村新六	三原屋源次郎様	14.5×21.5	諸口紙		封上書「三原屋源次郎様 頼東三郎内 兼村新六」, 端裏書「五日市」	III-290-22-1
1946	[案内下書](福地清見様御妹東三郎妻ニ縁組ニ付御知せ)	状	1通	(安政3年)三月朔日	(頼東三郎内兼村新六)		14.4×23.0	諸口紙		端書『此ノ分十枚』, 校訂(朱), 『此ノ分十枚』との記載あり, III-290-22-1の下書	III-290-22-2
1947	[御祠堂告文下書](元啓去月廿九日娶福地清見妹)	状	1通	安政三月丙辰三月上巳	玄孫元啓(頼誠軒)		19.8×27.8	小半紙		校訂(墨)	III-290-23
1948	覚(頼東三郎妹, 私倅徳三郎縁組ニ付願書控)	状	1通	二月四日	(渡辺又三)	菅勘解由様, 蒲生司書様, 石井修理様, 仙石志摩様	14.4×22.0	諸口紙		願書を「諸口堅紙, 半紙半枚ニ而服紗包」にするよう注記あり	III-290-24
1949	[奉書](妹 渡辺又三倅毎三郎妻ニ縁組仕度旨, 願之通之事)	状	1通	江戸後期		頼東三郎	16.8×23.5	奉書紙			III-290-26
1950	[書付](多門居住萬吉義, 多門明ヶ之儀ニ付)	状	1通	九月五日	頼東三郎(誠軒)	湊源太郎様, 蒲生織之助様	14.6×69.1	諸口紙		封上書「湊源太郎様 蒲生織之助様 頼東三郎」	III-290-27
1951	口上之覚(私義有馬へ湯治并に亡叔展墓仕度儀ニ付伺書控)	状	1通	(明治4年カ)	(頼誠軒)		14.6×30.1	諸口紙		校訂(墨)	III-290-30
1952	口上之覚(私儀当夏秋中, 足袋相用申度ニ付伺書控)	状	1通	三月	頼東三郎(誠軒)		14.2×19.7	諸口紙			III-290-31
1953	口上(私義御側医師並被仰付ニ付, 御知せ)	状	1通	(文久4年)二月七日	松岡良達	頼東三郎様(誠軒)	14.4×15.1	諸口紙		封上書「頼東三郎様 松岡良達」	III-290-32
1954	[届出控](愚荆義今曉以来難義ニ付得出勤不仕候事)	状	1通	八月四日	頼東三郎(誠軒)	教授中様	14.5×25.5	諸口紙		封上書「教授中様 頼東三郎」	III-290-33
1955	[届出控](私義, 無拋義ニ付今日得出勤不仕候事)	状	1通	十一月六日	頼東三郎(誠軒)	教授中様	14.3×23.0	諸口紙		封上書「教授中様 頼東三郎」 端裏書「○老君林家之事, 松崎慊堂之話可記」	III-290-34
1956	覚(当月分飯用米ニ付御通達願書控)	状	1通	三月十六日	頼東三郎(誠軒)		14.0×18.2	諸口紙			III-290-35
1957	[書付](東三郎・名前披露)	折紙	1通	(文政12年9月カ)	(頼聿庵カ)		17.0×46.9	杉原紙			III-290-36
1958	御意書付(版籍奉還ニ付知行返上・俸禄の心得)	紙本木版状	1通	(明治2年)七月			16.8×48.2	奉書紙		包紙(24.7×17.2, 半紙, 木版摺)「御意書付」	III-290-37

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1959	[奉書](今般奉朝旨秩禄想定別紙之通)	状	1通	(明治2年)十月		頼東三郎(誠軒)	20.2×49.3	奉書紙		包紙(33.5×48.1, 奉書紙), 端書「頼東三郎」	III-290-38-1
1960	[別紙](此後中士ニ被差置候事)	状	1通	(明治2年)10月		頼東三郎(誠軒)	17.1×23.9	奉書紙		包紙(33.8×48.1, 奉書紙), 端書「頼東三郎」	III-290-38-2
1961	覚(頼誠軒家督相続御履歴)	状	1通	(明治2年)カ	元啓(頼誠軒)		22.4×26.0	小半紙		嘉永3年3月6日～明治2年11月29日の履歴	III-290-39
1962	[奉書](第十一級師員任命)	状	1通	(明治2年)八月廿四日		頼東三郎(誠軒)	16.8×23.7	奉書紙		黒文方印「政事堂印」1顆, 明治2年8月24日の藩庁職制改定時のもの	III-290-40
1963	[奉書](第十級ニ被差置学校教授任命)	状	1通	(明治2年)十一月廿九日		頼東三郎(誠軒)	16.4×23.3	奉書紙		黒文方印「政事堂印」1顆, 明治2年11月29日の藩庁各部課職制改定時のもの	III-290-41
1964	[直諭書](藩主引留騒動ニ付領民へ申諭す書付)	紙本木版状	1通	(明治4年)9月	長訓(浅野長訓)		18.9×154.7	奉書紙		旧藩主引留闘争(武一騒動)の際の浅野長訓「直諭書」(明治4年9月23日)カ	III-290-42
1965	履曆書(明治四年十月～八年十一月四日)	状	1通	明治八年九月	広島県士族頼元啓(誠軒)		28.0×40.3	諸口紙			III-290-43
1966	[紙袋](家君ニ関スル書類)	紙袋	1点	(大正～昭和初めカ)	士族現戸主頼弥次郎(古樸)		25.5×19.5	楮紙		表書「家君ニ関スル書類 広島県広島市袋町ニ二百卅番邸在籍, 現住所同断 士族現戸主 頼弥次郎, 同・裏「記 一, 明治四年廢藩置県ノ際戸主タリシモノ頼東三郎, 後頼元啓ト改名候モ年月日不詳, 一, 明治十六年三月廿三日父退隠, 拙者相続セリ」	III-290-44
1967	[達書](御用有之ニ付登庁可有之候)	状	1通	辛未十月十二日(明治4年)	広島県庁	頼東三郎殿	16.3×37.4	奉書紙			III-290-45
1968	[任官書](広島県少属出仕申付候事)	状	1通	辛未十月(明治4年)	広島県	頼東三郎(誠軒)	20.6×56.5	奉書紙		端書(頼古樸筆)「明治4年十月, 一」, 別紙(13.8×7.5, 色諸口紙)あり, 「民事戸籍係」との記載あり	III-290-46
1969	[達書](事務取扱ニ不及候事)	状	1通	壬申二月十六日(明治5年)	広島県	頼東三郎(誠軒)	16.9×24.0	奉書紙		端裏書(頼古樸筆)「明治五年二月, 二」	III-290-47
1970	[達書](御用有之候条, 出頭可有之候也)	状	1通	壬申七月廿五日(明治5年)	広島県	頼東三郎(誠軒)	15.3×42.3	杉原紙			III-290-48
1971	[任官書](任職島社権祢宜)	状	1通	壬申八月十七日(明治5年)	広島県	頼元啓(誠軒)	19.0×51.1	奉書紙		端裏貼紙「頼元啓」	III-290-49
1972	[差免書](依頼免本官)	状	1通	壬申十月八日(明治5年)	広島県	頼元啓(誠軒)	18.8×51.9	奉書紙		端裏書(頼古樸筆)「明治五年十月, 三」	III-290-50
1973	[任官書](庶務課被命)	状	1通	明治七年十二月三日	広島県	広島縣等外五等元啓(誠軒)	18.7×26.0	奉書紙		端裏書(頼古樸筆)「四」	III-290-51
1974	[任官書](広島縣等外五等申付候事)	状	1通	明治七年十二月三日	広島県	頼元啓(誠軒)	20.4×28.3	奉書紙		円印3顆, 端裏書(頼古樸筆)「五」, 別紙(14.0×5.1, 諸口紙)あり, 「記録頼元啓」との記載あり	III-290-52
1975	[任官書](国史編修係申付候事)	状	1通	明治七年十二月八日	広島県	広島縣等外五等 頼元啓(誠軒)	18.7×26.1	奉書紙		端裏書(頼古樸筆)「六」	III-290-53
1976	[任官書](広島縣等外四等申付候事)	状	1通	明治八年三月五日	広島県	広島縣等外五等 頼元啓(誠軒)	20.4×28.4	奉書紙		端裏書(頼古樸筆)「七」	III-290-54

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1977	[差免書](等外四等差免候事)	状	1通	明治八年三月三十一日	広島県	広島縣等外四等頼元啓(誠軒)	20.4×28.3	奉書紙		端裏書(頼古楳筆)「八」	III-290-55
1978	[辞令](一ヶ月金五円ヲ以テ教員江相雇候事)	状	1通	明治八年十月四日	広島英語学校	広島縣土族頼元啓(誠軒)	20.5×28.2	奉書紙		端裏書(頼古楳筆)「九」	III-290-56
1979	[褒称書](小学校建築費寄附ニ付差遣候事)	状	1通	明治八年十一月	広島県	頼元啓(誠軒)	20.3×38.8	奉書紙		朱文方印「広島縣」1顆, 端裏書(頼古楳筆)「十」	III-290-57
1980	[差免書](依頼雇差免候事)	状	1通	明治九年九月廿六日	広島英語学校	頼元啓(誠軒)	17.7×23.9	奉書紙			III-290-58
1981	[辞令](幟町学校習字教員備入候事)	状	1通	明治十一年一月卅一日	第一大区会議所	頼元啓(誠軒)	15.7×22.4	杉原紙			III-290-59
1982	[挨拶状控](御年寄衆連盟ニテ御奉書之儀御歎申上候)	状	1通	六月九日	頼東三郎(頼誠軒)	長谷川半外様	14.2×53.5	諸口紙		封上書「長谷川半外様 頼東三郎 要用差向義」, 校訂(墨)	III-290-62
1983	[木村林三郎江貸金之義, 証人并返済義務ニ付, 一筆]	状	1通	明治十三年十月十九日	頼又二郎(支峰)	頼元啓殿(誠軒)	23.9×33.9	半紙		白文方印「頼復」1顆	III-291-7
1984	[通達](西京在住頼又次郎儀, 此度当県へ復籍の事)	状	1通	(明治4年)八月十八日	中井権少参事	頼藤三郎殿(誠軒)	13.7×41.4	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 中井権少参事」	III-291-11
1985	奉願口上之覚(支峰復籍につき願書写)	縦帳	1冊	明治四辛未四月	京都三本木儒業頼又次郎	広島藩公用方御中	27.0×19.1	雁皮紙	4	表紙右上に藩庁付札の写を貼付, 『写シ壱号』との記載あり	III-291-12-1
1986	[支峰復籍に付, 広島県京都詰合給文書写]	状	1通	明治四年辛未九月	広島県京都詰合高木源大夫	頼又次郎(支峰)	26.6×38.2	雁皮紙		『写シ弐号』との記載あり	III-291-12-2
1987	[伺書](倅儀, 前髪取・御目見・妾原届ヶ之事)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		14.3×10.1	諸口紙		付札(13.6×6.9, 色諸口紙)あり	III-294-11
1988	[達書](万吉儀, 別紙之通今日裁許有之候ニ付)	状	1通	十月廿八日	湊源太郎, 蒲生儀之助	頼東三郎様(誠軒)	13.9×35.0	色諸口紙		紙帯にてIII-294-33-1~2を一括, 包紙「頼東三郎様 湊源太郎・蒲生儀之助」, 封上書「頼東三郎様 湊源太郎 蒲生儀之助」	III-294-33-1
1989	[達書](其方儀, 盜業相働并偽名申出ニ付)	状	1通	十月廿八日		頼東三郎多門住口舍万吉	13.9×31.5	色諸口紙		端裏書「写」	III-294-33-2
1990	[上申書控](一昨日御達御座候万吉諸道具別紙之通之事)	状	1通	十月晦日	頼東三郎(誠軒)	湊(様), 蒲生(様)	14.5×12.7	諸口紙			III-294-33-3
1991	[書付](今夕御咤申渡有之ニ付)	状	1通	(嘉永2年10月)九日	(北川)猪太郎	餘一様 東三郎様(誠軒)	13.9×43.2	色諸口紙		封上書「餘一様 東三郎様 猪太郎」	III-294-38
1992	[書付](他所出御願書差出方義ニ付)	状	1通	(嘉永2年)十一月廿九日	北川猪太郎	東三郎様(誠軒)	13.6×53.0	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 北川猪太郎 差向」	III-294-39
1993	[達書](申渡御用之儀候間, 今夕直記宅江可被出候)	状	1通	(嘉永3年)十月九日	西川直記, 山田隼之助	頼東三郎殿(誠軒)	14.0×30.8	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 西川直記 山田隼之助」	III-294-40
1994	覚(従事三千三大坂にて, 当戊年より五ヵ年学事修業願書案文)	状	1通	(嘉永3年)	(北川猪太郎)		13.9×37.9	色諸口紙		端裏書「案文」, III-294-37の「別紙」案文カ	III-294-41
1995	[包紙]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		24.4×17.0	色半紙		付紙(14.3×5.0, 諸口紙)「三千三様 焔着延引之老条, 多門萬吉一条」, 紙帯付属, III-294-43~53の包紙カ, 反故紙使用, 反故紙「頼東三郎殿 西川直記 山田隼之助」,	III-294-42

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1996	〔願書控〕(従弟三千三大坂にて当成年方五ヵ年学事修業ニ付)	状	1通	(嘉永3年)十二月十九日	(頼誠軒)		14.6×46.0	諸口紙		Ⅲ-294-41の清書	Ⅲ-294-43
1997	口上之覚(三千三義大坂より帰着の届出控)	状	1通	(嘉永2年)八月廿六日	頼東三郎(誠軒)		14.6×29.7	諸口紙			Ⅲ-294-44
1998	口上之覚(三千三義叔父と願書相認候段, 差控伺書控)	状	1通	(嘉永2年)九月三日	頼東三郎(頼誠軒)		14.6×33.5	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-294-45
1999	口上之覚(私従弟三千三儀, 叔父と申出候ニ付別紙御引替之段伺書)	状	1通	(嘉永2年)九月三日	頼東三郎(誠軒)		14.6×25.4	諸口紙		Ⅲ-294-48の付札にて差戻しされたと思われる	Ⅲ-294-46
2000	〔達書〕(三千三儀, 叔父と申出心得達ニ付御叱申渡)	状	1通	(嘉永2年)		頼東三郎(誠軒)	14.0×35.9	色諸口紙		端裏書「口達」	Ⅲ-294-47
2001	〔付札〕(此両通夫々差控伺書可被差出候)	状	1通	(嘉永2年)		頼東三郎(誠軒)	14.0×7.2	色諸口紙		紙背に紙帯貼付	Ⅲ-294-48
2002	〔付札〕(返戻物)	状	1通	(嘉永2年)		頼東三郎(誠軒)	13.9×4.5	色諸口紙		紙背に紙帯貼付	Ⅲ-294-49
2003	口上之覚(三千三大坂学事修行願書延引ニ付差控伺書下書)	状	1通	(嘉永2年)八月廿六日	頼東三郎(誠軒)		14.6×44.0	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-294-50
2004	口上之覚(三千三大坂学事修行願書延引ニ付差控伺書下書)	状	1通	(嘉永2年)八月廿六日	頼東三郎(誠軒)		14.6×45.7	諸口紙		校訂(付紙に墨)	Ⅲ-294-51
2005	口上之覚(三千三大坂学事修行願書延引ニ付差控伺書下書)	状	1通	(嘉永2年)十月二日	頼東三郎(誠軒)		14.4×41.2	諸口紙		端裏貼紙「頼東三郎」, 付紙(13.9×8.3, 色諸口紙)「不良差控」	Ⅲ-294-52
2006	口上之覚(三千三大坂学事修行願書延引ニ付差控伺書控)	状	1通	(嘉永2年)八月廿六日	頼東三郎(誠軒)		14.6×43.7	諸口紙			Ⅲ-294-53
2007	〔書付〕(別紙之通り心付申越候に付)	状	1通	十一月二日	生十郎	頼先生	14.0×35.1	色諸口紙		紙帯にてⅢ-299-114~121まで一括, 封上書「頼先生 生十郎」	Ⅲ-299-114
2008	〔書付〕(二白:古江村五作帯刀之濟方に付)	状	1通	十一月朔			14.2×57.5	色諸口紙			Ⅲ-299-115
2009	〔書付〕(此度御築造之御台場薬庫入用木材に付)	状	1通	正月廿六日	池田和左衛門, 田中順介 / 小野大形, 小谷仁右衛門, 村上加一郎	小野大形様, 小谷仁右衛門様, 村上加一郎様 / 池田和左衛門様, 田中順介様	13.5×52.0	色諸口紙		封上書「小野大形様 小谷仁右衛門様 村上加一郎様 池田和左衛門田中順介」, 「様」を消し, 差出人に「様」を書入れ, 付紙(12.2×9.5 色半紙)あり	Ⅲ-299-116
2010	〔書付〕(御台場薬庫御入用板之儀に付)	状	1通	二月二日	又一	太助様	13.5×54.0	色諸口紙		封上書「太助様 又一」	Ⅲ-299-117
2011	〔書付〕(返納銀致落手, 別紙受取書進申候)	状	1通	六月十五日当賀	忠八郎	太八郎様	13.9×20.0	色諸口紙		封上書「太八郎様 忠八郎」	Ⅲ-299-118-1
2012	覚(吉田町中川四郎右衛門納銀証文)	状	1通	申六月十四日	絹座御役所別銀方	(太八郎)	24.6×13.0	色半紙		絹座役所公印1顆, 割印1顆	Ⅲ-299-118-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2013	〔伺書〕(此度有志之輩、築造之砲台に付)	状	1通	十一月四日	守下惣次郎	佐藤源右衛門様	13.5×58.4	色諸口紙		封上書「佐藤源右衛門様 村越孫六」	Ⅲ-299-119-1
2014	〔回答〕(砲台築調方之儀に付委細承知)	状	1通	十一月六日	佐藤源右衛門	村越孫六様	12.1×17.3	色半紙			Ⅲ-299-119-2
2015	〔達書〕(巖島上飯浜御台場江陣屋并火薬庫調方之儀に付)	状	1通	正月廿九日	西村保五郎、佐藤源右衛門、服部権右衛門	頼東三郎様(誠軒)	13.7×44.5	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 西村保五郎 佐藤源右衛門 服部権右衛門」	Ⅲ-299-120
2016	〔書付〕(松木御入用之儀に付)	状	1通	二月十三日	山下平八郎	頼東三郎様(誠軒)	14.5×42.0	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 山下平八郎」	Ⅲ-299-121
2017	〔伺書〕(杉丸太仕立に付、送り書宛はいつれと認候哉)	状	1通	十二月十八日	彦三	(二上)吉太郎様、半様	12.1×24.7	色半紙		紙帯にてⅢ-299-122～123まで一括、封上書「吉太郎様 半様 彦三」、注記(付紙に墨)	Ⅲ-299-122-1
2018	覚(材木値段書付)	状	1通	江戸後期	(彦三カ)		12.4×24.6	色半紙			Ⅲ-299-122-2
2019	覚(巖嶋浦へ砲台築造ニ付、陣屋入用木材問合せ)	状	1通	亥十二月	巖嶋浦出張之内船越八左衛門 服部虎蔵	(二上吉太郎)	14.1×36.1	諸口紙		注記(付紙に墨)	Ⅲ-299-123-1
2020	〔添状〕(別紙御申出之趣、相しらべ夫々下付紙通り之事)	状	1通	十二月十八日	(二上)吉太郎	(服部)虎蔵様	13.6×25.2	色諸口紙		Ⅲ-299-123-1の添状である	Ⅲ-299-123-2
2021	〔書付〕(同十二日、同十三日、米銀取かへ)	状	1通	江戸後期			14.2×4.7	諸口紙		後欠	Ⅲ-299-124
2022	〔書付〕(砲台築方ニ付、委細絵図面ニ而御渡し可被下候事)	状	1通	十二月二日	二上吉太郎	頼東三郎様(誠軒)	13.5×138.2	色諸口紙		染み汚れあり	Ⅲ-299-126
2023	諸取替覚(巖嶋砲台薬庫築造入用費)	状	1通	正月十三日～三月廿九日	蔵六出銀致置候事		12.1×121.5	半紙			Ⅲ-299-127
2024	〔書付〕(巖嶋砲台引受方人名)	状	1通	江戸後期			14.3×35.0	諸口紙			Ⅲ-299-128
2025	覚(私儀学事修業ニ付、京都頼又次郎方江罷越申度願書)	状	1通	(弘化2年)十二月十七日	頼東三郎(花押)(誠軒)	安井勇之丞様、松宮瀧次郎様	29.1×40.7	諸口紙		付札(13.9×5.9 色諸口紙)「願之通可被仕候(後略)」	Ⅲ-299-129
2026	口上之覚(私儀於伏見御屋敷、両殿様御目見仕度ニ付伺書)	状	1通	(弘化3年)三月十五日	頼東三郎(誠軒)		14.5×29.4	諸口紙		付札(13.9×8.1, 13.8×4.5, 色諸口紙)2枚あり、安井勇之丞より「申出之通可被仕候(後略)」と回答あり	Ⅲ-299-130
2027	〔書付〕(浅野豊後殿一昨日被致上京候事)	状	1通	十一月十七日	坂本十尋	頼東三郎様(誠軒)	13.6×27.6	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 坂本十尋」	Ⅲ-299-131
2028	〔達書〕(貴様御目見之儀ニ付、来ル七日伏見へ御出浮之事)	状	1通	十一月四日	坂本十尋	頼東三郎様(誠軒)	13.6×45.5	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 坂本十尋 急」	Ⅲ-299-132
2029	〔書付〕(砲台築造御入用木石之儀ニ付)	状	1通	十一月十日	山下平八郎	頼東三郎様(誠軒)	14.4×60.0	色諸口紙		封上書「頼東三郎様 山下平八郎」	Ⅲ-299-133
2030	〔達書〕(京都逗留中学事修行之余暇に御用相勤候事)	状	1通	正月六日	近藤万之丞、天野保允	頼東三郎殿(誠軒)	13.9×50.6	色諸口紙			Ⅲ-299-134

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2031	〔達書〕(岡田嘉治馬事, 御自分弟子ニ候条只今迄之通之事)	状	1通	七月十九日	木村左馬介	頼東三郎殿(誠軒)	13.9×40.6	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 木村左馬介」	III-299-138
2032	〔達書〕(若殿様御聴講ニ付, 各講習当番ニ示合之事)	状	1通	十一月四日	浅野久之助	頼東三郎様, 梅園権登様(誠軒ほか)	13.9×36.3	色諸口紙		封上書「頼東三郎様, 梅園権登様 浅野久之助」	III-299-140
2033	〔達書〕(家業之義ニ付, 今般此業御廃止之事)	状	1通	(明治時代)三月廿六日	寺田少参事, 中井権少参事	頼東三郎(誠軒)	13.6×35.1	色諸口紙		封筒(15.5×5.2, 色諸口紙)「頼東三郎殿 寺田少参事 中井権少参事」, 端裏書「頼東三郎」	III-299-141
2034	〔達書添札〕(御自分年齢実名家内書共可被差出候事)	状	1通	江戸後期		(頼誠軒カ)	13.9×6.1	諸口紙			III-299-142
2035	〔達書〕(御自分儀平士之御取扱ニ被成候ニ付)	状	1通	(明治初年カ)十二月廿日	浅野昌克	頼東三郎殿(誠軒)	14.5×38.0	諸口紙		封上書「頼東三郎殿 浅野昌克」	III-299-143
2036	〔届出〕(私儀明廿七日出頭可仕候処痔痛難儀ニ付出頭得不仕事)	状	1通	壬申(明治5年)七月廿六日	第一大区御用所	頼元啓(誠軒)	14.2×36.9	諸口紙		朱文方印「庶務課印」1顆, 封上書「第一大区御用所 四小区千百三十五番屋敷 頼元啓」, 付札(14.2×2.8, 色諸口紙)「此義快出之上案内可致候事」	III-299-144
2037	〔達書〕(御請疏并由緒書清書仕立ニ付)	状	1通	二月廿八日		頼東三郎(誠軒)	14.2×71.3	色諸口紙		端裏書「頼東三郎」	III-299-145
2038	〔書付〕(餘一殿江戸屋敷において御奥詰次席被蒙仰候につき)	状	1通	(天保3年)二月九日	福山亘, 河瀬貫次, 福山吉兵衛	頼東三郎様(誠軒)	14.3×60.5	諸口紙(黄色)		封上書「頼東三郎様 福山亘 河瀬貫次 福山吉兵衛」, 料紙は家老知行地の公用紙と同一カ	III-299-146
2039	〔達書〕(御用之儀候間, 麻上下着瀧次郎宅へ可被出候事)	状	1通	二月廿五日	堀江太左衛門, 松宮滝次郎	頼東三郎殿(誠軒)	14.5×43.8	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 堀江太左衛門 松宮滝次郎」, 注記(付紙に墨), 付箋「頼栄次郎受引」	III-299-147
2040	〔達書〕(御自分分従弟三千三儀, 大坂篠崎方にて学事修学ニ付)	状	1通	(安政元年)十一月廿四日	西川直記, 浅野久之助, 安井勇之丞	頼東三郎殿(誠軒)	14.0×60.5	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 西川直記 浅野久之助 安井勇之丞」	III-299-148
2041	〔達書〕(御用之儀候間, 麻上下着拙宅へ可被出候事)	状	1通	十一月廿日	堀江太左衛門	頼東三郎殿(誠軒)	14.4×44.2	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 堀江太左衛門」	III-299-149
2042	〔達書〕(御用之儀候間, 拙宅江可被出候事)	状	1通	十一月十四日	堀江太右衛門	頼東三郎殿(誠軒)	13.8×43.5	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 堀江太右衛門」	III-299-150-1
2043	〔任官書〕(頼誠軒分奠官任命)	状	1通	(江戸後期)11月14日カ)		頼東三郎(誠軒)	14.2×11.2	色諸口紙		III-299-150-1の中に卷込み	III-299-150-2
2044	〔此度主上崩御ニ付, 皇国内外情勢申上る書試〕	仮綴	1綴	(慶応3年カ)	(頼誠軒)		23.0×14.5	罫紙(楮紙)	4	校訂(朱, 墨, 付紙に墨)	III-299-155
2045	〔達書〕(御用之義ニ付登城命令)	状	1通	十一月廿八日	石原篤, 浅野秀, 岡村協	頼東三郎殿(誠軒)	13.9×37.3	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 石原篤 浅野秀 岡村協」	III-319-7
2046	愚考申上候覚(景讓への諫言)	横帳	1冊	正月 文化七年庚午之春ナルヘシ	梶山六一		14.4×46.2	諸口紙	6	注記(朱), 『文化七年庚午之春ナルヘシ 名思口字君修』との記載あり(頼春水筆), 別紙①(14.3×7.2, 諸口紙)「宮島富之合鑑御書き被成候事」, 同②(14.2×10.6, 諸口紙)「江戸算用別帖之内, 易本の値如何いたし候哉」	III-328-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2047	自警(此等件不改革候内ハ不安賦食候事)	状	1通	(文化5, 6年カ)四月六日	(頼春風カ)	元鼎へ	14.4×13.9	諸口紙		封筒(27.0×9.0, 楮紙)「羈旅之心得一卷 浅野氏作 短冊 母 小書付 竹原 警戒之書 梶山六一作」, 同・裏「元鼎遺書之内大切ニいたし有之分」	III-328-5-1
2048	[書付](権二郎重厚之人物ニ相成候様夢寢是のミ御座候)	状	1通	(文化5, 6年カ)四月六日カ)	(頼順カ)	(頼景讓)	14.9×6.5	楮紙(薄赤色)			III-328-5-2
2049	[褒賞目録](句読師訓導方へ出精に付 金壹両)	状	1通	江戸後期		頼権次郎(景讓)	15.5×21.4	奉書紙			III-184-6
2050	[任命書](訓導方へ相加日々出勤の事)	状	1通	江戸後期		頼権次郎(景讓)	15.3×21.5	奉書紙			III-184-7
2051	[任命書](句読師 本勤の事)	状	1通	江戸後期		頼権次郎(景讓)	15.7×22.3	奉書紙			III-184-8
2052	[下賜目録](句読師本勤ニ付, 毎歳被下之)	状	1通	江戸後期		頼権次郎(景讓)	15.7×22.	奉書紙			III-184-9
2053	覚(私義此後心懸相改家業出精, 相慎可申候ニ付誓詞)	状	1通	(寛政11年)己未十一月七日	進二郎事千蔵(頼養堂)	弥太郎様(頼春水)	24.8×34.5	半紙		包紙(24.5×17.3, 半紙), 表書「上 改革誓詞 進二郎事 千蔵拝具 寛政十一年 己未十一月」	III-181-6
2054	覚(頼佐一郎大坂勤番ニ付, 来戊年カ番分明知古成候事)	状	1通	西十二月廿九日		(頼佐一郎)	13.7×26.0	色諸口紙			III-241-5
2055	[達書](御用之儀, 候問, 明九日一家之内名代可有登城候)	状	1通	十二月八日	今中大学, 大橋主税, 辻豊前, 築山大蔵, 山田監物	頼佐一郎殿	14.1×47.0	色諸口紙		封上書「頼佐一郎殿 今中大学 大橋主税 辻豊前 築山大蔵 山田監物」, 付紙(14.1×2.6, 色諸口紙)「留守受 引之輩披見之事」	III-164-3
2056	[免状](一射延伝授)	状	1通	文化十一 戊四月六日	勝田太郎左衛門	頼佐一郎殿(采真)	15.5×11.1	杉原紙		包紙(24.0×33.5, 半紙)にてIII-180-1~8まで一括, 包紙「児薫履歴」	III-180-1
2057	[奉書](訓導方へ相加日に出勤命令)	状	1通	己巳(文化6年)八月廿日被仰付		頼佐一郎(采真)	15.8×22.5	奉書紙		端裏書「己巳八月廿日被仰付」	III-180-2
2058	[褒賞目録](句読師訓導方八月より出精ニ付金三百疋)	状	1通	己巳(文化6年)十二月十四日賜		頼佐一郎(采真)	15.7×22.2	奉書紙		端裏書「己巳十二月十四日 賜」	III-180-3
2059	[褒賞目録](句読師訓導方出精ニ付金壹両)	状	1通	江戸後期		頼佐一郎(采真)	16.0×22.6	奉書紙			III-180-4
2060	[褒賞目録](句読師訓導方出精ニ付金壹両)	状	1通	江戸後期		頼佐一郎(采真)	15.9×22.1	奉書紙			III-180-5
2061	[下賜品目録](句読師訓導方相勤ニ付藤紙六拾枚)	状	1通	江戸後期		頼佐一郎(采真)	15.8×22.6	奉書紙			III-180-6
2062	[褒賞目録](江戸講学所相勤ニ付為御褒美, 金壹両)	状	1通	戊辰十二月(文化5年)		頼佐一郎(采真)	15.8×22.4	奉書紙		端裏書「戊達十二月被下之」	III-180-7
2063	[書付](頼采真諱)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		16.0×45.0	杉原紙		黄染貼紙に諱を墨書	III-180-8
2064	[達書](願之通隠居ニ付, 家督は佐一郎支配方へ申渡候)	状	1通	(天保元年閏3月1日)		(頼杏坪)	14.1×21.5	色諸口紙			III-180-9
2065	遺言(頼古樸遺言書)	状	1通	大正十五年五月十三日	元緒(頼古樸)		19.5×43.3	楮紙		封筒(21.6×8.6)「遺言」, 同裏・青色印「廣島市袋町五五 頼彌次郎」	III-359-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
	頼秋蘭関係資料									Ⅲ-387-1～46まで一括(書状類・器物類を含む)	Ⅲ-387
2066	[通知]	紙本ペン書状	1通	(昭和28年3月6日消印)	東京都民生局世話部援護班整理掛	頼ステ殿	14.0×9.0	郵便葉書		封筒(20.3×8.4)にてⅢ-387-2～11まで一括, 封上書「頼ステ殿」, 「東京都上保谷郵便局」差出し	Ⅲ-387-2
2067	[通知]	紙本ペン書状	1通	(昭和26年カ12月28日消印)	(東京都民生局カ)	頼緯殿(秋蘭)	14.2×8.7	郵便葉書			Ⅲ-387-3
2068	[通知]	紙本ペン書状	1通	(昭和26年カ12月)	尾道久保丁郵便局	頼様	13.0×9.0	便箋			Ⅲ-387-4
2069	[通知]	紙本活版状	1通	(昭和27年カ)		(頼ステカ)	12.8×4.6	機械漉紙			Ⅲ-387-5
2070	[通知]	紙本活版状	1通	(昭和27年1月2日消印)	東京地方貯金局	頼ステ殿	14.2×9.0	郵便葉書			Ⅲ-387-6
2071	郵便往復はがき	紙本活版状	1通	昭和時代			14.1×18.0	郵便葉書		未使用	Ⅲ-387-9
2072	通帳受領証	紙本ペン書状	1通	昭和27年3月8日	本郷郵便局カ	頼惟勤	7.7×8.7	機械漉紙		黒文日付印	Ⅲ-387-10
2073	通帳受領証	紙本ペン書状	1通	昭和27年3月20日	上保谷郵便局カ	倉石武四郎	8.5×8.4	機械漉紙		黒文日付印	Ⅲ-387-11
2074	領収証書	紙本ペン書状	1通	昭和27年6月6日(領収印)	尾道税務署	頼緯	15.0×11.0	機械漉紙		領収印	Ⅲ-387-13-2
2075	領収証書	紙本ペン書状	1通	昭和27年6月6日(領収印)	(尾道税務署)	頼成一	15.3×10.9	機械漉紙		領収印	Ⅲ-387-13-3
2076	督促状	紙本ペン書状	1通	昭和27年6月7日	尾道税務署長八谷肇	頼成一殿	14.1×9.2	郵便葉書			Ⅲ-387-13-4
2077	[覚書]	紙本ペン書・鉛筆書状	1通	(昭和27年カ)	(頼惟勤)		17.9×22.8	便箋	2		Ⅲ-387-14
2078	納付税額通知書	紙本謄写版状	1通	昭和27年5月16日	尾道税務署長	頼緯(秋蘭)	18.3×26.0	機械漉紙		尾道税務署印	Ⅲ-387-15
2079	見積書	紙本謄写状	1通	(昭和27年)	石村請負業三好祐之	(頼惟勤殿)	21.1×15.5	見積書用紙		封筒にてⅢ-387-20-1～2を一括, 認印「三好」	Ⅲ-387-20-1
2080	領収証	紙本ペン書状	1通	昭和27年7月18日	三好石材店	頼殿	16.6×12.3	領収用紙		認印「三好」, 収入印紙貼付	Ⅲ-387-20-2
2081	指定金銭信託収益計算御通知	紙本ペン書状	1通	昭和27年9月決算	住友信託銀行株式会社東京支店	頼惟勤殿	10.4×14.9	通知書用紙		認印「小俣」3顆, 封筒付属, 写真2枚等在中	Ⅲ-387-21
2082	記	状	1通	昭和時代	(頼成一)		18.7×105.4	楮紙			Ⅲ-387-22-2
2083	退職手当使用書	状	1通	(昭和27年)	(頼惟勤)		29.0×20.7	原稿用紙	2	封筒2枚付属	Ⅲ-387-27
2084	[通知書]	紙本ペン書状	1通	昭和27年9月25日	尾道税務署長八谷肇	頼緯殿(秋蘭)	14.1×8.8	郵便葉書		封筒にてⅢ-387-28-1～5を一括, 朱文方印「尾道税務署長之印」, 担当者認印, 連送票貼付	Ⅲ-387-28-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2085	相続税につき回答	紙本ペン書状	1通	(昭和27年10月8日消印)	尾道税務署	頼惟勤殿	14.0×9.1	郵便往復葉書		朱文方印「尾道税務署長之印」, 担当者認印	Ⅲ-387-28-2
2086	普通為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和27年10月11日振出日附印)	上保谷郵便局	尾道税務署	13.5×6.0	受領証用紙		振出日附印	Ⅲ-387-28-3
2087	特殊郵便物受領証	紙本謄写状	1通	(昭和27年10月11日受付印)	東京上保谷郵便局		8.8×11.1	受領証用紙		受付印	Ⅲ-387-28-4
2088	領収証書	紙本ペン書状	1通	昭和27年10月13日	尾道税務署	頼緯殿(秋蘭)	17.6×12.7	領収証用紙		朱文方印「収入官吏之印」, 担当者認印, 封筒付属	Ⅲ-387-28-5
2089	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和27年2月11日振出日附印)	本郷郵便局		12.7×6.2	受領証用紙		封筒にてⅢ-387-29-1~2を一括, 振出日附印	Ⅲ-387-29-1
2090	特殊郵便物受領証	紙本謄写状	1通	(昭和27年2月11日受付印)	本郷郵便局		8.8×11.1	受領証用紙		受付印	Ⅲ-387-29-2
2091	[通知書]	紙本ペン書状	1通	昭和28年1月20日	尾道税務署長	頼成一殿	18.6×13.1	通知書用紙		封筒にてⅢ-387-30-1~2を一括, 朱文方印「尾道税務署長之印」, 担当者認印, 転送票貼付	Ⅲ-387-30-1
2092	領収証書	紙本ペン書状	1通	(昭和28年1月29日領収日附印)	尾道税務署	頼成一	14.8×10.6	領収証用紙		日本銀行歳入代理店領収印	Ⅲ-387-30-2
2093	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和26年12月21日振出日付印)	本郷郵便局		12.8×6.2	受領証用紙		封筒にてⅢ-387-31-1~7を一括, 振出日附印, 注記(鉛筆書)	Ⅲ-387-31-1
2094	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和26年12月21日振出日付印)	本郷郵便局		12.8×6.2	受領証用紙		振出日附印, 注記(鉛筆書)	Ⅲ-387-31-2
2095	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和26年12月21日振出日付印)	本郷郵便局		12.8×6.2	受領証用紙		振出日附印, 注記(鉛筆書)	Ⅲ-387-31-3
2096	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和26年12月21日振出日付印)	本郷郵便局		12.8×6.2	受領証用紙		振出日附印, 注記(鉛筆書)	Ⅲ-387-31-4
2097	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和26年12月21日振出日付印)	本郷郵便局		12.8×6.2	受領証用紙		振出日附印, 注記(鉛筆書)	Ⅲ-387-31-5
2098	小為替金受領証書	紙本印字状	1通	(昭和26年12月21日振出日付印)	本郷郵便局		12.8×6.2	受領証用紙		振出日附印, 注記(鉛筆書)	Ⅲ-387-31-6
2099	特殊郵便物受領証	紙本謄写状	1通	(昭和26年12月21日受付印)	本郷郵便局		8.8×11.1	受領証用紙		受付印	Ⅲ-387-31-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2100	領収書	紙本ペン書状	1通	昭和二十六年十月二十七日	尾道市金庫	頼成一殿	13.0×9.4	領収書用紙		領収印, 封筒, 添状付属	III-387-32
2101	[覚書]	紙本ペン書状	1通	(昭和27年カ)	(頼惟勤)		19.1×14.6	包装紙			III-387-34
2102	[写真](皇太子御成婚に付献上の楠製三ツ引出)	モノクロ写真状	1通	(昭和三十四年七月一日)			16.2×12.0	写真プリント紙		包紙にてIII-387-36-1~2を一括	III-387-36-1
2103	[写真](楠製三ツ引出献上に付宮内庁受納証)	モノクロ写真状	1通	(昭和三十四年七月一日)			16.2×12.0	写真プリント紙			III-387-36-2
2104	[香典袋]	包紙	1点	(昭和27年)	宇都宮文蔵ほか11名	(頼惟勤)	17.9×10.6	香典袋ほか		12名の香典袋	III-387-38
2105	[覚書](お供え品目など)	紙本鉛筆書状	1通	(昭和27年カ)	(頼惟勤)		24.4×33.4	楮紙			III-387-46
2106	[書付](九月六日献立)	状	1通	九月六日			13.8×21.7	諸口紙			III-372-86
2107	[触書写](関札を足ニ懸候段一ツ橋殿従士一同不届ニ付)	状	1通	申五月十九日			12.0×96.2	半紙			III-139-4-2
2108	[覚書](明日供物用注文控)	状	1通	十月廿三日	すきノき頼	小野や	14.1×23.4	諸口紙			III-290-81
2109	[有名諸侯への謀議を望む建白書]	状	1通	江戸後期			14.0×84.7	諸口紙		黒文長方印5顆, 校訂(墨)	III-325-59
2110	御触書写し(知行所御割替被下候ニ付)	状	1通	閏四月十八日			14.8×60.6	竹紙		端裏書「御触書写し」	III-139-1
2111	[達書](百代姫様ご逝去ニ付諸事穩便触)	状	1通	九月六日			28.5×45.9	色諸口紙		付紙(14.0×4.2, 色諸口紙)「郡中へ相達候日方二日之間諸事穩便之事」	III-139-4-1
2112	御触四通并御添触写(西洋諸国大砲之類發明ニ付, 文武之道相励候事)	状	1通	癸丑(寛政5年)十二月十四日			14.3×227.9	諸口紙		端裏書「癸丑十二月十四日公儀触御触四通并御添触写」	III-139-4-5
2113	[達書写](不益ニ手間懸り候菓子類料理等向後無用ほか諸事儉約の触)	状		六月朔日			13.9×710.1	諸口紙		文化2年以降の達書写(十月, 九月, 十一月…と順不同に月が並び六月朔日で終わる)	III-139-8
2114	教子五法(梅颯に与える教育の心得)	状	1通	江戸後期	(飯岡義斎)	(頼梅颯)	16.0×14.9	杉原紙			III-378-12
2115	覚(刀の鞘・研ぎ・柄直し代請求)	状	1通	辰三月	阿波亀介	頼様御用	14.5×19.6	諸口紙			III-308-4
2116	覚(銀五百匁請取證文)	状	1通	寛政十一年未正月廿八日	駒井大十郎	加藤御後室様	28.9×22.1	諸口紙		黒文長方印1顆, 包紙(24.4×17.2, 半紙)「受取」, 同(頼春水筆)「駒井へお民持参之五百匁受取書付 寛政十一年己未のとし」	III-166-29
2117	覚(青銅式指疋, 御番典相調候事)	状	1通	十二月廿九日	御香典方		14.2×7.9	色諸口紙			III-317-5
2118	覚(借金證文)	状	1通	六月五日	山崎屋新右衛門	清屋理三郎様	14.3×17.2	諸口紙		黒文円印1顆	III-166-10
2119	[案内](栄蔵様御儀, 御屋敷替ニ付)	状	1通	七月朔日	山路逸作	御支配人中様	14.4×21.4	諸口紙		封上書「御支配人中様 山路逸作」	III-317-24

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2120	口上(私孫の素読・手習御許容につき礼状)	状	1通	江戸後期	松崎久助		13.9×7.3	諸口紙			Ⅲ-168-15
2121	覚(進藤具足ノ證文)	状	1通	(文化9年ヵ)申四月廿八日	進藤吉之助内吉村善三	清垣屋理三郎殿	29.2×41.6	諸口紙		黒文円印2顆, 端裏書「進藤 具足ノ證文」	Ⅲ-166-4
2122	覚(達堂様借用五両口之書付)	状	1通	十月	正蔵	御屋敷様	24.2×34.4	半紙		包紙(24.2×22.0, 半紙)「杉巷御屋敷様 正蔵拝上, 達堂様御差引書付」	Ⅲ-185-10
2123	[覚書](少将様御生前御徳義書付)	状	1通	閏十一月	足立儀八郎		14.1×102.8	諸口紙		封上書「少将様御生前御徳義書付○足立儀八郎」	Ⅲ-123-22-1
2124	当日土産之品	状	1通	江戸後期			15.5×28.4	杉原紙		仮名(墨)	Ⅲ-169-1
2125	[書付](駕籠付の家来, 駕籠持人等につき確認)	状	1通	江戸後期			15.5×10.8	杉原紙		注記(朱), 朱書にて返答書入れ(『岸ノ出入者ヲ遣ヒ送りテ直ニ帰ル管ニ候』(まか))	Ⅲ-169-2
2126	[書付](当夕犬塚之妻御やとひ候事につき)	状	1通	江戸後期			15.5×6.9	杉原紙		注記(朱), 朱書にて返答書入れ	Ⅲ-169-3
2127	進物入用之方	状	1通	江戸後期			15.5×5.4	杉原紙		端裏書「進物入用之方」, 注記(朱), 「岸彦十郎 同 妻 同 倅」との記載あり	Ⅲ-169-4
2128	[書付](入輿之義等につき確認)	状	1通	江戸後期			15.5×61.6	杉原紙		注記(朱), 「岸氏者婦出参, 先生親迎にて休息之間をして上ノ下間へ同道」との記載あり, 朱書にて返答書入れ	Ⅲ-169-5
2129	覚(武器料として銀貳百二拾五匁受取)	状	1通	(文化3年)九月二日	福井	加藤様 取次	14.3×19.5	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「文化三年丙寅九月権次郎着具買入」	Ⅲ-184-3
2130	覚(長崎, 川上文北様へ差下候金子・御状一封覚)	状	1通	辰九月七日	對馬屋忠八郎	頼様	14.3×33.8	諸口紙		黒文円印「対島屋印」1顆	Ⅲ-308-22
2131	口上之覚(加藤三平退隠願書)	状	1通	(天保6年)			13.7×69.0	色諸口紙		「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-7
2132	1) [書付](似セ金銀錢拵へ并売捌候者, 召捕方相違置候事)	状	1通	六月			14.0×68.5	色諸口紙		紙縫にてⅢ-123-1-1~2を一括, 包紙(24.0×33.0)「従公儀被仰出候御書付写八通」	Ⅲ-123-1-1
2132	2) [達書](似セ金銀錢拵へ并売捌候者, 蔵科ニ処し候事)	状	1通	六月			13.9×95.0	色諸口紙			Ⅲ-123-1-2
2133	[達書](三都より旅稼の歌舞妓役者を抱入申間敷事)	状	1通	七月			14.0×121.5	色諸口紙			Ⅲ-123-3
2134	[達書](出家社人山伏修験神職の者に付, 左之通改革之事)	状	1通	六月			14.0×195.3	色諸口紙			Ⅲ-123-4
2135	[達書](馬の売買に付, 相定候値段より高直を禁じ候事)	状	1通	五月			14.0×130.6	色諸口紙			Ⅲ-123-5
2136	[達書](新板書物, 諸家蔵板之儀に付相触申候事)	状	1通	六月			14.2×250.6	色諸口紙			Ⅲ-123-6
2137	[達書](石燈籠, 庭石など高直売買を禁じ候事)	状	1通	七月			14.1×105.0	色諸口紙			Ⅲ-123-7
2138	[達書](新板医書之儀, 向後医学館へ一部宛相納候事)	状	1通	七月			14.2×48.1	色諸口紙			Ⅲ-123-8
2139	[達書](別紙之通, 於組支配方不洩様可被相触候)	状	1通	九月廿七日			14.0×26.5	色諸口紙			Ⅲ-123-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2140	[書付](牧野勝之進, 桜井六左衛門申出之通, 相調候事)	状	1通	江戸後期		牧野勝之進, 桜井六左衛門	14.0×17.0	色諸口紙			Ⅲ-123-15
2141	[覚書](月次講釈被仰付可然奉存候)	状	1通	江戸後期			11.9×19.6	色半紙			Ⅲ-123-16
2142	[紙片](御小姓筆頭方直達しニ御座候)	状	1通				14.2×2.2	諸口紙			Ⅲ-123-35
2143	覚(申七月四日宝屋小兵衛へたのミ遣し書付)	状	1通	(文化9年カ) 申七月四日			14.5×13.2	諸口紙		端裏書「申七月四日宝屋小兵衛へたのミ遣し書付」	Ⅲ-166-8
2144	[覚書](中嶋栄次ら御加増被仰付候ニ付, ほか)	状	1通	江戸後期			14.5×23.2	諸口紙		前欠, 料紙変色甚	Ⅲ-336-23
2145	[御国体御政事御根本につき伺書]	状	1通	江戸後期			15.7×29.5	三桎紙(薄墨色)		紙背に漢詩を朱書	Ⅲ-294-27
2146	1)書目録	仮綴	1綴	(文化6年)	(頼山陽)		12.3×34.6	半紙	2	Ⅲ-29-1~3を合綴, 注記(墨・朱), 懸点(墨)	Ⅲ-29-1
2146	2)外方より借用之書籍之覚, 外方へ用立置候分	仮綴	1綴	江戸後期	(頼山陽)		12.4×34.5	半紙	2	注記(朱), 懸点(墨), 借用先として『加藤』『寺川』『山口恕介』『世並屋』『久野喜太郎』『熊田長次郎』『村田順迪』『高橋忠平』『益村養庵』『林田京淳』『三谷素平』『金春伝九郎』『御多門』『金子清九郎』『山口』『岡田嘉祐』, 用立先として『坂井孫三郎へ』『加藤太郎三へ』『野村左中へ』の記載あり	Ⅲ-29-2
2146	3)[書目録]	折紙	1通	江戸後期	(頼山陽)		12.4×34.6	半紙		端書『○印ハ今度指引候御取分』, 注記(墨・朱), 校訂(墨)	Ⅲ-29-3
2147	[書目録]	仮綴	1綴	江戸後期	(頼山陽カ)		15.0×19.5	楮紙	2	2丁目が2枚に剥離, 虫損・破損甚	Ⅲ-334-41
	進藤氏婚礼に関する書付										Ⅲ-106
2148	[目録](進藤へ祝用ニ付)	仮綴	1綴	文化五年戊辰四月廿二日~(5月)廿一日			15.7×44.0	杉原紙	3	端書「文化五年戊辰四月廿二日 進藤へ祝用ニ付」, 校訂(貼紙に墨), 反故紙使用, 反故紙「進上 諸口 一」	Ⅲ-106-1
2149	祝用小かいもの	仮綴	1綴	文化五年戊辰三月一日~十一月九日	(頼春水)		12.4×17.1	半紙	8	端書「文化五年戊辰, 進藤氏へ嫁ニ付 祝用小かいもの」, 注記(付紙に墨)	Ⅲ-106-2
2150	[覚書](献立)	状	1通	江戸後期	頼春水		14.3×16.0	諸口紙		紙背墨書「虞」	Ⅲ-123-21-2
2151	[覚書](四書略図ほか書名等一覧)	状	1通	江戸後期	頼春水		14.5×45.6	諸口紙			Ⅲ-123-31
2152	1)[算用書](寛政4~6年)	状	1通	寛政四年壬子~寛政六年甲寅			29.0×46.1	諸口紙		Ⅲ-134-2-1の裏にⅢ-134-2-2を貼合, 端書(頼春水筆カ)「子 寛政四年壬子江戸へ行」「丑 寛政五年癸丑江戸方帰り」「寅 寛政六年甲寅」, 校訂(墨)	Ⅲ-134-2-1
2152	2)[算用書](文化元~2年)	状	1通	文化元年甲子~乙丑(文化2年)			15.2×46.2	楮紙		端書「子年 節序 文化元年甲子」「丑年 節序 乙丑」, 注記(朱), 反故紙4枚貼継, 反故紙「頼弥太郎様 北村庄助 外ニ書状相済」「善治」	Ⅲ-134-2-2
2153	1)[覚]	状	1通	巳暮~午七月(天明5~6年)	(頼春水)		14.4×16.1	諸口紙		紙縫にてⅢ-143-1-1~4を一括, 包紙(27.6×32.1, 楮紙, 両端破損)あり, 包紙「乙巳江戸出船後ヨリ丙午十二月マテ 丁未三月[ ] 室屋方米銀受渡通, 大和屋御扶持米通, 林方方此方江米銀受渡通, 阿部町役所書付等 室屋方毎年約メ書証文等ハ此外ニ有之」	Ⅲ-143-1-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2153	2)〔覚〕(林にて直払らふ)	状	1通	(天明5～6年)	(頼春水)		14.4×15.4	諸口紙			Ⅲ-143-1-2
2153	3)覚(午暮迄渡し, 茂八分)	状	1通	巳十一月十二日～午閏十月十八日 (天明5～6年)	(頼春水)		14.5×19.0	諸口紙			Ⅲ-143-1-3
2153	4)〔算用書〕(乙巳江戸出船後より丙午十二月)	状	1通	(乙巳)十一月十九日～丙午極月	(頼春水)		14.4×188.1	諸口紙			Ⅲ-143-1-4
	家計小簿										Ⅲ-144
2154	雑費(胡町家計)	横帳	1冊	(天明5年)九月十二日～(天明7年)十二月廿七日	(頼杏坪)		12.5×35.0	半紙	19	共紙表紙, 外題直書「雑費」, 訂正(朱, 墨), 注記(朱), 袋(20.0×12.5, 楮紙〔反故紙〕)あり, 袋「家計小簿」, 袋貼紙「万四郎引受算用破碎之事 丁巳四月 一口不逢」	Ⅲ-144-1
2155	雑簿	横帳	1冊	未(天明7)正月～亥(寛政3)十月十八日	(頼杏坪カ)		12.4×34.5	半紙	11	反故紙使用	Ⅲ-144-2
2156	〔銀受取につき覚〕	横帳	1冊	未正月二日～十二月晦日			12.4×34.5	半紙	4		Ⅲ-144-3
2157	〔算用書〕(申年)	横帳	1冊	申(天明8年)正月～十二月	(頼春水カ)		12.2×34.5	半紙	4		Ⅲ-144-4
2158	〔算用書〕(辛亥七月迄)	状	1通	辛亥(寛政3年)二月～八月	(頼杏坪カ)		14.5×22.8	諸口紙			Ⅲ-144-5
2159	〔算用書〕(庚戌十二月)	状	1通	庚戌(寛政2年)十二月	(頼杏坪カ)		14.0×47.2	諸口紙		加藤三平書簡(〔寛政二年〕十二月十三日付)の反故紙を使用, 封上書「頼万四郎様 不及御答 加藤三平」	Ⅲ-144-6
2160	覚(正月～三月扶持米売払荒算用)	状	1通	(天明7年)四月	(頼杏坪)		14.4×22.5	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「四月廿九日申来候書」	Ⅲ-144-7
2161	〔算用書〕(五人口飯米九石ほか)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		14.4×22.7	諸口紙		裏書「酒」	Ⅲ-144-8
2162	〔算用書〕(酉盆前)	状	1通	酉(寛政元年)盆前	(頼杏坪カ)		14.1×35.9	諸口紙		山田図書書簡(閏六月二日付)の反故紙を使用, 封上書「頼万四郎様 内用 山田図書」	Ⅲ-144-9
2163	〔算用書〕(辛亥盆前)	状	1通	辛亥(寛政3年)盆前	(頼杏坪カ)		17.0×34.0	杉原紙		訂正(墨), 山口貫右衛門書簡(七月九日付)の反故紙を使用, 封上書「頼万四郎様 玉几下 山口貫右衛門」	Ⅲ-144-10
2164	覚(未十二月米売払証文)	状	1通	未(天明7年)十二月	長田屋藤七	串田弥助様	24.0×22.8	半紙		黒文円印3顆	Ⅲ-144-11-1
2165	覚(未年頼氏差引書)	状	1通	(天明8年)正月	串田(弥助)		16.6×30.2	杉原紙		端裏書「未年 頼氏差引書」	Ⅲ-144-11-2
2166	〔林堅良書簡〕(書残銀につき)	状	1通	(寛政初期カ)極月晦日	(林)堅良拝カ)	(頼)万四郎様	14.2×28.8	諸口紙		封上書「万四郎様 御内用 堅良拝」	Ⅲ-144-12

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2167	[算用書] (壬子暮)	状	1通	壬子(寛政4年)暮	(頼杏坪カ)		14.0×28.0	諸口紙		山田清太郎書簡(十二月廿三日付)の反故紙を使用, 封上書「頼万四郎様 山田清太郎」	III-144-13
2168	[家族人別諸入用及び進物につき覚]	状	1通	(寛政初期カ)	(頼春水カ)		14.3×47.8	諸口紙			III-144-14
2169	覚(寛政元年算用書)	状	1通	(寛政元年)	(頼杏坪カ)		12.5×94.6	半紙		訂正(墨)	III-144-15
2170	辛亥歳暮到来物	状	1通	辛亥(寛政3年)歳暮	(頼春水カ)		12.3×34.7	半紙		訂正(墨), 算用書(同廿日～極月廿九日)の反故紙を使用	III-144-16
2171	戌盆前諸払	状	1通	戌(寛政2年)盆前	(頼杏坪カ)		16.3×52.1	杉原紙		訂正(墨), 某書簡(六月十五日付)の反故紙を使用, 封上書「頼万四郎様 □□□」	III-144-17
2172	庚戌会計	状	1通	庚戌(寛政2年)	(頼杏坪カ)		15.8×45.1	杉原紙		某書簡(二月十七日付, 頼杏坪宛カ)の反故紙を使用, 封上書「内用」	III-144-18
2173	覚(研屋町項目別決算)	状	1通	巳ノ秋より午之暮迄(天明5～6年)	(頼杏坪カ)		14.4×68.6	諸口紙		端裏書「研屋町」, 包紙にて八通一括, 包紙「留守并林堅良より江戸表江申越候算用書付 無用のもの 乙巳八月方丙午丁未ノ間」	III-144-19-1
2174	覚(胡町項目別決算)	状	1通	巳ノ秋より午十二月迄(天明5～6年)	(頼杏坪)		14.5×65.6	諸口紙		端裏書「胡町」, 注記(付紙に墨), 付紙「御褒金ハ室やへ入口申ニ付, 一口之算用ニ入り申候」	III-144-19-2
2175	未ノ春へこし有物建り	状	1通	未(天明7年)ノ春	(頼杏坪カ)		14.5×12.3	諸口紙			III-144-19-3
2176	覚(当春以来の残銀)	状	1通	(天明7年カ)当正月方七月迄	(頼杏坪カ)		14.1×13.5	諸口紙		注記(付紙「糊離れ」に墨), 付紙(7.3×9.5, 楮紙, 糊離れ)に「覚」(当春より四月までの残銀)の記載あり	III-144-19-4
2177	[惣算用] (巳八月～未三月)	状	1通	未(天明7年)四月廿八日	林堅良		14.3×11.6	諸口紙		注記(朱, 付紙に墨)	III-144-19-5
2178	巳七月方極月迄出入大辻之算用書付	状	1通	(天明6年)十月廿一日	(林堅良)		14.4×15.9	諸口紙			III-144-19-6
2179	室屋方巳年分算用前大辻午年江越ス分之銀高	状	1通	(天明6年)閏十月十二日至	(林)堅良	弥太郎様	14.2×14.8	諸口紙		黒文長方印2顆, 端裏書(林堅良筆)「弥太郎様 要用追書 堅良」, 端裏書(頼春水筆)「閏十月十二日至」	III-144-19-7
2180	惣算用(巳八月～午十二月)	状	1通	(天明7年カ)	(頼杏坪)		14.6×34.2	諸口紙		注記(付紙に墨), 「覚」二通(巳八月～十二月, 14.3×19.6, 諸口紙/午正月～十二月, 14.5×27.7, 諸口紙)を紙帯にて貼り継ぎ	III-144-19-8
2181	[算用書] (寛政六～八年)	状	1通	寅(寛政6年)、卯(寛政7年)、辰(寛政8年)	(頼春水カ)		28.8×34.3	諸口紙		後欠	III-144-20
2182	覚(祠堂木挽・普請始入用)	横帳	1冊	(寛政9年11月)五～六日	大原屋康二郎	(頼春水)	12.3×34.1	半紙	2	外題直書「頼様御用 大原屋康二郎」	III-144-21
2183	[覚] (墓参并療養かねニ而罷越候節土産類ひかへ)	状	1通	文化十二年乙亥十月	(頼春水)		11.9×62.0	半紙		端裏書(頼春水筆)「文化十二年乙亥十月墓参并療養かねニ而三十日御暇罷越候節土産類ひかへ」, 紙帯3, 紙縫1付属	III-155-1
2184	覚(御祝儀 九人)	状	1通	(文化12年)	(頼春風カ)		14.6×16.2	諸口紙		端裏書(頼春水筆カ)「新札式匆宛遣し」	III-155-2
2185	[覚] (土産類控)	状	1通	(文化12年)	(頼春水)		11.9×41.6	半紙		前欠カ	III-155-3
2186	[覚] (竹原到来物ひかへ)	状	1通	(文化12年)	(頼春風)		14.5×75.4	諸口紙		端裏書「竹原到来物ひかへ 此餘も可有之, □へも不少」	III-155-4

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2187	萬控(寛政十一年の算用控)	横帳	1冊	寛政十一年己未九月	(頼春水)		12.3×34.5	半紙	12	共紙表紙, 外題直書「萬控」, 表紙墨書「寛政十一年己未九月」「未小遣心」「寛政十一年己未」, 注記(朱), 反故紙を一部使用	III-158-1
2188	甲戌のとし受払(文化十一年の算用控)	横帳	1冊	甲戌のとし(文化11年), 正月九日～十二月廿四日	(頼春水)		12.6×34.2	半紙	9	注記(貼紙に墨), 書簡包紙の反故紙を使用	III-158-2
2189	御みやひかへ(祝儀の品目録カ, 土産物一覧カ)	横帳	1冊	江戸後期	(頼春水)		12.3×34.5	半紙	3		III-158-3
2190	[覚書](諸買物控)	状	1通	午十月～申五月	(頼春水)		14.5×21.9	諸口紙		注記(付紙に墨)	III-166-20
2191	覚(諸質入れ品控)	状	1通	未三月～午極月	(頼春水)		14.4×28.6	諸口紙		注記(付紙に墨)	III-166-23
2192	[覚書](暮向・上納・質物等約メ)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.5×31.1	半紙		端裏書(頼春水筆)「暮向 上納 質物等」『約メ』, 注記(付紙に墨)	III-166-28
2193	[覚書](鯛めし調理法)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		24.5×17.0	半紙		後補包紙(24.6×34.0, 半紙)「先君御書 誠ニ大切もの也」	III-182
2194	[覚書](左傳, 周礼訓雋, ほか書目録)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.0×17.5	諸口紙			III-336-49
2195	[覚書](尾翁手書, 柴翁代筆など来書の覚)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		17.8×23.2	楮紙		前藤庄六書簡の反故紙を使用(十一月廿八日付, 頼春水宛)	III-349-24
2196	[断片](恭昭院様御事)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×3.1	諸口紙			III-353-1
2197	[書付](左傳 国語 史記)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×10.3	諸口紙			III-353-3
2198	1) 餞別之控	状	1通	(文化7年)	(頼春水)		12.2×25.7	半紙		紙縫にてVI-2-3-1～2を仮綴, 「此分, 竹原方権次郎書にて申来候分」との記載あり	VI-2-3-1
2198	2) 江戸着到来控	折紙	1通	(文化7年) 廿一日～廿七日	(頼杏坪)		12.3×34.3	半紙		懸点(墨), VI-2-1・2に文化7年9月24日に「江戸入」との記載あり	VI-2-3-2
2199	[覚書](三之御丸, 二七之日)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×9.2	諸口紙		変色甚	III-177-5-1
2200	[覚書](愚筆之分御張立ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.5×5.3	三桎紙			III-177-5-3
2201	[覚書](此写本四冊に付)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		17.2×4.7	楮紙		紙背墨書「中井積徳大坂西成郡津国浪速古都」	III-177-6-1
2202	[覚書](詩草書画之事ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.1×2.8	半紙			III-177-6-2
2203	[覚書](桜井良蔵今秋之内ニ水戸へ遊申度申候ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		11.7×7.9	半紙			III-177-6-3
2204	[覚書](武助より冬読書餘相まち候へ共未未来候)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.4×6.4	半紙			III-177-6-4
2205	[覚書](瀬戸田八郎次, 当正月二日病死にて)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.4×4.5	楮紙			III-177-6-5
2206	[覚書](串田ハ二俵九月より参ると申候事)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.3×4.8	諸口紙			III-177-6-6
2207	[覚書](二月廿二日の献立)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.4×28.5	諸口紙			III-177-6-8

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2208	〔御政事筋天理人心ニ応じ候様御取斗之事〕	状	1通	江戸後期	(頼春水)		13.7×60.9	色諸口紙			Ⅲ-177-31
2209	〔覚書〕(省吾分筆本数の覚書)	状	1通	二月廿四日 ～七月九日	(頼春水カ)		17.0×18.0	楮紙			Ⅲ-290-78
2210	〔覚書〕(筆紙代銀控)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.1×18.3	諸口紙			Ⅲ-290-79
2211	〔覚書〕(高野山猫ヲ禁スルコトほか聞書)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		16.6×24.5	杉原紙		校訂(墨), 貼継跡あり	Ⅲ-290-84
2212	〔覚書〕(講堂造作ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		7.9×5.7	三桎紙 (薄藍色)			Ⅲ-290-85
2213	〔覚書〕(書簡宛所控)	状	1通	江戸後期	頼弥太郎		12.1×7.0	半紙		宛所に御園道栄・山田猪右衛門・木村八左衛門・築山嘉平の名あり	Ⅲ-290-88
2214	〔覚書〕(小石, 篠崎へ返事など)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.0×5.2	諸口紙		前欠	Ⅲ-290-95
2215	〔覚書〕(岡寿卿系図覚)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		15.7×10.8	楮紙		前欠	Ⅲ-290-96
2216	〔覚書〕(筑前候御快復之事ほか)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		11.7×3.5	色半紙		紙背に貼付跡あり, もと付紙カ	Ⅲ-292-27
2217	〔紙札〕(忠孝ニ幅・碑文二本)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		15.7×5.0	漉返紙		封筒(17.0×6.2)にてⅢ-295-21-1～11まで一括, 封筒「春水翁御遺墨」	Ⅲ-295-22-1
2218	〔書付〕(雑纂巻軸ニ卷仕立に付)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.2×5.6	半紙			Ⅲ-295-22-4
2219	〔春水書付〕(歌カルタの事, フクサ寸法, 地合の事)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.3×6.5	諸口紙		前欠カ, 全て朱書	Ⅲ-317-6
2220	留守之事(春水留守宅の心得)	状	1通	(寛政12年カ)	(頼春水)		15.5×30.5	杉原紙		変色・破損甚	Ⅲ-365-1
2221	〔覚書〕(藩学統一の事, 学問所日業乱れ候事)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.1×12.4	諸口紙		校訂(墨), 前後欠, 書状反故紙使用	Ⅲ-366-19
2222	〔書付〕(材木受渡し覚)	状	1通	七月十八日	頼弥太郎	御作事所	13.9×15.3	諸口紙			Ⅲ-372-87
2223	到来物覚	横帳	1冊	(寛政年間カ)	(頼梅颯)		15.8×42.5	杉原紙	2	首題「到来物覚」, 反故紙使用	Ⅲ-79
2224	覚(頼久太郎江戸行につき衣類調べ)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼梅颯カ)		14.5×48.3	諸口紙			Ⅲ-390
2225	〔覚書〕(酢・味噌・諸品支払控)	状	1通	江戸後期	(頼梅颯カ)		12.2×16.5	半紙			Ⅲ-290-80
2226	〔覚書〕(四十軒分, 赤飯具合)	状	1通	江戸後期	(頼梅颯)		8.8×24.9	半紙			Ⅲ-290-82
2227	〔覚書〕(法事ニ付, 諸品覚書ならびに代銀の事)	状	1通	江戸後期	(頼梅颯)		14.5×35.8	諸口紙			Ⅲ-290-91
2228	抄録	横半帳	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		12.2×17.0	半紙	32	共紙表紙, 外題直書「抄録」, 校訂(墨)	Ⅲ-278
2229	目録(書画)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		14.1×38.0	諸口紙			Ⅲ-133-7
2230	〔詩歌・書画目録〕	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		21.0×135.4	竹紙			Ⅲ-133-11
2231	量為(算用書)	状	1通	弘化三年丙午正月, 弘化三年丙午二月四日	(頼聿庵)		12.5×34.8	半紙			Ⅲ-134-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2232	覚(屏風壹双, 代金三十五両二而永代売払候一札)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		12.5×34.2	楮紙			Ⅲ-134-8
2233	覚(木坂文左衛門預ヶ物書画目録)	横帳	1冊	江戸後期	(頼事庵カ)		14.3×28.0	半紙	1	頭点(朱)	Ⅲ-134-9
2234	[覚](木坂屋利助へ返金ひかへ)	状	1通	三月十六日	(頼事庵カ)		14.6×46.5	諸口紙		端裏書『三月十六日認置 木坂屋利助江返金ひかへ』	Ⅲ-134-10
2235	[覚](書画目録)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		12.5×19.0	半紙		前後欠	Ⅲ-134-11
2236	目録(器物類)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.1×86.7	諸口紙			Ⅲ-134-12
2237	目録(器物類)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.1×67.8	諸口紙		注記(墨)	Ⅲ-134-13
2238	目録(書画類)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.2×38.5	諸口紙		注記(墨)	Ⅲ-134-14
2239	目録(書画九品)	状	1通	二月廿一日	頼(事庵カ)		16.6×57.5	楮紙		端裏書「書画目録」	Ⅲ-134-15
2240	目録(器物類・書画類・証文控)	状	1通	天保丁未五月十一日	頼氏(事庵カ)		14.1×164.5	諸口紙		黒文円印「口協」3顆, 包紙(28.9×21.5, 諸口紙)「目録」	Ⅲ-134-16
2241	[雑記](葬祭之禮など)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.7×30.6	楮紙			Ⅲ-136-1
2242	[雑記](不肖里など)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		29.0×22.9	諸口紙			Ⅲ-136-2
2243	[草稿](仁儀礼智之性について)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×51.1	半紙		校訂(墨), 注記(朱), 前欠, 2枚に剥離	Ⅲ-136-3
2244	夜話(徳川神君, 諸大名逸話)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×108.0	半紙		端裏書「軍談」	Ⅲ-136-4
2245	[雑記](論卷九礼云語など)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.8×34.6	半紙			Ⅲ-136-5
2246	[草稿](今ノ法事ハ儒ニ云ヘル祭ナリ)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×71.7	半紙		端裏書「八」	Ⅲ-136-6
2247	[雑記]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.0×34.7	半紙			Ⅲ-136-7
2248	[草稿](物之終様之事)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×18.0	諸口紙		端裏書「経儀」	Ⅲ-136-8
2249	[草稿](山陽遺稿の一部カ)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×34.8	諸口紙		批正(朱), 注記(付紙に墨)	Ⅲ-136-9
2250	[雑記](中庸の解釈について)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.2×76.6	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-136-10
2251	[草稿](論語中ノ君子小人ノコト)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		15.8×34.8	杉原紙		批正(朱), 後欠	Ⅲ-136-11
2252	[雑記](陳蔡小国についてなど)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.7×34.1	半紙			Ⅲ-136-12
2253	[草稿](癸未霜月十九日学館月次講義録)	状	1通	癸未(文政6年)霜月十九日	(頼事庵)		14.5×275.5	諸口紙		校訂(墨), 傍点(朱), 注記(朱)	Ⅲ-136-13
2254	[雑記](神前ニナライテほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.8×34.3	半紙			Ⅲ-136-14
2255	[雑記](不仁不義ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.2×85.1	半紙		校訂(墨), 前欠カ	Ⅲ-136-15
2256	[雑記](朝廷へ告ゲルを辺報, 朝廷ヨリノ使ヲ差と云事)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×5.9	諸口紙			Ⅲ-136-16
2257	[雑記](儒神方孝儒ノ末章…)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×4.8	諸口紙			Ⅲ-136-17
2258	[雑記](子貢曰ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×12.4	半紙			Ⅲ-136-18

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2259	〔條々見経名考〕	状	1通	癸未(文政6年)七月十三日抄録	(頼事庵)		14.4×67.0	諸口紙			Ⅲ-136-19
2260	〔草稿〕(李文子ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		17.0×46.1	杉原紙		注記(朱), 頼餘一宛森田六兵衛書簡(正月五日付)の反古紙を使用	Ⅲ-136-20
2261	祝文草案	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		25.1×21.0	竹紙		上書「祝文草案」(草案は朱書), 校訂(墨), 包紙カ(23.5×27.0, 半紙, 破損甚)付属	Ⅲ-136-21-1
2262	儀節	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		18.1×53.9	奉書紙		端裏書『元禄十一年戊寅四月改定』, 包紙カ(23.5×27.0, 半紙, 破損甚)付属	Ⅲ-136-21-2
2263	〔講義案〕(若殿様ニ付御著述之授)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.5×23.5	半紙			Ⅲ-136-22
2264	〔草稿〕(衣錦商綱一章について)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×34.8	半紙		校訂(墨), 後欠	Ⅲ-136-23
2265	〔草稿〕(中庸廿三章註釈)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.9×34.5	半紙			Ⅲ-136-24
2266	〔草稿〕(「子曰民可使由之不可使知之」註釈ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×75.0	半紙			Ⅲ-136-25
2267	〔草稿〕(愚案ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.5×85.2	杉原紙			Ⅲ-136-26
2268	〔雑記〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		25.2×34.7	半紙			Ⅲ-136-27
2269	〔草稿〕(講義録カ)	状	1通		(頼事庵カ)		12.2×20.3	半紙		2枚に剥離	Ⅲ-167-1-2
2270	梅颯院様七回御忌御参詣控帳	横帳	1冊	嘉永二年己酉十二月八日	(頼事庵)		14.5×45.5	諸口紙	3	共紙表紙, 外題直書「梅颯院様七回御忌御参詣控帳」, 表紙墨書「嘉永二年己酉十二月八日」	Ⅲ-195
2271	量為(手島御恩借之内, ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼事庵カ)		14.4×22.1	楮紙	2	共紙表紙, 外題直書「量為」	Ⅲ-328-2
2272	〔雑記〕(詩稿ほか)	状	1通	六月廿九日	(頼事庵カ)		12.4×16.2	半紙		校訂(墨), 注記(朱)	Ⅲ-336-10
2273	家書(日課, 稽古之儀に付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		12.4×17.0	半紙		本文朱筆	Ⅲ-336-15
2274	〔覚書〕(堯舜禹湯文武之学, ほか帝王学に付)	状	1通	江戸後期カ	(頼事庵カ)		22.0×20.2	楮紙		後欠カ	Ⅲ-336-50
2275	〔勘文〕(永寧, 垂裕, 啓祥, ほか)に付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		24.9×33.4	半紙		墨抹, 校訂(墨), 合点(墨)	Ⅲ-336-51
2276	〔覚書〕(絵図六面)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		24.1×17.0	半紙		綴跡あり	Ⅲ-349-29
2277	〔草稿〕(「大学」における徳目, 誠意・致知につき)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.8×19.0	雁皮紙		校訂(墨), 右下に「廿三」とあり, Ⅲ-353-6~9まで一連の草稿	Ⅲ-353-6
2278	〔草稿〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.8×36.2	雁皮紙		校訂(墨), 右下に「十一」とあり	Ⅲ-353-7
2279	〔草稿〕(大学・伝一章の「克明峻徳, 皆自明也」の注釈)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.8×37.0	雁皮紙		校訂(墨), 右下に「六」とあり	Ⅲ-353-8
2280	〔草稿〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.8×36.1	雁皮紙		校訂(墨), 右下に「十六」とあり	Ⅲ-353-9
2281	〔書付〕(周易八卦)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.4×33.4	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-353-10
2282	〔書付〕(名臣言行六二序抄録抜粋ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×17.3	半紙			Ⅲ-353-11
2283	〔書付〕(恒代遺風ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.6×6.3	半紙		校訂(墨), 紙背にも記載あり, 「送櫻井君士良君, 送櫻井君士良君序」ほか	Ⅲ-353-12

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2284	[書付](三国志抜粹)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.2×49.0	諸口紙		端裏書「三国志抜粹」	III-353-16
2285	抜萃	状	1通	丙申(天保7年)春正	(頼) 事庵		12.4×17.0	半紙		校訂(墨), 綴じ跡あり	III-243-9
2286	書添(亡父之詩文集・春水遺稿 刪刻書差上ニ付御内々被下物 覚書)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		11.8×17.6	半紙			III-243-20
2287	[覚書](書物抜粹)	横半帳	1冊	江戸後期	(頼事庵)		12.2×17.4	半紙		訂正(墨), 綴じ跡あり	III-243-51
2288	書物目録(古文合評一帙ほか 控)	状	1通	江戸後期	餘一	三千三殿	12.1×30.9	半紙			III-244-23
2289	[写し](山陽文稿など)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×64.0	諸口紙		校訂(墨), 2枚に剥離	III-251-2
2290	[覚書](新年挨拶状手本)	状	1通	正月五日	頼餘一協		14.3×24.7	諸口紙		端書「是ハおまへ手本ニ可被成候, 年しの手紙ニ御座候」, 変色甚	III-251-9
2291	[覚書](南朝詠史備中人託ほか)	状	1通	江戸後期			14.4×8.7	諸口紙		注記(朱)	III-251-19
2292	[覚書](後藤半理右衛門在所 ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.2×20.3	半紙			III-251-20
2293	[講義録草案]	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		13.9×62.8	諸口紙		校訂(墨)	III-290-74
2294	[講義録草案](仁者聖人ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		12.4×75.8	半紙		端裏書「三真術 四明法」, 校訂(墨)	III-290-75
2295	[覚書](日課)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		10.3×15.0	半紙			III-290-92
2296	[講義録下書]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×20.5	諸口紙		前欠カ	III-290-98
2297	[覚書]	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.2×20.0	諸口紙			III-290-100
2298	[中庸第廿三章ニ付, 草稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		24.9×25.0	半紙		批正(朱), 校訂(墨)	III-290-101
2299	[覚書](増田翁, 百ヶ日ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.2×14.3	諸口紙			III-290-102
2300	[覚書](諸国返礼御遺物之事)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.2×17.0	半紙		紙背墨書あり	III-290-104
2301	[先君谷文一画虎賛]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.5×22.0	諸口紙		端裏書(頼事庵筆)「先君谷文一画虎賛」	III-290-108
2302	[覚書](朱子の不偏不倚ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.3×8.9	杉原紙		「箱ノ内」とする図があり	III-290-112
2303	[覚書](学舎詩ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.8×8.5	楮紙			III-290-114
2304	[覚書](先君所扨墓誌銘ニ付 料紙名控)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.0×43.8	諸口紙		後欠	III-290-117
2305	[漢文写]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×53.5	諸口紙		返点(墨), 仮名(墨)	III-290-118
2306	[覚書](外范説ほか諸学説抜 粹)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×17.6	半紙		校訂(墨), 綴じ跡あり, 前後丁欠落	III-290-123
2307	[覚書](宗易陰陽四象)	折紙	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.7×46.4	諸口紙		一部切り取りあり, 陰陽四象の符号記載	III-290-124
2308	[覚書](男子血統に付ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.7×28.0	諸口紙		校訂(墨)	III-290-125
2309	[書付](十三日御清書いたし 度ニ付)	状	1通	三月十一日	(頼事庵)		14.4×37.8	諸口紙			III-290-129
2310	[覚書](寺川へ贈物之事ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.5×42.0	杉原紙		反故紙使用	III-290-130
2311	[山陽長崎詩文写]	折紙	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×34.2	半紙		校訂(墨)	III-290-132
2312	覚(晒ふるかたひら 紋染かえ 注文控)	状	1通	六月七日	頼方(頼事庵)		16.6×14.3	杉原紙			III-292-2
2313	別紙(諸弘之儀ニ付返答)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		14.2×43.6	諸口紙		端裏書「別紙内用」, 校訂(付紙に墨)	III-292-4

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2314	[覚書](作居料, 齋米料ほか)	状	1通	十二日	(頼事庵カ)		15.9×13.9	三桎紙(黄染)		端裏書(頼杏坪筆カ)「此通りなれハ随分宜敷奉存候」	III-292-14
2315	[講義草稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.5×58.0	諸口紙		傍点(墨), 後欠, 紙背墨書あり	III-292-36
2316	[己丑十月廿四日御居間講習草稿]	状	1通	己丑(文政12年)十月廿四日	(頼事庵)		12.4×67.0	半紙		2枚に剥離	III-293-12
2317	[書簡例文下書]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.9×104.5	諸口紙			III-294-18
2318	[亥年霜月渡り差紙四拾五之内十五石明細]	状	1通	亥年霜月	(頼事庵)		14.2×40.3	諸口紙		注記(付紙に墨)	III-294-25
2319	[覚書](江戸土産, 南御屋敷御筆屋駈合ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		15.7×44.9	杉原紙			III-295-7
2320	嘉永庚戌七月二日書目録	状	1通	嘉永庚戌(3年)七月二日	(頼事庵)		24.5×20.5	半紙			III-295-11
2321	[植木兵太郎名字説控]	状	1通	文政五年壬午臘月十五日夜	(頼事庵)		16.8×37.3	奉書紙		端裏書「名字説 文政五年壬午臘月十五日夜省略之節 以後見合之為メひかへ置」	III-295-25
2322	易繫辞上傳初葉ノ註	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×20.7	諸口紙			III-295-27
2323	[孝悌忠信の道理に付草稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×72.0	半紙		校訂(墨), 注記(朱)	III-295-28
2324	[聖人ノ道に付草稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.5×72.2	諸口紙		校訂(墨・朱)	III-295-29
2325	[君子小人趣向ノ違ふ処に付草稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		15.8×18.0	楮紙			III-295-30
2326	[易経上卦, 下卦に付雑記]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×19.4	半紙			III-295-31
2327	[仁, 不仁に付草稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×34.3	半紙		紙紐にてIII-295-32~41まで一括, 校訂(墨・朱)	III-295-32
2328	[山陽文稿写](十一月元協与阿千送致海田駈)	状	1通	(文政7年)十一月六日	襄(頼山陽), (頼事庵写)		12.3×26.2	半紙			III-378-5
2329	[覚書](神辺より京都までの旅程, 書籍名ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.0×37.7	楮紙			III-378-6
2330	[下書類](奉幣使還ほか)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		11.8×10.2	色半紙		右端破損	III-378-11
2331	[覚](和歌の詞の典故など)	状	1通	江戸後期	頼杏坪カ		16.0×55.0	杉原紙		校訂(墨)	III-21-43
2332	[覚](戊子年本家惣算用, 銀取替, 銀受取覚)	仮綴	1綴	戊子年(文政11年)	(頼杏坪カ)		12.4×17.4	半紙	4	端裏書「己丑前年三次算」, 紙縫欠(綴じ穴・折れ跡一致)	III-134-6
	郷賢祠関係書類										III-296
2333	[郷賢祠霊神につき書付]	折紙	1通	江戸後期	(頼杏坪)		15.8×44.7	杉原紙		注記(付紙に墨), 付紙(14.5×4.1, 諸口紙)「好古霊神□□良屋先祖」	III-296-1
2334	[覚書](竹原書院再建の事, 竹原郷賢祠の事, 三次・恵蘇節孝義祠の事)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		15.5×23.3	杉原紙			III-296-2
2335	[覚書](下瀬明の生石子祠, 其後段々しらへ候二付)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		16.3×71.8	三桎紙		包紙(16.3×24.3, 三桎紙)「生石子祠 速谷廟」, 校訂(墨)	III-334-9
2336	[覚書](先日之石之名ハ暮山ニ極メ申候)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		16.3×8.5	三桎紙			III-334-33

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2337	金銭請渡控	横半帳	1冊	(文化7年)八月廿九日～(文化8年)五月十七日	(頼杏坪)		12.5×17.0	半紙	7	包紙(25.1×34.3, 半紙, 反故紙使用)「文化七年庚午八月 万四郎御供東行, 権次郎付添罷越候, 往来諸雜費書付類」, 反故紙墨書「頼権次郎様 侍史 菅太中」, 共紙表紙, 外題直書「金銭請渡控」, 首題「金銭渡しひかへ」	VI-2-1
2338	金銭受取控	横帳	1冊	(文化7年)八月廿九日～(文化8年)五月十七日	(頼杏坪, 景讓)		12.4×34.3	半紙	3	首題「金銭受取控」, 注記(朱・墨), 校訂(墨, 付紙に墨), 頭点(朱・墨), 「権次郎 江戸往来入用述 但, 飯料不入」との記載あり, 付札(12.2×7.5, 色半紙, 頼杏坪筆)「一, 金五両 午八月江戸へ持参 一, 同四両式百拾式勿四分 未三月為替入(中略) 差引六勿九分五り 申三月十三日 権次郎へ渡す」, 付札(12.5×4.9, 色半紙, 頼杏坪筆, 糊離れ)「朱墨代ハ権次郎江戸差引之内ニ入り申候間, 此分ハ返上候也」	VI-2-2
2339	[書付](下関・小倉・筑前の好事家・儒官及び長崎見物につき)	状	1通	(文化12年)	(頼杏坪カ)		17.3×34.5	杉原紙		下関西細江町の「広江吉右衛門 好事家」「子 常蔵 去秋冬, 京久太郎方寄宿, 去暮帰郷」, 小倉の石川一介(「儒官, 当時隠居」), 筑前の亀井道哉のほか, 長崎の筆(「水筆 唐人持用所望之事」など)について記載あり	III-168-19
2340	十月三日 海晏寺楓下餞別宴	状	1通	(文化元年)十月三日	(頼杏坪)		11.9×30.1	半紙			III-309-4
2341	[書付](筑前明人古碑につき覚書)	状	1通		(頼杏坪カ)		15.5×11.2	楮紙			III-372-98
2342	[書付](書付到来日付一覧)	状	1通		(頼杏坪カ)		16.5×6.5	楮紙		「尚々 十二日の文ハ土佐の箕浦右源次殿と申御儒者へたのミ申候(後略)」との記載あり(頼春水筆カ)	III-372-115
2343	[書付](田中藤七への買物代金支払覚)	状	1通	廿二日	(頼杏坪)		12.0×8.0	半紙			III-372-137
2344	質物覚帳	横帳	1冊	戊五月廿五日	(頼誠軒), 父餘一記(頼聿庵)		14.0×45.6	諸口紙	3	共紙表紙, 外題直書「質物覚帳」, 表紙墨書「戊五月廿五日 頼氏」, 注記(付紙に墨), 3丁目は1～2丁目と異筆, 3丁目目に「五月廿七日 父餘一記」の記載あり	III-133-1
2345	[覚](六拾貫目借銀につき引当物)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		16.5×26.6	三桮紙		端裏書「大工屋 儀兵衛」, III-133-1の「大工儀兵衛之分」の質物に該当	III-133-5
2346	書拔(頼春水行状)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ, 頼誠軒カ)		12.0×22.5	半紙		端裏書「書拔」	III-167-8
2347	[覚書](頼山陽著述の題一覧)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		15.2×30.8	楮紙		頭点(朱), 二ヶ所切取あり	III-336-3
2348	雑記(詩稿, 京阪への旅行記ほか)	袋綴装 三ツ目綴	1冊	明治十四年七月十六日～明治廿三年十一月	(頼誠軒)		7.0×12.9	罨紙 (三桮紙)	81	赤茶紗綾型押表紙, 外題直書『雑記』, 校訂(墨・朱), 京阪への旅行記は明治癸未(明治十六年)二月廿一日～三月四日まで	III-386-2
2349	諸史抜粹	横半帳	1冊	壬子(嘉永5年)秋八月	杲識(頼誠軒)		12.5×17.5	半紙	28	共紙表紙, 外題直書「諸史抜粹」, 表紙墨書「壬子秋八月 杲識」, 校訂(墨・朱), 句切点(墨・朱)	III-386-8
2350	雑襍	袋綴装 大和綴	1冊	庚寅(明治23年)	(頼誠軒)		19.1×13.8	竹紙	40	黄表紙, 外題直書「雑襍」, 校訂(墨), 「興農社或問」刊本を反故紙として使用, 24・25丁の間に挟紙(名刺写し)あり	III-386-14
2351	雑録	袋綴装 大和綴	1冊	明治甲午四月十五日(明治27年)	(頼誠軒)		19.0×13.8	竹紙	42	縹表紙, 外題直書「雑録」, 校訂(朱), 「興農社或問」刊本を反故紙として使用, 文化乙亥(12年)十月廿有六日の頼春水漢詩の写し(15.1×17.1)付属	III-386-15
2352	[雑記](天宝遺事ほか)	袋綴装 三ツ目綴	1冊	明治廿三年十月	(頼誠軒)		18.7×13.0	竹紙	36	萌黄表紙, 校訂(朱・墨), 「起業殖産概意問答」の刊本を反故として使用	III-386-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2353	[雑記](詩稿, 依願書下書その他)	並製本	1冊	乙酉九月(明治18年)	(頼誠軒)		20.9×14.5	竹紙	17	共紙表紙, 外題印刷「興農社規約」, 表紙朱書『第三拾七號』, 校訂(墨), 「興農社規約」を雑記帳として使用, 7・8丁目に挟紙2点あり, 挟紙①七言絶句(16.4×11.9), ②詩稿(14.0×9.0, 頼誠軒・古樸宛頼龍三書簡)	III-386-17
2354	書簡(書簡例文集)	袋綴装 大和綴	1冊	丙子(明治9年ヵ)三月日	(頼誠軒ヵ)		18.7×17.0	杉原紙	15	共紙表紙, 外題直書「書簡」	III-386-71
2355	[誠軒雑録](諸先生略係, 家係略, 虎山先生遺稿, ほか)	状	14枚	明治時代	(頼)誠軒		24.5×17.0	罫紙	14	校訂(朱), 頭点(朱), 未綴, 錯簡あり	III-386-86
2356	[覚書](書目録)	状	1通	明治時代	(頼誠軒)		14.3×12.0	諸口紙			III-290-83
2357	[講義録下書]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒ヵ)		16.6×45.6	杉原紙			III-290-90
2358	[覚書](書物抜粋)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		16.4×19.1	杉原紙		後欠	III-290-121
2359	[覚書](疾病名一覧)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒ヵ)		14.6×34.1	諸口紙		注記(墨)	III-290-131
2360	[別紙控: 万吉諸道具一覧]	状	1通	(10月30日)	(頼誠軒)		14.5×18.0	諸口紙			III-294-33-4
2361	[書付](三千三願書不都束之義二付・差控伺書一件)	状	1通	(嘉永2年)十月朔日	北川猪太郎拜	聿庵先醒(頼聿庵)	14.3×55.5	色諸口紙		封上書「聿庵先醒 北川猪太郎拜」	III-294-37
2362	[距今慈丙辰凡六年前落清国定海城]	状	1通	(安政3年ヵ)	(頼誠軒)		23.5×32.1	半紙			III-295-12
2363	[小人の利に付草稿]	状	1通	江戸後期ヵ	(頼誠軒ヵ)		15.7×17.1	楮紙		傍点(墨), 注記(朱), 前欠	III-295-34
2364	[大原屋算用の事, 飯料の事ほか雑記]	状	1通	江戸後期ヵ	(頼誠軒ヵ)		14.4×26.0	諸口紙		注記(朱)	III-295-35
2365	[礼記礼器之内ほか雑記]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒ヵ)		12.2×16.7	半紙		左上部破損	III-295-38
2366	[君子小人道理に付趣向の違ふ処ほか草稿]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒ヵ)		24.7×19.8	半紙		校訂(墨)	III-295-39
2367	[中庸注釈]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		14.1×44.0	諸口紙		校訂(墨)	III-295-40
2368	春草堂蔵書目録	横半帳	1冊	江戸後期			12.2×16.7	半紙	22	共紙表紙, 外題直書(頼古樸筆)「春草堂蔵書目録」, 首題「書籍目録」, 表紙墨書(頼古樸筆)「天保壬辰三月改」, 頼古樸による加筆あり	III-44
2369	[覚書](小屏風文言写)	状	1通	江戸後期	(頼小園ヵ)		14.7×12.4	諸口紙			III-290-106
2370	記(養育費・乳母給金十一月, 十二月分送金書付)	状	1通	(明治時代)十二月十日	竹原頼(頼俊直)	杉木頼様	15.6×25.7	三桎紙		III-293-11書簡の「秋養育金別紙之通」に該当	III-293-8
2371	記(養育費・乳母給金二月ヵ六月迄送金書付)	状	1通	(明治時代)五月十二日	竹原頼(頼俊直)	広島頼様	15.2×29.3	竹紙			III-293-9
2372	記(養育費・乳母給金七月ヵ十月迄送金書付)	状	1通	明治時代	(頼俊直)	(頼誠軒)	14.4×20.6	諸口紙			III-293-10
2373	甲州江出ス書画目録	袋綴装 大和綴	1冊	乙未(明治28ヵ)四月九日	(頼古樸ヵ)		19.9×13.9	小半紙	5	共紙表紙, 外題直書「甲州江出ス書画目録」, 表紙墨書「乙未四月九日」, 同朱書「○大崎書 ○関跋文」	III-277
2374	[書簡下書ほか雑記]	状	1通	明治時代ヵ	頼弥次郎(古樸)		25.0×34.2	半紙		校訂(墨)	III-295-33
2375	[書簡](三木三郎君事につき)	状	1通		頼惟勤ヵ		19.4×27.0	罫紙 (機械漉紙)		書簡を翻刻したものが紛れたか, 五郎宛三郎書簡	III-359-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2376	[頼誠軒日記類調査に係る年表]	状	1通	昭和時代	(頼惟勤カ)		17.7×24.9	原稿用紙	1	仮表紙(25.1×19.4, 厚紙)付属, 「誠軒先生詩稿・日記など」の付箋あり	III-386-1
2377	[書付](赤豆剂処方)	状	1通				14.2×14.8	諸口紙			III-372-88
2378	覚(七味の調合)	状	1通	江戸後期			13.4×37.0	諸口紙		袋(26.6×19.8, 楮紙)にてIII-21-1~57を一括, 袋「梅颯夫人 おも穂夫人 和歌 国文」, 包紙(19.8×27.8, 楮紙)にてIII-21-1~12まで一括, 包紙「聞書其外いろいろあり」, 後欠	III-21-1
2379	聞書(口中はうきなんきする時, はみなとにくわれなんき)	状	1通	江戸後期			13.4×25.0	楮紙			III-21-2
2380	[覚](水, 気, 船, ねむり, 盗, 武)	状	1通	江戸後期			12.0×15.6	半紙			III-21-3
2381	[覚](薬の処方)	折紙	1通	江戸後期			11.4×15.8	半紙			III-21-4
2382	[覚](いろはにほへのの字母)	状	1通	江戸後期			14.3×44.0	諸口紙			III-21-5
2383	讃岐阿波徳島迄覚	状	1通	江戸後期			15.9×27.6	杉原紙			III-21-6
2384	[覚](広島より肥前城下佐賀までの道程)	状	1通	江戸後期			13.8×86.9	諸口紙		下関に「笑庵と申医者有」との記載あり	III-21-7
2385	[覚](公方様御諡号, 聖堂額, 毛彫・脇差・目貫細工師につき)	状	1通	江戸後期			18.6×25.2	小半紙		台徳院(徳川秀忠)から惇信院(家重)までの諡号を記載	III-21-9
2386	[紙片](大坂中ノ嶋広島屋敷角 長田屋藤七)	状	1通	江戸後期			16.5×4.5	楮紙(薄茶染)			III-123-21-1
2387	[覚書](神代巻抜粹, 山獵・山狩について)	状	1通	江戸後期			14.0×19.6	諸口紙			III-123-26
2388	[諸品目覚]	横帳	1冊	江戸後期			14.5×45.7	諸口紙	3	懸点(墨)	III-133-2
2389	米受渡し算用書	仮綴	1綴	巳八月 未極月迄之分			12.3×34.3	半紙	3	付札(諸口紙)2枚のうち1枚に「右渡し不足米未二月十八日相渡し皆整, 未二月十八日」との記載あり	III-134-1
2390	御多門さし引	状	1通	午二月廿二日, 巳七月			12.0×60.3	半紙		端裏書「御多門さし引」	III-134-3
2391	覚(質物品々しらへもの)	状	1通	江戸後期			14.5×50.4	諸口紙		端裏書「質物品々しらへもの」	III-166-9
2392	[覚書](諸買物控)	状	1通	三月~九月			12.2×22.8	半紙		注記(付紙に墨)	III-166-12
2393	覚(諸買物控)	状	1通	午極月~未極月			14.5×28.5	諸口紙		端裏書「菅野□□」, 諸口紙に半紙(12.5×8.0)貼継, III-166-12と同内容	III-166-19
2394	覚(諸買物控)	状	1通	江戸後期			12.1×22.0	半紙		注記(付紙に墨), III-166-12と同内容	III-166-21
2395	[覚書](諸衣服買物控)	状	1通	午六月~申卯月			13.8×25.5	諸口紙		注記(朱, 付紙に墨)	III-166-22
2396	[覚](申五月十九日~未十二月廿一日の質入れ品)	状	1通	七月十日			14.0×38.8	諸口紙			III-166-24
2397	神辺塾生(二十二人名簿)	折紙	1通	江戸後期			12.3×34.1	半紙			III-393
2398	五代史	横半帳	1冊	江戸後期			12.3×17.3	半紙	29	共紙表紙, 外題直書「五代史」, 表紙墨書「籌」	III-334-39
2399	[覚書](書画の類控)	状	1通	乙巳しらへ出し甲戌□□(文化6~11年カ)			29.5×40.0	楮紙		書画の覚書には「立原之子山水」「大含数品大小」など, 10項目を列挙	III-349-27

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2400	[書付](春の七草名)	状	1通	江戸後期			14.0×8.9	諸口紙			Ⅲ-353-4
2401	覚(頼家, 串田両家二ツ割算用書)	状	1通	江戸後期			12.4×8.8	半紙			Ⅲ-295-21-2
2402	覚(払来算用書付)	状	1通	辰極月廿九日			12.2×16.6	色半紙			Ⅲ-295-21-1
2403	旅勤要用集	袋綴装 四ツ目綴	1冊	江戸後期			23.7×17.0	半紙	74	紺表紙, 外題題簽「旅勤要用集」, 黒文長方印「頼」1顆, 注記(朱), 小口書「旅勤」, 「旅勤要書目録百三拾壹ヶ条」「宝曆二年近年之目録」を記載	Ⅳ-424
2404	[調合仕様書](黄柏, 猪牙, 黄蠟など)	状	1通	庚子(天保11年カ)六月十三日	思心道人		16.3×34.4	杉原紙			Ⅲ-179-2
2405	覚(欧陽集料, 銀九百目領収)	状	1通	十二月廿四日	星野良悦	日向屋様	14.6×16.5	楮紙		黒文円印[ ]1顆	Ⅲ-307-4
2406	家園十二勝	状	1通	壬申(文化9年)三月十二日	都筑蘇門		16.7×37.8	楮紙		端裏書(頼春水筆)「壬申三月十二日都筑蘇門持参宇津木家園荘」	Ⅲ-317-50
2407	覚(飯料三名ひかへ)	状	1通	江戸後期		良五殿分, 貞吉殿分, 弥太郎殿分	14.5×26.4	色諸口紙		端裏書「ひかへ」	Ⅲ-134-5
2408	[覚書](花木名一覽)	仮綴	1綴				24.7×17.0	罫紙, 半紙	4	校訂(墨)	Ⅲ-336-42
2409	[書付](蘇少公隋論, 秦六国地形 <sup>イ</sup> まか)	状	1通	江戸後期			14.0×11.9	諸口紙			Ⅲ-168-21
2410	[覚](橋八幡宮御神体につき)	折紙	1通	江戸後期			24.8×13.2	半紙			Ⅲ-168-22
2411	栲杣	折紙	1通	江戸後期			24.3×33.5	半紙		墨書「盤口栲杣」の上に付紙「栲杣」	Ⅲ-168-24
2412	[語義](おもひく満ニ付)	状	1通	江戸後期			16.0×7.5	三桎紙(薄藍色)			Ⅲ-196-13-1
2413	[語義](かさしニ付)	状	1通	江戸後期			16.0×6.1	三桎紙(薄藍色)			Ⅲ-196-13-2
2414	[語義](くそニ付)	状	1通	江戸後期			16.0×7.4	三桎紙(薄藍色)			Ⅲ-196-13-3
2415	[語義](たつみニ付)	状	1通				16.0×10.0	三桎紙(薄藍色)			Ⅲ-196-13-4
2416	[語義](ひさこ花)	状	1通	江戸後期			16.0×11.2	三桎紙(薄藍色)			Ⅲ-196-13-5
2417	[語義](露霜 宣長ノ説ニ)	状	1通	江戸後期			12.1×22.4	半紙			Ⅲ-196-14
2418	[覚書](丸屋萬助書付写)	状	1通	江戸後期			13.8×11.0	諸口紙			Ⅲ-290-111
2419	[覚書](藤屋宗三郎ほか人名録)	状	1通	江戸後期			14.5×15.6	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-308-6
2420	[覚書](竹内屋正蔵ほか人名録)	状	1通	江戸後期			14.5×15.7	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-308-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2421	順庵山中先生墓銘	状	1通	江戸後期	(頼山陽)		22.8×32.0	罫紙 (楮紙)		首題「順庵山中先生墓銘」, 頼春水批正(朱)	III-263
2422	「奉送家叔父大人序」	状	1通	文化丙寅(3年)暮春五日	不肖某拜(頼山陽)		24.6×34.8	半紙			III-328-6
2423	古古典刑第一(檀弓 重耳答秦)	状	1通	江戸後期	(頼山陽カ)		27.7×38.5	美濃紙		首題「古古典刑第一」, 端書「史記ニ而抄」, 罫線墨書	III-336-83
2424	たけくまの松	仮綴	1綴	江戸後期			24.0×17.3	半紙	3	首題「たけくまの松」, 校訂(墨), 注記(朱)	I-121
2425	臨江亭記	状	1通	文化十一年	(頼春水)		16.5×55.2	三桎紙 (薄藍色)		校訂(墨), 浅野文庫「与楽園叢書九十九 春水文稿, 臨江亭記」(広島市立中央図書館蔵)の草稿, 美濃紙(藍染)	III-131-3
2426	[草稿](趙陶齋の履歴及び深見頤齋につぎ)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.2×207.8	杉原紙	1	端書「那須 十二日出 四月廿八日来 ○」, 校訂(墨), 書簡反故紙使用(那須閑齋・那須菊之介書簡, 頼春水宛, 卯月十二日)	III-88
2427	[論語注釈写]	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		27.5×40.5	楮紙	5	注記(墨), 前後欠	III-107
2428	[草稿](芸備縮図入箱書付ノ稿)	状	1通	文化七年庚午七月			16.6×17.6	三桎紙		「文化七年庚午七月 御側詰 上坂新助正遥謹識」との記載あり, 別紙(16.5×2.5, 三桎紙)「此分御箱之うらニ御役方より記し被置候心得ニて書試」あり	III-123-33
2429	[饒津神社石手水鉢・石燈籠銘]	状	1通	文化七年庚午四月	臣 頼 惟 完 撰 (頼春水)		16.4×27.5	楮紙 (黄染)		校訂(墨)	III-295-15
2430	請(国泰寺御請疏下書)	状	1通	(寛政10年)	(頼春水)		37.5×28.2	諸口紙		端裏書「折かへしアリ」, III-116-12-1~12-20と関連	III-306-11
2431	[梅颯歌稿](文化14年, 文政元年)	横帳	1冊	丑寅文化十四・十五	(頼梅颯)		12.5×34.4	半紙	46	校訂(墨), 頭点(墨), 付紙(後筆)「文化十四年 文政元年 草稿 十四」, 35丁目ウより「いつくしま詣の日記」の記載あり, 反故紙使用	III-20-14
2432	[梅颯歌稿](天保13~14年)	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天保13~14年)	(頼梅颯)		16.6×11.4	雁皮紙	120	紺表紙, 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 45丁目オに付紙「右景樹七十七才辞世」, 付紙(後筆)「天保十三年 同十四年 清書 卅五」, 40~41丁目の間に「近世の人のうたに(後略)」と記載の一紙挟込	III-20-35
2433	[梅颯草稿]	状	1通	江戸後期	(頼梅颯)		13.7×39.9	諸口紙		折紙	III-21-8
2434	刻郡山集序(頼杏坪批正)	状	1通	江戸後期	頼協(聿庵) 拝稿		24.8×34.3	半紙		頼杏坪批正(朱), 『先ハ此通ニイタシ見候, 一通写シ猶其上ニテ熟思アルヘシ, イツレ坂井ヘモ相談アルヘシ』との批正あり	III-36-1
2435	刻郡山集序(頼山陽批正)	状	1通	江戸後期	頼協(聿庵) 題斧正		24.6×34.0	半紙		端書「此文蓋経杏大人批正故頗可観, 仍原文可通, 更下轉数語宜持乞大人簡裁」, 頼山陽批正(朱)	III-36-2
2436	刻郡山集序	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		24.8×17.5	罫紙 (半紙)	4	校訂(墨), 続けて「遊舎秀園記」等の記載あり	III-37
2437	刻頼千秋全集叙	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		24.7×17.5	半紙	2	首題「刻頼千秋全集叙」, 頼杏坪批正(墨), 山陽批正(朱), 2丁目ウに「先集序 茶山先生作」との記載あり	III-83-1
2438	先府君春水先生行状	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		24.5×17.5	半紙	9	共紙表紙, 外題直書「先府君春水先生行状」, 首題「先府君春水先生行状」, 頼山陽批正(朱)	III-83-2
2439	「跋関執政所蔵白川故少将真蹟」	状	1通	江戸後期	元協(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙		頼山陽批正(墨)	III-245-1
2440	「丙戌十月望陪杏坪大人登水明楼分得水字此夜月食」	状	1通	丙戌(文政9年)十月望陪	協(頼聿庵)		13.5×32.8	諸口紙		頼山陽批正カ(朱)	III-246-3
2441	「芸備孝義伝」三編跋文	袋綴装 大和綴	1冊	天保癸卯(14年)秋仲	頼協(聿庵)		23.8×17.0	半紙 (匡郭)	3	素紙表紙, 表紙墨書「拙文」, 跋「天保癸卯秋仲頼協敬跋」, 朱文長方印「□□」(冠帽印)1顆, 白文方印「頼協」1顆, 朱文方印「承緒」1顆, 校訂(付紙に墨), 返点(墨), 句切点(朱), 送り仮名(墨), 合符(墨), 柱題「孝義伝三編」	III-257-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2442	「芸備孝義伝」三編跋文	袋綴装 大和綴	1冊	天保癸卯(14年)秋八月	頼協(聿庵)		24.9×17.0	半紙 (匡郭)	4	共紙表紙, 跋「天保癸卯秋八月頼協敬跋」, 朱文長方印「□□」(冠帽印)1顆, 白文方印「頼」「協」(連印)1顆, 校訂(朱), 注記(付紙に墨), 返点(墨), 句切点(朱), 送り仮名(墨), 合符(墨), 柱題「孝義伝三編」, III-257-1の校訂を反映	III-257-2
2443	「芸備孝義伝」三編 跋文(稿)	袋綴装 大和綴	1冊	天保癸卯(14年)秋八月	頼協(聿庵)		24.9×17.0	半紙 (匡郭)	3	跋「天保癸卯秋八月頼協敬跋」, 白文方印「頼」「協」(連印)1顆, 端書「此分下ル」, 句切点(朱), 返点(墨), 句切点(朱), 送り仮名(墨), 合符(墨), 柱題「孝義伝三編」, III-257-2の校訂を反映	III-257-3
2444	築地邸新建巖島神廟記	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×17.0	半紙	3	首題「築地邸新建巖島神祠記」, 傍点(墨・朱), 後欠カ	III-258
2445	〔頼聿庵草稿〕「癸丑九月廿三日…」	状	1通	癸丑(嘉永6年)九月廿三日	(頼聿庵)		24.7×34.2	半紙		「癸丑九月廿三日, 先君忌辰と舊門客原述及児杲分韻賦詩以置影堂時東関有暎夷之警」との記載あり	III-260-1
2446	坂井東派先生碑銘	袋綴装 大和綴	1冊	(天保年間)	(頼聿庵)		24.8×17.5	半紙	3	首題「坂井東派先生碑銘」, 校訂(墨)	III-262
	〔頼聿庵詩文稿〕										III-271
2447	〔頼聿庵草稿〕(「洗心堂記」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		24.5×17.5	半紙	6		III-271-1
2447	1)〔頼聿庵詩稿〕(「東行別送者」ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		27.5×19.0	罫紙 (楮紙)	3	III-271-2~11を合綴	III-271-2
2447	2)〔頼聿庵詩稿〕(「春遊」ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×16.5	罫紙 (半紙)	14	白文方印「松風」1顆, 校訂(朱)	III-271-3
2447	3)送楠岡士尚還郷序	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		24.4×17.0	罫紙 (半紙)	2	首題「送楠岡士尚還郷序」, 校訂(朱)	III-271-4
2447	4)送楠岡士尚還郷序	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.8×17.0	半紙	1	首題「送楠岡士尚還郷序」, 批正(朱)	III-271-5
2447	5)門田政周墓銘	袋綴装 大和綴	1冊	文政五年壬午二月	協(頼聿庵)		25.0×17.5	半紙	4	首題「門田政周墓銘」, 頼山陽批正カ(朱), 注記(付紙に墨), 付紙(16.5×7.4, 薄青色, 頼杏坪筆)「餘一殿 南叟」	III-271-6
2447	6)細宗関先生墓銘	仮綴	1綴	文政五年壬午冬十一月	頼協(聿庵)		25.2×17.5	半紙	2	首題「細宗関先生墓銘」, 序跋「文政五年壬午冬十一月受業本藩頼協拝撰 門人建」, 批正(朱)	III-271-7
2447	7)細宗関翁墓銘	状	2通	文政五年壬午冬	頼 餘 一 元 協 (聿庵)		25.2×17.5	半紙	2	首題「細宗関翁墓銘」, 序跋「文政五年壬午冬本藩頼餘一元協拝撰并書 門人謹立」, 句切点(朱)	III-271-8
2447	8)遺徳阡表	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×17.5	罫紙 (半紙)	2	首題「遺徳阡表」, 句切点(朱), 傍線(朱), 注記(付紙に墨), 付紙「遺徳阡表」	III-271-9
2447	9)大野木静斎君墓銘	袋綴装 大和綴	1冊	天保十年己亥春三月	頼協(聿庵)		27.5×19.0	罫紙 (楮紙)	2	首題「大野木静斎君墓銘」, 序跋「天保十年己亥春三月頼協撰并書」, 句切点(朱), 校訂(墨)	III-271-10
2447	10)元亮中村君碑銘	袋綴装 大和綴	1冊	天保十二年辛丑春に初	頼協(聿庵)		28.5×19.5	楮紙	3	首題「元亮中村君碑銘」, 序跋「天保十二年辛丑春二月本藩頼協撰并書 孤哀子宗碩謹立」, 頼山陽批正カ(朱), 注記(付紙に墨)	III-271-11
2448	文稿 二卷	袋綴装 大和綴	1冊	戊子(文政11年)	(頼聿庵)		19.6×13.7	小半紙	9	共紙表紙, 外題直書「文稿 二卷」, 表紙墨書「戊子年間」, 校訂(朱・墨), 反故紙使用	III-276
2449	周易本義	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		20.2×14.0	小半紙	20	共紙表紙, 表紙墨書「周易本義, 此内ニ易モ中庸モ孟子モアリ」ほか多数, 校訂(墨), 傍点(朱)	III-279

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2450	[草稿](日本外史目次:卷十八, 十九, 二十)	状	1通				28.0×33.4	罫紙 (日本外史罫紙)		右端欠	III-167-3
2451	[草稿](山陽遺稿卷之一 目次)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		16.6×138.4	楮紙		首題「山陽遺稿 卷之一」, 注記(朱)	III-167-6
2452	[覚書](山陽遺稿刻者および編集方針)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		14.3×45.1	諸口紙			III-167-7
2453	「水明楼記」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		12.4×18.8	半紙			III-336-17
2454	奉献(今中大学相親奉納額下書)	状	1通	弘化二年乙巳陽月穀旦	(頼聿庵カ)		28.4×45.6	諸口紙		細線あり	III-339-1
2455	[漢文草稿](大竹之里在芸南辺土俗尚気多勇侠民業医瀧叟)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.1×25.5	諸口紙		校訂(墨)	III-353-17
2456	[草稿](上杉謙信について)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.0×25.4	諸口紙			III-353-18
2457	[書付](賞月会序文, 真率会文などの忘備録)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.0×48.6	諸口紙		校訂(墨)	III-353-19
2458	[書付](題文信公遺像, ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.9×34.0	半紙			III-353-20
2459	[書付](三千三江悔書, ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.8×34.2	半紙			III-353-21
2460	[厳島社記草稿]	状	1通	江戸後期	儒臣頼元協(聿庵)		16.1×33.3	三桎紙 (薄藍色)		校訂(墨), 右上部破損甚	III-243-8
2461	[草稿](木村齋碑銘)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.5×53.9	諸口紙		校訂(墨), III-243-49の草稿	III-243-48
2462	木村君碑銘(木村齋, 文政六年十月六日没)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.5×86.7	諸口紙		校訂(墨), 訂正(朱)	III-243-49
2463	元亮中村君碑銘	仮綴	1綴	天保十二年辛丑春二月	本藩頼協撰并書(頼聿庵)		28.4×20.2	楮紙		校訂(墨, 貼紙に墨), 傍点(墨・朱)	III-243-52
2464	[刻郡山集序草稿]	状	1通	(文政3年頃)	(頼聿庵)		24.5×33.2	半紙		校訂(朱, 墨, 付紙に墨), III-36・37と関連	III-295-14
2465	「拙齋翁碑文之内」	状	1通	江戸後期	惟柔頓首(頼杏坪)	柴野栗山カ	17.0×40.0	杉原紙		柴野栗山批正カ(朱)	III-179-1
2466	「岩瀬墓銘敬評」	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		12.3×39.7	半紙		批正(朱)	III-179-3
2467	[書付](墓碑銘の文稿)	状	1通	文政五年壬午二月	頼惟柔稿		24.2×33.9	罫紙 (半紙)		前欠カ	III-372-90
2468	天橋函巻序	仮綴	1綴	天保十五年載甲辰榴月	頼復(支峰)		25.0×17.5	半紙	2	跋「天保十五年載甲辰榴月, 頼復撰併書于古香書屋之西窓下」, 端書「入用」「ませり手紙類」, 句切点(墨)	III-43
2469	跋(高橋子冲著予防医学書跋文)	紙本木版状	1通	安政六年己未秋九月	(頼)支峰		16.9×23.8	半紙	2	跋「安政六年己未秋九月支峰 間人頼復職干古香書屋」	III-291-1
2470	[文稿]「愚以為狂言答先問…」	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		15.5×30.9	楮紙			III-336-2
2471	成趣園記	状	1通	江戸後期カ	(頼誠軒カ)		24.9×34.5	半紙			III-336-80
2472	[文稿]「穂大業垂成身顛仆遺像…」	状	1通	江戸後期カ	(頼誠軒カ)		25.0×34.5	半紙		校訂(墨)	III-336-81
2473	[文稿](太閤の天下, 則澆武疲民怠慢驕侈のこと)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		24.8×34.8	半紙		校訂(墨)	III-336-86

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2474	〔草稿〕(「伯夷論」「読項羽紀」ほか)	仮綴	1綴	戊申(嘉永元年)冬～己酉(2年)春四月十日	(頼誠軒)		25.1×17.3	半紙	11	校訂(墨・朱), 河野小石批評「嘉永己酉暮春雨窓之下安評多罪 徴再拝」	III-386-20
2475	草稿(「豊太閤伐朝鮮論」ほか)	仮綴	1綴	安政己未(6年)～文久癸亥(3年)春	元啓再拝正(頼誠軒)		24.9×17.2	罫紙(楮紙), 三桎紙, 半紙	17	素紙表紙, 外題直書「草稿 文二扁」, 表紙墨書「安政己未至文久癸亥春」, 頼支峰批正(朱), 校訂(墨)	III-386-38
2476	〔文稿〕(源満仲の武功・行跡につき)	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期	(頼誠軒)		24.7×17.2	半紙	4		III-386-40
2477	誠軒文稿(「村上藤吉碑銘」ほか)	仮綴	1綴	(明治25年頃)	(頼誠軒)		24.7×17.4	半紙	10	共紙表紙, 外題直書「誠軒文稿」, 校訂(朱), 6丁目袋中に「書残本山陽翁屏風後」草稿二葉を挟込のうえ貼継, 7・8丁目の間に詩稿二葉(一葉に山田十竹批正〔朱〕あり)挟込	III-386-48
2478	「祭 山陽先生文」	状	1通	江戸後期カ	杲伏乞(頼誠軒)		24.9×34.6	半紙		校訂(墨)	III-386-59
2479	〔木村尚震君追悼文草稿〕	折紙	1通	(安政2年)	(頼誠軒)		14.3×45.5	諸口紙		端裏書, 校訂(墨)	III-243-22
2480	食芹(詩文稿)	仮綴	1綴	壬戌八月(文久2年)	(頼誠軒)		15.1×15.5	竹紙		校訂(墨・朱), 反故紙使用	III-290-61
2481	「静観楼記」	状	1通	江戸後期	(頼景讓カ)		14.7×118.5	竹紙		2枚に破断, 後欠	III-295-23
2482	告紫苑山神文	状	1通	天保十四年歳次癸卯九月望後一日	用九識(羽蔵簡堂)		33.4×47.7	杉原紙		端裏書「九月十五日訪羽倉明府 即時所賜」	III-317-53
2483	〔金子蕉陰識語〕	状	1通	江戸後期	金子璋識(蕉陰)		14.2×11.7	諸口紙		校訂(墨)	III-336-33
2484	〔漢文〕(八幡神宮寺大般若跋文之考)	状	1通	文化三年八月十六日	源弘賢(屋代弘賢)		28.7×22.6	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「八幡神宮寺大般若跋文之考 屋代弘賢文」	III-330-2-3
2485	〔春水遺稿批正〕(目録, 卷十・文二)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		15.7×43.9	楮紙	1	端裏書『例言』, 批正(墨・朱), 「例」「学統論」「泰時論」「三好温字説」の批正	III-128-1
2486	〔春水遺稿批正〕(卷一・詩一)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		15.7×33.6	楮紙	1	端裏書『詩一』, 批正(墨), 「卷八」の「玉江橋春望」「嵯峨雅集」「水亭」「除夕」「南遊紀行」「聴雨唱和」を批正(刊本と巻数が異なる), 「再按卷九為明和七年先君二十五トアレハ卷八ハ皆其以前ノ作ナレハ自見其為少作不必注カ」との記載あり	III-128-2
2487	〔春水遺稿批正〕(卷二・詩二)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		15.7×29.8	楮紙	1	端裏書『詩二』, 批正(墨), 「卷九」の「逢阪」「月夜河伯潜宅」「如意輪」「子明子琴見訪」「観錦帯橋」の批正あり(刊本と巻数が異なる)	III-128-3
2488	〔春水遺稿批正〕(卷三・詩三)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		15.7×11.5	楮紙	1	端裏書『詩三』, 批正(墨), 「卷十」の「田子明」を批正(刊本と巻数が異なる)	III-128-4
2489	〔春水遺稿別録批正〕(卷一・在津紀事上)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		15.1×37.8	竹紙	1	端裏書『在津紀事』, 批正(墨), 「機曰」の記載あり(異筆カ, 機は後藤松陰の名)	III-128-5
2490	〔春水遺稿別録批正〕(卷一・在津紀事上)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		14.9×48.9	竹紙	1	端裏書『在津紀事』, 批正(墨), 「機曰」の記載あり(異筆カ, 機は後藤松陰の名)	III-128-6
2491	〔春水遺稿別録批正〕(師友志)	状	1通	江戸後期	(篠崎小竹)		15.7×71.5	楮紙	1	端裏書『師友志』, 批正(墨)	III-128-7
2492	〔山陽遺稿批正〕(卷三・文一)	状	1通	江戸後期	(後藤松陰)		15.7×30.5	杉原紙	1	批正(墨), 「阿雪伝」の批正	III-128-8

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2493	〔山陽遺稿批正〕(卷三・文一)	状	1通	江戸後期	機(後藤松陰)再拝	頼先生函丈	15.6×80.7	奉書紙	1	批正(墨),「古川翁伝」「高山(彦九郎)伝」の批正, 迫而書(15.6×5.4, 奉書紙)付属(糊離れカ)	III-128-9
2494	〔漢文〕(教卓筆惟諸葛能之)	状	1通	江戸後期	真光口拝		15.6×10.7	杉原紙			III-333-9-3
2495	〔漢文〕(春風老台口和拙詩再用前韻承聴奉呈)	状	1通	江戸後期	西山謹拝写乞郢斧(西山拙斎)		19.2×26.7	楮紙			III-330-1-6
2496	〔藤田新八墓碑銘草稿〕	状	1通	乙巳(天明5年)之秋	孝子清風奉祀(藤田新右衛門)		13.9×39.6	諸口紙		封裏書「乙己之秋 藤田新右衛門殿 托也」, 校訂(朱)	III-292-18
2497	先人行状(藤田新八行状草稿)	状	1通	丁巳(寛政9年)五月十日	男清風(藤田新右衛門)		13.9×				III-292-19
2498	答某書	仮綴	1綴	江戸後期	伏乞慈斧川上顯再拝		24.4×34.0	半紙	2		III-336-82
2499	〔漢文〕(先生戲示尊詠伊之助及僕等以使討論之…)	状	1通	江戸後期			15.0×44.7	竹紙		校訂(墨), 返点(墨)	III-333-8-3
2500	〔画賛〕	状	1通	江戸後期			22.2×25.9	色紙(薄桃色)		紙背に書簡「御代」(昨晚の馳走の礼状)あり	III-336-4
2501	〔孝子伝〕(商人半蔵)	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期			24.3×16.7	楮紙	10	共紙表紙, 首題「商人半蔵」, 表紙墨書「十 深津最初書試孝子伝起草」, 仮名(墨)	IV-492
2502	〔欧陽公作文法〕	状	1通	江戸後期			29.0×5.6	諸口紙			III-295-18
2503	〔「吉田駅詩」詩稿〕	袋綴装大和綴	1冊	原本: 文政己丑(12年)春二月十七日			24.7×17.3	半紙	2	跋「文政己丑春二月十七日謁(中略)襄」, 注記(墨), 28字ごとにカッコで区切り, 「一」から「十」まで漢数字を記した後に「以上廿八字」と記載, その後も23・28・24字ごとに「十一 廿三」「廿八字」「廿四字」の記載あり	VI-1
2504	〔詩稿〕(中秋同頼子成訪大津)	状	1通	(文化12年8月15日)	(頼山陽カ)		17.9×71.0	楮紙			III-334-3
2505	〔詩稿〕	状	1通	江戸後期	醉襄(頼山陽カ)		12.4×58.8	半紙		端書「新印長御封箱此巻を入レ遣ス」, 末尾に「八月廿九日大嶋屋用立」の「西依翁書詩」「巖嶋図巻」などの書名あり	III-336-35
2506	〔包紙〕(景樹歌書入共, 送別也)	状	1通	(文政12年カ)	(頼山陽カ)		27.9×39.5	楮紙		I-11「送梅颯和歌」と関連	III-349-30
2507	山陽先生稿本	折本装	1帖	江戸後期	(頼山陽カ)		27.6×17.8	罫紙(楮紙)	9	茶地龍花文緞子表紙, 外題題簽(銀箔他)「山陽先生稿本 笠山題」, 朱文長方印「笠山」5顆, 校訂(墨)	IV-356
2508	〔詩稿〕(「題劉先生像」「謝人贈梅花」ほか)	状	1通	戊寅春(文政元年)	山陽襄(写カ)		23.6×32.6	罫紙(半紙)		封筒(21.0×7.5, 頼成一筆カ)「山陽翁手蹟」	III-295-24
2509	1)先君子追善御詠目録	仮綴	1綴	江戸後期	(頼春水)		25.0×17.0	半紙	3	I-125-1~2を合綴, 首題「先君子追善御詠 目録」	I-125-1
2509	2)〔頼惟清一回忌追福和歌〕	仮綴	1綴	(天明4年)	(小沢)蘆庵ほか		25.0×17.0	半紙	7	2丁目オに「安芸国なりける惟清のぬし身まかりたりけり告もはや一とせの空めぐりきて」との記載あり	I-125-2
2510	〔頼春水詩稿〕(乙巳・戊申西上詠ほか)	仮綴	1綴	乙巳, 戊申(天明5・8年)	(頼春水)		24.5×17.0	罫紙(半紙)	4	石井鶴山批正(貼紙に墨), 校訂(朱), 4丁目オに「上層評語肥前佐嘉文学・石井有助」との記載あり	III-84-1
2511	〔頼春水詩稿〕(秋色詩巻)	仮綴	1綴	(享和2年)	(頼春水)		28.2×19.5	楮紙	6	頼杏坪批正(朱)	III-84-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2512	〔頼春水詩文稿〕(文化10年)	状	1通	文化十年	(頼春水)		16.4×134.2	楮紙・三桮紙 (薄茶・薄藍・薄赤染)		袋(32.5×21.7, 楮紙)にてⅢ-131-1～5を一括, 袋「春水翁詩文草稿」, 同・裏「ノシ 粗品 頼様 原友雄」, 校訂(墨), 付紙(漢詩1首), 校訂(墨), 前後欠, 書簡反故紙使用, 5枚に剥離, 浅野文庫「与楽叢書九十九 春水文稿, 癸酉稿」(広島市立中央図書館蔵)の草稿を含む	Ⅲ-131-1
2513	〔頼春水詩稿〕(文化12年)	状	1通	文化十二年三月, 文化十二年四月席上	(頼春水)		16.1×90.0/ 16.1×94.5	楮紙, 三桮紙 (萌黄・薄黄・薄茶色)		校訂(墨, 付紙に墨書), 書簡反故紙使用, 2枚に破断, 間欠	Ⅲ-131-2
2514	〔頼春水詩稿〕(文化12年6月～9月)	状	1通	文化十二年六月三日～九月廿三日席上	(頼春水)		18.5×442.3	楮紙, 三桮紙, 雁皮紙※		校訂(墨, 付紙に墨書), 書簡反故紙使用(中村元亮宛, 頼春風書簡二通), 楮紙(絵摺・藍染・浅葱色刷毛染), 三桮紙(薄茶染)	Ⅲ-131-5
2515	〔頼春水詩稿〕(文化11年7月～9月)	状	1通	文化十一年七月～九月	(頼春水)		16.7×487.9	美濃紙, 三桮紙 (薄茶色), 楮紙 (萌黄・藍・黄・薄紅・浅葱色)		校訂(朱・墨), 傍点(墨), 書簡反故紙使用(頼春水宛若槻幾斎書簡ほか), 三桮紙(薄茶染), 楮紙(萌黄色・藍色・黄色・薄紅色・浅葱色)	Ⅲ-132-1
2516	〔頼春水詩稿〕(文化11年正月～6月)	状	1通	文化十一年一月～六月	(頼春水)		18.0×407.1	薄様, 美濃紙 (黄・藍・薄紅・萌黄色)		校訂(朱・墨), 注記(付紙に墨), 書簡反故紙使用(頼春水宛丸川一郎書簡ほか), 美濃紙(黄色・藍色・薄紅色・黄色・萌黄)	Ⅲ-132-2
2517	〔頼春水詩稿〕(文化12年9月～12月)	仮綴	1綴	文化十二年九月～十二月	(頼春水)		16.7×29.8	奉書紙 (絵摺), 杉原紙, 美濃紙 (藍色, 絵摺), 三桮紙	4	校訂(墨), 書簡反故紙使用(頼春水宛田中藤七書簡ほか), 奉書紙(絵摺), 三桮紙(藍色・絵摺)	Ⅲ-132-3
2518	陳愚衷詩十三首	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		13.4×76.3	楮紙		端裏書「丙丁」, 訓点(墨), 校訂(墨)	Ⅲ-328-3
2519	〔歌稿〕(往時如夢二首)	状	1通	江戸後期	上 惟完(頼春水)		12.3×34.4	半紙		校訂(墨), 和歌二首「花もみちともに宮古になかめしもはかなく過し夢の手枕」「哀れなり過し月日ハ夢なれやくやしきことの多き此身ハ」	Ⅲ-330-6-1
2520	〔詩稿〕(岡山別姫井仲明次送詩韻ほか五首)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		15.7×27.8	楮紙		批正(墨)	Ⅲ-333-9-2
2521	七言律詩「詠菊」(文化11年9月23日)	状	1通	(文化11年9月)	(頼春水)		29.1×18.0	竹紙		校訂(墨), 浅野文庫「与楽叢書 九十六 甲戌稿文化十一年」(広島市立中央図書館蔵)の九月廿三日学館課題の詩稿, 右上部と左下部に欠損あり	Ⅲ-336-12
2522	〔詩稿〕(「学館詩題観獵」ほか)	状	1通	(文化9年頃)	(頼春水)		15.7×30.4	杉原紙		校訂(墨), 書簡(十月八日付)の反故紙を使用	Ⅲ-336-30
2523	〔七言絶句〕	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		26.7×24.8	楮紙		白文長方印「尚古」1顆	Ⅲ-336-54
2524	〔詩稿〕	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		12.2×17.0	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-353-15

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2525	[詩集](三博士・菅茶山等諸名家詩)	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期			19.7×13.8	杉原紙	16	共紙表紙	IV-490
2526	[和歌](紅葉のいとうつくしきをつゝみて)	状	1通	(天明8年カ)	(頼春水)		12.4×7.8	半紙			III-196-6-3
2527	[七言律詩・和歌]	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		12.3×6.4	半紙		校訂(墨), 両端に色半紙を貼継するも破損, 端に色半紙「廿九日」	III-290-113
2528	[梅颯歌稿](寛政元年)	仮綴	1綴	(寛政元年)	静子(梅颯)		24.4×17.2	半紙	6	批正(墨), 付紙(後筆)「寛政元年清書 一」	III-20-1
2529	[梅颯歌稿](寛政4年)	横帳	1冊	(寛政4年)	(頼梅颯)		12.2×34.4	半紙	20	校訂(墨), 付紙(後筆)「梅颯歌稿 寛政四年 二」, 同・朱文長方印「松廬」, 反故紙使用	III-20-2
2530	[梅颯歌稿](寛政12年)	横帳	1冊	(寛政12年)	静子(梅颯)		12.5×35.0	半紙	22	批正(墨), 付紙(後筆)「梅颯歌稿 寛政十二年 三」, 同・朱文長方印「松廬」1顆	III-20-3
2531	[梅颯歌稿](文化4年)	仮綴	1綴	ひのどのう文和四(文化4)年	静子, しつ子(梅颯)		12.5×34.5	半紙	8	端書「点ノ分スミ ひのどのう文和四年」, 批正(墨), 付紙(後筆)「文化四年 清書 四」	III-20-4
2532	[梅颯歌稿](文化4年)	仮綴	1綴	(文化4年)	静子(梅颯)		12.4×34.2	半紙	5	端書「うつしスミ」, 批正(墨), 付紙(後筆)「梅颯歌稿 文化四年 五」, 同・朱文長方印「松廬」1顆	III-20-5
2533	[梅颯歌稿](文化4~5年)	横帳	1冊	文化四年丁卯~同五年	(頼梅颯)		12.3×33.8	半紙	48	校訂(墨), 付紙(後筆)「文化四年 同五年 草稿 六」, 反故紙使用	III-20-6
2534	[梅颯歌稿](文化10年)	仮綴	1綴	文化十年癸酉	(頼梅颯)		12.5×34.5	半紙	19	校訂(墨・朱), 頭点(朱), 付紙(後筆)「文化十年 草稿 七」, 反故紙使用	III-20-7
2535	山路のあそひ(文化10年)	仮綴	1綴	癸酉(文化10年)	梅颯		12.5×34.5	半紙	9	首題「山路のあそひ」, 端書「○癸酉 反古」, 校訂(墨), 付紙(後筆)「文化十年 文 草稿 八」, 反故紙使用	III-20-8
2536	[梅颯歌稿](文化11年)	横帳	1冊	文化十一年申戌ノ春	静子(梅颯)		12.5×34.6	半紙	24	端書「反古 文化十一年甲戌ノ春」, 校訂(墨), 付紙(後筆)「梅颯歌稿 文化十一年 九」, 同・朱文長方印「松廬」1顆, 13丁目オよりIII-20-8の記載あり, 反故紙使用	III-20-9
2537	[梅颯歌稿](文化12~13年)	横帳	1冊	乙亥~丙子(文化12~13年)	静子(梅颯)		12.5×33.7	半紙	30	端書「反古」, 校訂(墨), 付紙(後筆)「文化十二年 同十三年 草稿 十」, 反故紙使用	III-20-10
2538	[梅颯歌稿](文化13年)	横帳	1冊	丙子(文化13年)	梅颯		12.4×35.0	半紙	19	校訂(墨), 頭点(墨), 付紙(後筆)「梅颯歌稿 文化十三年 十一」, 同・朱文長方印「松廬」1顆, 反故紙使用	III-20-11
2539	[梅颯歌稿](文化13~14年)	仮綴	1綴	(文化14年)	静子(梅颯)		12.5×34.5	半紙	26	批正(墨), 校訂(墨), 付紙(後筆)「文化十三年 同十四年 清書草稿 十二」, 最終丁に三穂子の和歌, 同ウに「正月廿八日景議か三めくりの忌ニ」の記載あり	III-20-12
2540	[梅颯歌稿](文化3・12・14年, 文政6年)	仮綴	1綴	(文化3・12・14年, 文政6年)	静子, 志津子, 志凵子(梅颯)		12.5×35.0	半紙	75	端書「うつしスミ」, 批正(墨), 付紙(後筆)「文化十四年 同三年 同十二年 草稿 十三」	III-20-13
2541	[梅颯歌稿](文政7年)	横帳	1冊	(文政7年)	(頼梅颯)		12.5×34.3	半紙	41	校訂(墨), 注記(墨, 付紙に墨), 付紙(後筆)「文政七年 草稿 十五」, 20丁目ウに「九月廿一日, 修学院へ初御幸されけるを拜む」との記載あり, 反故紙使用	III-20-15
2542	[宇治川あそひ](文政7年)	横帳	1冊	(文政7年)	(頼梅颯)		12.5×34.1	半紙	5	奥書「梅颯過日二日三日宇治川にあそひし, そのさま水茎にかき取給ひしをみて心ゆくゆく引綱のめにあまりたのしきなめりと柴舟のしはしはうちすてそかおくにかいづく 豊常 ころをししからみかけてうち川や水もいらさぬあそひをそおもふ」, 校訂(墨), 批正(墨), 注記(付紙に墨), 付紙(後筆)「文政七年 文 清書 十六」	III-20-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2543	[梅颯歌稿](文政8年)	仮綴	1綴	(文政8年)	梅颯		13.0×35.9	楮紙	50	校訂(朱・墨), 付紙(後筆)「文政八年 草稿 十七」, 反故紙使用	III-20-17
2544	[梅颯歌稿](文政8・10年)	仮綴	1綴	(文政8・10年)	静子, 志津子, 梅颯		12.5×34.5	半紙	12	校訂(墨), 付紙(後筆)「文政十年 清書 文政八年 草稿 十八」	III-20-18
2545	[梅颯歌稿](文政10年)	横帳	1冊	(文政10年)	(頼梅颯)		12.3×34.5	半紙	15	校訂(墨), 付紙(後筆)「文政十年 草稿 十九」, 反故紙使用	III-20-19
2546	[梅颯歌稿](文政8・10・11年, 天保元年)	仮綴	1綴	(文政8・10・11年, 天保元年)	(頼梅颯)		14.0×36.5	諸口紙, 三桎紙, 雁皮紙	11	校訂(墨), 付紙(後筆)「文政八年 同十 十一年 天保元年 草稿 二十」	III-20-20
2547	[梅颯歌稿](文政10～11年)	横帳	1冊	(文政10～11年)	静子(梅颯)		15.8×44.4	杉原紙	8	批正(墨), 付紙(後筆)「文政十年 同十一年 清書 廿一」	III-20-21
2548	[梅颯歌稿](文政12年)	仮綴	1綴	(文政12年)	梅颯		13.1×35.9	楮紙	6	校訂(墨), 付紙(後筆)「文政十二年 廿二」, 反故紙使用	III-20-22
2549	[梅颯歌稿](文政12～天保元年)	横帳	1冊	(文政12年～天保元年)	(頼梅颯)		12.8×34.5	楮紙	46	校訂(墨), 付紙(後筆)「文政十二年 天保元年 草稿 廿三」	III-20-23
2550	[梅颯歌稿](文政12年)	仮綴	1綴	(文政12年)	(頼梅颯)		13.6×37.0	楮紙	10	校訂(墨), 付紙(後筆)「文政十二年 草稿 廿四」	III-20-24
2551	[梅颯歌稿](天保2～4年)	横帳	1冊	(天保2～4年)	梅颯		12.0×33.0	罨紙(半紙), 美濃紙	73	校訂(墨), 頭点(墨), 付紙(後筆)「天保二年 同三年 同四年 草稿 廿五」, 53丁目オに「妹なる椈月七月十日より病おこりて(中略)葉月五日ニはかなくなりたるよし」との記載あり, 反故紙使用	III-20-25
2552	[梅颯歌稿](天保5～6年)	仮綴	1綴	(天保5～6年)	梅颯		14.5×34.7	諸口紙	28	批正(朱), 校訂(墨), 付紙(後筆)「天保五年 同六年 草稿 廿六」, 反故紙使用	III-20-26
2553	[梅颯歌稿](天保8～11年)	横帳	1冊	(天保8～11年)	椈颯		12.7×34.7	罨紙(楮紙)	59	校訂(墨), 付紙(後筆)「天保八年 同九, 十, 十一年 草稿 廿七」, 反故紙使用	III-20-27
2554	[梅颯歌稿](天保10～13年)	横帳	1冊	(天保10～13年)	梅颯		12.9×35.0	半紙	39	校訂(墨), 付紙(後筆)「天保十年 同十一 十二 十三年 草稿 廿八」, 反故紙使用	III-20-28
2555	[梅颯歌稿](天保12年)	横帳	1冊	(天保12年)	静子(梅颯)		12.5×34.2	半紙	27	批正(墨), 校訂(付紙に墨), 付紙(後筆)「天保十二年 清書 廿九」, 13～14丁目, 14～15丁目の間に和歌断簡挟込	III-20-29
2556	[梅颯歌稿](天保12年)	仮綴	1綴	(天保12年)	静子, 梅颯		16.0×35.3	美濃紙, 杉原紙, 鳥の子紙	30	端書「うつしスミ」, 批正(墨), 付紙(頼成一筆)「天保十二年 清書 三十」	III-20-30
2557	[梅颯歌稿](文政7年, 天保12年)	仮綴	1綴	(文政7年, 天保12年)	(頼梅颯)		24.9×34.0	半紙	9	注記(付紙に墨), 付紙(後筆)「天保十二年 文政七年 草稿 卅一」, 反故紙使用	III-20-31
2558	[梅颯歌稿](天保13年)	仮綴	1綴	(天保13年)	(頼梅颯)		12.5×33.6	半紙	5	校訂(墨), 付紙(後筆)「天保十三年 草稿 卅二」, 反故紙使用	III-20-32
2559	[梅颯歌稿](天保13年)	横帳	1冊	(天保13年)	(頼梅颯)		15.5×43.3	杉原紙	3	校訂(墨), 付紙(後筆)「天保十三年 草稿 卅三」, 1～2丁目の間に和歌断簡挟込, 2丁目オに「孫なる鉉(達堂)か学のさきやうのためにとて東に行を送りて」との記載あり	III-20-33
2560	[梅颯歌稿](天保13年)	横帳	1冊	(天保13年)	(頼梅颯)		15.5×43.6	杉原紙	13	宗閑批正(墨), 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 付紙(後筆)「天保十三年 清書 卅四」, 13丁目オに「宗閑」との記載あり	III-20-34
2561	[香川景樹等和歌写]	横帳	1冊	江戸後期	(頼梅颯)		12.6×34.1	半紙	5	付紙(後筆)「年不明 卅六」	III-20-36
2562	[梅颯歌稿]	仮綴	1綴	江戸後期	(頼梅颯)		24.8×17.5	半紙	4	批正(墨), 付紙(後筆)「年不明 清書 卅七」	III-20-37
2563	五十首組題	横帳	1冊	江戸後期	静子(梅颯)		12.5×34.0	半紙	19	首題「五十首組題」, 付紙(後筆)「年不明 清書 卅八」	III-20-38

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2564	[梅颯歌稿]	仮綴	1 綴	江戸後期	榎颯		14.5×126.5	諸口紙, 杉原紙, 奉書紙 (鳥絵摺)	9	批正(墨), 付紙(後筆)「年不明 清書草稿 卅九」, 反故紙使用	III-20-39-1
2565	[梅颯歌稿]	状	1 通	江戸後期	(頼梅颯)		19.0×86.5	小半紙	1	頼梅颯宛梨影書簡の反故紙を使用	III-20-39-2
2566	雪のゆふへ	横帳	1 冊	文化はしめのとしはすまつかた			12.5×34.1	半紙	3	首題「雪のゆふへ」, 校訂(墨)	III-20-43
2567	[梅颯覚書]	横帳	1 冊	江戸後期	(頼梅颯)		12.5×34.2	半紙	10	反故紙使用	III-20-44
2568	[梅颯歌稿]	横帳	1 冊	二月十九日当座	静子, 志川子(梅颯)		12.8×34.5	半紙	9	端書「点ノ分写置」, 批正(墨), 校訂(墨), 頭点(墨), 注記(付紙に墨), 付紙(後筆)「梅颯歌稿 年代未考 番外」, 3丁目目に「加藤氏年賀」との記載あり	III-20-45
2569	[梅颯歌稿](和歌草紙)	仮綴	1 綴	江戸後期	(頼梅颯)		12.5×34.0	半紙	21	反故紙使用	III-21-41
2570	[梅颯歌稿](惟柔のぬしの旅たちを送りまいらせて)	状	1 通	(文化12年)	静子(梅颯)		16.9×47.8	雁皮紙(薄藍色, 桜押花漉込)		批正(朱)	III-21-42
2571	[梅颯歌稿]	横帳	1 冊	江戸後期	(頼梅颯)		12.0×32.5	半紙	6	批正(墨)	III-21-44
2572	[梅颯歌稿](和歌短冊)	状	1 通	江戸後期	梅颯		18.8×4.8	楮紙		「あやし野>萩の上こす秋風にこほる>露や玉川の水」	III-21-45
2573	[梅颯歌稿](ゆら子追悼文, 和歌一首)	状	1 通	(文政元年カ)	梅し	惟柔様(頼杏坪)	16.0×114.4	杉原紙(薄赤色)			III-21-46
2574	[梅颯歌稿](ゆら子をいたむことは并二うた)	状	1 通	(文政元年カ)	梅颯		16.9×143.8	杉原紙		端書「ゆら子をいたむことは并二うた 梅颯」	III-21-48
2575	[梅颯歌稿]	状	1 通	江戸後期	(頼梅颯)		16.8×15.9	雁皮紙		前欠	III-21-49
2576	[梅颯歌稿]	状	1 通	江戸後期	(頼梅颯)		15.9×28.5	杉原紙		白文長方印「聿庵」2顆, 白文長方印「協印」2顆, 白文長方印「東」2顆, 白文方印「春水」2顆, 白文方印「頼□□」1顆	III-21-50
2577	[梅颯歌稿]	折紙	1 通	江戸後期	(頼梅颯)		16.0×44.2	杉原紙		校訂(墨), 反故紙使用	III-21-51
2578	[梅颯歌稿]	状	1 通	江戸後期	梅颯		25.7×55.0	奉書紙		注記(付紙に墨), 紙背に香川景樹の和歌「薄氷」あり, 本紙一部切断	III-21-52
2579	[梅颯歌稿]	仮綴	1 綴	江戸後期	静子(梅颯)		16.7×35.3	杉原紙		端, 頭点(墨), 6丁目目に「手しま二遣すうた添」との記載あり, 反故紙使用	III-21-53
2580	[梅颯歌稿]	折紙	1 通	江戸後期	静子(梅颯)		12.4×34.4	半紙		校訂(墨)	III-21-54
2581	[梅颯歌稿]	折紙	1 通	江戸後期	(頼梅颯)		14.4×67.0	竹紙		反故紙使用	III-21-56
2582	[梅颯歌稿]	折紙	1 通	江戸後期	(頼梅颯)		14.4×44.7	諸口紙		「田中秀粧」との記載あり	III-21-57
2583	[頼梅颯歌稿](梓弓の歌(ほか))	折紙	1 通	文化十二年戊師走	(頼梅颯)		24.5×26.7	半紙			III-187
2584	[歌稿](思敬の翁の歌あまた書つけて見給へるをかへすとて)	状	1 通	江戸後期	梅颯		15.8×13.2	奉書紙			III-330-6-2
2585	[歌稿]「五月雨」, 「水鶏」, 「夏月」	状	1 通	江戸後期	(頼梅颯カ)		15.1×40.6	杉原紙(群鶴絵摺)			III-336-60

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2586	七夕七首(天象・地儀・人倫・禽・獸・服・器)	状	1通	(文政12年11月頃)	上 榎颯		18.2×88.0	雁皮紙(山桜絵摺)		端裏書「南」, 頼杏坪批正(墨)	III-337-1
2587	〔歌稿〕(正月大朔酉～十二月大卯まで)	状	1通	(天保3年)正月大朔酉～十二月大卯	梅颯		15.2×110.4	竹紙		校訂(墨)	III-337-2
2588	〔歌稿〕(きひのなかつくにへかへり給ふ人のワかれに, ほか四首)	状	2通	江戸後期	上 梅颯		16.1×46.2/ 16.1×10.0	三桮紙(黄染)		包紙(30.6×21.4, 杉原紙)「御和歌 斐雄直候之分共, 薄葉御浄録引き□□□候事」, 同・裏「酒一樽」, 菅沼斐雄批正(朱), 付紙3枚にて批正, 付紙①(16.1×11.4, 杉原紙, 上下朱線), ②(16.1×10.6, 杉原紙, 上下朱線), ③(16.1×9.8, 杉原紙, 上下朱線)	III-337-5
2589	〔歌稿〕(五月雨, 水鶏, 夏日三首)	状	1通	江戸後期	(梅颯)		17.5×48.6	奉書紙(水辺風景絵摺)			III-337-6
2590	〔歌稿〕(窓前新竹三首)	状	1通	江戸後期	(梅颯か)		16.2×34.3	杉原紙		校訂(墨), 後欠	III-337-10
2591	〔歌稿〕(水辺秋色ほか十七首)	状	1通	江戸後期	(梅颯か)		16.4×87.9	楮紙			III-337-16
2592	〔歌稿〕(冬の日の夕つかた外面に出て有しよのこと共思日明けれハ, ほか二首)	状	1通	江戸後期	(梅颯か)		17.4×36.6	奉書紙		端裏書「御直し」, 批正(朱)	III-337-19
2593	〔歌稿〕(夫におくれける歳の八月十五夜惟柔のぬしとふらひを秋といふ字を得て)	状	1通	(天保5年)八月十五夜	(頼梅颯)		14.2×50.0	三桮紙(薄墨色)		批正(朱)	III-339-3
2594	〔歌稿〕(春祝, 梅のさかりに, ほか九首)	状	1通	江戸後期	(頼梅颯)		15.0×80.0	漉返紙(薄墨色)		端裏書「詠草」	III-339-4
2595	〔歌稿〕(立春雨ふる, セちふん二ほか九首)	状	1通	江戸後期	梅颯		15.8×88.3	奉書紙(上下黄線摺)		批正(朱)	III-339-5
2596	追善和歌二十首	状	1通	江戸後期	静女, 直女		16.0×143.0	奉書紙		3枚に剥離, 静を志都, 直を南峰とも表記	III-339-8
2597	〔歌稿〕(小沢蘆庵・香川景樹・熊谷直好・元好の歌会詠草の写し)	状	1通	江戸後期	(梅颯筆写か)		16.5×112.1	楮紙			III-339-13
2598	〔歌稿〕(日野の君さ月のはしめ 寝か住ける家にたち入りせたまひければ, 他二首)	状	1通	(文政12年5月8日)	上 梅颯		24.5×54.5	鳥の子紙			III-339-21
2599	秋十首組題当座	状	1通	丑ノ九月七日	(頼梅颯)		24.9×32.4	半紙		端裏書(頼梅颯筆)「わすれず御取帰之事 丑ノ九月七日当座十首」, 参加者に順女・静子・常山・貞松の名あり	III-290-97
2600	〔和歌写〕(香川景樹の和歌ほか)	状	1通	江戸後期	(頼梅颯)		15.4×21.7	楮紙(黄染)			III-374-25
2601	〔梅颯歌稿〕(山陽追悼の和歌三首)	状	1通	九月廿日余三日	(頼梅颯)		14.7×8.7	三桮紙		端書「九月廿日あまり三日, 山陽かおもいひ日にて有し世につくりたる詩のみんを分けて」, 校訂(墨)	III-374-27
2602	〔和歌写〕(香川景樹和歌写ほか)	状	1通	江戸後期	(頼梅颯)		19.0×26.9	小半紙		貞雄・景樹・春雄の詠者名あり, 全七首	III-374-28
	〔諸家和歌連巻〕	一紙貼継	1巻							III-130-1～18まで貼継, 外袋(25.6×18.0, 頼古榎筆)「春水翁梅颯夫人」	III-130

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2603	1)一詮(落葉集写カ)	状	1通	江戸後期	一詮		16.0×21.0	杉原紙		端書「落葉集」	Ⅲ-130-1
2603	2)筆者不明(鰥寡孤独を詠んだ和歌)	状	1通	江戸後期			14.5×31.3	楮紙		端書「おち葉集」	Ⅲ-130-2
2603	3)筆者不明(江畔柳ほか5首)	状	1通	二月三日			13.9×71.3	楮紙			Ⅲ-130-3
2603	4)筆者不明(木久所蔵之秋翁画賛并短冊之歌31首)	状	1通	江戸後期			12.4×101.7	半紙			Ⅲ-130-4
2603	5)澄南(題義士夜討図歌并短歌,13首)	状	1通	江戸後期	澄南		12.4×34.0	半紙		端書「了栄上人様」	Ⅲ-130-5
2603	6)筆者不明(横谷のあうむ石にてほか14首)	状	1通	江戸後期			14.0×85.4	楮紙			Ⅲ-130-6
2603	7)筆者不明(景口のきみ乃よめるとしてしめし給ひける7首)	状	1通	江戸後期			14.5×38.6	楮紙			Ⅲ-130-7
2603	8)菅茶山(寄頼翰ほか1首)	状	1通	江戸後期	菅茶山		14.9×14.5	杉原紙		「また府誌之事少し出かけこまり申候,これハ後便可申上候,扱々いま□居れハ用ハたしぬ物にや」	Ⅲ-130-8
2603	9)頼梅颯カ(竹御丸御年賀和歌席文)	状	1通	江戸後期	頼梅颯カ		14.3×118.5	諸口紙			Ⅲ-130-9
2603	10)多賀子(和歌4首)	状	1通	江戸後期	多賀子		15.7×90.0	杉原紙			Ⅲ-130-10
2603	11)頼梅颯(和歌2首)	状	1通	江戸後期	静子		16.5×35.0	杉原紙(飾線)			Ⅲ-130-11
2603	12)慈光(和歌2首)	状	1通	江戸後期	慈光		16.6×33.0	杉原紙(絵摺)			Ⅲ-130-12
2603	13)頼梅颯カ(秋十五首)	状	1通	江戸後期	静子		16.8×80.2	杉原紙		端書「秋十五首」	Ⅲ-130-13
2603	14)寿卿(和歌12首)	状	1通	江戸後期	寿卿		16.0×97.2	杉原紙(絵摺)			Ⅲ-130-14
2603	15)入江昌喜(和歌4首)	状	1通	江戸後期	まさよし		17.3×44.3	杉原紙			Ⅲ-130-15
2603	16)入江昌喜(和歌2首)	状	1通	江戸後期	昌よし		16.3×24.0	杉原紙			Ⅲ-130-16
2603	17)入江昌喜妻,恵俊(和歌2首)	状	1通	江戸後期	昌喜の妻,恵俊		16.2×18.5	杉原紙			Ⅲ-130-17
2603	18)入江昌喜(和歌1首)	状	1通	江戸後期	まさよし		16.2×16.3	杉原紙			Ⅲ-130-18
2604	[十二媛詩写]	仮綴	1綴	江戸後期	(頼事庵カ)		25.0×17.1	罫紙	2	罫紙柱題「日本外史」	Ⅲ-76
2605	[頼事庵草稿・詩稿](寺院焼失につき再建発趣書,漢詩)	状	1通	四月廿七日	(頼事庵)		24.7×34.0	半紙		紙背に頼事庵「孝義伝三編」跋あり	Ⅲ-260-2
2606	[頼事庵詩稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		24.5×34.3	半紙		紙背墨書「天保癸卯十一月廿日 本藩儒員頼元協謹跋」	Ⅲ-260-3
2607	[頼事庵詩稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		17.5×24.6	杉原紙			Ⅲ-264
	[頼事庵詩稿]									Ⅲ-266-1~4を合綴	Ⅲ-266
2608	1)[頼事庵詩稿]([「立春」]「癸酉春首」]ほか)	袋綴装大和綴	1冊	癸酉(文化10年)春	(頼事庵)		23.4×16.4	半紙	25	白文方印「頼協之印」1顆,句切点(朱),校訂(墨)	Ⅲ-266-1
2608	2)[乙亥・戊寅稿]	袋綴装大和綴	1冊	乙亥(文化12年),戊寅(文政元年)宕冬	(頼事庵)		23.7×16.3	罫紙(半紙)	21	白文長方印「満壁山水草堂」1顆,批正(墨)	Ⅲ-266-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2608	3)「癸未仲秋学館賞月詩会分題同賦」	袋綴装 大和綴	1冊	癸未(文政6年)仲秋	元協(頼聿庵)		24.6×17.0	罨紙 (半紙)	2	首題「癸未仲秋学館賞月詩会分題同賦」, 批正(朱), 井口坂・巖島・香島・迫門・宇品島ほか十首	III-266-3
2608	4)〔頼聿庵詩稿〕(「小園寒梅」ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×17.0	半紙	23	朱文長方印「嶺松廬」1顆, 批正(朱)	III-266-4
2609	聿庵詩鈔 上	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期			24.6×17.1	半紙	28	共紙表紙, 外題直書「聿庵詩鈔 上」, 校訂(墨), 付箋多数	III-267
2610	聿庵先生詩集	袋綴装 四ツ目綴	1冊	甲辰天保十五年, 丙午(弘化3年), 丙辰(安政3年)念五	(頼聿庵)		22.4×15.5	罨紙 (楮紙)	46	浅葱表紙, 外題題簽「聿庵先生詩集」, 白文円印「青天白日」1顆, 朱文円印「」3顆, 坂井虎山批正(朱), 頭点(朱), 15丁目に坂井虎山批正「詩非無疵瑕句>斬新華不及矣 甲辰臘月十日 臥虎山人妄批」あり	III-268
2611	〔頼聿庵詩稿〕(天保8~10年)	袋綴装 五ツ目綴	1冊	丁酉(天保8年)十月十一日~己亥(天保10年)秋晚	(頼聿庵)		23.5×16.5	罨紙 (半紙)	32	黄表紙, 表紙に題簽(白紙)あり	III-270
2612	〔頼聿庵詩稿〕(「歳旦」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	壬申(文化9年)除夕	頼餘一(聿庵)		23.5×17.0	罨紙 (半紙)	25	序跋「壬申除夕詩会マテ頼餘一詩」, 頭点(朱), 校訂(墨), 1丁目に「文政三年庚辰一閱畢」との記載あり	III-272
	〔頼聿庵詩稿〕									III-274-1~3を合綴	III-274
2613	1)戊子稿	袋綴装 大和綴	1冊	戊子(文政11年)	(頼聿庵)		24.5×15.5	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「戊子稿 文政十一年 新斎主人」, 首題「戊子稿」, 通計廿六首己丑晩夏初八録, 朱文方印「守口口餅」1顆, 白文方印「頼協」1顆, 頼山陽批正カ(朱)	III-274-1
2614	2)己丑稿	袋綴装 大和綴	1冊	己丑(文政12年)	(頼聿庵)		24.5×15.5	半紙	19	共紙表紙, 外題直書「己丑稿 文政十二年 新斎主人」, 首題「己丑稿」, 朱文方印「守口口餅」1顆, 白文方印「頼協」1顆, 朱文方印「承緒」2顆, 頼山陽批正カ(朱)	III-274-2
2615	3)己丑稿	袋綴装 大和綴	1冊		(頼聿庵)		24.8×17.0	半紙	5	共紙表紙, 外題直書「己丑稿 聿庵」, 首題「己丑稿 文政十二年」, 頭点・傍点(朱)	III-274-3
	〔頼聿庵詩文稿〕										III-275
2616	江戸詩稿	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		12.4×17.2	半紙	11	共紙表紙, 外題直書「江戸詩稿」, 最終丁は朱筆	III-275-1
2617	〔頼聿庵詩稿・草稿〕(「孝義伝第三編成」ほか)	袋綴装 四ツ目綴	1冊	甲辰(弘化元)九月~癸丑(嘉永6年)	(頼聿庵)		25.0×18.0	薄様	27	素紙表紙, 表紙墨書「(漢詩など)」, 6丁目に「甲辰九月十三夜与中尾長三話西陲(イギリス也)事喧々, 一見故人勝百聞, 頼有肥軍」との記載あり	III-275-2
2618	〔聿庵詩稿〕	袋綴装 大和綴	1冊	嘉永庚戌(3年)首夏, 安政乙卯(2年)陽月	(頼聿庵)		24.5×17.1	半紙	5	共紙表紙, 外題題簽「聿庵全書」, 表紙墨書「○廿一史文天詳編」ほか多数, 校訂(墨), 2丁目に「安政乙卯陽月与尾州大山湊宏同賞子黄菊(後略)」, 3丁目目に「嘉永庚戌首夏門下生竹内清吉西遊, 臨別匆忙走筆(後略)」との記載あり	III-280
2619	〔聿庵写「十二媛詩」〕(ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼聿庵)		24.5×17.5	罨紙 (半紙)	13	校訂(墨), 左端下半破損, 虫損大, 2丁目と3丁目の間に挟紙(24.0×12.0)「小山伯鳳詩, 病中與遊最勝庵」あり	III-281
2620	〔「聿庵詩稿」及び雑記〕	袋綴装 大和綴	1冊	戊子(文政11年)孟春~戊子秋	(頼聿庵)		24.8×17.4	半紙	14	共紙表紙, 外題直書「大眠先生詩稿 戊子孟春ト口刻」, 表紙墨書「○六一江御遺稿見進候事」他多数, 注記(朱), 校訂(朱・墨)	III-282

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2621	迂娛軒 己酉 第一集	袋綴装 大和綴	1冊	嘉永第二年 己酉孟春十一日	(頼聿庵)		23.7×17.0	半紙	26	共紙表紙, 外題直書「迂娛軒 己酉 第一集」, 表紙墨書「殿医筆頭石井宗謙…」ほか多数, 校訂(墨), 18丁目に「倉橋萬六舟送三大石志喜」の詩稿あり	III-285
2622	迂娛軒集 第二 詩	袋綴装 大和綴	1冊	(嘉永2年8月 ~9月カ)	(頼聿庵)		23.7×17.0	半紙	11	共紙表紙, 外題直書「迂娛軒 第二 詩」, 表紙墨書「上田宗固苔井富士山」, 校訂(墨)	III-286
2623	[頼聿庵詩文稿及び雑記]	仮綴	1綴	乙卯(安政2年)元旦	(頼聿庵)		31.4×16.8	竹紙	35	校訂(墨・朱), 反故紙使用	III-287-1
2624	[頼聿庵詩文稿及び雑記]	袋綴装 大和綴	1冊	(安政年間カ)	(頼聿庵)		29.5×15.5	竹紙	49	校訂(墨), 傍点(朱), 反故紙使用	III-287-2
2625	[頼聿庵詩文稿及び雑記]	袋綴装 大和綴	1冊	(安政年間カ)	(頼聿庵)		30.5×16.3	竹紙	22	校訂(墨), 校訂(墨), 反故紙使用	III-287-3
2626	[頼聿庵詩文稿] (「墨水観月記」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		30.0×128.5	竹紙		校訂(朱), 句切点(墨・朱), 天地破損, 反故紙使用	III-288
	[頼聿庵詩文稿]									袋(33.5×21.2, 楮紙)付属	III-289
2627	「松宮玄蕃祖庄助碑銘」	状	1通	戊戌(天保9年)夏五月	(頼聿庵)		30.5×132.0	竹紙		端裏書「□もの□□批□す」『伴』『贊之□』, 校訂(墨)	III-289-1
2628	「松宮玄蕃祖庄助碑銘」	状	1通	戊戌(天保9年)夏五月	(頼聿庵)		31.5×92.2	竹紙		校訂(墨), 後欠	III-289-2
2629	「松宮玄蕃祖庄助碑銘」	状	1通	戊戌(天保9年)夏五月	儒員頼元協撰 謹并書(頼聿庵)		31.0×174.2	竹紙		序跋「天保戊戌夏五月儒員頼元協撰謹并書」, 校訂(墨・朱), 前欠	III-289-3
2630	「松宮玄蕃祖庄助碑銘」	状	1通	戊戌(天保9年)夏五月	儒員頼元協謹 撰并書(頼聿庵)		30.5×132.3	竹紙		序跋「天保九年戊戌夏五月本藩儒員頼元協謹撰并書」, 校訂(墨)	III-289-4
2631	[頼聿庵詩稿] (「題画」「花時遊諸寺」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		26.5×35.4	楮紙		校訂(墨), 頭点(墨)	III-289-5
2632	[聿庵詩稿] (「晨起即時」「夏日望富嶽」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		16.6×56.0	楮紙 (浅葱色)		校訂(朱), 校訂(墨)	III-289-6
2633	「春夜使江戸軍談家鈴木某講越侯謙信信州川中島戦講後詩以記之」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		25.0×31.5	半紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-7
2634	「西福精舎席上賦得雨中看花分韻得寒」	状	1通	江戸後期	元協拝(頼聿庵)		24.0×15.5	半紙		山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-8
2635	「孟夏夜過女覽堂分韻得深字」 「春夜過松濤軒喫茶」	状	1通	江戸後期	協拝乞(頼聿庵)		24.8×33.5	半紙		山陽批正カ(朱)	III-289-9
2636	[頼聿庵詩稿] (「乙酉歳首志喜」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		26.5×36.0	楮紙		校訂(墨)	III-289-10
2637	「遊妙正寺作」	状	1通	江戸後期	頼餘一拝正 (聿庵)		25.0×17.0	半紙		批正(墨)	III-289-11
2638	「僧房看菊」 「夜帰」	状	1通	江戸後期	頼餘一拝(聿庵)		24.5×33.0	半紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-12
2639	「四月十五日奉寄懷杏老大人」	状	1通	四月十五日	協拝(頼聿庵)		24.8×33.5	半紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-13

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2640	「八月廿八夜雨口/杏老大人十五夕吉祥院賞月詩韻奉寄懷」	状	1通	己丑(文政12年)九月十二日	儒協奉乞慈政(頼聿庵)		16.7×35.2	楮紙		頼山陽批正(朱)	III-289-14
2641	「新秋憶人在東武」,「秋聲」	状	1通	江戸後期	協 拝 稿 斧 正(頼聿庵)		25.0×33.7	半紙		端裏書「餘一殿返事」, 頼杏坪批正(墨)	III-289-15
2642	「秋日登観濤楼分韻得晴字」	状	1通	江戸後期	協 拝(頼聿庵)		24.6×33.5	半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-16
2643	「十五夜松雨山房小飲分韻得銀字」	状	1通	江戸後期	協 拝 稿 正(頼聿庵)		24.7×33.0	半紙		頼杏坪批正(朱), 校訂(墨)	III-289-17
2644	「秋山夕興」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		19.6×27.5	小半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-18
2645	「十六夜海雲精舍集無月有感」	状	1通	江戸後期	協 拝 草(頼聿庵)		19.5×27.0	小半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-19
2646	「八月十四夜日涉園小集呼韻」	状	1通	八月十四夜	協 拝 草 正(頼聿庵)		19.2×26.0	小半紙		頼杏坪批正カ(墨)	III-289-20
2647	七言古詩「爽気夜深寒漏遅」	状	1通	江戸後期	協 拝(頼聿庵)		14.5×24.5	諸口紙		校訂(墨)	III-289-21
2648	「次坂井以寧韻」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.7×33.0	半紙		校訂(墨)	III-289-22
2649	「秋山夕興」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.6×30.0	半紙		校訂(墨)	III-289-23
2650	〔頼聿庵詩稿〕(「十月望雨陪」「杏坪大人登水明楼此夜月食分水落石出四字為勻余得水字」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×34.2	半紙		頭点(朱), 傍点(朱), 校訂(墨)	III-289-24
2651	〔頼聿庵詩稿〕(「八月十八夜陪」「舟中所見」ほか)	状	1通	江戸後期	元協 拝 稿 罵 政(頼聿庵)		25.0×34.5	罨紙(半紙)		頼杏坪批正(朱), 校訂(墨, 付紙に墨)	III-289-25
2652	「園亭秋宴」「雲間初雁」	状	1通	江戸後期	協 拝 稿 正(頼聿庵)		24.2×16.5	半紙		端裏書(頼杏坪筆)「一訂いたし候(中略)仄字ニシタキモノ也, 忠平へ相談可有之候」, 頼杏坪批正(朱)	III-289-26
2653	七言古詩「爽気澄来月色移…」	状	1通	七夕	頼 餘 一 拝(聿庵)		25.0×33.5	半紙		端裏書(頼聿庵筆)「聿庵」, 頼杏坪批正(朱)	III-289-27
2654	七言絶句「花続金塘雨未乾…」	状	1通	江戸後期	協 拝 乞 慈 政(頼聿庵)		16.7×55.1	楮紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-28
2655	「壬寅春丁忘教恭賦」	状	1通	壬寅春(天保13年)	臣協(頼聿庵)		24.7×33.8	半紙		校訂(墨)	III-289-29
2656	「竹窓棋罷人帰後」	状	1通	五月菊	(頼聿庵)		14.5×31.5	諸口紙		校訂(墨)	III-289-30
2657	「三高祠」	状	1通	江戸後期	協 拝 稿 斧 正(頼聿庵)		24.5×31.5	半紙		端書「唐陸龜蒙之時ハ呉ハアルマジ」, 頼杏坪批正(朱・墨)	III-289-31
2658	「水榭晚酌」	状	1通	江戸後期	協 拝(頼聿庵)	(頼杏坪)	14.5×28.1	諸口紙		頼杏坪批正(朱), 後半は頼杏坪宛書簡	III-289-32
2659	〔聿庵詩稿〕(「辛卯稿」「東行別送者時四月四日也」ほか)	状	1通	辛卯(天保2年)稿 四月四日也	(頼聿庵)		24.5×33.7	半紙		頭点(墨)	III-289-33
2660	「早起对雪」	状	1通	江戸後期	頼 協 拝 正(頼聿庵)		24.6×32.0	半紙		頼杏坪批正カ(墨), 紙背墨書あり	III-289-34
2661	「春江夜泊」	折紙	1通	江戸後期	(頼聿庵)		12.5×32.1	半紙		紙背墨書「木村定ヲキ」	III-289-35

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2662	七言律詩「逢人休問大夫莊門外…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		20.3×27.0	小半紙		校訂(墨)	III-289-36
2663	「紫野有寺名日大徳…」	折紙	1通	江戸後期	(頼聿庵)		12.5×27.5	半紙		校訂(墨)	III-289-37
2664	「新春詞」「傲李空洞古詩韻法」	状	1通	江戸後期	協 拝 乞 慈 政 (頼聿庵)		25.0×34.2	半紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-38
2665	「挙尊押連日」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		16.2×27.0	杉原紙		端裏書「和田之詩」, 校訂(墨), 『竹本』, 紙背墨書「急度御取計被成下候様奉希候以上」	III-289-39
2666	「遊胡蝶園分韻」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		19.8×27.4	小半紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-40
2667	「熊谷直実」「八幡太郎」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.5×33.0	半紙		傍点(墨), 校訂(墨), 紙背墨書「旦那様御書」	III-289-41
2668	「寄題松島」	状	1通	江戸後期	協 拝 乞 斧 正 (頼聿庵)		20.3×97.0	楮紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-42
2669	「首夏道主静堂分韻得晴字」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		19.8×27.6	小半紙		校訂(墨)	III-289-43
2670	「従軍行」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		13.9×13.4	諸口紙			III-289-44
2671	「瀧井元白像賛」	状	1通	江戸後期	協 拝 乞 大 政 (頼聿庵)		24.8×34.0	半紙		頼山陽批正(朱)	III-289-45
2672	[頼聿庵詩稿] (「暁下菊川嶺」「鎌倉覽古」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.6×34.4	半紙		校訂(墨), 左下端に二つ瓶子の図あり	III-289-46
2673	[頼聿庵詩稿] (「江戸霞学邸舎詩会賦新竹」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.6×34.0	半紙		校訂(墨), 頭点(墨)	III-289-47
2674	[頼聿庵詩稿] (「関西菟道称大流弓声何处霧未収」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		19.6×27.2	小半紙		校訂(墨)	III-289-48
2675	「籍蘭館例集呼韻」	状	1通	江戸後期	協 拝 稿 (頼 聿 庵)		25.0×34.2	半紙		校訂(墨)	III-289-49
2676	「梅菊同瓶」	状	1通	江戸後期	頼 協 拝 草 正 (聿庵)		24.8×24.2	半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-50
2677	「癸卯五月学舎詩会分韻同賦新竹」	状	1通	癸卯(天保14年)五月	頼元協(聿庵)		24.0×17.4	詩箋		校訂(墨), 紙背墨書あり	III-289-51
2678	[聿庵詩稿] (「小庭亦有月」「学問所課題」「松声」席上)	状	1通	江戸後期	協 拝 草 正 (頼 聿 庵)		22.4×19.8	罫紙 (楮紙)		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-52
2679	「奉送杏大人舟到衣羽嶋有情」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		19.6×26.6	小半紙		校訂(墨)	III-289-53
2680	「田園楽分韻得晴」	状	1通	江戸後期	協 拝 草 (頼 聿 庵)		24.4×33.0	半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-54
2681	「近體一首奉寿定齋加藤先生」	状	1通	江戸後期	頼 協 拝 具 (聿 庵)		25.0×34.2	半紙		頼山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-55
2682	「謁楠公墓」「半閑亭」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		14.2×38.8	諸口紙		頼杏坪批正(朱), 頭点(墨)	III-289-56
2683	「分蒙求標題得范蠡泛湖」	状	1通	江戸後期	協 拝 草 正 (頼 聿 庵)		24.6×17.2	半紙		批正(墨)	III-289-57
2684	「寄題三塩島月景」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		17.8×35.2	竹紙		頼山陽批正カ(朱), 2枚に剥離	III-289-58
2685	「山寺納涼」	状	1通	江戸後期	協 拝 草 正 (頼 聿 庵)		14.4×30.0	諸口紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-59
2686	「春囃楼席上贈広瀬君吉甫」	状	1通	江戸後期	頼協拝(聿庵)		16.3×21.2	杉原紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-60

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2687	「鷹」	状	1通	江戸後期	協拝乞正(頼聿庵)		12.4×32.0	半紙		端書「此詩何卒今朝御直し被遊可被遣候」, 頼山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-61
2688	「梅雨遇嶺雪精舍分韵得塩字」	状	1通	江戸後期	餘一拝(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-62
2689	「重遊含秀園用前礎」	状	1通	江戸後期	元協拝稿正(頼聿庵)		25.1×29.8	半紙		頼杏坪批正カ(朱・墨)	III-289-63
2690	「籍菊館小集呼韻」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×33.2	半紙		校訂(墨)	III-289-64
2691	「春霖 学舎席上」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.8×33.8	半紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-65
2692	「題雪橋清曉図」	状	1通	江戸後期	協拝草(頼聿庵)		24.4×33.6	半紙		端裏書「此通早々御写出し可被下候」, 頼杏坪批正(墨)	III-289-66
2693	「春獵」	状	1通	江戸後期	協拝正(頼聿庵)		12.4×57.0	半紙		頼杏坪批正カ(墨), 校訂(墨)	III-289-67
2694	「榴花分韵得歌」	状	1通	江戸後期	頼餘一拝(聿庵)		20.6×21.8	小半紙		頼杏坪批正(朱)	III-289-68
2695	「春浅 得寒字」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.4×21.6	諸口紙		頼杏坪批正(墨), 校訂(墨)	III-289-69
2696	「春閨」	状	1通	江戸後期	協拝斧正(頼聿庵)		14.0×16.6	諸口紙		端裏書『小学卒業候ハハ論語シカルヘシ』, 頼山陽批正カ(朱・墨)	III-289-70
2697	「得石字」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		19.6×26.8	小半紙		頼杏坪批正カ(墨)	III-289-71
2698	七言律詩「共乘幽興問山林…」	状	1通	江戸後期	協(頼聿庵)		19.5×27.1	小半紙		校訂(墨)	III-289-72
2699	「垂枝桜」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.2×15.3	諸口紙		頼杏坪批正(朱), 校訂(墨)	III-289-73
2700	〔聿庵詩稿〕(「新柳」「猿橋」ほか)	状	1通	江戸後期	協拝乞痛訂(頼聿庵)		14.5×42.5	諸口紙		端裏書「卯花用法」, 頼山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-74
2701	七言律詩「逢人休問大夫荘…」	状	1通	十五日	餘一, 協拝正(頼聿庵)	杏老大人座右(頼杏坪)	14.6×40.5	諸口紙		端裏書「杏坪老大人座右 餘一拝上」, 同(頼杏坪筆)『書入返事』, 頼杏坪批正(朱), 前半は頼杏坪宛頼聿庵書簡	III-289-75
2702	〔頼聿庵詩稿〕(失題, 「賀時為帝齋主人六十初度」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.2×16.0	半紙			III-289-76
2703	「題扇 学舎課題」	状	1通	江戸後期	餘一	杏老大人座右(頼杏坪)	14.5×26.0	諸口紙		頼杏坪批正(朱), 校訂(墨), 「右今日御斧正奉希候 餘一 杏老大人座右」との記載あり	III-289-77
2704	「挽八島行貫」	状	1通	江戸後期	友人頼元協拝(聿庵)		30.0×16.0	竹紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-78
2705	「近體一章祝信州超古日能生王母百歳悦辰」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		24.4×32.8	半紙		頼山陽批正カ(朱・墨), 後欠	III-289-79
2706	「寄題春風老大人留春居」	状	1通	江戸後期	元協拝稿慈政(頼聿庵)		14.5×39.4	諸口紙		頼山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-80
2707	「丁未中元書事」	状	1通	丁未(弘化4年)中元	(頼聿庵)		25.0×34.2	半紙		校訂(墨)	III-289-81
2708	「十月望百千堂小集」	状	1通	十月望	元協拝乞慈政(頼聿庵)		24.8×28.2	半紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-82
2709	「十月既望陪杏老大人遊養花園」	状	1通	十月既望	協拝稿(頼聿庵)		24.8×34.0	半紙		頼杏坪批正カ(墨)	III-289-83

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2710	「題雪橋清曉図」	状	1通	江戸後期	協拝草(頼聿庵)		24.4×33.6	半紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-84
2711	〔頼聿庵詩稿〕(「採蓮曲」ほか)	状	1通	江戸後期	協拝正(頼聿庵)		25.0×34.2	半紙		頼杏坪批正カ(墨)	III-289-85
2712	「冬日遊万春園帰途過西園分得灰字」	状	1通	江戸後期	協拝草正(頼聿庵)		19.5×26.5	小半紙		批正(墨)	III-289-86
2713	「冬至草堂小集分韻得長字」	状	1通	江戸後期	協拝稿正(頼聿庵)		24.5×20.4	半紙		頼杏坪批正(墨)	III-289-87
2714	「癸巳夏日余寓三樹荘会」	状	1通	癸巳(天保4年)夏日	協稿(頼聿庵)		24.6×48.4	竹紙		批正(墨)	III-289-88
2715	〔頼聿庵詩稿〕(「啄花鳴雀飛園樸…」)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙		端書「東坡集可検」, 校訂(墨)	III-289-89
2716	七言律詩カ「金盆晚出霜山月…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		30.5×25.2	竹紙		校訂(墨)	III-289-90
2717	七言絶句「辺地花遲雪不晴…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		31.0×44.4	竹紙			III-289-91
2718	「太白楼見父執古賀穀堂先生」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.7×17.0	半紙		校訂(墨), 頭点(墨)	III-289-92
2719	「春日偶成」	状	1通	江戸後期	頼餘一拝		24.5×34.0	半紙(薄茶色)		校訂(墨), 端裏に付紙あり	III-289-93
2720	七言絶句「三十六峰新翠流…」	状	1通	四月之夜暮	(頼聿庵)	杏老大人座右(頼杏坪)	14.4×36.6	諸口紙(薄茶色)		端に「萱尊膝下, 杏老大人座右, 京大人御同覧被遊可被遣候」との記載あり	III-289-94
2721	七言絶句「玉簪花落玉菊開…」	状	1通	江戸後期	元協拝(頼聿庵)	杏老大人座右(頼杏坪)	16.7×29.3	楮紙(薄赤色)		頼杏坪批正(朱)	III-289-95
2722	〔頼聿庵詩稿〕(七言絶句カ「竹浣無風夜口堆…」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙		校訂(墨), 頭点(墨)	III-289-96
2723	〔頼聿庵詩稿〕(七言絶句カ)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙		校訂(墨)	III-289-97
2724	〔頼聿庵詩稿〕(七言絶句カ「樗暈椅槍豊素鏞…」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		19.5×27.6	小半紙			III-289-98
2725	「攀 尊押奉呈」	状	1通	江戸後期	元協拝政(頼聿庵)		14.3×26.7	諸口紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-99
2726	七言絶句「空擁茅堂水抱山…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		19.5×27.2	小半紙			III-289-100
2727	七言絶句「秋鷺」「秋柳」	状	1通	江戸後期	協拝正(頼聿庵)		12.3×32.0	半紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-101
2728	〔頼聿庵詩稿〕(七言絶句「豊客簞山翁戯魚…」ほか)	状	1通	江戸後期	協拝政(頼聿庵)		14.4×27.7	諸口紙		頼山陽批正カ(朱・墨)	III-289-102
2729	〔頼聿庵詩稿〕(「詠史中之一木村長門守」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		29.5×121.0	間似合紙		批正(朱), 校訂(墨), 紙背に詩稿あり	III-289-103
2730	「頭王右軍像」	状	1通	江戸後期	協拝乞慈政(頼聿庵)		16.5×24.6	楮紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-104
2731	〔聿庵詩稿〕(漢詩)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.7×34.5	半紙		校訂(墨)	III-289-105
2732	七言絶句「紅葉飽霜図不如…」	状	1通	丙午(弘化3年)十月十六日	(頼聿庵)		24.8×34.0	半紙		校訂(墨)	III-289-106

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2733	「来去風帆」	状	1通	江戸後期	元協拝稿痛政 (頼聿庵)		19.7×27.0	小半紙		校訂(墨)	III-289-107
2734	七言律詩カ「経菅六十一春丁…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.9×34.6	半紙		校訂(墨)	III-289-108
2735	「詠野史」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.7×8.2	楮紙 (罫紙)		端裏書(頼杏坪筆カ)『此分も只今一閱いり進候』, 頼杏坪批正カ(朱)	III-289-109
2736	「漁邨初雪」(学舎課題)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		15.0×19.5	竹紙		端裏書「口ひかへ済」, 頼杏坪批正カ(朱)	III-289-110
2737	「題留侯像」	状	1通	江戸後期	協稿(頼聿庵)		14.1×26.5	諸口紙		頼杏坪批正カ(朱), 頭点(墨)	III-289-111
2738	「丁亥仲秋学舎賞月詩会分月下八声得磴声同賦」	状	1通	丁亥(文政10)仲秋	協拝稿慈政 (頼聿庵)		27.0×19.5	楮紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-112
2739	「冬暖」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		15.6×17.0	杉原紙 (飾線, 絵柄有)			III-289-113
2740	「七夕」	状	1通	江戸後期	元協(頼聿庵)		28.5×13.2	竹紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-114
2741	[頼聿庵詩稿](七言絶句「残梅宿雪振柴関」(ほか))	状	1通	(安政元年之除夜カ)	(頼聿庵)		17.8×134.0	竹紙		校訂(墨), 前欠, 反故紙使用	III-289-115
2742	「己亥秋晚之夜」	状	1通	己亥(天保10年)秋晚	長春園主人 (頼聿庵カ)		31.0×35.0	竹紙		端裏書「詩稿」	III-289-116
2743	七言古詩カ「昼日柴門寂不諱…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.5×27.5	半紙		校訂(墨)	III-289-117
2744	「題画山水」「逢人帰江戸」	状	1通	癸丑(嘉永6)九月廿七夜	(頼聿庵)		28.5×45.5	諸口紙		校訂(墨)	III-289-118
2745	七言律詩「吾座木雞居士亭…」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		29.9×26.7	楮紙		校訂(墨), 句点(墨)	III-289-119
2746	七言絶句「猶温残樽客未回…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		29.0×43.0	諸口紙		校訂(墨), 紙背に詩稿あり	III-289-120
2747	[頼聿庵詩稿](七言絶句「蓮根一束喜君携…」(ほか))	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×28.4	半紙		校訂(墨)	III-289-121
2748	「霞室夕曛」	状	1通	江戸後期	協拝正(頼聿庵)		14.3×36.0	諸口紙		端裏書「霞室」, 頼山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-122
2749	「壬寅四月廿九日嶋内小田二兄携酒見訪拉之泛舟々中和小田兄詩韻録別」	状	1通	壬寅(天保13年)四月廿九日	(頼聿庵)		25.0×18.0	竹紙 (詩箋)		紙背墨書あり	III-289-123
2750	「同前同得韻」	状	1通	江戸後期	協草罵政(頼聿庵)		15.0×42.7	杉原紙		紙背墨書あり	III-289-124
2751	「校読外史中楠史」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		35.5×25.0	楮紙		校訂(墨)	III-289-125
2752	「題画鼈」	状	1通	江戸後期	聿庵		25.0×34.0	半紙		校訂(墨)	III-289-126
2753	七言律詩「西湖山上晚晴新…」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		19.1×26.3	小半紙		端書「西湖山集 座有画史麻谷山人」, 頼山陽批正カ(朱), 校訂(墨)	III-289-127
2754	「八月十八夜籍菊館例集分韻得斜字」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		12.3×13.5	半紙			III-289-128
2755	[聿庵詩稿](丙子詩稿「残蝶」 「荷澤納涼時」(ほか))	折紙	1通	丙子(文化13年)	春嶂草堂(頼聿庵)		24.0×34.0	半紙		表書「丙子詩稿」, 頼山陽批正カ(朱)	III-289-129
2756	七言絶句「青年万里翦榛蕪…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙		校訂(墨)	III-289-130

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2757	[頼聿庵詩稿] (「題画」「東役雜詩」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		25.2×28.0	半紙		校訂(墨), 紙背に詩稿(「小松内府重盛」)あり	III-289-131
2758	五言律詩「竹深留客処…」	状	1通	江戸後期	協拝(頼聿庵)		14.5×30.3	諸口紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-132
2759	[頼聿庵詩稿] (「春雨留客」「春雨訪友」ほか)	状	1通	江戸後期	頼餘一拝草(頼聿庵)		26.5×36.7	楮紙			III-289-133
2760	[頼聿庵詩稿] (「山陽大人至自京師内宴分韻同賦得王字」ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		23.5×32.7	罨紙(楮紙)		校訂(墨)	III-289-134
2761	「過春曦楼広瀬吉甫先帰」	状	1通	江戸後期	協(頼聿庵)		24.7×33.5	半紙		校訂(墨)	III-289-135
2762	「赴竹浦路上口號四首」「小至」	状	1通	江戸後期	餘一拝具正(頼聿庵)		26.5×27.7	楮紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-136
2763	[頼聿庵詩稿] (「丁酉臘月十一日学館詩会分韻同賦雪夜觀蔚山戦図」)	状	1通	丁酉(天保8年)臘月十一日	頼元協(聿庵)		31.0×35.2	竹紙(匡郭)		批正(朱), 校訂(墨), 紙背に朱書あり	III-289-137
2764	[頼聿庵詩稿] (「春晚陪春風老大人遊江波大人帰期在近故落句及」ほか)	状	1通	江戸後期	元協拝乞慈政(頼聿庵)		16.5×42.2	楮紙			III-289-138
2765	「晩秋典梅兄従舟々間即日」	状	1通	江戸後期	協未定稿(頼聿庵)		27.2×20.0	楮紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-139
2766	[頼聿庵詩稿] (醉中送宗和尚へ近日認坡公□□)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		32.0×25.0	楮紙		校訂(墨)	III-289-140
2767	七言律詩「春樹金煙々未開…」	状	1通	江戸後期	協未定稿(頼聿庵)		24.7×33.5	半紙		校訂(墨), 頭点(墨)	III-289-141
2768	「題校獵図」	状	1通	江戸後期	協拝正(頼聿庵)		24.0×27.0	半紙		端書「宋ノ狄青ヲ羅將軍ト云シコトアリ」, 頼杏坪批正(墨)	III-289-142
2769	「迎梅」「初夏道中」	状	1通	江戸後期	協拝乞慈政(頼聿庵)		16.0×39.8	三桎紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-143
2770	「佐々木高綱」	状	1通	江戸後期	元協拝稿(頼聿庵)		24.5×8.6	罨紙(半紙)		頼山陽批正カ(朱)	III-289-144
2771	「遊府中」	状	1通	江戸後期	餘一拝正(頼聿庵)		17.0×18.2	楮紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-145
2772	[頼聿庵詩稿] (「丁丑歳首作去冬藩府江戸邸任少将」)	状	1通	丁丑(文化14年)歳首	協頓首再拝正(頼聿庵)		14.5×23.6	諸口紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-146
2773	「桃林」	状	1通	江戸後期	頼餘一拝正(聿庵)		24.0×17.0	半紙		頼杏坪批正カ(朱)	III-289-147
2774	「春江夜泊」	状	1通	江戸後期	協草(頼聿庵)		19.7×27.4	小半紙		頼山陽批正カ(朱)	III-289-148
2775	「題常盤行雪中」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.7×17.0	楮紙(詩箋)		傍点(墨)	III-289-149
2776	「静」	状	1通	江戸後期	春嶂(頼聿庵)		25.0×34.0	半紙			III-289-150
2777	[頼聿庵詩稿] (「雪日重遊石大夫含秀園用前礎」「桜花」「癸未二月学館課題」ほか)	状	1通	癸未(文政6年)二月	(頼聿庵)		26.5×43.0	楮紙		批正(朱)	III-289-151

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2778	〔五言絶句・七言絶句〕(赴浪華舟中作, 五勝楼二首)	状	1通	江戸後期	正 頼餘一拝		14.5×29.2	諸口紙		頼山陽批正(朱)カ	III-330-6-3
2779	〔七言絶句〕(西帰昨日又東行)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		12.4×17.3	半紙		校訂(墨)	III-334-2
2780	〔詩稿〕(庚子歳首, 席上贈文陽山人墨梅)ほか)	状	1通	庚子(天保11年)歳首 正月方四月迄	(頼聿庵)		18.0×191.1	奉書紙		端裏書「正月方四月迄」, 批正(朱), 紙背に漢文あり	III-334-5
2781	七言絶句「聯珠詩格註釈」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		14.8×17.4	楮紙(黄染)		前欠カ	III-336-14
2782	〔七言律詩〕	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.3×31.4	諸口紙		校訂(墨)	III-336-19
2783	〔五言絶句〕(「錦囊盛古硯」)ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.5×40.4	諸口紙		校訂(墨)	III-336-28
2784	七言律詩「北嶺罷上下南山…」	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.3×44.9	諸口紙		校訂(墨)	III-336-29
2785	〔尾藤二洲漢詩写〕(次淳風春初韵, ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		16.7×45.2	三桮紙(草花絵摺)			III-336-89
2786	〔北川雪詩〕	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		16.0×30.2	美濃紙		端裏書「北川雪詩 臘 此 先王父」, 校訂(墨)	III-337-18
2787	〔詩文稿〕(折花, ほか)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.6×10.8	半紙		校訂(墨), 後欠カ	III-353-13
2788	〔詩稿〕(七言絶句二首)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		19.1×27.0	小半紙			III-353-14
2789	詩稿(表紙のみ)	状	1通	自庚辛至甲子			27.8×19.2	三桮紙		三桮紙, 外題直書「詩稿」, 表紙墨書「自庚辛至甲子」, 綴じ跡あり	III-360-2
2790	〔七言絶句〕(君達老兄(関藤藤陰)帰郷三首)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		16.2×125.0	三桮紙			III-243-2
2791	〔詩稿〕(題霞樵富嶽図)ほか)	状	1通	江戸後期	元協拝稿正	(頼杏坪カ)	24.8×34.8	半紙		白文方印「忠肝義膽」1顆, 頼杏坪批正(朱)	III-243-4
2792	〔詩稿〕(松廬小集)ほか)	状	1通	文化八辛未十二月也	頼餘一拝正		24.6×33.6	半紙		頼春水批正(朱)	III-243-6
2793	〔詩稿〕(懐友以凍筆)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		15.5×42.7	杉原紙(薄茶色, 流水に梅花摺絵)			III-243-11-1
2794	元日口口(七絶)	状	1通	元日	春嶂(頼聿庵)		15.5×42.4	杉原紙(薄茶色, 流水に梅花摺絵)		III-243-11-3の清書	III-243-11-2
2795	〔元日口口 詩稿〕	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		15.5×42.3	杉原紙(薄茶色, 流水に梅花摺絵)		III-243-11-2の下書	III-243-11-3
2796	〔詩稿〕(厳島看月)	状	1通	江戸後期	頼協旧製(聿庵)	杏老大人座右(頼杏坪)	16.7×39.9	杉原紙		端裏書「福永江贈候宮嶋之詩」, 杏坪批正(朱)	III-243-36
2797	〔七言絶句詩稿〕	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.5×19.8	諸口紙			III-290-103
2798	〔詩稿〕(七言律詩, 七言絶句)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.1×16.9	諸口紙		校訂(朱)	III-290-120

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2799	[詩稿](五言絶句)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.0×14.1	色半紙		校訂(墨), 反故紙使用, 反故紙「四月廿九日 句読師九人, 八人, 〆十七人」	III-290-126
2800	[詩稿](七言絶句)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×26.8	諸口紙		校訂(墨)	III-290-127
2801	[詩稿](七言絶句)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.4×37.0	三桎紙		漢詩の他に覚書あり	III-290-128
2802	[詩稿](七言絶句二首)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×50.6	諸口紙			III-290-133
2803	[古詩詩稿]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.2×33.5	半紙		後欠カ	III-294-21
2804	恵美大咲翁寿詞	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		24.5×34.1	半紙		端裏書「此詩御訂正被遊可被下候」 端裏書「草々一見不得熟考」, 批正(朱), 紙背に書簡下書あり	III-295-8
2805	題朝鮮玉泉居士画山水(柴野栗山, 古賀精里, 頼杏坪合作写)	状	1通	江戸後期	(頼事庵カ)		15.8×50.7	杉原紙 (龍文様摺)		返点(墨), 送り仮名(墨)	III-295-10
2806	[和歌・浙西六家詩抄写]	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×183.9	諸口紙			III-295-26
2807	[七言古詩](雪橋清暁因 用王拙軒韵)	状	1通	江戸後期	(頼春風)		12.4×22.1	半紙		校訂(墨), 後欠	III-370-93
2808	[和歌十首写]	状	1通	江戸後期	たゝなこ(頼杏坪)		14.6×43.0	竹紙		傍線(朱), 奥に「朱引の詞御かき解可被成下候 たゝなこ」との記載あり	III-21-47
2809	[頼杏坪歌稿]	折紙	1通	江戸後期	惟柔(頼杏坪)		12.4×34.2	半紙			III-21-55
2810	月二十首	仮綴	1綴	江戸後期	惟柔(頼杏坪)		24.9×17.5	半紙	5	首題「月二十首」, 校訂(墨)	III-71-2
2811	[頼杏坪歌稿「四窮民の歌とてよめる」]	仮綴	1綴	江戸後期	(頼杏坪)		24.5×17.3	半紙	6	直好批正(墨), 虫損大	III-71-3
2812	演雅一首倣山谷體	状	1通	江戸後期	杏坪		16.2×86.2	杉原紙		注記(墨)	III-330-3-2
2813	叩問(和歌八首ほか)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		14.3×68.0	竹紙		批正(朱)	III-334-37
2814	[頼杏坪歌稿「急早苗」(山家燈)]	折紙	1通	江戸後期	惟柔(頼杏坪)		12.5×34.1	半紙		校訂(墨)	III-336-59
2815	[包紙]	状	1通	江戸後期	たゝなこ(頼杏坪)		25.0×17.0	半紙			III-349-8
2816	[五言律詩]	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		14.5×9.1	色諸口紙		両面墨抹, 裏面に漢文草稿「若槻先生以修学醇正特賜白銀十五枚…」(後欠)あり	III-164-8
2817	「莊慈の二字をかきて町野のぬしにおくる詞」	状	1通	ゆたけきまつりこといふ八の年(寛政8年)長月五日	たゝなこ(頼杏坪)		24.7×17.2	半紙			III-179-4
2818	「張説幽州新歳口(欠損)」(七言律詩)	状	1通	辛酉首夏日(享和元年4月)	杏坪		16.0×34.5	竹紙		白文長方印「修古」1顆, 虫損大	III-179-5
2819	[やぶれ笠十一首]	状	1通	江戸後期	たゝなこ(頼杏坪)(梅颯)		15.1×57.8	杉原紙		端裏書「御直し被遊可被下候たゝなこ」, 批正(墨), 3枚に剥離	III-179-6
2820	[詩稿](漢詩)	状	1通		(頼杏坪)		12.2×12.9	半紙			III-372-77
2821	[詩稿](七言絶句)	状	1通		(頼杏坪カ)		24.7×5.8	罨紙		『痛僧妙偈』	III-372-103
2822	[浅野長懋和歌写]	状	1通	江戸後期	(頼杏坪)		14.6×50.6	三桎紙		端裏書(頼杏坪筆)「口(白カ)杏公子御歌」, 校訂(墨)	III-300-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2823	〔頼惟清歌稿〕(安永9年～天明元年)	横半帳	1冊	安永九年子御つきはしめの日～(天明元年)八月十五夜	(頼惟清)		17.0×24.0	楮紙, 杉原紙, 竹紙	65	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 表紙墨書「安永九年 子御つきはしめの日」, 校訂(墨), 38丁目ウに「久太郎」命名の和歌二首, 56丁目ウにI-30-1「和歌二首」の草稿あり, 反故紙使用	II-47-1
2824	法楽詠百首和歌	横半帳	1冊	辰年(明和9年)三月十八日	惟清		17.0×24.0	杉原紙	39	首題「辰年三月十八日法楽 詠百首和歌 惟清 上」, 奥書「右, 小沢帯刀添削, 清書別ニ一卷あり 明和九年辰九月十七日ニ全添削相調, 同年三月十八日之法楽二百首思立候」, 小沢蘆庵批正(墨), 付紙「小沢翁加筆」	II-47-2
2825	〔頼惟清歌稿〕(明和7年～安永5年)	横帳	1冊	明和七寅歳秋～安永五申年	惟清		16.8×47.0	杉原紙	81	小沢蘆庵批正(墨), 付紙①(15.7×21.1)に②(15.2×2.5, 色諸口紙)を貼付, 付紙①「明和七年寅方同八年卯迄有, 辰年より全ク小沢をたのミて, 安永二年巳方同五年申迄有」, 付紙②(頼春水筆)「此とち立年曆前後候へとも其俣仕置 文化三年丙寅六月十日記」	II-47-3
2826	〔頼惟清歌稿〕(安永6年～天明元年)	横帳	1冊	安永六年丁酉～辛丑(天明元年)	惟清		17.0×47.0	大杉原紙, 中杉原紙, 奉書紙, 半紙	52	校訂(墨, 付紙に墨), 批正(墨), 付紙「此巻冊ハ御詠草のミならず, 手沢相雑候故一くゝりニ仕置」, 41紙目オに「ワか子なる惟完謹て大日本史をうつしとりて国の御文庫におさめける事うれしさのあまりに」の和歌2首あり	II-47-4
2827	〔頼惟清歌稿〕(明和5～8年)	横帳	1冊	明和五子八月～同八年卯	惟清		17.0×47.0	楮紙, 杉原紙, 奉書紙	94	端書「明和五子年始□(てか)馬杉翁逢, 是方翁の添削」, 馬杉亭安批正(貼紙に墨), 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 付紙「明和五子八月始て馬杉翁に逢申て, 同八年卯まで有」	II-47-5
2828	〔頼惟清歌稿〕(安永6～8年)	横帳	1冊	安永六年酉のとし～同八亥の年	(頼惟清)		17.0×47.0	楮紙, 杉原紙, 奉書紙	61	批正(墨), 校訂(墨書), 注記(付紙に墨), 付紙「安永六年酉のとし 同七戌の年 同八亥の年」	II-47-6
2829	〔頼惟清歌稿〕	折紙	1通	江戸中期	(頼惟清)		34.0×44.0	杉原紙		校訂(墨), 頼春水宛頼惟清書簡の反故紙を使用, 反故紙「於大坂江戸堀北側老丁目 頼弥太郎殿」芸州竹原より 同又十郎	II-47-7
2830	〔頼惟清追善和歌〕	状	2丁	(天明4年)	(小沢)蘆庵ほか		24.5×34.7	半紙			II-47-8
2831	〔頼惟清歌稿〕	袋綴装大和綴	1冊	明和六己丑年	(頼惟清)		25.0×17.5	半紙	62	共紙表紙, 馬杉亭安批正(朱), 校訂(墨)	II-48
2832	聞書 附馬杉翁和歌	袋綴装大和綴	1冊	明和七年文月	(頼惟清)		24.1×17.2	半紙	51	共紙表紙, 外題直書「聞書 附馬杉翁和歌」, 首題「明和七年文月都にありて 聞書」, 注記(墨), 2丁目オに「馬杉翁点」との記載あり	II-49
2833	1) 〔頼惟清歌稿〕	袋綴装大和綴	1冊	江戸中期	惟清事保信(信篤)上		25.0×17.0	半紙	25	共紙表紙, 外題直書「塩谷貞敏 吉井豊庸添削」, 首題「前方詠筆抜写 塩谷貞敏・吉井豊庸添削」, 塩谷貞敏・吉井豊庸批正(墨), 校訂(墨), 頭点(墨・朱), 最終丁袋中に詩稿(13.2×16.3, 楮紙, 書簡包紙の反故紙使用)挟込, 反故紙「十二月」「從芸州竹原」「惟又十郎」「於大坂伏見城紀国橋筋」「天満町南へ入西側□」頼弥太郎殿[ ]	II-50-1
2833	2) 〔頼惟清歌稿〕	仮綴	1綴	江戸中期	保信(頼惟清)上		16.0×46.0	杉原紙, 鳥の子, 雁皮紙	10	II-50-1の7丁目オに封筒貼付のうえ封入, 塩谷道碩批正(墨), 封筒「塩谷貞敏添削物 自筆点」	II-50-2
2833	3) 〔頼惟清歌稿〕	仮綴	1綴	江戸中期	保信(信篤)上		16.4×35.0	杉原紙, 鳥の子紙, 雁皮紙	5	II-50-1の12丁目ウに封筒貼付のうえ封入, 吉井豊庸批正(墨), 封筒「吉井豊庸添削」	II-50-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2834	法楽和歌五十首	横半帳	1冊	三月十八日	惟清		15.8×23.0	杉原紙	10	共紙表紙, 外題直書「法楽和歌五十首」, 首題「三月十八日法楽和歌春五十首の題を拾ふてよめる 惟清」, 校訂(墨)	II-53
2835	古今三鳥三木切紙伝	袋綴装 大和綴	1冊	安永七戊戌 五月	(頼惟清)		21.2×13.4	小半紙	21	共紙表紙, 外題直書「古今三鳥三木切紙伝 全」, 首題「古今三鳥切紙能伝授写」, 表紙付紙(頼杏坪筆)「此書ハ先府君御自筆也 本家祠堂ニ可納乎, 但竹原御遺書へ可返乎 惟柔記」, 本奥書「右, 此書は二条冷泉之両流切紙之伝也可秘々々」, 奥書「于時安永七戊戌五月日, 難波旅宿写 小山氏より見せける」, 校訂(墨)	II-54
2836	当座和歌写	袋綴装 大和綴	1冊	江戸中期	(頼惟清)		21.3×13.5	小半紙	20	共紙表紙, 外題直書「当座和歌写」, 校訂(墨), 頭点(朱)	II-55
2837	恋乃宇多 三十一首	仮綴	1綴	江戸中期	惟清		19.7×14.0	小半紙	8	共紙表紙, 外題直書「恋乃宇多 三十一首」, 端書「拾玉集組題」, 頭点(朱・墨), 校訂(墨)	II-56-1
2838	恋乃宇多 三十一首	仮綴	1綴	江戸中期	惟清		19.7×14.0	小半紙	8	共紙表紙, 外題直書「恋乃宇多 三十一首」, 端書「拾玉集組題」, 校訂(墨), II-56-1と同内容	II-56-2
2839	能地八景	状	1通	江戸中後期	(頼惟清)		28.3×34.5	美濃紙		注記(付紙に墨)	III-70-1
2840	能地八景	状	1通	江戸中後期	(頼惟清)		24.4×34.2	半紙		注記(朱, 付紙[糊離れ]に墨)	III-70-2
2841	[頼惟清歌稿](小沢大人の何くれとこのみちの事をし給へるうれしさに)	状	1通	江戸中後期	惟清		16.0×27.5	杉原紙		玄仲(小沢蘆庵)の返歌写あり	III-70-3
2842	[白河老候除夜の歌写しほか三首]	状	1通	江戸中期	(頼惟清)		12.8×24.3	半紙		端裏書『竹原大人御手書』	III-294-1
2843	[頼支峰詩稿](富士山図ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	復(頼支峰)		24.3×17.1	半紙	2	奥書「伏乞 斧正 復再拝」, 校訂(墨), 「課題 自五月十九日至六月十一日」との記載あり	III-71-4
2844	[詩文稿](「四月五日為遊月瀬風雨賦遺思」ほか)	状	2通	明治時代	復未定稿(頼支峰)		17.5×69.7/ 15.7×72.0	竹紙	2	校訂(墨), 注記(墨), 仮名(墨)	III-333-8-5
2845	[七言絶句](乙酉十月七日亡弟子春忌日与老妻弥次郎同詣長楽寺墓)	状	1通	乙酉(明治18年)十月七日	支峰叟		22.8×24.6	詩箋 (薄赤色)			III-359-4
2846	[漢詩]	状	1通	江戸後期	復 拝草(頼支峰)		14.5×9.7	漉返紙		校訂(墨), 前欠	III-290-115
2847	[七言絶句](乙酉六月十一日値従兄君挙小祥忌辰詣其墓書懷)	状	1通	乙酉(明治18年)六月十一日	復 未定稿(頼支峰)		15.4×10.7	杉原紙			III-299-32-2
2848	[七言絶句写](壬午重陽訪誠軒先生為和支峰先生重陽之詩)	状	1通	壬午(明治15年)重陽	(頼支峰)		16.0×52.3	三桎紙		校訂(墨), 両端破損	III-319-10
2849	[五言絶句三首](初雪, 冬夜対孤燈, 喜雪)	状	1通	江戸後期	頼醇(頼三樹三郎)		19.5×36.2	小半紙			III-330-6-4
2850	[七言絶句]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		14.6×14.3	竹紙			III-336-6
2851	七言絶句「春暁」「春日遊府中作」	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		22.9×13.8	楮紙		校訂(墨), 料紙破損, 変色大	III-336-24
2852	七律古詩「題狩野永徳画松屏風歌為津軽村井土達」	状	1通	江戸後期カ	(頼誠軒カ)		24.9×34.4	半紙		校訂(墨)	III-336-79

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2853	〔七言絶句〕(丙戌七月念七児士丈婦長往似, 二首)	状	1通	丙戌(明治19年)七月念七日	誠軒老人(頼誠軒)		23.3×21.4	楮紙			III-359-2
2854	戊午詩草	仮綴	1綴	戊午(安政5年)六月六日～十月十九日	(頼誠軒)		15.2×16.7	竹紙	18	共紙表紙, 外題直書「戊午詩草」, 表紙朱書『畫』『畫』『審』, 校訂(墨), 批正(朱), 2丁目に「丁巳詩稿」とあり	III-386-10
2855	〔詩稿〕(夏日偶成, 四月五日哭児千春ほか)	仮綴	1綴	(明治16～19年頃)	頼元啓(誠軒)		23.6×16.0	方眼紙	14	校訂(朱), 「勤惰帖」の反故紙を使用	III-386-11-1
2856	〔詩稿〕(三月十三日誘門生遊西郊分韻ほか)	状	1通	(明治16～19年カ)	(頼誠軒)		24.8×34.7	罫紙			III-386-11-2
2857	〔詩稿〕(咏蘭, 送長尾之東京ほか)	状	1通	(明治)十七年	(頼誠軒)		24.2×33.4	方眼紙		校訂(朱), 綴じ跡あり	III-386-11-3
2858	〔詩稿〕(巖子陵, 西郊観楓ほか)	状	1通	(明治16～19年頃)	(頼誠軒)		25.2×34.4	半紙			III-386-11-4
2859	雑詩襍録	袋綴装 四ツ目綴	1冊	明治丙戌(19年)九月六日	誠軒老人(頼誠軒)		20.2×16.6	竹紙	46	茶表紙, 外題直書「雑詩襍録 全」, 校訂(墨, 朱), 頭点(朱), 見返「明治丙戌九月六日自作標紙製之 誠軒老人」, 反故紙使用	III-386-12
2860	草稿(「九月三十日酔餘吟」ほか詩文稿)	仮綴	1綴	丁亥(明治20年)九月	(頼誠軒)		14.7×23.0	漉返紙	15	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 表紙墨書「丁亥九月」, 校訂(朱)	III-386-13
2861	鄙稿(七言絶句「立秋」「秋夜宿山寺」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	天保十二年九月十日～九月十五日	東三郎(頼誠軒)		25.2×17.3	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「鄙稿」, 表紙墨書「天保十二年九月十日 東三郎」「東」, 校訂(墨), 最終丁に弘化二年乙巳仲冬の詩稿を記載	III-386-18
2862	詩稿(甲辰, 乙巳, 丙辰)	袋綴装 大和綴	1冊	甲辰、乙巳、丙辰(弘化元, 2年, 3年)	頼東(誠軒)		22.6×15.9	罫紙 (楮紙)	40	縹花菱型押表紙, 外題直書「詩稿 全」, 表紙墨書「甲辰」「乙巳」「丙午」ほか, 朱文楕円印「弘雲涼水」4顆, 白文方印[ ]1顆, 校訂(墨), 頭点(朱・墨), 批正(墨), 小口書「詩稿」, 背墨書「全一」	III-386-19
2863	癸卯詩稿, 甲辰詩稿	袋綴装 四ツ目綴	1冊	癸卯(天保14年)元日～己酉(嘉永2年)春	頼杲(誠軒)		18.2×13.0	罫紙 (楮紙)	45	素紙表紙, 外題直書「癸卯詩稿・甲辰詩稿 全」, 表紙墨書「丙午」「丁未」「戊申」「頼杲」, 白文方印「子孫保之」1顆, 朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 「嶺松蘆」1顆, 校訂(墨), 傍点・句切点(墨), 頼聿庵・支峰・達堂批正(朱), 丙午・丁未・戊申・己酉(弘化3年～嘉永2年)の詩稿を含む, 罫紙版心「栖霞園」	III-386-21
2864	「草稿」(嘉永2年～5年詩稿)	袋綴装 大和綴	1冊	嘉永己酉(2年)夏五月望日～壬子(5年)	頼啓(誠軒)		25.0×17.2/ 23.4×16.9	半紙, 罫紙 (楮紙)	22	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 白文方印「頼」・朱文方印「啓」(連印)2顆, 校訂(墨・朱), 批正(朱)	III-386-22
2865	推軒詩稿	袋綴装 大和綴	1冊	己酉(嘉永2年)～戊午(安政5年)晩秋	頼啓, 推軒(誠軒)		22.9×16.5	罫紙	28	素紙表紙, 外題直書「推軒詩稿」, 首題「推軒詩抄」, 白文長方印「頼啓」1顆, 批正(朱), 校訂(墨)	III-386-23
2866	誠軒詩稿	袋綴装 大和綴	1冊	(嘉永5年～安政元年)	(頼誠軒)		24.2×17.0	罫紙 (楮紙)	27	素紙表紙, 外題直書「誠軒詩稿」, 首題「誠軒詩稿」, 頼三樹三郎ほか・批正(朱), 注記(朱), 罫紙版心「春草堂蔵」	III-386-24
2867	草稿(壬子詩稿)	仮綴	1綴	壬子(嘉永5年)十一月朔旦	呉伏乞大正(頼誠軒)		24.8×17.3	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 頼三樹三郎批正(朱)	III-386-25

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2868	鄙稿(癸丑詩稿)	仮綴	1綴	癸丑(嘉永6年)	杲 拝 乞 叱 正 (頼誠軒)		24.9×17.3	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「鄙稿」, 批正(朱)	III-386-26
2869	詩稿	袋綴装 大和綴	1冊	(元治元年カ)	杲 拝 乞 大 政 (頼誠軒)		24.9×17.3	半紙	7	共紙表紙, 外題直書「詩稿」, 批正(朱), 7丁目ウに「甲子」との記載あり	III-386-27
2870	草稿(甲寅詩稿)	仮綴	1綴	安政二年	劣 侄 杲 伏 乞 慈 政 (頼誠軒)		25.0×17.3	半紙	7	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 表紙墨書「安政二年」, 批正(朱), 校訂(墨, 付紙に墨)	III-386-28
2871	詩草(癸丑・甲寅・丁巳詩稿)	袋綴装 大和綴	1冊	癸丑(嘉永6年)、甲寅(安政元年)、乙巳(丁巳)	(頼誠軒)		23.7×17.0	半紙	11	共紙表紙, 外題直書「詩草」, 表紙墨書「安政元年至三年四年春」, 批正(朱), 11丁目に異国船防禦出張の触書写あり	III-386-29
2872	鄙稿	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	杲 伏 乞 大 正 (頼誠軒)		24.8×17.2	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「鄙稿」, 頼三樹三郎批正(朱), 6丁目オに「痴叔醇批」との記載あり	III-386-30
2873	草稿(戊午帰省詩)	仮綴	1綴	戊午(安政5年)二月廿三日～十一月	元 啓 再 拝 (頼誠軒)		25.0×17.3	半紙, 罫紙(楮紙)	19	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 表紙墨書「戊午春二月廿三日発広島冬十一月至帰省詩三樹仲父校正」, 頼三樹三郎批正(朱)	III-386-31
2874	鄙稿(戊申・己酉詩稿)	仮綴	1綴	(嘉永元年～)己酉(2年)春部	杲 拝 具 (頼誠軒)		25.1×17.5	半紙	5	共紙表紙, 外題直書「鄙稿」, 表紙墨書「杲拝具」, 校訂(墨), 注記(墨)	III-386-32
2875	丁巳詩稿	仮綴	1綴	丁巳(安政4年)初秋八日～除夜	元 啓 拝 具 大 正 (頼誠軒)		24.9×17.2	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「丁巳詩稿」, 表紙墨書「元啓再拝」, 頼支峰批正(朱), 6丁目オに『辛酉六月十八日閱了, 此日炎威殊甚揮汗而識 復』との記載あり	III-386-33
2876	詩集(文久元年～明治3年)	仮綴	1綴	文久改元(元年)～庚午(明治3年)	頼 元 啓 (誠軒)		25.2×17.6	罫紙(楮紙)	5	素紙表紙, 外題直書「詩集」, 表紙墨書「文久改元夏五月起」, 批正(朱), 詩稿2枚挟込(1枚に批正〔朱〕あり), 罫紙版心「春草堂蔵」「学校」	III-386-34
2877	庚申詩文草稿	仮綴	1綴	庚申(万延元年)三月廿六日～辛酉(文久元年)六月	(頼誠軒)		21.1×15.5	楮紙	21	共紙表紙, 外題直書「庚申詩文草稿」, 校訂(墨), 批正(朱), 2・3丁目の間に詩稿1枚挟込み	III-386-35
2878	草稿(辛酉・丙寅・丁卯)	仮綴	1綴	辛酉(文久元年)、丙寅(慶応2年)、丁卯(慶応3年)	(頼誠軒)		25.0×17.4	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 批正(朱)	III-386-36
2879	鄙稿(辛酉・壬戌・甲子・乙丑・丙寅)	仮綴	1綴	辛酉(文久元年)～丙寅(慶応2年)	(頼誠軒)		24.0×17.0	罫紙(楮紙)	8	素紙表紙, 外題直書「鄙稿」, 批正(朱), 罫紙版心「春草堂蔵」	III-386-37
2880	詩稿(安政元年～慶応元年)	仮綴	1綴	安政甲寅(元年)～慶応丙寅(2年)	元 啓 伏 乞 慈 政 (頼誠軒)		25.1×17.3	罫紙(楮紙), 半紙	20	素紙表紙, 外題直書「詩稿」, 表紙墨書「安政甲寅至慶応丙寅」, 頼支峰批正(朱), 江木鱒水批正(朱), 校訂(付紙に墨), 「叱正 元啓伏乞支峰仲父膝下」との記載あり, 罫紙版心「学校」	III-386-39
2881	〔詩稿〕(「蝶恋花」ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼誠軒)		24.8×17.4	罫紙(楮紙)	5	批正(朱), 校訂(墨)	III-386-41
2882	「歳暮書懷」(連作15首詩稿)	仮綴	1綴	(明治21年カ)	(頼誠軒)		24.0×17.0	半紙	2	批正(朱)	III-386-42
2883	詩稿(明治5年～18年)	仮綴	1綴	壬申(明治5年)～十八年	(頼誠軒)		23.0×14.5	罫紙	16	批正(朱), 校訂(墨), 頭注(墨・朱), 詩稿の反故紙を使用	III-386-43

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2884	草稿(明治13年～17年詩稿)	仮綴	1綴	庚辰(明治13年)～十七年	(頼誠軒)		24.7×17.2	半紙	10	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 朱文円印「孤飛」3顆, 批正(朱), 校訂(墨), 罨紙の反故紙を一部使用	III-386-44
2885	誠軒詩(丙戌・丁亥稿)	仮綴	1綴	(明治19年)六月六日～丁亥(明治20年)十二月十一日	頼誠軒		23.6×16.6	楮紙	13	共紙表紙, 外題直書「誠軒詩」, 批正(朱), 校訂(墨)	III-386-45
2886	誠軒詩稿(明治21年～25年)	仮綴	1綴	戊子(明治21年)一月一日～壬辰(明治25年)	(頼誠軒)		25.0×17.4	半紙	5	共紙表紙, 外題直書「誠軒詩稿」	III-386-46
2887	草稿(明治5年～明治14年)	仮綴	1綴	壬申(明治5年)～明治十四年	元啓伏乞斧正(頼誠軒)		24.8×17.3	罨紙	4	素紙表紙, 外題直書「草稿」, 校訂(朱)	III-386-47
2888	誠軒草稿(山田十竹批正)	仮綴	1綴	明治時代	(頼誠軒)		24.0×17.0	罨紙(楮紙), 三桎紙, 楮紙	17	罨紙表紙, 外題直書「誠軒」, 山田十竹批正(朱), 7・8丁目の間に文稿一葉(山田十竹朱批正), 12・13丁目の間に文稿一葉(綴じ跡あり)挟込あり	III-386-49
2889	詩稿(明治18年9月)	仮綴	1綴	(明治)十八年九月	(頼誠軒)		23.6×16.5	楮紙	13	共紙表紙, 外題直書「詩稿」, 表紙墨書「十八年九月」, 批正(朱), 5丁目袋中に一葉(七言絶句)あり	III-386-50
2890	[頼誠軒詩稿](元治元年～慶応2年)	仮綴	1綴	甲子(元治元年)元日～丙寅(慶応2年)	(頼誠軒)		24.0×17.5	半紙	20	批正(朱), 校訂(墨), 反故紙使用	III-386-51
2891	戊子詩稿	仮綴	1綴	戊子(明治21年)	(頼誠軒)		24.1×17.2	半紙	7	共紙表紙, 外題直書「戊子詩稿」, 表紙墨書「廿一」, 批正(朱), 文稿の反故紙使用, 4・5丁目の間に一葉(七言絶句)挟込	III-386-52
2892	甲午詩草	仮綴	1綴	甲午(明治27年)二月六日、十二日	(頼誠軒)		24.8×17.0	半紙	5	首題「甲午詩草」, 校訂(墨), 反故紙使用	III-386-53
2893	[詩稿]	仮綴	1綴	丙午(弘化3年)～(明治)十九年	阿東拝具(頼誠軒)ほか		(最大)29.7×37.5	半紙, 竹紙, 三桎紙, 罨紙(楮紙), 諸口紙, 色諸口紙	65	批正(朱), 校訂(墨), 未綴の詩稿二葉あり	III-386-55
2894	草稿(詩文草稿)	仮綴	1綴	江戸後期カ	誠軒老人頼啓(頼誠軒)		25.0×17.2	半紙, 楮紙	45	共紙表紙, 外題直書「草稿」, 批正(朱), 校訂(墨), 2・10・18・38丁目袋中に詩稿等の挟込	III-386-56
2895	愚稿(己酉・壬子・辛酉稿)	仮綴	1綴	己酉(嘉永2年)～辛酉(文久元年)冬日	元啓拝呈(頼誠軒)		27.2×18.5	半紙, 罨紙(楮紙), 竹紙	32	素紙表紙, 外題直書「愚稿」, 河野小石批正(朱), 頼支峰批正(朱), 校訂(付紙に墨)	III-386-57
2896	[詩稿]([「春日偶成同石津生押韻」]ほか)	仮綴	1綴	明治時代	(頼誠軒)		24.2×17.0	罨紙(楮紙)	6	勤惰簿の反故紙を使用	III-386-58

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2897	〔詩稿〕(「花朝安政乙卯春」ほか)	状	1通	安政乙卯(2年)春～三月十八日	(頼誠軒)		25.0×34.6	半紙			Ⅲ-386-61
2898	「二月初六同諸子訪大橋君松涛園分韵賦呈」	状	1通	二月初六	杲伏乞(頼誠軒)		24.7×34.5	半紙		批正(朱)	Ⅲ-386-62
2899	〔詩稿〕(七言絶句)	状	1通	江戸後期カ	(頼誠軒カ)		24.3×16.9	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-386-63
2900	鶏肋(「歳暮書懷」ほか詩文稿)	仮綴	1綴	(明治20年カ)	誠軒啓具稿(頼誠軒)		25.6×18.8	罨紙(楮紙)	9	共紙表紙, 外題直書「鶏肋」, 山田十竹批正(朱), 校訂(墨), 罨紙の反故紙使用, 1・2丁目, 4・5丁目の間に詩稿単葉挟込	Ⅲ-386-64
2901	詩稿(「楠正成」「梅雨訪友」ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	杲拝乞(頼誠軒)		24.9×17.4	半紙	7	河野小石批正(朱), 校訂(墨)	Ⅲ-386-66
2902	〔詩稿〕(「四月廿三夕北土淵同子龍向竹原右詩和示」ほか)	横半帳	1冊	十三日～四月廿三日	(頼誠軒)		11.9×16.5	半紙	10	批正(朱)	Ⅲ-386-70
2903	「春江泛舟」「惜春」「贈小川香溪」	状	1通	明治時代カ	杲伏乞(頼誠軒)		25.0×34.8	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-386-72
2904	〔詩稿写〕(金山寺, 天台山, 登甘露寺, ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼誠軒カ)		25.0×17.2	半紙	8		Ⅲ-386-74
2905	〔詩稿写〕	仮綴	1綴	江戸後期カ	(頼誠軒カ)		6.3×17.3	雁皮紙	23	素紙表紙, 句切点(朱), 傍点(朱)	Ⅲ-386-76
2906	〔詩稿〕(三月廿日同希蔵遊衣波分韻得支)	状	1通	江戸後期	元啓伏乞(頼誠軒)		29.5×33.0	竹紙		頼聿庵批正(墨)	Ⅲ-290-63
2907	〔詩稿写〕(聞雁・十月望飲月波亭ほか)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		17.1×242.8	奉書紙		朱文方印「頼」「啓」(連印)26顆, 校訂(墨), 後欠カ, 紙背墨書あり	Ⅲ-290-65
2908	〔誠軒詩文稿〕(題三樹季父遺墨ほか)	縦帳	1冊	江戸後期	(頼誠軒)		23.7×16.5	半紙		批正(朱), 綴じ跡あり, 右下破損	Ⅲ-290-66
2909	〔詩稿〕(七言絶句)	状	1通	江戸後期	(頼)誠軒旧製		20.5×14.3	竹紙			Ⅲ-290-67
2910	〔詩稿〕(雁字)	状	1通	江戸後期	杲伏乞(頼誠軒)		20.6×16.0	竹紙		頼三樹三郎批正カ(朱)	Ⅲ-290-68
2911	〔詩稿〕(戊戌子規詩)	状	1通	戊戌(天保9年)	(頼誠軒カ)		14.5×73.3	竹紙		端裏書「戊戌子規詩」, 校訂(墨)	Ⅲ-290-69
2912	〔詩稿〕(七言絶句・上巳清明)	状	1通	上巳清明	(頼誠軒カ)		14.4×14.6	諸口紙		校訂(墨), 書簡反故紙使用	Ⅲ-290-99
2913	〔詩稿〕	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		25.0×34.0	半紙			Ⅲ-295-13
2914	〔七言絶句・五言律詩〕(癸酉中秋, 九月十三夜)	状	1通	癸酉(文化10年カ)仲秋九月十三夜	(頼景讓カ)		16.0×31.0	三桮紙(薄藍色)			Ⅲ-337-11
2915	〔頼杏坪七言絶句写〕(奉追悼子琴老詞宗)	状	1通	江戸後期	侄頼元鼎書(頼景讓)		13.7×14.	杉原紙			Ⅲ-184-5
2916	〔詩稿〕(天保十年己亥稿)	状	1通	天保十年己亥正月元旦～二月	(頼達堂)		27.0×34.6	罨紙(楮紙)		批正(朱), 罨紙版心「喜見山舎蔵罨紙」	Ⅲ-386-60
2917	七言絶句「足柄山吹笙画題」	状	1通	江戸後期	采真奉呈		17.3×15.5	鳥の子紙		端書「是は足柄山吹笙之画題なり」	Ⅲ-336-64
2918	七言律詩「奉賀執政今中君尊萱六十栄誕」	状	1通	江戸後期	鴨郡頼元彝拝具(小園)		22.2×37.5	竹紙		校訂(墨)	Ⅲ-336-65

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2919	〔七言絶句〕(後半一作, 慈斧奉希侯)	状	1通	江戸後期	彝再行(頼小園)	(頼采真カ)	16.3×14.5	竹紙			Ⅲ-180-11
2920	〔三穂歌稿〕	横帳	1冊	江戸後期	十子(三穂)		12.4×34.0	半紙	5	1丁目オに「後の葉月廿日あまり四日といふニ竹原てふ所へおもむくとて舟にのりてあかつきかたによみける 十子」との記載あり	Ⅲ-20-40
2921	〔三穂歌稿〕	横帳	1冊	(文化14年カ)	三穂		15.1×45.0	楮紙, 杉原紙	19	校訂(墨), 6丁目ウに「父の一めくりの忌に」との記載あり, 反故紙使用	Ⅲ-20-41
2922	〔三穂歌稿〕	仮綴	1綴	江戸後期	三穂子		12.9×34.5	半紙	11	校訂(墨)	Ⅲ-20-42
2923	〔三穂歌稿〕	状	1通	江戸後期	三穂子		15.5×320.9	杉原紙		批正(朱)	Ⅲ-21-10
2924	〔三穂歌稿〕(「うせ給ひし父君のやまふのところにふし給へるハ去年の此ころなりと思ひ出て」ほか)	状	1通	江戸後期	三穂子		15.9×449.3	三椗紙(黄染)		批正(朱), 「うせ給ひし父君のやまふのところにふし給へるハ去年の此ころなりと思ひ出て」との記載あり(文化14年)	Ⅲ-21-11
2925	〔三穂歌稿〕(「盛花」「父君一めくりの忌に」ほか)	状	1通	江戸後期	三穂子		15.5×321.2	杉原紙		批正(朱), 「父君一めくりの忌に」との記載あり(文化14年)	Ⅲ-21-12
2926	〔三穂歌稿〕	状	1通	江戸後期	(三穂)		17.0×47.5	杉原紙		校訂(墨)	Ⅲ-21-33
2927	〔三穂歌稿〕	仮綴	1綴	江戸後期	(三穂)		16.7×47.6	杉原紙	3	批正(朱)	Ⅲ-21-34
2928	和歌短冊「口月」	状	1通	江戸後期	三穂子		30.5×6.0	奉書紙		上端破損, 「かやりたく烟も絶て更わたる木の間の月の影そすゝしき 三穂子」	Ⅲ-21-35
2929	〔三穂歌稿〕	仮綴	1綴	江戸後期	三穂子		12.4×34.9	半紙	2		Ⅲ-21-36
2930	〔三穂歌稿〕(「元日試筆」「梅薫風」ほか)	仮綴	1綴	つちのとのミのとし(文化6年)	三穂子		12.3×34.6	半紙	7	校訂(墨)	Ⅲ-21-37
2931	〔三穂和歌〕(あね君のいとろうたけなるみとり子をうしなひ給ひけるをいたみ奉りて二首)	状	1通	(文政8年カ)	三穂子		17.4×39.0	杉原紙(藤花絵摺)			Ⅲ-21-38
2932	〔三穂歌稿〕(「望」「祝」ほか)	状	1通	江戸後期	三穂子		12.3×33.9	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-21-39
2933	〔三穂歌稿〕	状	1通	江戸後期	三穂子		12.3×34.2	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-21-40
2934	和歌覚	横半帳	1冊	寛政十二年申三月十六日カ	とお子(三穂)		12.5×17.5	半紙	34	後補包紙にてⅢ-22～26まで一括, 共紙表紙, 外題直書「和歌覚」, 校訂(墨)	Ⅲ-22
2935	〔三穂歌稿〕	仮綴	1綴	とらのとし(文化3年カ)	十子(三穂)		12.5×35.0	半紙	9	校訂(墨)	Ⅲ-23
2936	1) すみた川の記・冬野ゝ口すさみ	仮綴	1綴	江戸後期	(三穂)		25.0×17.5	半紙	6	Ⅲ-24-1～2を合綴, 共紙表紙, 外題直書「すみた川の記 冬野ゝ口すさみ」, 表紙墨書「直子」, 校訂(墨)	Ⅲ-24-1
2936	2) いたみのうた	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期	と越子(三穂)		25.0×17.5	半紙	9	共紙表紙, 外題直書「いたみのうた」, 表紙墨書「直子」, 奥書「と越子写」, 校訂(墨)	Ⅲ-24-2
2937	月のうた	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期	十子(三穂)		24.7×17.5	半紙	10	共紙表紙, 外題直書「月のうた」, 表紙墨書「十子写」	Ⅲ-25
2938	もしほ草	仮綴	1綴	享和三年亥正月	(三穂)		25.0×17.4	半紙	16	共紙表紙, 外題直書「もしほ草」, 表紙付紙「基子様御詠」, 校訂(墨)	Ⅲ-26

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2939	〔歌稿〕(ともつなをとくや難波のうらよりもはるけきふな路たゝしつかなれ, ほか二首)	状	1通	(寛政5年カ)	直子(梅月)		16.3×22.8	奉書紙 (桜花垣根 絵摺)			Ⅲ-330-2-1
2940	〔歌稿〕(夏夕月, 雨中蛩ほか二十首)	状	1通	江戸後期	梅月(直子)		15.3×74.4	杉原紙		2枚に剥離	Ⅲ-337-3
2941	〔歌稿〕(郭公数声, 遠夕立ほか六首)	状	1通	江戸後期	梅月(直子)		16.6×30.4	三桎紙 (黄染, 雀 絵摺)			Ⅲ-337-4
2942	〔和歌〕(おのづから散るをもまたで桐の葉を)	状	1通	江戸後期	直子(梅月)		14.5×12.0	楮紙			Ⅲ-375-50
2943	京都七年間遊学中 詩稿 上	袋綴装 大和綴	1冊	(明治13~16年)	元緒(頼古樫)		25.0×17.0	半紙	42	共紙表紙, 外題直書「京都七年間遊学中 詩稿 上」, 表紙墨書「元緒」, 頼支峰批正(朱), 校訂(付紙に墨), 句切点(朱), 傍点(朱)	Ⅲ-385-5
2944	京都七年間遊学中 詩稿 下	袋綴装 大和綴	1冊	(明治17~19年)	元緒(頼古樫)		24.2×16.5	半紙, 杉原紙	65	素紙表紙, 外題直書「京都七年間遊学中 詩稿 下」, 表紙墨書「元緒」, 頼支峰批正(朱), 校訂(墨, 付紙に墨), 句切点(朱), 傍点(朱), 62丁目ウに『丙戌七月念五支峰叟批』(頼支峰筆)との記載あり	Ⅲ-385-6
2945	詩文稿(「先君履歴大略」「芸備偉人伝序」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	丙戌(明治19年)七月廿七日 癸大坂~己亥(32年)	元緒, 頼弥次郎(頼古樫)		25.0×17.3	半紙, 三桎紙, 罫紙 (楮紙)	60	素紙表紙, 外題直書「詩文稿」, 表紙墨書「帰郷後 古梅軒主」, 頼元啓批正(朱), 武田鷹山批正(朱), 校訂(墨・朱)	Ⅲ-385-7
2946	草稿 一(「池田家使宮城南部救尼崎城」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	丙戌(明治19年)三月念一夜	弥二郎(頼古樫)		25.0×17.0	半紙	23	共紙表紙, 外題直書「草稿 一」, 表紙墨書「正 弥二郎拝」, 『〇』, 頼支峰自筆『余曩日ヨリ子ニ作文ヲ勸学セシメント欲ス, 先ツ記事ヨリ始ム(中略)平素所読和漢人先哲ノ記事文手本トス軽々読スクヘカラス 丙戌二月十一日支峰老人』, 『復文二篇, 太佳, 埃面質, 説其詳, 復觀三月念一夜』, 頼支峰批正(朱, 不審紙に朱書)	Ⅲ-385-8
2947	詩文稿 二(「辛丑五首」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	辛丑(明治34年)~丙辰(大正5年)	(頼古樫)		24.6×16.7	三桎紙, 半紙	56	共紙表紙, 外題直書「詩文稿 二」, 注記(朱・墨), 傍点(朱・墨), 校訂(墨)	Ⅲ-385-9
2948	古樫詩稿 三(「丙辰大正五年六十九首」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	丙辰大正五年~壬戌(11年)	古樫		24.5×17.0	機械漉紙	142	共紙表紙, 外題直書「古樫詩稿 三」, 注記(朱・墨), 傍点(朱・墨), 校訂(墨)	Ⅲ-385-10
2949	詩鈔(「庚辰初冬夜座」ほか)	袋綴装 大和綴	1冊	庚辰(明治13年)~丙戌(明治19年)	(頼古樫)		24.5×17.2	半紙	42	共紙表紙, 外題直書「詩鈔」, 首題「詩鈔」, 句切点(朱), 傍点(朱), Ⅲ-385-5・6の清稿	Ⅲ-385-11
2950	古樫詩稿(癸亥・甲子・乙丑・丙寅)	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正十二年癸亥~丙寅(昭和元年)	(頼古樫)		23.5×15.7	罫紙 (楮紙)	49	渋引表紙, 外題題簽「古樫詩稿 癸亥, 甲子, 乙丑, 丙寅」, 首題「古樫詩稿」, 傍点(朱), 注記(朱), 校訂(朱・墨)	Ⅲ-385-12
2951	古樫詩稿(丙寅・丁卯・戊辰・己巳・庚午)	袋綴装 四ツ目綴	1冊	丙寅(昭和元年)~庚午(5年)	(頼古樫)		23.1×15.3	罫紙 (楮紙)	50	茶表紙, 外題題簽「古樫詩稿 丙寅, 丁卯, 戊辰, 己巳, 庚午」, 首題「古樫詩稿」, 傍点(朱), 注記(朱), 校訂(墨)	Ⅲ-385-13
2952	古樫詩稿(辛未)	袋綴装 四ツ目綴	1冊	辛未昭和六年	(頼古樫)		23.1×15.3	罫紙 (楮紙)	50	茶表紙, 外題題簽「古樫詩稿 辛未」, 首題「古樫詩稿」, 傍点(朱), 注記(朱), 二紙(詩稿四首, 朱書批正あり)挟込	Ⅲ-385-14
2953	〔詩稿〕(癸巳秋日至松雨山房)	状	1通	明治時代	(頼古樫カ)		15.6×41.0	竹紙		頼誠軒批正(朱)	Ⅲ-290-70-1
2954	〔詩稿〕(七言絶句)	状	1通	明治時代	(頼古樫カ)		15.9×23.3	竹紙		頼誠軒批正(朱)	Ⅲ-290-70-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2955	〔詩稿〕(七言絶句2首)	状	1通	大正時代カ	(頼古樸)		18.1×21.3	竹紙 (黄染)			Ⅲ-290-76
2956	〔野菊江梅七言律詩〕	状	1通	明治時代カ	(頼古樸カ)		28.7×22.7	諸口紙		左下部切り取りあり	Ⅲ-295-9
2957	〔七言律詩・七言絶句〕(九月十三夜賞月, 其二)	状	1通	九月十三夜	頼亀年拝具		18.0×15.7	雁皮紙			Ⅲ-334-25
2958	〔詩稿〕「次 串田氏十七韻」	状	1通	江戸後期	□未定草		24.9×34.4	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-336-8
2959	〔和歌〕	状	1通	江戸後期			14.5×12.7	諸口紙		末尾に「水戸侯方万葉」とあり	Ⅲ-353-5
2960	〔詩稿写〕(四季七言絶句十二首)	状	1通	江戸後期カ	亦佳楼主人		24.2×34.2	半紙	2	校訂(墨)	Ⅲ-386-79
2961	〔詩稿〕(七言絶句・艾園集分得齋)	状	1通	明治時代カ			16.1×11.4	竹紙 (詩箋)			Ⅲ-290-71
2962	〔七言律詩ほか〕(備前原山田三子留宿来遣候福山鈴村禅之子聞之言分得韻佳ほか)	状	1通	江戸後期	(菅茶山)		15.1×29.4	楮紙			Ⅲ-330-1-2
2963	〔七言律詩〕(田口舊雨獨侍情)	状	1通	江戸後期	(菅茶山)		15.0×25.1	杉原紙			Ⅲ-330-1-3
2964	〔七言律詩〕(西国儒紳口学林)	状	1通	江戸後期	晋帥(菅茶山)		16.0×28.3	杉原紙		端裏書「竹原宮にて詠事」	Ⅲ-330-1-4
2965	〔七言律詩〕(蠟梅詩)	状	1通	江戸後期	(菅茶山)		15.8×19.5	楮紙		端裏書(頼春水筆)「茶山蠟梅詩」, 校訂(墨)	Ⅲ-330-1-5
2966	〔七言絶句三首〕(丙寅二月廿五迂村上人来訪分柳絮飛時花満城作詩余得城字)	状	1通	丙寅(文化3年)二月廿五	(菅茶山)		13.7×18.3	楮紙		端裏書(頼春水筆)「茶山聯珠ノ詩」, 注記(墨), 「三首組珠也」(菅茶山筆), 「これハ三月の作也」との記載あり	Ⅲ-330-1-8
2967	〔七言絶句口首〕(次韻伊澤澹父登文筆峰三絶)	状	1通	(文化4年カ)	晋帥(菅茶山)		16.3×29.4	三桮紙		注記(墨)	Ⅲ-330-1-9
2968	〔五言律詩ほか〕(藤伯協宅ほか)	状	1通	(天明8年6月23日カ)	(菅茶山)		15.1×26.5	楮紙		校訂(墨)	Ⅲ-330-1-10
2969	〔詩稿〕(黄葉夕陽村舎詩後編卷之八, 送鈴木曹長之東都ほか)	仮綴	1綴	(文政2年)	晋帥(菅茶山)		24.0×17.0	半紙	3	端書(菅茶山筆)「きひしく御直し可被下候 晋帥」, 批正(朱), 「此詩ハあの方より相談ニ来り候」と記載の一紙(14.5×1.4, 色諸口紙)あり	Ⅲ-334-36
2970	1)〔歌稿〕(笹霰, ほか三首)	状	1通	江戸後期	(菅沼)斐雄		15.6×61.7	杉原紙		Ⅲ-339-17-1~8まで貼継	Ⅲ-339-17-1
2970	2)〔歌稿〕(すゝきの風, ほか二十二首)	状	1通	江戸後期	(香川)景樹, 幸文, (菅沼)斐雄		16.8×236.9	杉原紙 (上下朱線)			Ⅲ-339-17-2
2970	3)画賛(和歌二首)	状	1通	江戸後期	(熊谷)直好		17.8×28.0	杉原紙 (薄藍吹染, 草文白抜き)			Ⅲ-339-17-3
2970	4)〔文化丑春和歌四首〕(「試筆」「年内立春」ほか)	状	1通	文化丑(14年)春	一水(岡一水)		16.1×27.4	奉書紙 (摺紙)		Ⅲ-336-58「和歌四首」及び「文化十四丑春 試筆」(黄葉夕陽文庫G89-22-5, 広島県立歴史博物館蔵)と同文	Ⅲ-339-17-4
2970	5)〔歌稿〕(いとはやも春きたるらしわかやとに, ほか二首)	状	1通	江戸後期	(小寺)清之		16.4×36.3	奉書紙			Ⅲ-339-17-5
2970	6)奥州伊達郡桑折義経腰掛松と申候, 白川楽翁殿御自詠	状	1通	江戸後期			15.9×17.0	奉書紙			Ⅲ-339-17-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2970	7)〔書簡〕(月形七介来訪のこと, 笠岡へ行き小寺へ一宿したこと)	状	1通	十月卅日	晋帥(菅茶山)	万四郎様	16.4×51.1	奉書紙			Ⅲ-339-17-7
2970	8)〔歌稿〕(去年のけふに思日かへして)	状	1通	江戸後期	慈光	梅颯御もとへ	17.3×17.0	奉書紙			Ⅲ-339-17-8
2971	〔歌稿〕(君に又逢ことかたき, 他一首)	状	1通	江戸後期	きし		19.0×17.0	奉書紙(模様摺)		包紙(24.0×20.8, 半紙)「菅氏室人別のうた 主人詩附 長献ナリ」	Ⅲ-334-26-1
2972	〔和文・和歌〕(広島古江近辺の春のけしき)	状	1通	文化五乃とし	みなもとの貴之		16.3×168.7	三桎紙※		三桎紙:薄茶・薄藍・薄桃・薄墨・薄黄色	Ⅲ-306-10
2973	〔歌稿〕(頼尊大人にたいまつるうた)	状	1通	江戸後期	安村		16.4×25.7	杉原紙(薄藍吹染, 草文白抜き)		Ⅲ-337-27と作者・料紙とも同じ	Ⅲ-329-3-3
2974	〔歌稿〕(慈仙寺当座 落梅ほか二十四首)	状	1通	江戸後期	安村		16.6×122.7	杉原紙※		杉原紙:薄藍吹染, 草文白抜き	Ⅲ-337-27
2975	七言絶句「戯題官署壁」	状	1通	明治時代カ	惟直		16.3×30.3	楮紙			Ⅲ-336-66
2976	〔七言絶句〕(遊酒春閣三首)	状	1通	(明治43年)	(一斎)		22.8×12.6	詩箋※		「右, 遊酒春閣三首乞古模兄之咲正, 復二首与兄, 同遊所得也」との記載あり, 詩箋:竹紙, 薄桃色, 婦人絵摺	Ⅲ-333-8-1-1
2977	〔俳句〕(秋のさひ聞や水音虫の声)	状	1通	庚戌(明治43年)仲秋	一斎拜		22.8×12.5	詩箋※		「庚戌仲秋, 酒春閣に於て 一斎拜」との記載あり, 詩箋:竹紙, 萌黄色, 婦人絵摺	Ⅲ-333-8-1-2
2978	〔歌稿〕(けふも丁祭を祝し奉りて)	状	1通	江戸後期	上 一詮		19.0×27.2	小半紙			Ⅲ-329-3-1
2979	〔歌稿〕(春水先生の言の葉にいく秋も咲出菊の花をおくり奉るとて)	状	1通	江戸後期	一詮		17.0×36.2	杉原紙			Ⅲ-329-3-2
2980	〔発句〕(只嬉し只おもしろし花の春, ほか二首)	状	1通	江戸後期	一馬		32.3×11.0	竹紙			Ⅲ-330-2-5
2981	〔七言律詩「今宵又遂昨宵轅…」〕	状	1通	丁未(明治40年)十三夜	九 阜 田 斌 拜 (稲田九阜)		24.0×34.6	竹紙		落款「丁未十三夜後一夕嶺松廬雅集分韻得之 座閣山陽翁上萱堂入京日記詩□□□ 九阜田斌拜, 白文橢円印「□賈」(冠帽印)1顆, 白文方印「九阜」1顆, 朱文方印「稲田斌印」1顆	Ⅲ-333-8-2
2982	〔池水鳥和歌〕	状	1通	江戸後期	大含(雲華上人)		19.5×16.3	竹紙(草花絵摺)			Ⅲ-295-16
2983	〔和文・和歌〕(杏坪大人みよしといへる所のつかさになりて行給ふ)	状	1通	江戸後期	映雪		16.5×58.7	奉書紙(笹絵摺)			Ⅲ-338-3
2984	〔和歌短冊「試筆」「としのくれに」〕	状	1通	江戸後期	(岡)一水		35.5×5.3	間合紙(摺紙)		紙背墨書「十□□□」, 同・黒文円印1顆	Ⅲ-330-11
2985	〔和歌短冊「松竹雪初□齊」〕	状	1通	江戸後期	(岡)一水		35.3×5.2	打曇杉原紙		紙背に剥ぎ跡あり	Ⅲ-333-2-1
2986	〔和歌四首〕(「試筆」「年内立春」ほか)	状	1通	(文化14年)	(岡)一水		16.0×26.5	奉書紙(摺紙)		Ⅲ-339-17-4「文化丑春和歌四首」及び「文化十四丑春 試筆」(黄葉夕陽文庫 G89-22-5, 広島県立歴史博物館蔵)と同文	Ⅲ-336-58

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
2987	〔歌稿〕(辰のとしの暮に, 巳のとしの春のはしめに, 二首)	状	1通	(文化5年, 6年)辰のとしの暮に, 巳のとしの春のはしめに	(岡田寒泉)		15.9×13.2	楮紙		筒紙(11.6×3.6, 色半紙, 頼春水筆)「寒泉翁和歌」	III-330-2-2
2988	〔七言絶句〕(送僧遠高野)	状	1通	江戸後期	(岡田寧處)		16.1×11.3	詩箋(竹紙)		端裏書(頼春水筆)「阿州岡田二郎之詩」, 右下一部破損	III-330-1-7
2989	七言律詩「太宰府謁菅廟」	状	1通	江戸後期	河北重熹草(温山)		22.6×12.5	竹紙(薄赤色, 葉絵摺)			III-336-43
2990	〔唐詩写〕(趙章泉詩, 呉思道詩, ほか)	仮綴	1綴	己酉(嘉永2年)春暮	門末河埜敬写(河野小石)		25.0×17.2	半紙	2	2丁を糊付けにて仮綴	III-336-87
2991	〔七言絶句二首〕(神應開山忌, 梅雲一周忌)	状	1通	江戸後期	臥禅子		16.4×37.4	楮紙		封筒(頼古楳筆)「諸家詩文歌」	III-337-7
2992	〔七言絶句「奉送頼君栗之京」〕	状	1通	江戸後期	笠井貞雄拝稿		19.3×37.9	竹紙		朱文方印「□齋」1顆, 朱文方印「貞雄之印」1顆	III-339-6
2993	〔歌稿〕(君栗の御ぬし浪華におもむけるに)	状	1通	江戸後期	手卷舎主人拝(笠井貞雄)		19.9×7.8	竹紙		朱文方印「□齋」1顆	III-339-7
2994	〔漢詩〕(和宇都土龍賢兄遊妙正寺作二首)	状	1通	丁亥(明和4年)春三月	蠹菴葛張拝(葛子琴)		17.0×47.3	楮紙		奥書「丁亥春三月, 浪華蠹菴葛張拝」, 端裏貼紙(薄藍色)「宇都宮龍蔵手書」, 端裏書「妙正寺作和章 子琴」	III-93
2995	〔詩稿〕(「晩秋廿九日偶成」ほか)	状	1通	晩秋廿九日~初冬五日	関敬(関雪江)草稿		17.1×115.4	杉原紙(雲母引)			III-336-37
2996	〔和文・和歌〕(瀬戸と□いへる湊によりかかり)	状	1通	江戸後期	貴三		15.7×62.1	杉原紙			III-338-4
2997	〔歌稿〕(文化二のとし旅たつあすとの日霞の関のやとりに)	状	1通	文化二のとし(文化2年)	貴之しるす		11.5×11.4	三桮紙(黄染)		立湧型に切り抜いた3紙を貼継	III-333-3
2998	七言律詩「弄胡孫図」	状	1通	江戸後期カ	吉庵老人昇		24.6×33.9	楮紙			III-336-47
2999	七夕七首	状	1通	七夕	(吉井)豊庸		16.6×34.8	美濃紙		端裏書「南」, 天・地・人・禽・獸・服・器の七首	III-329-1-3
3000	〔漢文〕(不覚発歎精里題)	状	1通	江戸後期	吉田畿書		27.9×8.8	楮紙			III-329-9-2
3001	〔七言律詩二首〕(題子陵墓, 駒旅)	状	1通	江戸後期	吉田千秋		16.4×20.9	杉原紙		校訂(墨), 裏打紙あり	III-337-14
3002	〔詩稿〕(「歳晩書懐」「雪江海舟図」)	状	1通	江戸後期	楫未定草(久保竹外カ)		15.7×67.5	楮紙(薄赤色)		裏打ちあり	III-336-40
3003	〔歌稿〕(かしこきみあたりよりあてなる御掛物三幅これ見せよとの仰ことありとて)	状	1通	江戸後期	居中		17.3×38.4	奉書紙			III-329-2-1
3004	〔和歌短冊〕(春煙)	状	1通	江戸後期	居中		35.5×5.4	打曇鳥の子紙		紙背墨書「二」, 料紙剥ぎ跡あり	III-333-2-2
3005	七言絶句「次頼古梅詞夜韻正」	状	1通	(大正10年カ)	橋本海関	頼古楳(頼古梅)	23.0×12.1	詩箋(竹紙, 赤色)		落款「海関再拜」	III-362-1-2
3006	〔橋本竹下詩文草稿〕	状	1通		竹下散人		24.5×34.0	楮紙		端裏書(菅茶山筆カ)「吉兵衛詩烟村持参」	II-4-16
3007	〔国文語句問答〕	状	1通	江戸後期	堯徳頓首		16.1×228.8	三桮紙※		朱書にて返答を記載, 三桮紙: 薄藍色・黄染, 蜘蛛の巣絵摺	III-337-24

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3008	〔歌稿〕(饒津大明神の広前にまうてよめる)	状	1通	江戸後期	(近藤)芳樹		39.3×25.7	竹紙			Ⅲ-329-3-5
3009	〔七言絶句〕(陽月朔奉初謁杏坪先生及賢郎賢姪諸君賦以呈上)	状	1通	丙子(文化13年)陽月朔	月形毅 拜具正		21.0×27.0	小半紙			Ⅲ-329-5-3
3010	〔七言律詩〕(藝州訪頼君餘一宅奉追悼春水先生因賦呈杏坪老兄墓)	状	1通	丙子(文化13年)十月	月形質再拜稿上(月形鷗窠)		28.1×40.8	雁皮紙		包紙(20.7×26.8, 小半紙カ)にてⅢ-329-5-1~3を一括, 包紙「於芸州広島御城下 頼万四郎様 月形七助 安全要用」, 同・裏「従大坂筑前屋敷 十月十二日発」, 同・朱文方印2顆	Ⅲ-329-5-1
3011	〔七言絶句二首〕(陣原即囑, 自玖波駅賃舟奉訪杏坪翁即事)	状	1通	(文化13年10月)	月形質稿上(月形鷗窠)正		28.1×40.8	雁皮紙			Ⅲ-329-5-2
3012	〔七言律詩「暫脱征衣勞未休…」〕	状	1通	(文化13年10月カ)	月形鷗窠		17.4×48.9	奉書紙		白文方印「月形質」・朱文方印「君璞」(連印)1顆, 落款「右, 舟中即事奉謝呈杏坪頼先生并令姪餘一君 月形質再拜」, Ⅲ-329-5-1~3「七言律詩・七言絶句」(文書・記録類)と関連カ	Ⅲ-330-2-4
3013	〔詩稿〕(人日作)	状	1通	江戸後期	雀年拜正(古賀竹堂)		24.5×34.0	半紙		批正(墨)	Ⅲ-243-5
3014	〔歌稿〕(後桜町院かくれさせ給ひて, ほか三首)	状	1通	江戸後期	光実		17.0×62.5	奉書紙		二枚に剥離	Ⅲ-334-24
3015	〔歌稿〕(洛薄ほか三首)	状	1通	江戸後期	光廣		15.0×23.1	杉原紙			Ⅲ-329-1-4
3016	〔歌稿〕(風前梅, 庵春雨ほか六首)	状	1通	江戸後期	江村傳左衛門(江村北海)		15.0×41.8	杉原紙		端裏書「江村傳衛門」	Ⅲ-337-25
3017	〔和歌〕(吉野にて, 17首)	状	1通	江戸中期カ	(江田)世恭		18.0×79.6	竹紙		第二首冒頭「三月廿二日雨のふりけるに吉野の花見にこいてたつ人にともなひて」	Ⅲ-91
3018	〔歌稿〕(深夜帰雁, 雨後夏月, ほか七首)	状	1通	江戸後期	世恭(江田世恭)		18.0×73.7	美濃紙			Ⅲ-337-22
3019	〔歌稿〕(十四夜清水にまうて, ほか十八首)	状	1通	江戸後期	(江田)世恭		15.6×116.9	三桎紙※		端裏書「九月十四日至」, 三桎紙; 萌黄色, 蜘蛛の巣絵摺	Ⅲ-337-23
3020	〔五言絶句二首「独酌板窓酒…」ほか〕	状	1通	江戸後期	乞正 耕岡		19.6×24.6	竹紙		朱文楕円印「東閣臬華」(冠帽印)1顆, 白文長方印「田岳」・朱文長方印「泊斎」(連印)1顆	Ⅲ-334-18
3021	〔歌稿〕(鶯, 餘寒, 春述懷ほか二十一首)	状	1通	江戸後期	(香川)景樹		17.5×150.5	杉原紙(松毬・松葉絵摺)		紙袋(24.0×18.3, 漉返紙)にてⅢ-333-1~9を一括, 紙袋(頼古榊筆カ)「浄書詩囊」, 端裏書「景樹」, 校訂(墨)	Ⅲ-333-1-1
3022	〔漢文〕(東海壯游歌送高山暉還浙江)	状	1通	乙卯(安政2年カ)九月廿五日封至	高彝君秉		24.6×50.1	半紙		包紙(19.5×27.2, 小半紙)「長崎高君秉古詩」, 同・裏「乙卯九月廿五日封至」, 傍点(朱), 傍線(朱)	Ⅲ-329-8
3023	〔聯句〕(勇夜子琴長兄見過訪共聯句得九佳)	状	1通	(天明元年)	重憲書(今井重憲)		16.0×48.6	楮紙		端裏書(頼春水筆)「辛丑」, 裏打あり	Ⅲ-306-8
3024	自来亭四時歌	絹本墨書 平絹	1通	江戸後期	臥虎山人未定稿(坂井虎山)		12.7×22.2	楮紙		校訂(墨)	Ⅲ-333-8-4
3025	〔七言絶句〕(春夜 隆飲嶺松廬分得宵)	状	1通	江戸後期	積草(阪井東派)		16.5×44.6	三桎紙(薄藍色)			Ⅲ-334-17

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3026	〔歌稿〕(月乃みるめ)	状	1通	文化八乃とし おほんむしろ にはしふして しるす	源貴三(山田 希曾)		23.9×241.5	半紙		端裏書(頼春水筆)「山田希曾和文自筆」, 校訂(墨)	III-334-7
3027	〔歌稿〕(山田猪右衛門和歌・和 文)	状	1通	はつき日	(山田猪右衛 門)		19.4×164.0	奉書紙 (メダカ絵 摺)		端裏書「山田猪右衛門殿和文」	III-334-6
3028	「つきふくろ」	状	1通	江戸後期	讃岐のあま	いせの□□□ の御もとへ	16.0×41.2	奉書紙			III-336-57
3029	〔和文・和歌〕(宮武唯盈の讃州 の孝子の行状始終をしるせる 一卷を一覧して)	状	1通	文化四年八 月廿七日	前権中納言 (芝山)持豊		19.5×390.7	間似合紙		「寛政といふ卯の冬しるす(中略)唯盈」との記載あり	III-334-42
3030	〔和歌〕	状	1通	明治時代カ	周魚		22.6×19.2	竹紙			III-336-74
3031	〔歌稿〕(秋祝聴, 神楽)	状	1通	江戸後期	宗閑		14.9×18.4	竹紙			III-333-1-2
3032	〔歌稿〕(今朝の雪めつらしく修 学院うらの山々しろく見へけれ は)	状	1通	江戸後期	宗閑	梅颯刀自御も とへ	16.4×19.8	美濃紙			III-339-2
3033	〔歌稿〕(丁酉春の試筆元日立 春なれば, 他十五首)	状	1通	丁酉(天保8 年)春 元日	宗閑		17.8×115.3	間似合紙 カ (桜花絵 摺)			III-339-16
3034	〔和歌短冊〕(尋郭公)	状	1通	江戸後期	春蔭		34.3×5.2	間似合紙		料紙剥ぎ跡あり	III-333-2-3
3035	〔歌稿〕(杏坪大人やつこか齢 を寿き給ひ鶴寿の二字を書て)	状	1通	江戸後期	(小寺)清光		30.3×33.7	竹紙 (蘭花摺)			III-329-3-4
3036	〔歌稿〕(「神無月の末菅の氏訪 ひ給ひて」)	状	1通	神無月の末	清先(小寺清 先)		16.4×37.8	杉原紙			III-336-38
3037	〔歌稿〕(歌ふくろといへる花か めによみてよと人のこひけれ は, 他)	状	1通	江戸後期	(小寺)清之		16.0×38.0	美濃紙			III-329-2-2
3038	〔歌稿〕(竹のうたに, 他三首)	状	1通	江戸後期	(小寺)清之		16.1×33.5	三桎紙			III-334-22
3039	〔歌稿〕(八十の春をむかえて)	状	1通	江戸後期	常山		16.7×31.9	杉原紙 (布目, 上 下朱線)		批正(墨)	III-337-8
3040	〔歌稿〕(試筆, 歳暮ほか四首)	状	1通	江戸後期	守貞(真野竹 堂)		16.4×47.0	三桎紙 (薄赤色)		校訂(墨)	III-337-13
3041	〔歌稿〕(都の花ミに思ひ立ける に, 他十九首)	状	1通	江戸後期	守貞(真野竹 堂)		15.9×167.6	美濃紙		端裏書「都乃津登」, 同(頼山陽筆)『宮内竹堂之歌今日到来, 御座ニ上 申候』, 裏面に頼山陽筆『ある人二十五年禁酒をすゝむるとて 守貞 長 しとて思ひる侘そ十年あまりいつしか夢の事にそ過なん, 先生ニも御保 養今の内ニ御著述など被成置可然と申越候, おもしろき翁ニ候』	III-339-14
3042	〔歌稿〕(頼君を待わひ侍りける を, 他一首)	状	1通	江戸後期	上 守貞(真野 竹堂)		16.4×13.7	三桎紙 (薄赤色)			III-339-15
3043	〔歌稿〕(梅香一首)	状	1通	江戸後期	(菅沼)斐雄		31.0×43.9	杉原紙			III-337-26

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3044	[歌稿](梅麿御君の御もとへ)	状	1通	江戸後期	(菅沼)斐雄		17.2×35.0	奉書紙 (波に月と水鳥の絵摺)			Ⅲ-329-2-3
3045	七言絶句「子玉至契到成井観音堂塗上作」	状	1通	江戸後期	威臣草(石井豊洲)		27.5×19.9	小半紙			Ⅲ-336-63
3046	七言絶句「玉壺楼依 文学韵」	状	1通	江戸後期	績拝草		28.2×19.0	楮紙		校訂(墨), 詩稿以外の雑記多数あり	Ⅲ-336-85
3047	[七言絶句](七月既望泛舟)	状	1通	江戸後期	先進 正		19.0×26.7	竹紙 (草花絵摺)		包紙(24.5×34.7, 半紙)にてⅢ-334-13-1~2を一括, 包紙「上 先進拝」	Ⅲ-334-13-1
3048	[五言絶句](秋夜泛舟)	状	1通	江戸後期	先進 正		19.0×26.7	竹紙 (草花絵摺)			Ⅲ-334-13-2
3049	[和歌短冊](浅野長懋御詠)	状	1通	江戸後期	(浅野)長懋		37.1×5.3	打曇鳥の子紙		端裏書「石井都好拝写」	Ⅲ-337-28
3050	[右京様御和歌](浅野長懋御詠)	状	1通		きさらきこゝぬかのひ (浅野長懋)		28.9×46.0	色諸口紙		端裏書「右京様御和歌」, 「きさらきこゝのぬかのひ, 佐伯のわりに逍遥しけるに」ほか五首	Ⅲ-337-29
3051	[歌稿](卯花作垣, 月前郭公ほか八首)	状	1通	江戸後期	宋閑		17.5×43.2	奉書紙			Ⅲ-329-1-2
3052	[七言絶句](周防道上)	状	1通	江戸後期	大楽源(大楽源太郎)		30.7×22.2	竹原奉 盈楼詩箋(竹紙)		封筒(頼古模筆)「大楽源太郎遺墨」, 白文長方印「浮遊而ゝ決カ」1顆	Ⅲ-329-6
3053	[詩文稿](周防の国に佐野のたほといふ所あり)	状	1通	辛未(文化8年)秋	南畝覃題(大田南畝)		27.9×39.0	罫紙		奥書「辛未秋 南畝覃題」, 後半に漢詩一首あり	Ⅲ-96
3054	頼翁六十賀序(頼惟清六十の祝)	状	1通		ことし明和よつの春(明和4年)	上 源文虎(丹羽嘯堂)	29.7×137.0	竹紙		序文并和歌三首	Ⅲ-339-9
3055	[歌稿](弔慰, 溺死の者をみて, 松契千年, 三首)	状	1通	江戸後期	竹里/希賢/三輪シツ斎		16.2×42.0	美濃紙			Ⅲ-337-21
3056	七言律詩「戊戌歳畫」「己亥新正」	状	1通	戊戌(安永7年), 己亥(安永8年)	竹山居士(中井竹山)草		27.2×19.8	罫紙(楮紙)		端裏書(頼春水筆)「竹山居士歳除新正作代筆」	Ⅲ-336-13
	詠野史									Ⅲ-90-1~2まで貼継, 素紙表紙, 外題直書「詠野史」, 表紙墨書「二卷之内」(「二卷」を墨抹のうえ「装釘之餘」に訂正), 冒頭に素紙表紙(16.8×20.0, 杉原紙)を貼継	Ⅲ-90
3057	1) 詠野史「少納言信西」	状	1通	江戸中期カ	(中井竹山)カ		15.4×18.8	楮紙		批正(墨・朱), 返点(墨), 送り仮名(墨), 合符(墨)	Ⅲ-90-1
3057	2) 詠野史「佐高綱」	状	1通	江戸中期カ	鳳(佐々木魯庵)カ		17.0×28.0	楮紙			Ⅲ-90-2
3058	五言律詩「春夜作四文」	状	1通	江戸後期	長口白龍		14.5×17.6	諸口紙			Ⅲ-336-7
3059	[七言絶句](四月廿九日待杏坪先生不至帳然賦此)	状	1通	四月廿九日	長献拝草		16.1×23.1	三極紙			Ⅲ-334-26-2
3060	[七言律詩](「若君循中休閒移居臺海田至此贈」ほか)	状	1通	江戸後期	天華和尚		14.5×34.9	楮紙			Ⅲ-336-20

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3061	〔五言律詩〕(八月十三夜曲江楼小集席上賦呈)	状	1通	文化三年八月 八月十三夜	天野(源左衛門)簡拝稿	春水頼先生	17.3×43.9	鳥の子紙(薄藍色)		端裏書(頼春水筆)「御中小姓頭 天野源左衛門詩 文化三年丙寅八月」, 左下部破損	III-334-23
3062	七言古詩「奉和杏坪頼先生題雪橋曉行図用主拙軒旧礎」	状	1通	江戸後期	伏乞郢政晩生 土屋朗 拝稿 (土屋壺関)		24.6×36.0	竹紙			III-336-73
3063	對來答酔顔贈小西生兼寄其翁伯熙	状	1通	江戸後期	東門起書		16.7×44.7	三椏紙			III-334-38
3064	〔七言律詩・五言律詩〕(松江大根島滞在時の詩稿)	状	1通	(文化6年3月13日, 17日)	日謙(道光上人)		16.7×46.5	奉書紙※		端裏書(頼春水筆)「道光上人之詩」, 奉書紙: 紗綾型押, 楓葉漉込	III-333-6
3065	〔歌稿〕(山陽か母氏にあひて口すさみハかてな)	状	1通	(文政12年)五月十三日	(日野)資愛		32.6×45.0	杉原紙			III-339-24
3066	〔歌稿〕(山紫水明処に関する和歌二首)	状	1通	(文政12年)五月十三日	(日野)資愛		33.0×47.5	杉原紙			III-339-25
3067	〔長藩桂小五郎癸亥夏攘夷詩写〕	絹本墨書状	1通	江戸後期	箱田寛録		22.6×23.7				III-336-53
3068	〔詩稿〕(鳳尾蕉, 古意ほか八首)	横帳	1冊	江戸後期	尾池槃(尾池桐陽)		16.6×43.0	三椏紙(菊・蓮花・蘭などの色摺)	8		III-329-10
3069	〔歌稿〕(夜鹿, 月前時雨ほか九首)	状	1通	江戸後期	武敏		16.1×69.8	杉原紙(雲母引)		2枚に剥離	III-329-1-5
3070	〔歌稿〕(朝鶯, 夏昼ほか十首)	状	1通	江戸後期	萍流カ(武敏カ)		15.8×68.4	杉原紙(雲母引)			III-333-4
3071	七言絶句「訪嘯月律師」	状	1通	江戸後期	仏村林隠		18.9×24.0	竹紙(蓮花絵摺)			III-336-39
3072	七言律詩「和杏坪先生中秋韻」	状	1通	江戸後期	片雲		14.6×44.6	諸口紙		端裏書「状ハさノ為雑稿数々進候」	III-336-68
3073	〔歌稿〕(頼氏にまかりて祝ひの御詠)	状	1通	江戸後期	上 保道		16.8×23.8	奉書紙			III-337-20
3074	〔歌稿〕(うつき三日の日頼大人をいれ奉りて)	状	1通	うつき三日の日	保之		16.7×44.5	小高檀紙			III-329-1-1
3075	〔五言律詩ほか〕(西山孝恂見過賦呈, ほか三首)	状	1通	江戸後期	讓録上伏乞慈正(北条霞亭)		16.0×61.0	楮紙		端裏書「北条」	III-330-8
3076	〔五言律詩〕(和北江用白居易初病風之韻)	状	1通	(文化9年カ)	立斎(箕浦江南)		17.4×40.3	三椏紙		紙袋(28.0×19.5, 楮紙)にてIII-330-1~13を一括, 紙袋(頼古楳筆)「小切物 諸名家詩」, 端裏書(頼春水筆)「土州箕浦父子兄弟来詩」	III-330-1-1
3077	〔歌稿〕(南の御屋敷にて藩幹譜を読ませ給ふを永して読ミける鄙歌并反御歌)	状	1通	江戸後期	立斎謹撰(箕浦江南カ頼立斎カ)		17.8×50.0	杉原紙			III-334-28
3078	〔七言律詩写〕(芸林幾歳瀬芬芳)	状	1通	江戸後期	(箕浦立斎カ)	(頼春水)	15.0×20.3	楮紙		端裏書(頼春水筆)「大含 白龍 栞折播磨 龍野二子 箕浦」, 前欠, 「此者松前之医者ニ而江戸多紀氏ニ学, 京ハ村上孝俊(後略)」との記載あり	III-336-25

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3079	[益軒先生-百年忌御手向の二首]	折紙	1通	(文化11年)	(箕浦)立斎上	(頼春水)	14.2×47.1	楮紙		包紙(24.4×17.0, 半紙)「益軒先生-百年忌辰, 御手向の夷曲二首 立斎」	III-332-7
3080	七言絶句「題養蚕図二首五月課題」	状	1通	明治時代	木原藉之(桑宅)		24.4×17.0	罨紙(楮紙)		校訂(墨), 罨紙版心「学校」	III-336-45
3081	[歌稿](大小曆に因む十三首)	状	1通	(天保3年むつき～しはす)	上 雅寿(木村雅寿カ)		17.6×105.3	楮紙			III-337-15
3082	[歌稿](大小曆に因む十三首)	状	1通	(天保3年)正月～十二月	上 雅壽		17.6×93.6	楮紙			III-334-16
3083	[詩稿]「(平相国墓)」「(久遠寺)ほか」	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期	塾本畊稿(野本狷庵)		24.3×16.3	半紙	4	校訂(墨)	III-336-88
3084	奉 山陽先生	状	1枚		塾本畊稿		24.2×32.2	半紙		端書(頼聿庵筆)「塾本哭詩」	III-323-3
3085	[和歌短冊](十六夜無月冠字以)	状	1通	江戸後期	有鄰		36.9×5.5	打曇鳥の子紙		紙背墨書「首」カ, 料紙剥ぎ跡あり	III-333-2-5
3086	[七言絶句](咏聿庵頼先生手植梅時先生没已五十年第二故及)	状	1通	(明治39年)	養齋		69.4×31.6	竹紙			III-358-5
3087	[歌稿](佐野源佐衛門鉢木たきたるかたに)	状	1通	江戸後期	蓼園		17.1×45.7	奉書紙(梅枝絵摺)			III-329-2-4
3088	「雲石詩稿」写	袋綴装四ツ目綴	1冊	江戸後期カ			18.2×12.8	楮紙	19	縹表紙, 外題題簽「頼杏坪先生雲石詩稿 全」, 首題「杏坪先生雲石詩稿」, 表紙墨書「134」, 本奥書「文政庚辰夏四月」, 白文方印「関□」「君宝」(連印)1顆, 朱文方印「杏園」1顆, 朱文方印「関氏図書」1顆, 朱文方印「関氏図書」1顆, 白文方印「子孫保之」2顆, 批正(朱), 注記(墨), 綴じ糸切れ	III-48
3089	「適崎詩草・山陽先生文稿」写	袋綴装四ツ目綴	1冊	江戸後期カ			27.0×17.0	罨紙(楮紙)	16	茶表紙, 外題題簽「杏坪先生 適崎詩草 山陽先生文稿合綴」, 首題「適崎詩草」, 校訂(墨), 注記(墨), 句切点(朱), 各丁袋中に「礼記大全」木版本の反故紙挟込, 罨紙版心「大日本史 杏花邨舎」	III-49
3090	[七言絶句](春雨得開字)	状	1通	江戸後期			14.2×8.3	諸口紙			III-328-7-1
3091	異船一件(辰八月十八日出申来ル同廿二日午之刻当着写)	状	1通	辰八月十八日出申来ル同廿二日午之刻当着			14.0×181.0	諸口紙		端裏書「エゲレス船騒動注進書」	III-329-7
3092	[七言律詩](古賀精里漢詩写)	状	1通	江戸後期			15.7×32.3	楮紙			III-329-9-1
3093	[詩語集]	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期			15.3×10.3	楮紙	17	校訂(朱), 注記(墨), 傍点(朱), 綴じ跡あり, 錯簡カ, 17丁目に一部破損あり	III-330-12
3094	[和歌短冊](旅立人におくり侍る)	状	1通	江戸後期			36.8×5.3	打曇鳥の子紙		料紙剥ぎ跡あり	III-333-2-4
3095	[歌稿・和文](花盛, 花透霞ほか二首, 難波紀行文)	状	1通	江戸後期			16.8×95.2	奉書紙			III-333-5
3096	[歌稿](若き人のとみに身まかちけるをいたみて三首)	状	1通	江戸後期			14.5×25.8	諸口紙		批正(墨)	III-333-9-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3097	〔歌稿〕(叡山, 鴨河, 聖議林, 東山, 銅駝橋)	状	1通	江戸後期			17.7×104.7	奉書紙			Ⅲ-334-12
3098	〔詩稿〕(栗山, 伯行, 滄浪ほか)	状	1通	江戸後期			17.8×161.3	楮紙		端裏書「栗山〇」	Ⅲ-334-20
3099	〔七言絶句〕(舟遊, 舟遊向上寺)	状	1通	江戸後期			15.0×26.1	三桮紙		2枚に剥離, 上部欠損	Ⅲ-334-34
3100	〔詩稿〕	状	1通	江戸後期			15.8×15.9	三桮紙		校訂(墨), 表裏両面使用	Ⅲ-336-5
3101	〔七言絶句〕(欧陽公詩写)	状	1通	江戸後期			19.3×30.5	奉書紙		校訂(墨), 虫損大	Ⅲ-336-18
3102	〔七夕七首〕	状	1通	江戸後期			17.3×14.5	杉原紙		後欠	Ⅲ-336-26
3103	〔詩稿〕	状	1通	江戸後期			14.6×37.9	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-336-31
3104	〔歌稿〕(「あかし庵の花ミにとて都の人々ともに行て」)	状	1通	江戸後期			16.0×17.7	楮紙			Ⅲ-336-36
3105	〔和歌手本〕	状	1通	江戸後期			24.8×34.4	半紙			Ⅲ-336-41
3106	〔七言絶句〕	状	1通	江戸後期	玉口草		15.4×17.7	杉原紙		前欠カ	Ⅲ-336-55
3107	〔和歌〕	状	1通	江戸後期			14.3×9.0	楮紙			Ⅲ-336-56
3108	〔七言律詩〕	状	1通	江戸後期	従草		29.3×10.5	竹紙		校訂(墨)	Ⅲ-336-61
3109	七言律詩「次杏坪頼先生瑤韻」	状	1通	江戸後期	□拌具		15.6×39.9	三桮紙 (薄赤色, 竹枝絵摺)			Ⅲ-336-70
3110	〔五言律詩〕	状	1通	江戸後期			24.9×15.9	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-336-84
3111	〔歌稿〕(梅花三首)	状	1通	江戸後期			16.8×35.8	杉原紙 (薄赤色)			Ⅲ-337-9
3112	文化八年正月十一日柳營之御会	状	1通	文化八年正月十一日			16.4×34.0	美濃紙 (黄染)			Ⅲ-337-17
3113	〔七言絶句〕	状	1通	江戸後期			66.8×21.2	竹紙		紙背墨書「陶斎先生」, 校訂(墨), 水染みによる汚れ, 裂けあり	Ⅲ-362-4
3114	〔七言律詩〕(西開前野靠幽岑)	状	1通	江戸後期			12.5×15.8	半紙		2枚に剥離	Ⅲ-168-20
3115	〔七言絶句〕	状	1通	江戸後期			16.0×10.3	楮紙			Ⅲ-292-33
3116	〔雲間ノ意ニ付〕	状	1通	江戸後期			14.5×11.7	諸口紙			Ⅲ-292-34
3117	〔御屏風十二月の御咏写〕	状	1通	江戸後期			14.2×78.3	諸口紙		「去冬仙洞御所六十御賀被為在」	Ⅲ-299-135
3118	〔歌稿・和文〕(丹後国久美濱といへるところより, また見ぬ国見人とおもひたちし)	状	1通	江戸後期			16.4×240.0	楮紙 (黄染)		校訂(墨), 紙背墨書あり	Ⅲ-338-1
3119	〔品書〕(藝州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.3×65.8	諸口紙			Ⅲ-330-7
3120	〔品書〕(藝州藤井左門太具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.4×56.4	諸口紙			Ⅲ-330-10
3121	〔書手本〕(孟子五倫)	状	1通	寛政七年乙卯人日	(頼春水カ)		53.6×59.5	諸口紙		端裏書「寛政七年乙卯人日[ ]」, 左部分欠損	Ⅲ-349-23
3122	〔包紙〕(京堀家南湖・景山・南雲碑本)	状	1通	甲戌八月三日(文化11年)	(頼春水)		27.7×32.8	楮紙		表書「京堀家南湖景山南雲碑本, 篆額各附, 京今枝栄頭より来ル, 此外ニも此通有之候事」「甲戌八月三日査考」, 大舎(雲華上人)書簡包紙の反故紙を使用(宛先欠損, 正月だけ判読可)	Ⅲ-349-28
3123	〔書付〕(芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.8×51.1	半紙			Ⅲ-361-2-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3124	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		12.0×51.4	半紙			Ⅲ-361-2-2
3125	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.5×53.3	半紙		一部糊離れあり	Ⅲ-361-2-3
3126	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.5×50.8	半紙			Ⅲ-361-2-4
3127	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.7×51.0	半紙			Ⅲ-361-2-5
3128	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.4×51.5	諸口紙			Ⅲ-361-2-6
3129	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		13.7×51.5	諸口紙			Ⅲ-361-2-7
3130	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.4×51.0	半紙		「三好五郎様」「三好登馬」などの記載あり	Ⅲ-361-2-8
3131	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.8×58.2	半紙			Ⅲ-361-2-9
3132	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.5×51.0	半紙			Ⅲ-361-2-10
3133	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		13.9×51.0	諸口紙		裏面にも同じ文言を墨書	Ⅲ-361-2-11
3134	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.6×52.6	半紙		裏面にも同じ文言を墨書	Ⅲ-361-2-12
3135	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.0×51.8	諸口紙		「三好此母」との記載あり	Ⅲ-361-2-13
3136	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		16.3×52.7	三 桎 紙 , 杉原紙		勝村直道書簡・土屋七郎書簡(ともに頼春水宛)の反故紙を使用	Ⅲ-361-2-14
3137	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		15.5×52.0	三 桎 紙 , 楮紙		端裏書(頼春水筆)『七郎六月七日出廿九日来』, 土屋七郎書簡(頼春水宛)等の反故紙を使用	Ⅲ-361-2-15
3138	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.7×53.0	半紙			Ⅲ-361-2-16
3139	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.5×53.1	半紙			Ⅲ-361-2-17
3140	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.5×51.1	半紙			Ⅲ-361-2-18
3141	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.6×50.9	半紙			Ⅲ-361-2-19
3142	[書付] (芸州関蔵人具足)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		11.6×53.0	半紙			Ⅲ-361-2-20
3143	[手本] (日の出 三書体)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×12.4	諸口紙			Ⅲ-177-5-2
3144	[名刺] (頼弥太郎)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		8.2×3.2	楮紙		包紙(14.3×10.5, 諸口紙)	Ⅲ-177-27
3145	[紙札] (先府君行実(ほか書名))	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.5×2.8	諸口紙		紙背墨書あり	Ⅲ-295-22-2
3146	[書付] (家中住居歩測覚)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.3×2.9	諸口紙		下部墨汚れあり	Ⅲ-295-22-3
3147	[紙札] (風俊栗山詩)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		8.2×3.2	漉返紙			Ⅲ-295-22-7
3148	[紙札] (高尾鐘名)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		8.1×3.3	漉返紙			Ⅲ-295-22-8
3149	[紙札] (惺窩先生像)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		8.1×3.3	漉返紙			Ⅲ-295-22-9
3150	[紙札] (主図合結)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.0×3.6	半紙			Ⅲ-295-22-10
3151	[紙札] (五月十四より戒禁内意)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		15.2×5.7	杉原紙		変色甚	Ⅲ-295-22-11
3152	書簡文手本	一紙貼継	1巻	江戸後期	梅颯カ		16.5 ~ 16.8 ×1119.1	杉原紙		包紙(27.6×38.0) 貼紙「梅颯様らしき書簡文手本清書 九〇〇箱ㇿ」	I-149
3153	[雑記]	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		12.0×89.3	色半紙			Ⅲ-133-14
3154	[下書] (奉献貴世姫太明神)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		189.8×28.6	諸口紙			Ⅲ-339-18
3155	[「真齡丹」看板下書]	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		101.8×36.0	楮紙		「本方しんれいたん 真齡丹 産前産後気付によし 家伝 藝州山懸郡庄原土居香川口」	Ⅲ-339-19
3156	[令淑夫人御遺筆包紙]	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		24.9×34.4	半紙		封上書「令淑夫人御筆」	Ⅲ-349-11

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3157	[たとう包] (広島頼家, 海禅往復紙包)	紙包 たとう折	1点	江戸後期	本家(頼聿庵)	海禅	20.0×5.8	松葉紙, 唐紙		上書「本家 海禅」「海禅 杉巷」	Ⅲ-349-21
3158	[包紙]	貼継紙	1点	江戸後期	(頼聿庵カ)		22.2×65.2/ 28.1×22.0	楮紙		森田士徳書簡の包紙を切断し, 和歌手習の反故紙と貼継, 森田書簡包紙「芸州広島ニ而頼弥太郎様, 書状在中式通之内, 大坂新鞠町森田六兵衛, 十一月十六日出」	Ⅲ-349-22
3159	[包紙] (東蒙山人之書)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		31.1×	杉原紙		封上書「東蒙之詩」, 端書「東蒙山人之書」	Ⅲ-349-26
3160	千字文 一 (手習)	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	頼都具雄, 餘一(頼聿庵)		24.8×17.4	半紙	62	共紙表紙, 外題直書「千字文 一」, 添削(朱)	I-157-1
3161	千字文 二 (手習)	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	頼都具雄, 餘一(頼聿庵)		24.8×17.4	半紙	68	共紙表紙, 外題直書「千字文 二」, 添削(朱)	I-157-2
3162	庭訓往来	折本装	1帖	江戸後期	(頼聿庵)		17.8×9.4	竹紙	51	薄茶表紙, 首題「庭訓往来」, 正月五日から三月七日までの書簡文例集	I-159-1
3163	庭訓往来	折本装	1帖	江戸後期	(頼聿庵)		17.8×9.4	竹紙	42	薄茶表紙, 三月十三日から四月十一日までの書簡文例集	I-159-2
3164	庭訓往来	折本装	1帖	江戸後期	(頼聿庵)		17.8×9.4	竹紙	48	薄茶表紙, 未完, 年始祝詞などの文例集	I-159-3
3165	消息往来	折本装	1帖	江戸後期	(頼聿庵)		17.6×6.0	奉書紙	37	萌黄表紙, 首題「消息往来」, 裏表紙欠	I-160-1
3166	[消息往来]	折本装	1帖	江戸後期	(頼聿庵)		18.5×6.0	奉書紙	34	浅葱表紙, 糊離れにより一部欠損, 紙背墨書あり	I-160-2
3167	[鄙詞一章包紙]	状	1通	江戸後期	(頼誠軒カ)		28.8×15.9	竹紙		封上書「鄙詞 一章」	Ⅲ-349-14
3168	[紙袋]	紙袋	1点	江戸後期	(頼誠軒カ)		28.0×22.2	諸口紙		袋表書「陶斎」, 同・裏「蒙斎」, 「見合にて相成候物□聿庵様の御書□」との記載あり	Ⅲ-349-25
3169	[書跡手本写] (謝曹孟徳, 諫諸葛玉侯, ほカ)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼誠軒カ)		24.7×34.0	半紙	27	綴じ糸外れ	Ⅲ-386-73
3170	読史鈔	横半帳	1冊	江戸後期カ	(頼誠軒)		12.5×17.4	半紙	48	共紙表紙, 外題直書「読史鈔」, 首題「読史抄 明鑑易知録」, 句切点(朱), 傍点(朱), 傍線(朱)	Ⅲ-386-77
3171	[識語草稿] (杏坪翁題巖島絵馬鑑七古)	状	1通	戊子(明治21年)七月十七日	頼元啓(誠軒)		15.4×12.3	竹紙 (薄藍色)		白文「頼」・朱文「啓」(連印)1顆, 校訂(墨)	Ⅲ-386-84
3172	集字	仮綴	1綴	明治時代	(頼誠軒)		17.9×15.8	竹紙	3	共紙表紙, 外題直書「集字」, 反故紙使用	Ⅲ-386-85
3173	読史掌録	仮綴	1綴	癸亥、甲子、丙寅(文久3年、元治元年、慶応2年)	(頼誠軒)		25.0×17.4	色半紙	13	共紙表紙, 外題直書「読史掌録」, 円印1顆, 2丁目袋中に詩箋1枚(「次支峰大人三樹即事詩韻」等)あり	Ⅲ-386-87
3174	[名刺] (頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.5×2.9	半紙		封筒(頼古模筆)「遺物の一 景讓君御名刺」	Ⅲ-184-10-1
3175	[名刺] (頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.5×2.9	半紙			Ⅲ-184-10-2
3176	[名刺] (頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.4×2.8	半紙			Ⅲ-184-10-3
3177	[名刺] (頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.4×2.8	半紙			Ⅲ-184-10-4
3178	[名刺] (頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.4×2.8	半紙			Ⅲ-184-10-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3179	[名刺](頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.5×2.8	半紙			Ⅲ-184-10-6
3180	[名刺](頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.4×2.9	半紙			Ⅲ-184-10-7
3181	[名刺](頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.4×3.	半紙			Ⅲ-184-10-8
3182	[名刺](頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.5×2.9	半紙			Ⅲ-184-10-9
3183	[名刺](頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.5×2.9	半紙			Ⅲ-184-10-10
3184	[名刺](頼権次郎)	状	1通	江戸後期	頼権次郎(景讓)		12.3×2.9	半紙			Ⅲ-184-10-11
3185	[封筒]	状	1通	明治時代カ	(頼古樫)		20.5×7.0	漉返紙			Ⅲ-329-4
3186	紙袋(春風先生)	紙袋封筒型	1点	大正時代カ	頼古樫		28.0×19.3	楮紙		表書「春風先生」	Ⅲ-354-1
3187	紙袋(杏坪先生)	紙袋封筒型	1点	大正時代カ	頼古樫		28.0×19.3	楮紙		表書「杏坪先生」	Ⅲ-354-2
3188	[習書]	折紙	1通	江戸後期			15.6×44.5	杉原紙		反故紙使用, 反故紙「御恵呈 頼氏御奥様 吉村文益」	Ⅲ-133-12
3189	[書手本]	状	1通	江戸後期			13.9×171.5	諸口紙			Ⅲ-334-35
3190	唐五絶(書手本)	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期	加藤又三郎		25.0×17.0	半紙	18	共紙表紙, 外題直書「唐五絶」	Ⅲ-386-75
3191	百万一心(豊栄神社奉掲額面)	状	1点	大正五年四月五日	産業組合高田郡部会		52.7×19.3	楮紙		「豊栄神社奉掲額面由緒書」付属	Ⅲ-358-3
3192	終始一誠意(今上天皇陛下宸筆)	状	1点	大正二年十月卅一日	大阪朝日新聞		96.3×30.3	楮紙		紙帯「今上天皇陛下宸筆」, 裏面「大正二年十月三十一日天長祝日発行 大阪朝日新聞第壹萬千三百九十七号付録」「発行所朝日新聞合資会社」	Ⅲ-358-4
3193	[[「富嶽絶頂・木曾棧道・松島図」包紙]	状	1通	文化八年辛未四月	白河画工文泉(大野文泉)		25.0×39.9	楮紙		首題「富嶽絶頂・木曾棧道・松島図」, 封上書「富嶽絶頂 木曾棧道 松島図 呈上」, 端書(頼春水筆)「文化八年辛未四月白河画工文泉贈之」, 内容物なし	Ⅲ-348-26
3194	外史書試	状	1通		雲屋		27.6×16.5	竹紙		朱文長方印「雲屋」1顆, 端裏書『外史書試 雲屋』, 罫線墨書, 二つ折のうえ三辺糊付け	Ⅲ-167-4
3195	[双鉤](勸孝, 孝, 悌詞, 悌, 悌の字)	状	1通	江戸後期			24.2×19.1	楮紙			Ⅲ-330-5
3196	[書付]	状	1通	江戸後期			14.0×14.8	楮紙			Ⅲ-336-11
3197	[澹の字義に付]	状	1通	江戸後期			14.2×13.5	諸口紙			Ⅲ-336-32
3198	[雑紙]	紙状	1通	江戸後期			19.8×23.0	漉返紙			Ⅲ-386-65
3199	[紙札](正月十八日)	状	1通	正月十八日			14.4×4.4	諸口紙			Ⅲ-244-7
3200	[包紙](小学題辞)	状	1通	江戸後期			23.5×12.1	竹紙		表書「小学題辞」	Ⅲ-295-17
3201	[春水翁陽ニ行双鉤]	状	1通	江戸後期			24.6×135.0	半紙		端裏書「春水翁」「陽氣ニ行」	Ⅲ-295-19
3202	[当以己心為嚴師など語註]	状	1通	江戸後期			16.3×21.0	三桎紙		端裏書「動静不失其時其道光明易ノ語」	Ⅲ-295-37

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3203	破砕紙・付紙	破砕紙等	一括 (62点)	江戸後期				楮紙			III-363
3204	紙袋・整理札	紙袋等	一括 (44点)	明治～昭和 時代	(頼古樸)			楮紙		紙袋11点, 整理札31点(墨書30, 鉛筆書1), 「御こんたて斗 入用 無逸」(24.3×32.7, 楮紙)及び「海防策」等の墨書を含む一紙(26.6×34.0, 折紙, 頼丰庵筆, 紙背墨書「四両老歩 預銀之内差出至」ほか)	III-140
	嶺松廬詩会関係資料										III-384
3205	嶺松廬会 会ノ記事	袋綴装 三ツ目綴	1冊	大正七年六月～大正十一年六月	頼古樸		23.0×16.0	罫紙(機械 漉紙)	29	厚紙表紙, 外題題簽「会ノ記事 嶺松廬会約束, 内規, 課題」, 表紙墨書「嶺松廬会」, 校訂(墨), 広島高等師範学校付属中学校の「修身筆記帳」を転用, 大正7年6月23日第一回詩文会～大正11年6月25日第42回詩文会の記録	III-384-1
3206	嶺松廬会 会員名簿	袋綴装 三ツ目綴	1冊	大正時代	頼古樸		22.9×16.2	罫紙(機械 漉紙)	4	厚紙表紙, 外題題簽「会員名簿」, 表紙墨書「嶺松廬会」, 校訂(墨), 広島高等師範学校付属中学校の「修身筆記帳」を転用	III-384-2
3207	会計簿 第二	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正十一年六月～大正十五年四月	頼古樸		23.2×16.2/ 24.3×16.2	罫紙(機械 漉紙)	21	厚紙表紙, 外題題簽「会計簿 第二」, 校訂(墨・朱), 広島市立袋町尋常小学校の「綴方清書帳」を転用, 大きさの異なる罫紙を綴込, 9丁目袋中に「嶺松廬会費計算」(罫紙2枚, 各23.1×15.4, 大正十二年十二月十日付), 15丁目袋中に「故二川燕尾君, 朱料計算 十三年中」(21.0×13.0, 便箋)及び出席者・欠席者の絶句・律詩詠数一覧(24.2×33.3, 原稿用紙), 最終丁に「小為替金受領証書」「特殊郵便受領証」(ともに大正15年4月21日消印)挟込	III-384-3
3208	記事 第二	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正十一年七月～大正十五年二月	頼古樸		23.2×16.2/ 24.5×16.8	罫紙(機械 漉紙)	19	厚紙表紙, 外題題簽「記事 第二」, 広島市立袋町尋常小学校の「綴方清書帳」を転用, 大きさの異なる罫紙を綴込, 大正11年7月16日第四十三回詩文会～大正15年2月7日詩文会の記録	III-384-4
3209	嶺松廬会詩稿 一	袋綴装 仮綴	1冊	大正七年六月～大正十二年十二月	頼古樸		24.4×16.5	罫紙(機械 漉紙)	375	厚紙表紙, 外題直書「嶺松廬会詩稿 一」, 校訂(朱), 注記(朱, 墨, 付紙に墨), 傍点(朱), 罫紙「古樸用箋」等を使用	III-384-5
3210	嶺松廬会詩稿 二	袋綴装 仮綴	1冊	大正十三年一月～昭和四年七月	頼古樸		24.2×16.5	罫紙(機械 漉紙)	242	厚紙表紙, 外題直書「嶺松廬会詩稿 二」, 校訂(朱), 注記(朱, 墨, 付紙に墨), 傍点(朱), 最終2丁及び裏表紙の綴じ糸外れ, 宮地家系図写等仮綴(23.6×16.2, 罫紙, 袋綴装)挟込, 罫紙「古樸用箋」「九松庵用箋」等を使用	III-384-6
3211	[頼成一原稿]	紙本ペン書 冊子装 上製本	1冊	昭和九年	頼成一		17.8×12.7	機械漉紙	233	「昭和九年 婦女日記」を使用, 赤色布貼, 奥付「昭和八年十月一日印刷 昭和八年十月四日発行(中略)発行所 株式会社博文堂(後略)」, 校訂(ペン書, 付紙にペン書), 背表紙「昭和九年 婦女日記 博文館刊」, 書簡カ(17.7×25.2, 文字消え)挟込	III-382
3212	[頼成一日記・原稿]	紙本ペン書・鉛筆書 冊子装 上製本	1冊	昭和十五年	頼成一		19.4×13.6	機械漉紙	223	「昭和十五年 当用日記」を使用, 紺色布貼, 扉題「昭和十五年 当用日記」, 奥付「昭和十四年十月一日印刷 昭和十四年十月五日発行(中略)発行所 株式会社博文堂(後略)」, 校訂(ペン書・鉛筆書), 注記(ペン書・鉛筆書), 背表紙「昭和十五年 当用日記 博文館刊」	III-383
3213	頼成一原稿(「山房隨筆」ほか)	紙本ペン書・鉛筆書 仮綴ほか	一括 (12点)	昭和時代	頼成一			原稿用紙・ ノート		校訂(ペン書), 注記(ペン書, 朱), 「山房隨筆(一)―三樹漫録―」「吉田松陰と二頼一頼丰庵に及ぶ―」「山陽の詩に就いて 第一期 在広時代」「第二期 上京ヨリ西遊マデ」「第三期 西遊時代(四ノ一～十二)」「五ノ一～十二」「詠史一～八」「化政漢詩界趨勢」「余談」「山陽の流儀 一～七」「外史の形勢論を讀みて」「一, 神秘の問題(ほか)」, 新聞切抜5枚, 紙袋「名刺 樸匡大人所書 大切」(23.3×18.7)付属	III-379

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
3214	[頼家先祖生没年早見表]	紙本 ペン書・鉛筆書 一紙(貼継)	一括 (2点)	昭和時代	頼惟勤		53.4×154.5 /53.4×75.3	方眼紙		方眼紙①では「一五九〇」～「一九六一 辛丑 昭和卅六」間の初代～四代・「義斎」「春水」「春風」「杏坪」「梅颯」「山陽」「聿庵」「誠軒」「古樸」「榎厓」「某」の生没年を棒グラフで記載, 方眼紙②では「為山陽大人」に「一七四〇 庚申 元文五」～「一八八〇 庚辰 明治十三」の年を記載するも内容は未記入, 昭和35年5月23日付「中国新聞」(上田繁「雲耶山耶考」掲載) 付属	III-381